仙台市文化財調査報告書第423集

長町駅東遺跡第13次調査

―仙台市あすと長町28街区・店舗付駐車場新築工事に伴う発掘調査報告書―

2014年3月

仙台市教育委員会

株式会社　三和商事

序　　文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日頃から多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

市内には、旧石器時代から近世に至るまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、活用を図りながら市民の宝として、次の世代に引き継いでいくことは、これからの「まちづくり」に欠かせない大切なことであると考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国の史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺」の西側で都市整備が進められている「仙台市あすと長町土地区画整理事業」地内で実施された長町駅東遺跡第 13 次発掘調査の成果をまとめたものです。

区画整理事業に伴う発掘調査は平成 10 年から開始され、古墳時代後期から奈良時代としては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。今回の調査は、長町駅東遺跡北西部で行われましたが、竪穴住居跡が密集して確認され、集落内での居住空間の変遷が明らかになりました。

ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

また、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、特に事業者である株式会社三和商事様には調査の重要性をご理解いただいた上で、ご協力いただきました。

最後になりましたが、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災から、早くも 3 年の月日が過ぎました。仙台市では震災からの復興に向け、「ともに、前へ　～ 3・11 からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。そうした中、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成 26 年 3 月

仙台市教育委員会
教育長　上田 昌孝

例　　言

1．本書は、仙台市あすと長町 28 街区地内の店舗付駐車場新築工事に伴う長町駅東遺跡第 13 次調査の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサルが実施した。

3．本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 荒井 格、工藤 信一郎、水野 一夫、庄子 裕美、結城 慎一の監理の下、基礎整理から本書の編集に至るまでの作業を株式会社シン技術コンサルが担当した。

4．本書の執筆・図版作成は、第 1 章、第 3 章第 1 節・第 2 節（1）を工藤 信一郎、第 5 章遺物事実記載を北村 和穂（株式会社シン技術コンサル）、それ以外を細野 高伯（株式会社シン技術コンサル、以下同じ）が担当した。また、遺物写真撮影は小池 雄利亜（株式会社シン技術コンサル）、編集は細野が担当した。

5．石材鑑定は、柴田 徹（有限会社考古石材研究所）が行った。

6．発掘調査および整理作業に際し、以下の方々から多くの御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（五十音順、敬称略）

（故）今泉 隆雄　岡田 茂弘　（故）工藤 雅樹　桑原 滋郎　進藤 秋輝　須藤 隆　松本 秀明　宮本 長次郎　渡部 育子

7．調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．第 1 図・第 2 図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1：10,000、「仙台」1：25,000 を使用した。

2．遺構図中の座標値は、日本測地系「平面直角座標系第 X 系」を基準としている。図中および本文記載の方位北は全て座標北を基準としている。

3．本書中の土色の記載には『新版 標準土色帖』2005 年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

4．断面図中の数値は、海抜高度（T・P）を示す。

5．調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。

SA：杭列・一本柱列　SB：掘立柱建物跡　SD：溝跡　SE：井戸跡　SI：竪穴住居跡　SK：土坑
SM：小溝状遺構　SX：性格不明遺構　Pit：ピット

6．竪穴住居跡における主軸方位の算出および壁面呼称の基準については、『西台畑遺跡第 1・2 次調査』（仙台市教委 2010）に準じた。

7．遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外については、個別に凡例を図中に示した。

柱痕跡　被熱範囲　炭化物範囲　柱穴底面の変色範囲
粘土範囲

８．出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたりＫのあとに小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。

Ｃ：土師器（非ロクロ）　Ｄ：土師器（ロクロ）　Ｅ：須恵器　Kc：礫石器　Kd：石製品　Ｎ：金属製品

Ｐ：土製品

９．出土遺物の登録は、種別ごとに通し番号で登録した。

10. 遺物実測図の縮尺は 1/3 を基本としているが、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。

11. 石器･石製品の実測図には､展開した面に小文字アルファベットを付した。文章中と遺物観察表における「a 面、b 面、c 面…」の記載は、該当する遺物実測図の付された各面に該当する。

12. 土器の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。

黒色範囲　自然釉付着範囲

13. 土器類の器種・部位呼称、計測位置については、『西台畑遺跡第１・２次調査』（前掲）に準じた。

14. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。

敲打痕　磨面

15. 石器・石製品の実測図における計測位置は、『西台畑遺跡第１・２次調査』（前掲）に準じた。

16. 遺構・遺物の観察表内における（ ）付きの計測値は、土器類の各径については推定、その他については残存値を示す。

17. 掲載した遺物写真の縮尺は、遺物実測図に準じた。

18. 本書では、これまでのあすと長町地区の調査成果に基づいて、６期に時期を区分した。その詳細については下記の通りである。

１期：５世紀中葉～後葉（引田式期）

2a 期：６世紀初頭～前葉

2b 期：６世紀中葉～末葉

３期：７世紀初頭～前葉（栗囲式期）

４期：７世紀中葉～後葉（郡山Ⅰ期官衙期）

５期：７世紀末葉～８世紀初頭（郡山Ⅱ期官衙期）

６期：８世紀前葉以降

目　次

序文
例言
凡例

第１章　調査に至る経過 …… 1
第１節　調査事由 …… 1
第２節　調査要項 …… 1
（1）調査体制 …… 1
（2）整理体制 …… 2
第２章　遺跡の位置と環境 …… 4
第１節　長町駅東遺跡の立地と地形 …… 4
第２節　周辺の遺跡と歴史的環境 …… 4
第３章　調査の方法と概要 …… 7
第１節　調査区の設定 …… 7
第２節　調査概要 …… 7
（1）調査経過 …… 7
（2）測量基準・図面の作成 …… 7
（3）遺物の取り上げ・調査記録の作成 …… 8
（4）遺構登録番号 …… 8
（5）調査報告書作成作業 …… 8
第４章　基本層序 …… 8
第５章　検出遺構と出土遺物 …… 12
（1）竪穴住居跡 …… 12
（2）掘立柱建物跡 …… 88
（3）杭列・一本柱列 …… 92
（4）溝跡 …… 96
（5）小溝状遺構 …… 102
（6）井戸跡 …… 105
（7）土坑 …… 107
（8）ピット …… 108
（9）性格不明遺構 …… 117
第６章　総括 …… 119
第１節　長町駅東遺跡第 13 次調査区について …… 119

引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　長町駅東遺跡第13次調査地点 …… 3
第 2 図　長町駅東遺跡と周辺の遺跡 …… 5
第 3 図　長町駅東遺跡第13次調査区と周辺の調査区 …… 7
第 4 図　グリッド配置図 …… 8
第 5 図　基本層序 …… 9・10
第 6 図　基本層序柱状図 …… 11
第 7 図　遺構配置図 ……13・14
第 8 図　SI354竪穴住居跡 …… 15
第 9 図　SI355竪穴住居跡 …… 17
第10図　SI355竪穴住居跡出土遺物 …… 19
第11図　SI356竪穴住居跡(1) …… 20
第12図　SI356竪穴住居跡(2) …… 21
第13図　SI356竪穴住居跡出土遺物 …… 22
第14図　SI357竪穴住居跡 …… 23
第15図　SI358竪穴住居跡 …… 24
第16図　SI359・360竪穴住居跡 ……27・28
第17図　SI359竪穴住居跡出土遺物(1) …… 29
第18図　SI359竪穴住居跡出土遺物(2) …… 30
第19図　SI361竪穴住居跡 …… 32
第20図　SI361竪穴住居跡出土遺物 …… 34
第21図　SI362竪穴住居跡 …… 35
第22図　SI363竪穴住居跡 …… 37
第23図　SI363竪穴住居跡出土遺物 …… 39
第24図　SI364竪穴住居跡・出土遺物 …… 40
第25図　SI365竪穴住居跡(1) …… 41
第26図　SI365竪穴住居跡(2) …… 43
第27図　SI365竪穴住居跡出土遺物 …… 44
第28図　SI366竪穴住居跡 …… 45
第29図　SI366竪穴住居跡出土遺物 …… 46
第30図　SI367竪穴住居跡 …… 48
第31図　SI367竪穴住居跡出土遺物(1) …… 49
第32図　SI367竪穴住居跡出土遺物(2) …… 50
第33図　SI367竪穴住居跡出土遺物(3) …… 51
第34図　SI368竪穴住居跡 …… 53
第35図　SI368竪穴住居跡出土遺物 …… 54
第36図　SI369竪穴住居跡 …… 55
第37図　SI369竪穴住居跡出土遺物(1) …… 56
第38図　SI369竪穴住居跡出土遺物(2) …… 57
第39図　SI370竪穴住居跡 …… 58
第40図　SI370竪穴住居跡出土遺物 …… 60
第41図　SI371A竪穴住居跡 …… 61
第42図　SI371A竪穴住居跡出土遺物 …… 63
第43図　SI371B竪穴住居跡 …… 64
第44図　SI372竪穴住居跡 ……67・68
第45図　SI372竪穴住居跡出土遺物(1) …… 69
第46図　SI372竪穴住居跡出土遺物(2) …… 70
第47図　SI374竪穴住居跡 …… 71
第48図　SI375竪穴住居跡 …… 72
第49図　SI376竪穴住居跡 …… 73
第50図　SI377竪穴住居跡 …… 74
第51図　SI377竪穴住居跡出土遺物 …… 74
第52図　SI378竪穴住居跡 …… 75
第53図　SI378竪穴住居跡出土遺物(1) …… 76
第54図　SI378竪穴住居跡出土遺物(2) …… 77
第55図　SI379竪穴住居跡 …… 78
第56図　SI379竪穴住居跡出土遺物 …… 80
第57図　SI380竪穴住居跡 …… 81
第58図　SI381竪穴住居跡 …… 82
第59図　SI381竪穴住居跡出土遺物 …… 83
第60図　SI382竪穴住居跡 …… 84
第61図　SI383竪穴住居跡 …… 86
第62図　SI383竪穴住居跡出土遺物 …… 87
第63図　SB42掘立柱建物跡(1) …… 88
第64図　SB42掘立柱建物跡(2) …… 89
第65図　SB43掘立柱建物跡 …… 90
第66図　SB44掘立柱建物跡(1) …… 91
第67図　SB44掘立柱建物跡(2) …… 92
第68図　SA8一本柱列(1) …… 93
第69図　SA8一本柱列(2) …… 94
第70図　SA8一本柱列出土遺物 …… 94
第71図　SA9一本柱列 …… 95
第72図　SA7杭列・SD277～283溝跡(1) ……97・98
第73図　SD280溝跡出土遺物 …… 99

第74図　SD282溝跡出土遺物 …… 100
第75図　SA7杭列・SD277～283溝跡(2) …… 101
第76図　SM404～435小溝状遺構(1) …… 102
第77図　SM404～435小溝状遺構(2) … 103・104
第78図　SE9・10井戸跡…… 106
第79図　SE9井戸跡出土遺物 …… 107
第80図　SK324～326土坑 …… 108
第81図　ピット(1) …… 109・110
第82図　ピット(2) …… 111
第83図　ピット(3) …… 112
第84図　ピット(4) …… 113
第85図　SX35性格不明遺構・出土遺物 …… 118
第86図　SX36性格不明遺構…… 119
第87図　主要遺構重複関係模式図 …… 120
第88図　出土遺物集成(1) …… 121
第89図　出土遺物集成(2) …… 122
第90図　出土遺物集成(3) …… 123

写真図版目次

写真図版1　調査区全景
写真図版2　基本層序
写真図版3　竪穴住居跡(1)
写真図版4　竪穴住居跡(2)
写真図版5　竪穴住居跡(3)
写真図版6　竪穴住居跡(4)
写真図版7　竪穴住居跡(5)
写真図版8　竪穴住居跡(6)
写真図版9　竪穴住居跡(7)
写真図版10　竪穴住居跡(8)
写真図版11　杭列・一本柱列
写真図版12　掘立柱建物跡(1)
写真図版13　掘立柱建物跡(2)
写真図版14　掘立柱建物跡(3)・溝跡
写真図版15　小溝状遺構
写真図版16　井戸跡・土坑・ピット(1)
写真図版17　ピット(2)
写真図版18　ピット(3)
写真図版19　ピット(4)・性格不明遺構
写真図版20　竪穴住居跡出土遺物(1)
写真図版21　竪穴住居跡出土遺物(2)
写真図版22　竪穴住居跡出土遺物(3)
写真図版23　竪穴住居跡出土遺物(4)
写真図版24　竪穴住居跡出土遺物(5)
写真図版25　竪穴住居跡出土遺物(6)
写真図版26　竪穴住居跡出土遺物(7)
写真図版27　竪穴住居跡出土遺物(8)
写真図版28　竪穴住居跡出土遺物(9)
写真図版29　竪穴住居跡出土遺物(10)
写真図版30　竪穴住居跡出土遺物(11)
写真図版31　竪穴住居跡出土遺物(12)
写真図版32　竪穴住居跡出土遺物(13)
写真図版33　一本柱列・溝跡・井戸跡
・性格不明遺構出土遺物

第 1 章　調査に至る経過

第 1 節　調査事由（第 1 図）

長町駅東遺跡は、仙台市南部の太白区長町地区に計画された「仙台市あすと長町土地区画整理事業」の施行に伴い実施された確認調査により所在が明らかになった遺跡である。

区画整理事業の施行に伴い、長町駅東遺跡・西台畑遺跡及び郡山遺跡の一部を対象として、平成 10 年から発掘調査が行われ、7 世紀中頃から 8 世紀始めの時期を中心とする竪穴住居跡が総数 500 軒近く発見されている。

長町駅東遺跡の調査は、平成 13 年から開始され、今回の調査で第 13 次調査となる。そのうち第 8・12 次調査と今回の第 13 次調査は、区画整理事業に伴う調査ではなく、事業地内に計画された建築計画に伴い調査を実施している。長町駅東遺跡の調査では、これまでに 350 軒近い竪穴住居跡が発見されているが、特に第 3･4 次調査（平成 15・16 年）では、集落の北部を区画している施設と考えられる材木列 1 列、一本柱列 4 列、通路状遺構を伴う大溝跡が確認され、区画施設の変遷が明らかになっている。

今回の長町駅東遺跡第 13 次調査は、平成 24 年 9 月に、あすと長町事業地内 28 街区において株式会社平和商事により計画された立体駐車場建設に伴い、事業地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについての協議書が提出されたことに始まる。開発地は長町駅東遺跡の北西部にあたり、街区南側の環状線を対象として行われた第 4 次調査区に隣接した場所である。また西側隣接地で行われた第 12 次調査（平成 23 年）では、旧貨物ヤードの大規模な整地の影響を受け古代の遺構は確認できなかったが、近世期の溝跡の変遷が確認されていた。

そこで、発掘調査の実施が必要であると判断されたことから、教育委員会と事業者の協議の結果、計画された建物部分を対象に、試掘確認調査を実施することとした。その結果、北側では整地や河川跡があり古代の遺構面は削平されていたが、その他の調査区では複数の竪穴住居跡が確認された。協議により、発掘調査は平成 24 年 11 月から平成 25 年 7 月にかけて実施することで事業者との協議を続けていたが、その後事業者から事業計画見直しの申し出があり、平成 24 年 11 月に協議が取り下げられた。同時に平屋の倉庫建築計画が出され、基礎掘削深度が遺構面に及ばないことから慎重工事として建築が行われた。平成 25 年 5 月に入り、株式会社三和商事（旧(株)平和商事）から倉庫を取り壊し、新たに遊戯施設に併設する駐車場棟の建築計画による協議書が提出され、発掘調査を実施することとなった。

第 2 節　調査要項

遺跡名：長町駅東遺跡（宮城県遺跡地名番号 01449、仙台市文化財登録番号 C-317）

所在地：仙台市太白区あすと長町 28 街区 4 画地

調査原因：店舗付駐車場新築工事に伴う埋蔵文化財の事前調査

(1) 調査体制

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

荒井 格　工藤 信一郎　水野 一夫　庄子 裕美　結城 慎一

調査組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 細野 高伯　調査補助員 北村 和穂　桑宮 慶一

調査期間：2013 年（平成 25 年）7 月 1 日～ 10 月 31 日

調査面積：824㎡

（2）整理体制

調査主体：仙台市教育委員会

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査係

荒井 格　工藤 信一郎　水野 一夫　庄子 裕美　結城 慎一

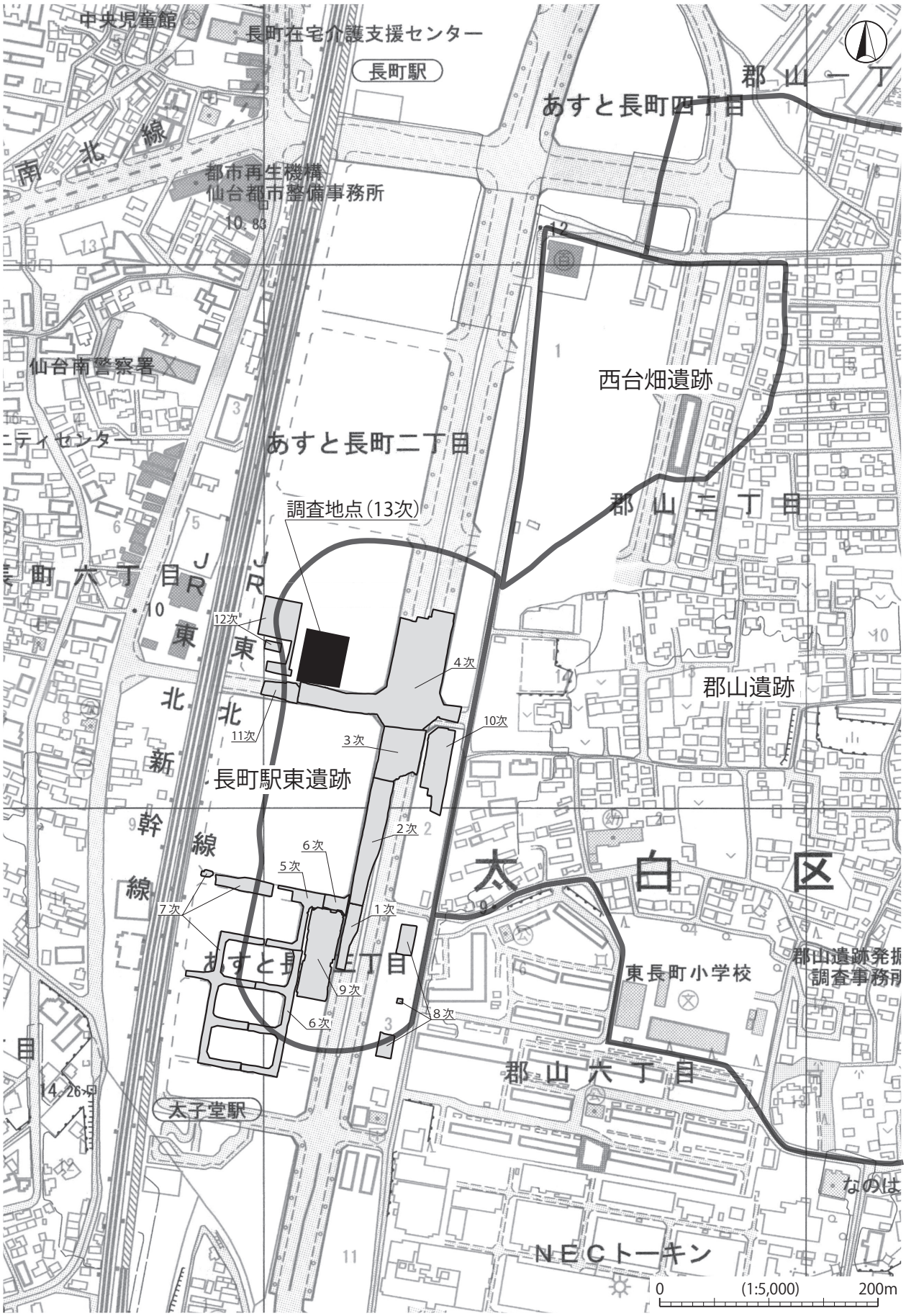
整理組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 細野 高伯　調査補助員 北村 和穂　桑宮 慶一

整理期間：2013 年（平成 25 年）11 月 1 日～ 2014 年（平成 26 年）3 月 20 日

長町駅東遺跡年度別調査成果一覧

調査年度	調査次数	調査区	調査成果	発掘調査報告書
平成13年	1次調査	1区・2A区・2B区	住居跡24軒・掘立柱建物跡2棟・溝跡・土坑	仙台市文化財調査報告書第324集 2008年3月
平成14年	2次調査	2B区下層調査・3A区	住居跡53軒・掘立柱建物跡3棟・溝跡・土坑 / 土器埋設遺構・包含層(弥生)	仙台市文化財調査報告書第324集 2008年3月
平成15年	3次調査	3A区下層調査・3B区	住居跡68軒・掘立柱建物跡5棟・区画施設 / 住居跡・性格不明遺構・土器埋設遺構・包含層(弥生)	仙台市文化財調査報告書第340集 2009年3月
平成16年	4次調査	4区	住居跡78軒・掘立柱建物跡18棟・区画施設 / 土壙墓・土器棺墓・土器埋設遺構・包含層・水田跡(弥生)	仙台市文化財調査報告書第315集 2007年3月
平成17年	5次調査	5A区(40街区・道路)	住居跡11軒・溝跡・土坑・河川跡 / 包含層(弥生)	仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月
平成18年	6次調査	5B区(40街区・道路)	住居跡21軒・溝跡・土坑・河川跡 / 包含層(弥生)	仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月
平成19年	7次調査	5C区(40街区・道路)	掘立柱建物跡1棟・溝跡・土坑・井戸跡・河川跡	仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月
	8次調査	41街区・マンション建設	溝跡・河川跡	仙台市文化財調査報告書第331集 2008年3月
平成20年	9次調査	40街区民有換地(宅地造成)	住居跡48軒・掘立柱建物跡3棟・材木列跡1条・溝跡 / 包含層(弥生)	仙台市文化財調査報告書第421集 2014年3月
	10次調査	37街区(保留地)	住居跡17軒・掘立柱建物跡7棟・区画施設・溝跡 / 竪穴遺構・土坑・包含層(弥生)	仙台市文化財調査報告書第422集 2014年3月
	11次調査	環状線	住居跡1軒・溝跡・土坑	仙台市文化財調査報告書第422集 2014年3月
平成23年	12次調査	28街区(店舗建築)	溝跡	仙台市文化財調査報告書第399 集 2012 年3月
平成25年	13次調査	28街区(店舗付駐車場建築)	住居跡29軒・掘立柱建物跡3棟・区画施設・溝跡・土坑・井戸跡	本書所収



国土地理院発行 1万分の1「長町」を一部改変

第 1 図　長町駅東遺跡第 13 次調査地点

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　長町駅東遺跡の立地と地形（第１図）

長町駅東遺跡は、仙台市太白区長町に計画された副都心整備事業の施行に伴い実施された確認調査で発見された遺跡であり、その範囲は南北 480 m、東西 200 mの約 90,000㎡に及び、遺跡の西端は南北に走る東北本線によって画されている。遺跡の北約 1.2km には広瀬川、南約 1.5km には名取川と奥羽脊梁山脈に源を発した河川が流れ、これらの河川は遺跡の南東 2.5km 付近で合流し仙台湾に注いでいる。

宮城県中央部の地形は、船形連峰や二口連峰を中心とし山形県境沿いを南北に縦走する奥羽脊梁山脈、その東側に分布する青葉山丘陵や高舘丘陵などの起伏が比較的穏やかな丘陵地、宮城野撓曲崖（長町－利府線）を境として台地と沖積平野の低地に大きく区分される。この平野は成因や地質などから地形区分されており、広瀬川と名取川、長町－利府線で画されるこれら河川の変流などにより自然堤防と後背湿地が入り組んだ一帯は郡山低地と称されている。長町駅東遺跡は仙台湾より約 7.5km 西側内陸に位置し、郡山低地の中央やや東寄りの標高 10 m前後を測る自然堤防と後背湿地上に立地する。

長町駅東遺跡ではこれまでに 12 次にわたる調査が実施されており、今回の調査地点は第 4 次調査 4C 西区・第 11 次調査区の北側、第 12 次調査区の東隣にあたる。長町駅東遺跡の東側には平成 18 年 7 月に「仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺跡」として国史跡の指定を受けた郡山遺跡（2）、北東側には郡山遺跡のⅠ・Ⅱ期官衙に関連する集落跡と考えられている西台畑遺跡（3）が隣接している。長町駅東遺跡ではこれまでの調査で 350 軒近い竪穴住居跡が検出されており、出土土器の観察などから郡山遺跡における官衙の造営や運営に関連した集落跡が主体の遺跡であると考えられている。

第２節　周辺の遺跡と歴史的環境（第２図）

長町駅東遺跡の位置する広瀬川および名取川下流域には、旧石器時代から近代にいたるまでの遺跡が数多く分布している。周辺地域の遺跡と歴史的環境については『長町駅東遺跡第３次調査』（仙台市教委 2009）などで詳細にまとめられているため、ここでは郡山低地を中心に概観する。

旧石器時代

富沢遺跡（5）で約２万年前の湿地林とともに、焚火跡や 100 点以上の旧石器が発見されている。氷河時代の自然環境と人類の生活跡が同時に発見された遺跡は世界的にも希少であり、仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）として保存公開されている。

縄文時代

太白山北麓に源を発し郡山低地内を蛇行する笊川流域の自然堤防上に多くの遺跡が確認されている。早期には低地への進出が始まり、下ノ内浦遺跡（8）では早期前半の竪穴住居跡が２軒検出されている。前期から中期にかけては、富沢一帯の沼湿地化により低地での活動痕跡が希薄となるが、六反田遺跡（12）から中期中葉の竪穴住居跡が２軒検出されている。中期末から後期なると、郡山低地の土地利用が本格化し遺跡数が増加する。下ノ内遺跡（13）では中期末葉の敷石住居跡、六反田遺跡では後期初頭の集落跡、下ノ内浦遺跡・大野田遺跡（10）では後期前半の配石遺構が検出されている。後期後葉から晩期にかけては低地への進出が一段と進み、郡山遺跡では土坑状の遺構と後期後葉の土器が出土している。晩期では、山口遺跡（7）で河川跡が検出されている。

弥生時代

郡山遺跡から前期前半の土器が出土しているが、調査事例が少なく前期の詳細は不明である。中期以降になると富沢遺跡をはじめ郡山低地で水田が営まれるようになり、郡山遺跡や西台畑遺跡など多くの遺跡から水田跡が検出

国土地理院発行 数値地図 1/25,000「仙台」を一部改変

№.	遺跡名	種　別	立　地	時　代	№.	遺跡名	種　別	立　地	時　代
1	長町駅東遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	22	矢来遺跡	散布地	自然堤防	古墳・古代
2	郡山遺跡	官衙跡・寺院跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	23	河原越遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
3	西台畑遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防	縄文～中世	24	砂押Ⅱ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
4	北目城跡	城館・集落跡	自然堤防	縄文～近世	25	中柵西遺跡	包含地	自然堤防	弥生～平安
5	富沢遺跡	集落跡・水田跡	後背湿地	旧石器～近世	26	神柵遺跡	包含地	自然堤防	縄文～平安
6	泉崎浦遺跡	包含地	自然堤防	縄文・奈良・平安	27	砂押Ⅰ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
7	山口遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	28	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
8	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	29	南小泉遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	弥生～中世
9	元袋遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	30	若林城跡	城館	自然堤防	中世・近世
10	大野田遺跡	墓域	自然堤防	縄文・弥生	31	茂ヶ崎城跡	城館	丘陵	中世
11	袋前遺跡	集落跡・官衙	自然堤防	縄文～平安	32	兜塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
12	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	33	一塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
13	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	34	二塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
14	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	35	砂押古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
15	鳥居塚古墳	古墳	自然堤防	古墳	36	土手内横穴墓群	横穴古墳・窯跡	丘陵斜面	古墳
16	王ノ壇遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	37	愛宕山横穴墓群B・C地点	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・古代
17	的場遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	38	大年寺山横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
18	篭ノ瀬遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	39	宗禅寺横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
19	欠ノ上Ⅰ遺跡	水田跡	自然堤防	平安・中世	40	茂ヶ崎横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・古代
20	欠ノ上Ⅱ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	41	二ツ沢横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
21	欠ノ上Ⅲ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安	42	大野田官衙遺跡	官衙関連	自然堤防	古墳～奈良

第２図　長町駅東遺跡と周辺の遺跡

されている。富沢遺跡では中期前半～後期の水田跡から木製農耕具が出土しており、往時の生活様式を窺い知ることができる。長町駅東遺跡は、中期中葉の水田跡や水路、竪穴住居跡、土器埋設遺構、土壙墓などが検出され、当時の集落景観を考えるうえで重要な遺跡である。このほか、西台畑遺跡で中期の土壙墓と土器埋設遺構、南小泉遺跡（29）で中期の土器埋設遺構が検出されている。後期では、下ノ内浦遺跡で土壙墓と土器埋設遺構が検出されているが、集落は丘陵部へ移ると考えられる。

古墳時代

前期末頃になると、広瀬川の北側に市内最大の前方後円墳である遠見塚古墳（28）が造られる。その周囲に広がる南小泉遺跡では、前期から終末期にかけての大規模な集落跡が確認されている。中期になると郡山低地西縁の撓曲崖線上に、兜塚古墳（32）・一塚古墳（33）・二塚古墳（34）などが成立し、郡山低地でも中期後半から数多くの古墳が造られるようになる。名取川の北側に位置する大野田古墳群は、中型の帆立貝形古墳である鳥居塚古墳（15）などからなる古墳群で、近年調査された春日社古墳からは 2 基の埋葬施設が検出され、革盾や鉄矛、鉄鏃などが出土している。終末期になると、法領塚古墳が築造され、また郡山Ⅰ期官衙成立を契機に、長町駅東遺跡や西台畑遺跡など官的要素を持つ集落が出現する。

古代

官衙跡である郡山遺跡を中心に集落が展開する。郡山遺跡の官衙跡は、7 世紀中葉から後葉にかけて造られた古代陸奥国の建国に関った重要な柵跡である「Ⅰ期官衙」、7 世紀末葉から 8 世紀初頭の多賀城創建以前の陸奥国府跡と考えられる「Ⅱ期官衙」の 2 時期の変遷が確認されており、Ⅱ期官衙には付属寺院（郡山廃寺）が併設されている。Ⅱ期官衙は方四町の区画をもち、外周には外郭大溝と外溝の二重の溝を巡らしており、その外郭一辺の長さが藤原京の条坊区画線の 1 単位分と同等になることが指摘されている。郡山遺跡に隣接する長町駅東遺跡と西台畑遺跡は、出土土器の年代幅などから郡山遺跡における官衙の造営・運営に関連する集落跡と考えられている。長町駅東遺跡では、これまでに 350 軒近い竪穴住居跡が検出されており、集落の北側では官衙成立以前に一本柱列による区画施設が造られ、官衙期に通路状遺構を伴う大溝跡と材木列による区画施設に造り替えが行われている。郡山遺跡の南西約 1.5km にある大野田官衙遺跡（42）では、真北方向を軸とする掘立柱建物跡 6 棟と建物群を区画する大溝が検出され、出土土器や建物配置などから、郡山遺跡Ⅱ期官衙に関連する官衙跡と考えられている。これらの集落は、郡山Ⅱ期官衙が多賀城にその機能を移すと急速に衰退する。大年寺山周辺には、愛宕山横穴墓群（37）、大年寺山横穴墓群（38）、宗禅寺横穴墓群（39）、茂ヶ崎横穴墓群（40）などが造られ、その多くは副葬品などの出土遺物から郡山Ⅰ・Ⅱ官衙との関連が指摘されている。このほか、富沢遺跡や山口遺跡からは真北方向を基準とした水田跡が確認されており、条里制地割との関わりが推定されている。

中世

堀に囲まれた武士層の屋敷跡や阿弥陀堂と推定される仏堂跡が検出されている王ノ壇遺跡（16）では、波板状遺構と側溝を伴う路幅 2.8 ～ 4.2 mの中世の基幹道路である奥大道と推定されている道路跡が検出されている。南小泉遺跡では大規模な堀と土塁を伴う城館跡を中心に、周辺に方形の屋敷を構えた中世村落の景観が復元されている。北目城跡（4）は、戦国時代に仙台市南東部から名取市北部にかけて勢力を奮った粟野大膳の居城で、仙台城築城以前の関ヶ原の合戦の際には伊達政宗が拠点としたことで知られており、仙台城の完成まで居住したとされている。

近世

伊達政宗の隠居所として築城され晩年を過ごしたとされる若林城跡（30）は、土塁と幅約 20 mの堀で囲まれた平城である。南小泉遺跡では、若林城城下町として整備された武家屋敷跡と考えられる遺構が検出されている。

第 3 章　調査の方法と概要

第 1 節　調査区の設定（第 3 図）

今回の調査地点は東北本線長町駅の約 500 m南に位置し、長町駅東遺跡内の北西寄りにあたる。計画された建物範囲のうち、前年度に実施した試掘確認調査の成果から、調査対象地の北側は旧貨物ヤード造成に伴う整地と河川跡により遺構検出面が失われていることが確認されていることから調査対象から除外した。さらに西側部分についても、第 12 次調査区から旧貨物ヤード造成に伴う整地層が延びていることも想定されたことから、河川跡や整地層が確認されるまでの範囲を調査区とした。

第 2 節　調査概要

（1）調査経過

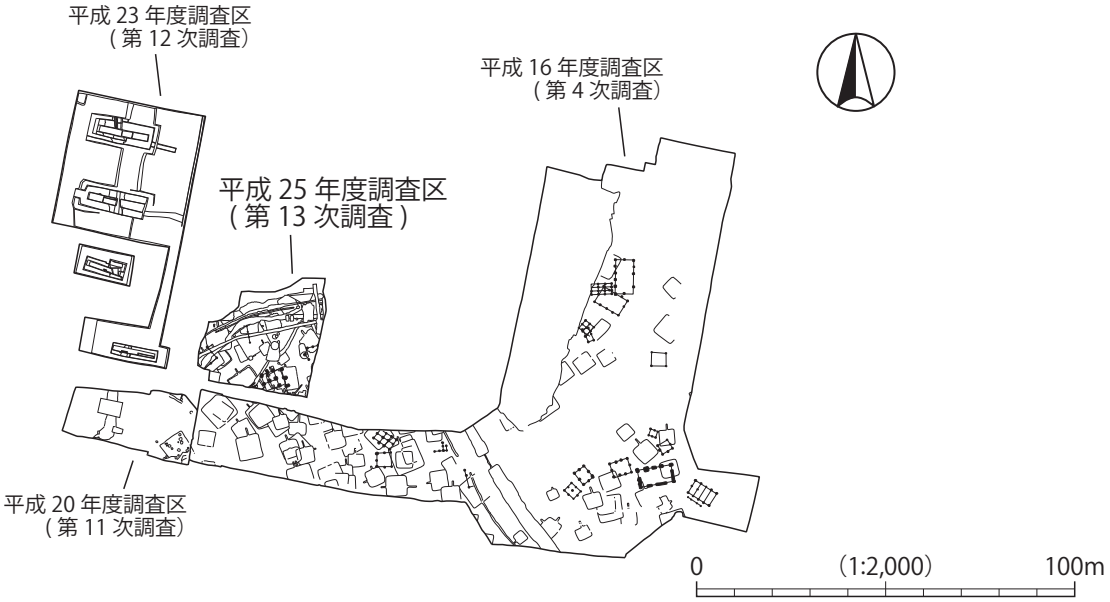
調査は遺構検出面が残存する南東側から表土除去を行い、遺構面の検出を行うこととした。古代の遺構検出作業は基本土層Ⅳ層上面で行った。古代面の調査終了後、調査区東壁や南壁に下層トレンチを設定し、弥生期の遺物包含層の確認を行ったが、確認することは出来なかった。

写真記録は 35mm モノクロームフィルム、カラースライドフィルムでの撮影を基本とし、補完的にデジタル一眼レフカメラを使用した。

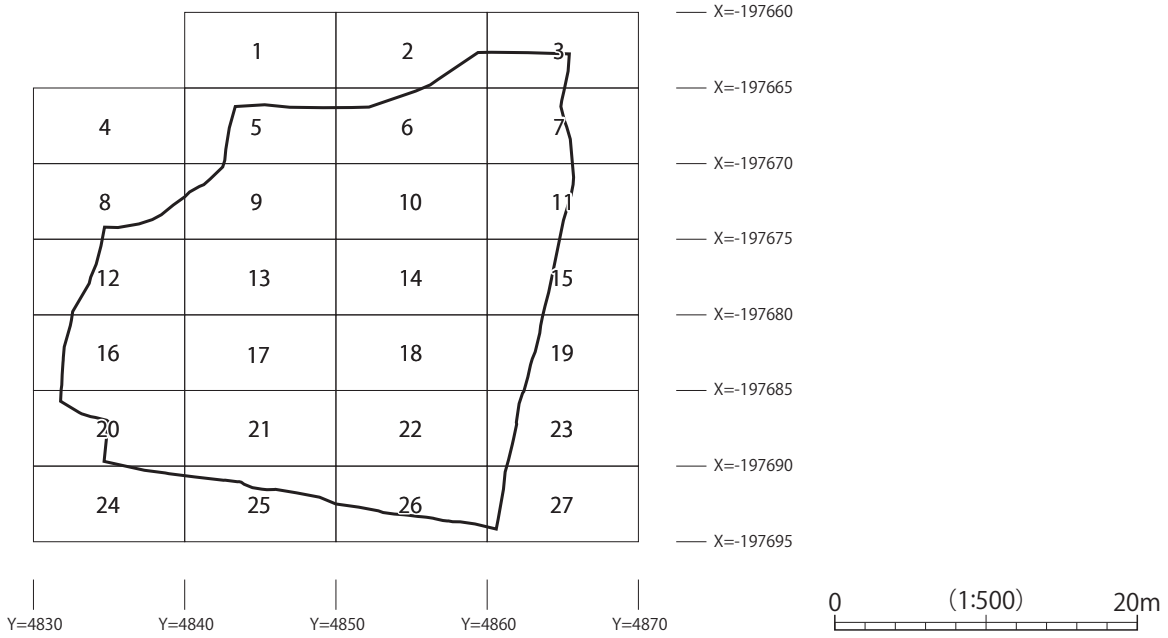
（2）測量基準・図面の作成（第 4 図）

測量は、日本測地系「平面直角座標系第Ｘ系」を基準としている。5 × 10 mを単位とする平面区配図を作成した。第 13 次調査では調査区北西端を 1 とし、南東端の 27 までの番号を付して遺構図面の作成を行った。本文中で遺構の所在位置を示す場合は、この番号をグリッド番号として使用している。

平面図の作成はトータルステーションによる器械実測、断面図は手実測による縮尺 20 分の 1 を基本としたが、一部写真実測を併用し作業の迅速化を図った。



第 3 図　長町駅東遺跡第 13 次調査区と周辺の調査区



第 4 図　グリッド配置図

(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。特に必要と認められた遺物については、出土状態図を作成し、位置とレベルを記録している。

整理作業の段階で、各遺構について遺構観察カードを作成し、事実記載および調査時の所見を記録している。

(4) 遺構登録番号

各遺構の登録番号については、長町駅東遺跡調査開始時からの通し番号とし、小ピットについてのみ 1 番からの番号を付した。

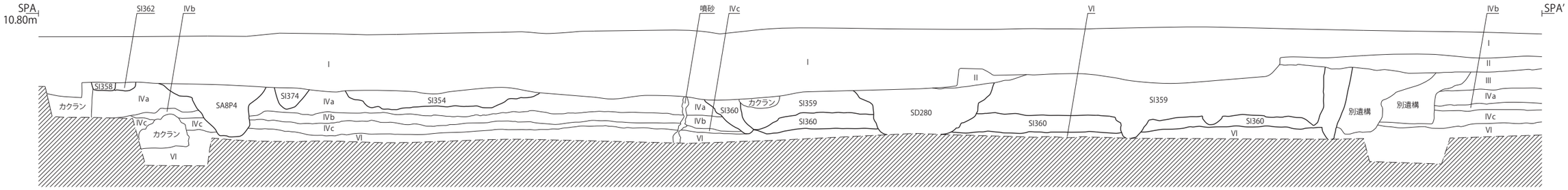
(5) 調査報告書作成作業

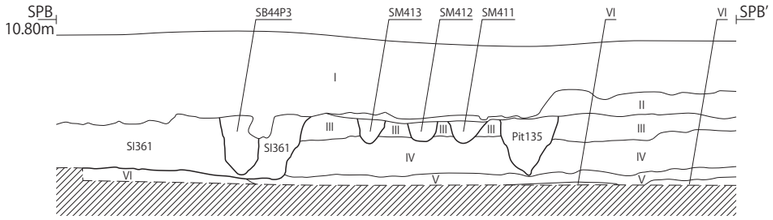
出土遺物の基礎整理（水洗・注記）は野外作業と並行して現場事務所で実施し、野外作業終了後に報告書作成に向けた整理作業を、仙台市太白区中田に所在する株式会社シン技術コンサル東北支店で行った。

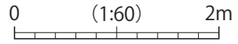
出土遺物の登録・実測図作成、遺物図版・遺構図版・写真図版の作成および編集・原稿執筆等を行い、その間必要に応じて整理作業内容の確認・協議を行った。特に、土師器などの出土遺物の実測図およびデジタルトレース図面については、仙台市あすと長町関係遺跡発掘調査事務所において点検を行った。

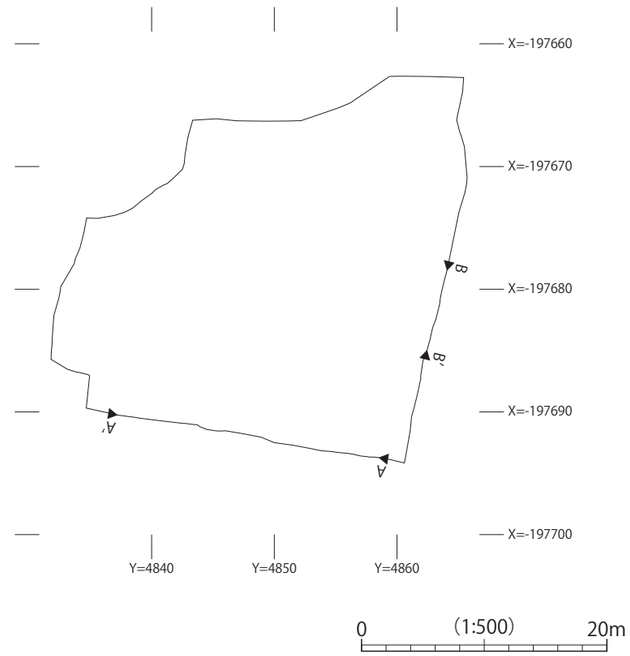
第 4 章　基本層序

現地は貨物ヤードとして利用されていた経緯から、その整地土（第Ⅰ層）が遺跡全体を覆っており、また建物基礎や石炭ガラを埋めた攪乱も多く見られた。特に調査区西壁はグライ化が著しく、北壁は旧河川にあたるため、基本土層の観察は調査区南壁で行い、一部東壁で補完した（第 5 図）。第Ⅳ層は基本的にはにぶい黄褐色のシルトであるが、調査区南壁で灰黄褐色の間層がみられたため 3 層に分層した。



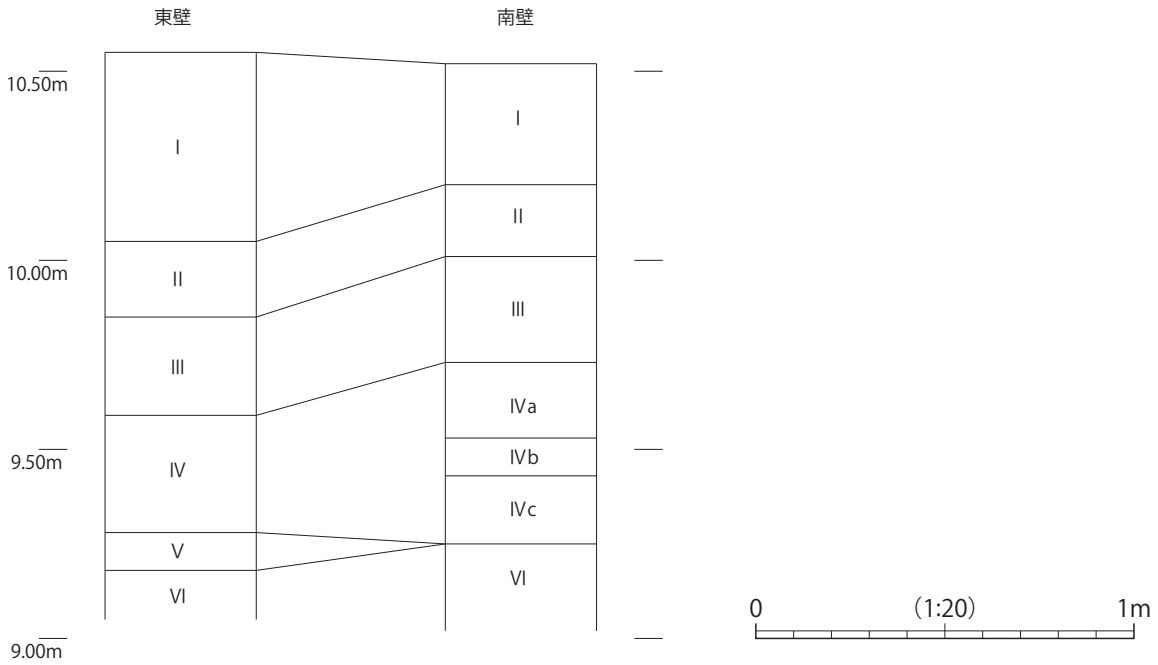






層位		土色	土質	備考
Ⅰ				近・現代の整地層。旧貨物ヤードの造成土で、砂礫を大量に含む。
Ⅱ		7.5YR4/1 褐灰色	シルト	-
Ⅲ		10YR4/2 灰黄褐色	シルト	-
Ⅳ	a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古代遺構検出面。
	b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物を微量含む。
	c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	-
Ⅴ		10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	弥生時代の遺物包含層に対比される。
Ⅵ		10YR4/6 褐色	砂質シルト	粗粒砂。

第５図　基本層序



第６図　基本層序柱状図

Ⅰ層：砂礫を大量に含む近・現代の盛土層。旧貨物ヤードの造成土で、層厚 30 ～ 80cm。

Ⅱ層：褐灰色（7.5YR4/1）シルト層。層厚 12 ～ 30cm。

Ⅲ層：灰黄褐色（10YR4/2）シルト層。古代の遺構の構築面と考えられる。層厚 3 ～ 30cm。

Ⅳa 層：にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト層。本遺跡での古代の遺構検出面。層厚 12 ～ 20cm。

Ⅳb 層：灰黄褐色（10YR4/2）シルト層。炭化物を微量含む。層厚 8 ～ 12cm。

Ⅳc 層：にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト層。層厚 6 ～ 22cm。

Ⅴ層：褐灰色（10YR5/1）粘土質シルト層。弥生時代の遺物包含層に対比される層と考えられるが、東壁北半で確認されたのみである。層厚 4 ～ 10cm。

Ⅵ層：褐色（10YR4/6）砂質シルト層。粗粒。

第 5 章　検出遺構と出土遺物

今回の調査で検出した遺構は、竪穴住居跡 29 軒、掘立柱建物跡 3 棟、杭列・一本柱列 3 列、溝跡 7 条、小溝状遺構 32 条、井戸跡 2 基、土坑 3 基、ピット 105 基、性格不明遺構 2 基の総数 186 遺構である（第 7 図）。

遺構は基本土層Ⅳ層上面で検出した。重複関係や遺構観察の所見から、杭列や溝跡など近世以降の所産と考えられる遺構もあるが、他の遺構については古墳時代～古代の遺構と考えられる。小溝状遺構についても、重複関係から SM404・405 を除き竪穴住居跡よりも古い時期のものである。

トレンチを設定し弥生時代以前の確認調査も実施したが、遺構は検出されなかった。

出土遺物は土師器を主体に、須恵器、鉄製品、石製品、土製品などコンテナ 60 箱程が出土している。

以下、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、杭列・一本柱列、溝跡、小溝状遺構、井戸跡、土坑、ピット、性格不明遺構の順に記載する。

（1）竪穴住居跡（第 8 ～ 62 図）

竪穴住居跡を 29 軒検出した。調査範囲の制約や重複遺構などにより、カマド煙道部のみを検出した竪穴住居跡が 5 軒あり、また建て替えによる竪穴住居跡も含まれている。平面形状は概ね方形で、規模は最大の SI372 で長軸 760cm、最小の SI368 で長軸 295cm を測る。長軸 450cm 前後の竪穴住居跡が多く、方向は SI364・366・380 の 3 軒を除いて、N － 2 ～ 60°－ W と西へ傾く。

カマドは煙道部のみの検出を含め 20 軒から検出されており、このうち SI356・359・365 ではカマドの造り替えが行われている。カマドの付設位置は、SI380 が東壁と考察される以外、すべて北壁である。燃焼部は壁内に位置するものが多いが、SI354 では壁外に 35cm 程度張り出す。袖は基本土層Ⅳ層土を主体として構築されるが、SI372 では白色粘土が使用されている。SI356・371A・379 ではカマド袖先端部に芯材と考えられる礫が検出され、SI356 では加工礫と土師器甕を共用している。SI368 の袖は失われているが、先端部に芯材を埋設したと考えられる施設を検出した。支脚は SI371A・379 で検出し、SI372 では燃焼部に支脚を埋設したと考えられる施設が 2 つ並んで検出されている。煙道部の長さは 100cm 以上を測るものが大半であり、SI354 ～ 356・358・359・361・362・365・374 の煙出し部分の形状はピット状を呈す。

主柱構造が確認できる竪穴住居跡の柱穴位置は、4 本の主柱穴が殆どであるが、主柱穴を持たず壁柱穴や補助柱穴による構造の竪穴住居跡も数軒確認されている。その他の床面施設としては、周溝や間仕切り溝、貯蔵穴、カマドに関連する施設と考えられる土坑などがある。

出土遺物は床面やカマドから比較的まとまって出土しているが、SI383 床面出土の土師器甕（第 62 図－ 1）など 2a 期（6 世紀初頭～前葉）以前と考えられる遺物から SI365 カマド出土の土師器坏（第 27 図－ 2）など 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）のものまであり、時期差が認められる。

SI354 竪穴住居跡（第 8 図）

【位置・確認】 調査区南端部中央東寄りの 26 グリッドに位置する。カマドを含む北壁の 2/3 程度の検出であり、南側の大半は調査区外に延びる。基本土層Ⅳ層上面で検出した。

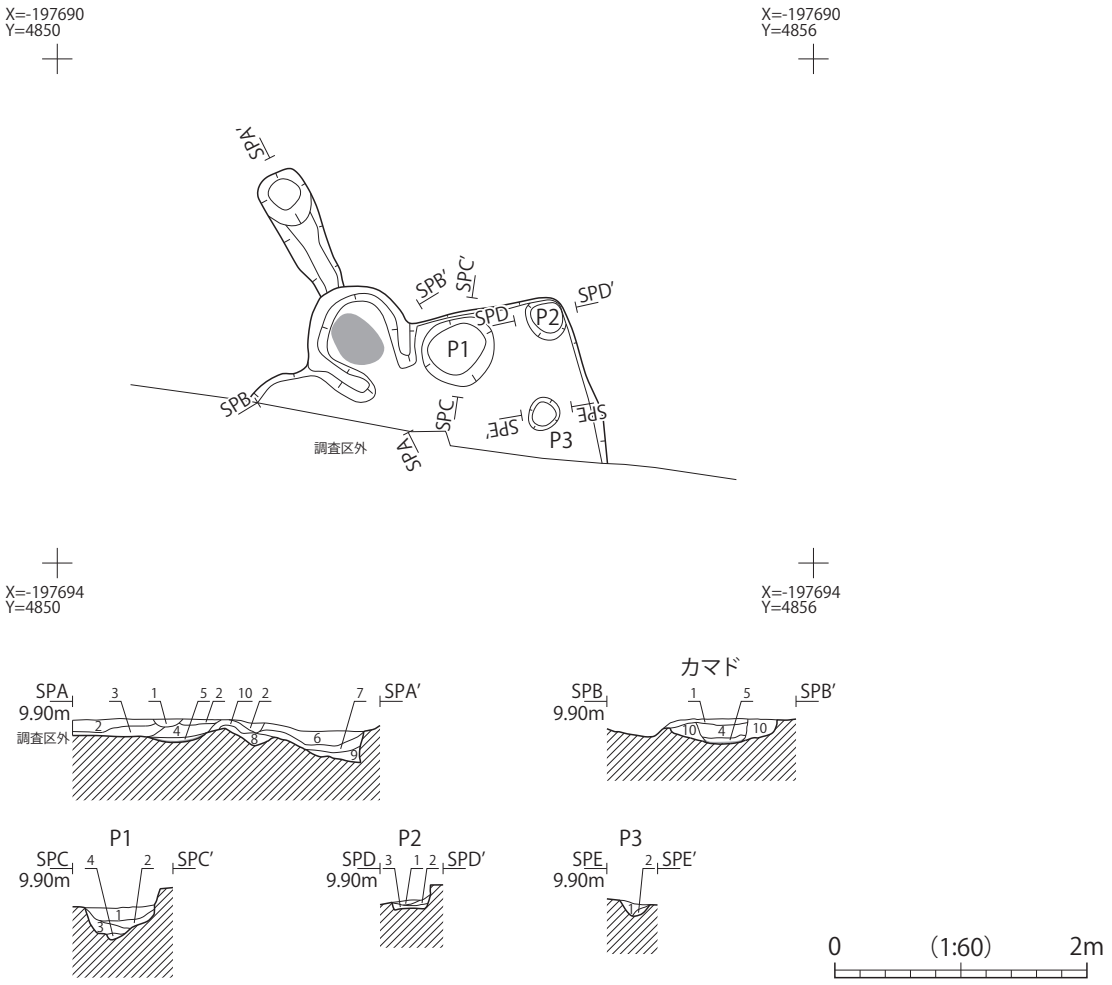
【重複】 SI355・356 と重複し、一番新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 256cm、短軸 135cm を測る。平面形状は一辺 320cm 程度の方形ないしは隅丸方形と推察される。

【方向】 カマド煙道部を基準として N － 26°－ W である。

X=-197665
X=-197670
X=-197675
X=-197680
X=-197685
X=-197690
X=-197695
Y=4830
Y=4835
Y=4840
Y=4845
Y=4850
Y=4855
Y=4860
Y=4865
SI381
SI366
SI371
SA7
SD278
SA7
SI381
カクラン
カクラン
SD282
SI369
SI364
SD281
SI380
SI363
カクラン
SI382
SD279
SA9
SA7
SK325
SK326
SE9
SD283
SI365
SI361
SI372
SE10
SB44
SI365
SI376
SI368
SX35
SI383
SD282
カクラン
SB43
SK324
SI367
SI378
SD281
SI370
SI360
SI379
SI375
SI377
SA8
カクラン
SI355
SI356
SB42
SI357
SI359
SD280
SD277
SI354
カクラン
SI374
SX36
SI362
SI358
0
(1:150)
10m

第７図　遺構配置図



SI354 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒、焼土塊10%含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒、炭化物微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物10%含む。
カマド	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック、炭化物10%含む。(天井崩落土)
	5	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	焼土主体。
	6	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物10%含む。
	7	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック30%、灰多量に含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物10%含む。
	9	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物40%、灰を比較的多く含む。
カマド袖	10	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。

SI354 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)30%、炭化物、焼土粒10%含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック20%、炭化物微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物10%含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	
P2	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物多量に含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物多量に含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック20%含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	

SI354 施設観察表

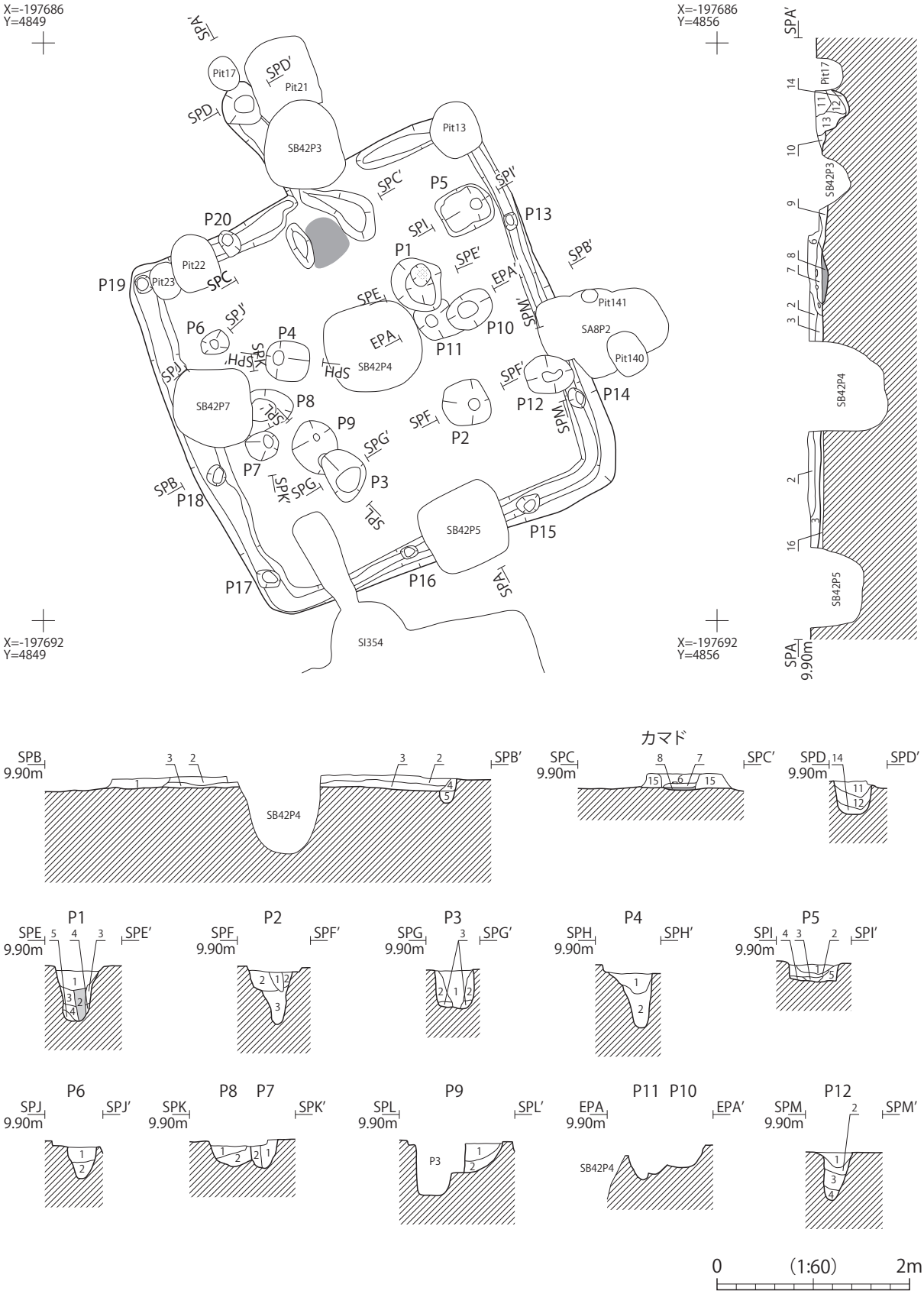
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	60×55	25	
P2	円形	35×31	7	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	円形	28×24	10	

第 8 図　SI354 竪穴住居跡

【堆積土】 10 層に分層した。1 ～ 3 層は暗褐色粘土質シルトを主体とする住居堆積土である。4 ～ 10 層はカマド関連の堆積土で、4 層は焼土ブロック・炭化物を含む天井崩落土、5 層は焼土主体の燃焼部、7 ～ 9 層は灰を多く含む煙道の堆積土、10 層は粘性に富むカマド袖構築土である。
【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がる。壁高は、東壁で 11cm、北壁で 15cm を測る。
【床面】 掘り方を持たず、基本土層Ⅳ層上面を床面としている。概ね平坦で、周溝は付設しない。
【柱穴】 床面から 1 基（P3）検出した。位置的には柱穴と考察されるが、深さが 10cm と浅い。
【カマド】 北壁中央部に位置すると推察され、壁外に張り出して付設されている。袖は壁面より 50cm 程度突出し緩やかに外傾して立ち上がる奥壁より連続した半円形を呈し、袖の規模は、東袖が長さ 30cm、幅 17cm、西袖が長さ 48cm、幅 22cm を測る。燃焼部の規模は奥行き 66cm、幅 35 ～ 52cm、奥壁高 12cm 程である。底面は皿状に 4cm 程窪み、長軸 45cm ×短軸 33cm 程の楕円形の焼面がみられる。煙道部は、基部が細く先端に行くに従い広くなり、底面は煙出し部に向かって低くなる。規模は長さ 104cm、幅 33cm、深さ 19cm を測る。煙出し部分は、長軸 44cm、短軸 38cm、深さ 35cm の円形のピット状に掘り込まれる。
【その他の施設】 床面から土坑 2 基（P1・P2）を検出した。P1 は位置的には貯蔵穴と考えられるが、堆積土に焼土ブロックなどが含まれる事からカマドに関連した施設とも考えられる。P2 は北東隅に位置し、堆積土に炭化物を多く含む。
【出土遺物】 土師器の破片が少量出土したが、図示できるものはない。
【時期】 時期を決定できる遺物は出土していないが、重複関係にある SI355 が 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）であることから、5 期以降と考えられる。

SI355 竪穴住居跡（第 9・10 図）
【位置・確認】 調査区南壁際、東寄りの 21・22・26 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出した。
【重複】 SI354・356、SA8、SB42、Pit13・17・21 ～ 23 と重複し、SI356 より新しく、他の遺構より古い。
【規模・形態】 規模は長軸 418cm、短軸 410cm を測る。平面形状は隅丸方形を呈す。
【方向】 カマド煙道部を基準として N － 32°－ W である。
【堆積土】 16 層に分層した。1 ～ 4 層は黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土であり、部分的にグライ化する。5 層は周溝堆積土、6 ～ 15 層はカマド関連の堆積土で、6 層は天井崩落土、7・8 層は燃焼部、9 ～ 14 層は煙道部および煙出し部堆積土、15 層はカマド袖構築土である。16 層は掘り方埋土である。
【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、5 ～ 11cm を測る。
【床面】 南側は掘り方埋土（16 層）上面を、北側は掘り方底面（基本土層Ⅳ層）を床面としている。平坦である。
【柱穴】 床面から 7 基（P1 ～ 4・6・7・12）、周溝内から 8 基（P13 ～ 20）を検出した。位置関係から、P1 ～ 4 は主柱穴と考えられる。規模は長軸 45 ～ 61cm、深さ 48 ～ 65cm を測る。P1 では柱痕跡および底面には変色範囲が確認された。P13 ～ 20 は、規模は径 17 ～ 25cm、深さ 9 ～ 20cm、堆積土は灰黄褐色粘土質シルトが主体でいずれも単層である。規模・堆積土ともに類似しており、補助柱穴ないしは堰板止めと考えられる。
【周溝】 壁面に沿って全周する。規模は幅 15 ～ 35cm、深さ 4 ～ 15cm を測り、断面は「U」字状を呈する。
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面にほぼ直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 90cm、幅 40cm、西袖が長さ 50cm、幅 21cm を測る。袖は壁面に対して「ハ」字状に付設される。燃焼部の規模は奥行き 54cm、幅 35cm 程度、奥壁高は 15cm 程と推察されるが SB42 － P3 により壊されており詳細は不明である。底面は皿状に 6cm 程窪み、径 48 × 36cm 程の楕円形の焼面がみられる。煙道部の規模は、長さ 115cm 程、幅 35cm 程、深さ 9cm 程と考えられるが、SB42 － P3 に切られるため形状など詳細は不明である。煙出し部分は径 50cm 程度、



第 9 図　SI355 竪穴住居跡

SI355 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物、焼土粒を微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物を微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物10%含む、部分的にグライ化。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物10%含む。
周溝	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
カマド	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土塊20%、炭化物を微量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰多量、焼土粒20%含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒20%含む。
	9	10YR2/3 黒褐色	シルト	灰多量、焼土塊微量含む。(煙道)
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物80%、焼土塊10%含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物60%、焼土粒微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物20%、焼土粒微量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物30%、焼土粒10%含む。
	14	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土小粒20%含む。
カマド袖	15	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土粒を微量含む。
住居掘り方	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック中板状に20%、炭化物を微量含む。

SI355 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物粒5%含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	焼土中粒10%含む、グライ化。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物10%、焼土粒3%含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物を微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
P4	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物10%含む、グライ化。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物5%含む、グライ化。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土中粒40%、炭化物5%含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒、炭化物を微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒、炭化物10%含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒を微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜)、炭化物を微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(2～5㎜)20%、炭化物を微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
P7	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜)10%含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。
P8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、焼土粒10%、炭化物粒5%含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック帯状に20%含む。
P9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
P10	1	10YR3/2黒褐色	シルト	焼土粒を微量含む。
P11	1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を微量含む。
P12	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物、焼土粒を微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
P13	1	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	炭化物を微量含む、グライ化。
P14	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む、グライ化。
P15	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
P16	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む、一部グライ化。
P17	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
P18	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
P19	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土粒を微量含む。
P20	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物10%、焼土粒を微量含む。

SI355 施設観察表

遺構名	平面形	規模(㎝)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	61×54	58	
P2	隅丸方形	48×48	55	
P3	楕円形	54×41	48	
P4	隅丸方形	45×42	65	
P5	長方形	56×46	18	
P6	楕円形	29×24	32	
P7	円形	29×23	29	
P8	楕円形	(42)×42	26	
P9	楕円形	(40)×47	31	
P10	楕円形	49×36	23	

遺構名	平面形	規模(㎝)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P11	不整円形	(31)×(30)	24	
P12	楕円形	49×41	50	
P13	隅丸方形	18×13	9	
P14	楕円形	24×17	20	
P15	楕円形	25×20	12	
P16	楕円形	17×13	13	
P17	隅丸方形	23×19	14	
P18	隅丸方形	22×20	10	
P19	隅丸方形	19×(15)	10	
P20	楕円形	28×19	11	

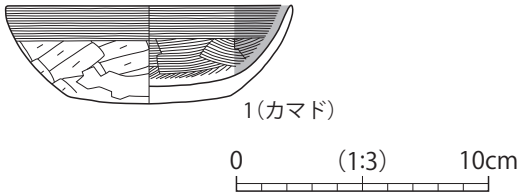
深さ 36cm の平面円形のピット状に掘り込まれる。

【その他の施設】 床面から土坑 5 基（P5・8 ～ 11）を検出した。P5 は長軸 56cm、短軸 46cm、深さ 18cm を測る平面長方形の土坑で、堆積土は焼土粒や炭化物を含む暗褐色ないしにぶい黄褐色シルトが主体である。

【掘り方】 南・西壁際で確認された。深さ 3 ～ 10cm 前後で、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土から土師器、少量の須恵器が出土した。カマドより出土した土師器坏 1 点を図示した（第 10 図－ 1）。体部から口縁部へやや湾曲しながら立ち上がる。底部は平底気味に整形される。

【時期】 カマドから出土した第 10 図－ 1 が直接住居跡に伴う遺物で、5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高
1	C-1	SI355	カマド	土師器	坏	11.2	6.4	3.9
	外面調整			内面調整		備考		写真図版
	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ			口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデ、黒色処理				23

第 10 図　SI355 竪穴住居跡出土遺物

SI356 竪穴住居跡（第 11 ～ 13 図）

【位置・確認】 調査区南東隅の 18・22・26 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出した。

【重複】 SI354・355・374、SA8、SB42、SM412 ～ 414・423・425・426・427、Pit13・38・130・140・141 と重複し、SM412 ～ 414・423・425・426・427 より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 規模は長軸 610cm、短軸 580cm を測る。平面形状は北壁がやや膨らむ方形を呈する。

【方向】 カマドを基準として N － 17°－ W である。

【堆積土】 20 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土で、4 ～ 6 層は周溝堆積土である。7 ～ 16 層はカマド関連の堆積土で、7 層は天井崩落土、8 層は焼土、9 ～ 13 層は煙道関連の堆積土、14 ～ 16 層はカマド袖構築土である。17 層は貼床、18 ～ 20 層は暗褐色シルトを主体とした掘り方埋土である。

【壁面】 ほぼ垂直に立ち上がる。壁高は、16 ～ 28cm を測る。

【床面】 17 層上面を床面とする。貼床である。概ね平坦であるが、カマド周辺ではわずかに起伏がみられる。

【柱穴】 床面から 5 基（P1 ～ 4・7）検出した。P1 ～ P4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、P1 ～ 3 では柱痕跡が確認され、すべての柱穴底面で変色範囲を確認した。規模は長軸 38 ～ 72cm、深さ 41 ～ 55cm を測る。柱痕跡は径 13 ～ 28cm 程で、変色範囲は径 13 ～ 19cm 程である。

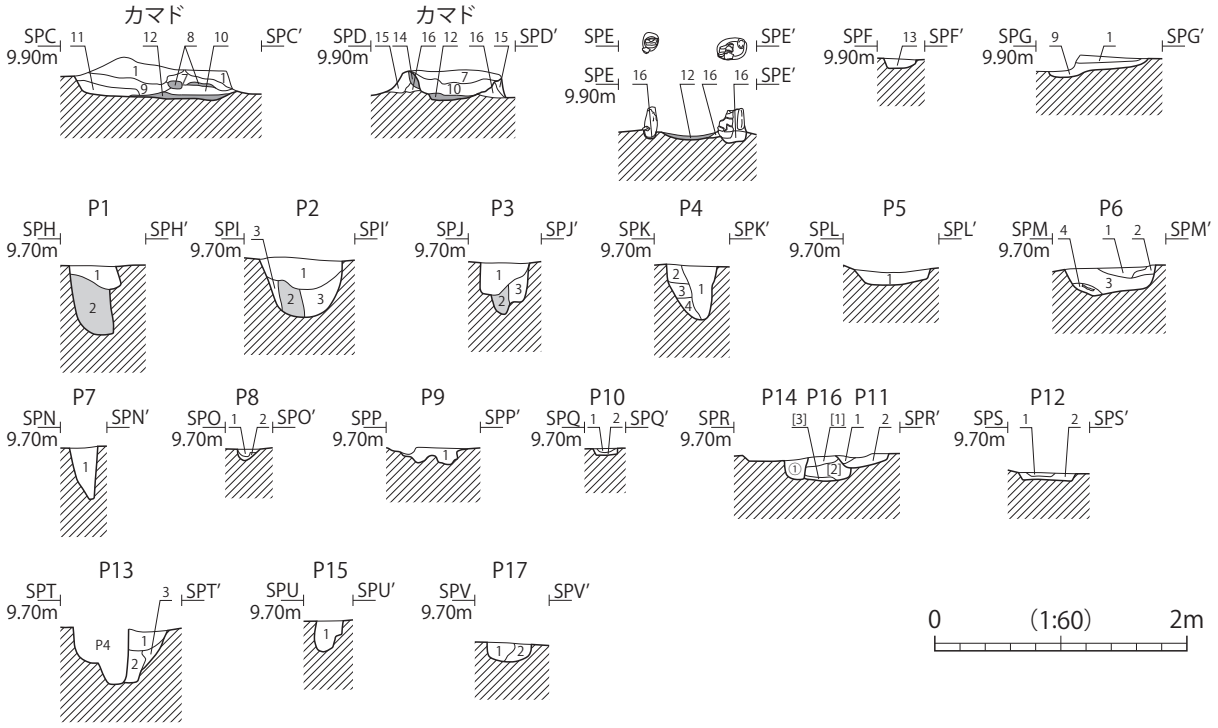
【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。断面は逆台形を呈する。規模は幅 20 ～ 38cm、深さ 10 ～ 30cm を測る。土層断面で堰板痕が確認でき、周溝底面でも緩やかな起伏が認められる。

【カマド】 北壁中央部のやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 75cm、幅 23cm、西袖は SA8P1 に切られており現況で長さ 57cm、幅 30cm を測る。両袖の先端には、東袖では土師器甕に入れた長さ 24cm、幅 10cm、厚さ 5cm の加工礫と長さ 16cm の自然礫、西袖は長さ 24cm、幅 10cm、厚さ 5cm の加工礫が芯材として埋設されている。両袖に埋設された加工礫は、接合はしないものの石材と規格から同一の可能性が高い。袖は壁面に対して直交して付設される。燃焼部の規模は奥行き 55cm、幅 50cm、奥壁高 20cm 程である。底面は皿状に 5cm 程窪み、径 45 × 42cm 程の焼面がみられる。奥壁および煙道は撹乱の影響で不明瞭であるが、北壁外 170cm の位置で径 27cm の煙出し部分を検出した。ピット状に深く掘り込まれない事から、奥壁から緩やかに立ち上がる煙道であったと考察される。東袖の延長上に煙道を検出し、カマド 2 とした。

SI356 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物5%含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土小粒20%、炭化物10%含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土小粒10%、炭化物微量含む。
周溝	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土小粒10%、炭化物微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）40%含む。
カマド	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒、炭化物を微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土主体。
	9	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒、Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）を微量含む。
	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒、Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）を微量含む。
	12	5YR3/4 暗赤褐色	シルト	焼土と微量の炭化物を含む。
	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒20%、焼土粒微量含む。
カマド袖	14	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	被熱により焼土化。
	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
	16	10YR4/6 褐色	シルト	
住居掘り方	17	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含む。（貼床面）
	18	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。
	19	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	
	20	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒15%含む。

第 11 図　SI356 竪穴住居跡（1）



SI356 施設堆積土註記表

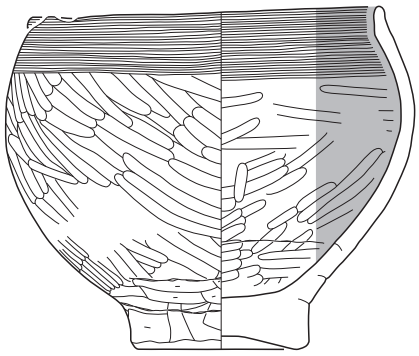
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒20%、焼土粒、炭化物を微量含む。(柱抜取痕)
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。(柱痕跡)
P2	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化粒を微量含む。(柱抜取痕)
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化粒を微量含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
P3	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化粒を微量含む、(柱抜取痕)
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	(柱痕跡)
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック5%、焼土粒、炭化物微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物を微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	
P5	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒20%、炭化物、灰白色粘土塊を微量含む。
P6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック20%、炭化物10%含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物を微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土塊40%、Ⅳ層土ブロック薄板状に10%、炭化物を微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土塊、炭化物10%含む。
P7	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	
P8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒褐色シルト砂粒を微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
P9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒5%、炭化物粒、焼土粒微量含む。
P10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒ブロック30%、炭化物粒5%含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒、焼土粒微量含む。
P11	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒10%、炭化物を微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒10%、Ⅳ層土粒5%含む。
P12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土10%、焼土粒、炭化粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物を微量含む。
P13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化粒を微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜)20%含む。
P14	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒、炭化物を微量含む。
P15	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物を微量含む。
P16	[1]	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土粒を微量含む。
	[2]	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、互層状に炭化物、焼土塊20%含む。
	[3]	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒5%含む。
P17	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層粒10%、焼土粒3%、炭化物を微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒、焼土粒、炭化物を微量含む。

第 12 図　SI356 竪穴住居跡（2）

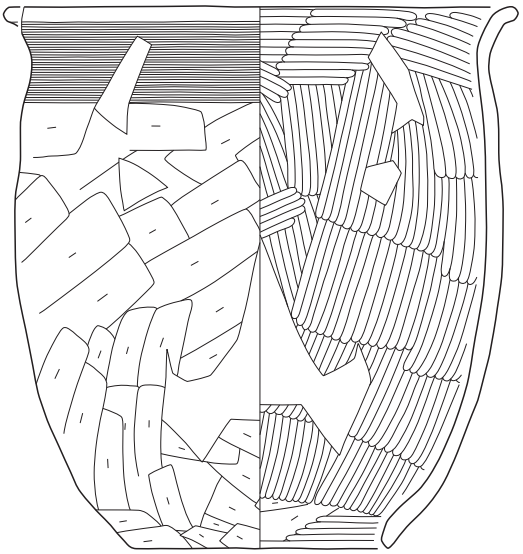
SI356 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	44×39	55	
P2	円形	72×68	47	
P3	隅丸方形	38×(30)	41	
P4	楕円形	54×(38)	43	
P5	楕円形	63×51	10	
P6	楕円形	75×53	22	
P7	隅丸方形	25×19	41	
P8	隅丸方形	19×16	9	
P9	隅丸長方形	50×35	13	

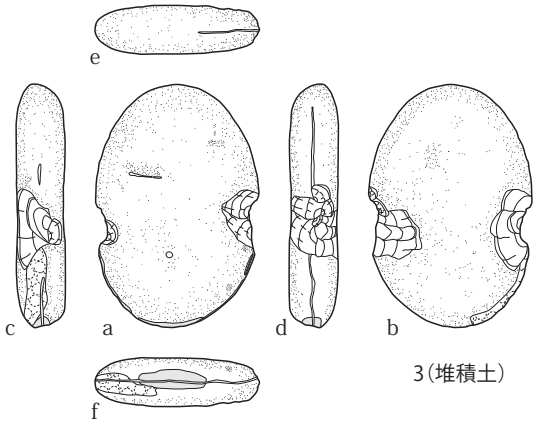
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P10	隅丸方形	21×18	5	
P11	楕円形	(55)×40	11	
P12	隅丸方形	64×56	6	
P13	楕円形	(35)×34	43	
P14	楕円形	27×18	16	
P15	円形	23×21	24	
P16	楕円形	(65)×(47)	19	
P17	円形	(35)×(13)	15	



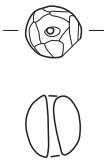
1(床面)



2(カマド)



3(堆積土)



4(掘り方)

0 (1:2) 5cm

※図版番号 4 のみ

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-3	SI356	床面	土師器	鉢	(13.8)	6.3	13.6	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、台部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、黒色処理、輪積み痕		23
2	C-2	SI356	カマド	土師器	甑	20.0	—	(21.5)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁～胴部ヘラミガキ、胴部下位ヘラケズリ→ヘラミガキ	単孔	23

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
3	Kc-1	SI356(a区)	堆積土	礫石器	石錘	9.6	6.5	1.9	106.9	凝灰岩		23
-	Kd-9	SI356	カマド(左袖)	石製品	カマド構築材	27.5	10.4	5.3	1440	凝灰岩		23
-	Kd-10	SI356	カマド(右袖)	石製品	カマド構築材	26.5	10.0	4.5	795	凝灰岩		23

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
4	P-1	SI356(b区)	掘り方	土製品	土玉	1.6	径1.5	孔径0.2	2.8	ナデ調整	23

第 13 図　SI356 竪穴住居跡出土遺物

規模は長さ 54cm、幅 29cm で、「U」字状の煙出し部分に向かって緩やかに立ち上がる。方向は煙道を基準としてＮ－ 17°－ W で、カマド基準の本竪穴住居跡と同方向を指す。本竪穴住居跡では建て替えの痕跡が認められず、北壁を一部拡張しカマド 2 とほぼ同位置にカマドの造り替えが行われたものと考えられる。

【その他の施設】 床面で土坑 6 基（P5・6・8 ～ 11）、貼床面下から 6 基（P12 ～ 17）を検出した。北西隅に位置する P5・6 は、いずれも堆積土に焼土粒または焼土ブロックを多く含んでおり、位置的に SI355 のカマドに関連する施設の可能性もある。P9 はカマドに正対する南壁際中央にあり、位置関係と形状から本竪穴住居跡の入口施設と考えられる。P10 は一辺 50cm 程の方形を呈し位置関係からは貯蔵穴とも考えられるが、貼床面下での検出であり遺物も出土していない。

床面上から、計 83 個の礫が出土した。これらの大部分は自然礫であり、大きく北東壁寄り・中央・南西隅の 3 箇所に纏まりを持つが規則性はない。本竪穴住居跡は SA8 および SB42 に切られる事から、それらのピットに関連する根石などの可能性も考えられる。

【掘り方】 深さ 12cm 前後で、壁際では 20cm 程掘り込む。底面には起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土から土師器が、比較的多く出土した。土師器鉢 1 点、土師器甑 1 点、土製土玉 1 点、礫石器 1 点を図示した（第 13 図）。また、カマド袖の構築材 2 点を写真のみ掲載した。

1 は土師器の鉢であり、台を持ち、最大径が胴部上半にくる。胴部上半から内湾して立ち上がるが、口縁部は短く直立する。胴部の調整は内外面ともにヘラミガキとなり、内面は黒色処理が施される。2 は単孔の甑であり、胴部上半がほぼ円筒状を呈し、口縁部が外反する。内面の調整はヘラミガキが主体となる。3 は両側面の中央部を意識的に打ち欠いているとみられたため石錘とした。また、f 面の一部に磨痕がみられる。

【時期】 床面から出土した第 13 図－ 1 が直接伴う遺物で、2b 期（6 世紀中葉～末葉）と考えられる。

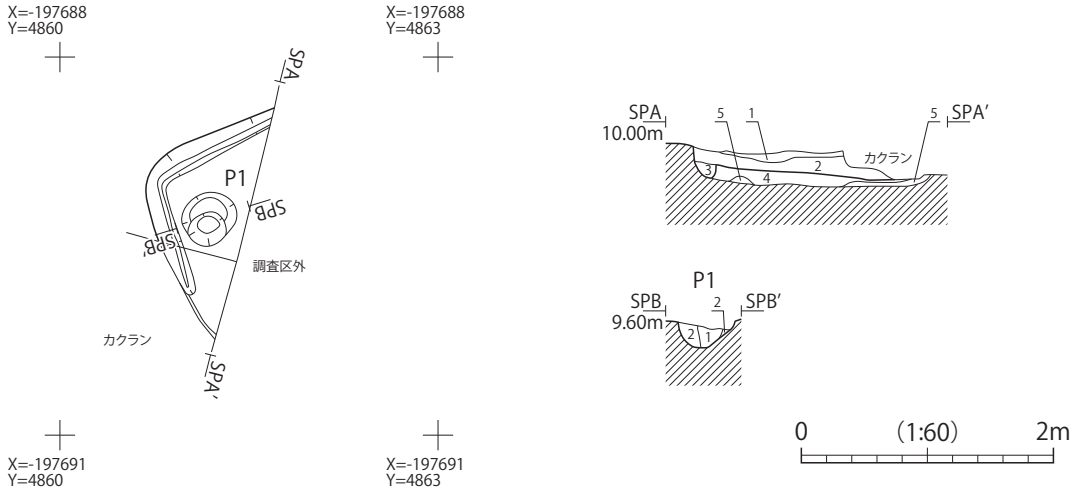
SI357 竪穴住居跡（第 14 図）

【位置・確認】 調査区南東隅の 22・27 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で北西隅のみを検出し、竪穴住居跡の大半は調査区東壁外へ延びる。

【重複】 重複する遺構はない。

【規模・形態】 検出した規模は北壁 112cm、西壁 138cm を測る。平面形状は隅丸方形ないしは隅丸長方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてＮ－ 27°－ W である。



第 14 図　SI357 竪穴住居跡

SI357 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物を微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土粒を微量含む。
周溝	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
住居掘り方	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土小粒15%、炭化粒、焼土粒を微量含む。(貼床面)
	5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量に含む。

SI357 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	

SI357 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	44×40	20	

【堆積土】 1・2 層は住居堆積土、3 層は周溝堆積土、4・5 層は掘り方埋土である。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、10 ～ 19cm を測る。

【床面】 4 層上面を床面としており、概ね平坦である。

【柱穴】 床面で 1 基（P1）検出した。P1 は形状や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は径 44 × 40cm、深さ 20cm を測る。

【周溝】 北壁と西壁北側から検出された。規模は幅 15cm、深さ 2 ～ 10cm 程である。断面は「U」字状を呈する。

【掘り方】 深さ 4 ～ 10cm で、底面には起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土から土師器が少量出土したが、図示できるものはない。

【時期】 時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

SI358 竪穴住居跡（第 15 図）

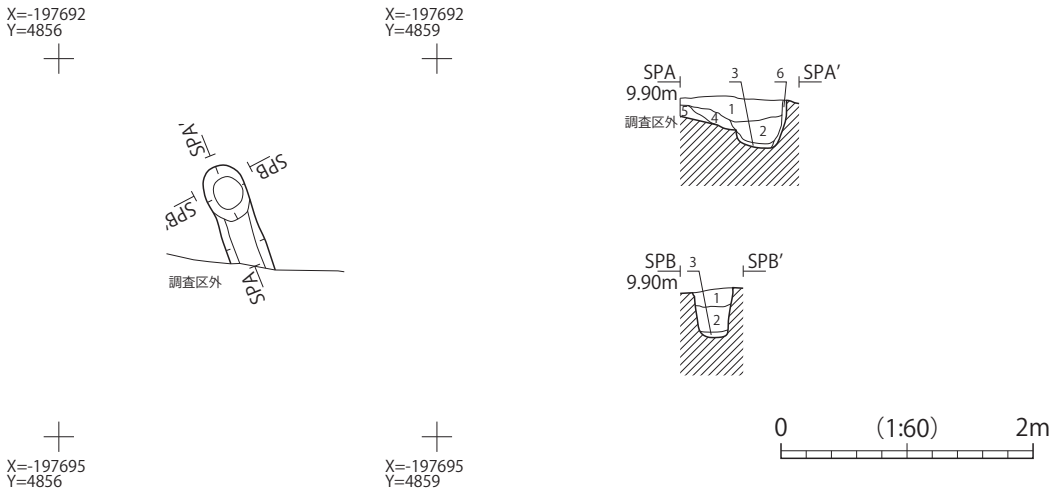
【位置・確認】 調査区南端東隅の 26 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で、煙道部のみを検出した。

【重複】 SI362、SM414 と重複し、SI362 より新しく、SM414 より古い。

【規模・形態】 不明である。

【方向】 カマド煙道部を基準として N － 21°－ W である。

【堆積土】 6 層に分層した。いずれもカマドの堆積土である。3 層は煙出し部分の底面であり、炭化物が主体である。



第 15 図　SI358 竪穴住居跡

SI358 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1	10YR2/1 黒色	シルト	暗褐色シルトブロック40%、焼土塊20%、炭化物微量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黒褐色ブロック20%、炭化物を微量含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒褐色シルト小粒20%含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	暗褐色シルト小粒10%、炭化物を微量含む。
	6	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	暗褐色シルト粒を微量含む。

6 層は煙出し部分の掘り方埋土と考えられる。

【カマド】 検出した煙道部の規模は、長さ 85cm、幅 31cm、深さ 18cm を測る。煙出し部分は平面楕円形のピット状に掘り窪められ、長軸 45cm、短軸 32cm、深さ 33cm を測る。

【出土遺物】 堆積土から土師器がわずかに出土したが、図示できるものはない。

【時期】 時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

SI359 竪穴住居跡（第 16 ～ 18 図）

【位置・確認】 調査区南端中央西寄りの 20・21・24・25 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出したが、調査区南壁の土層観察により基本土層Ⅱ層下面より掘り込まれることを確認した。南西半は調査区南壁外へ延びる。

【重複】 SI360、SB42、SD280、SM404・405、Pit14・24・25 と重複する。SI360 より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 684cm、短軸が 656cm を測る。平面形状は方形ないし長方形と推察される。

【方向】 カマドを基準として N － 33°－ W である。

【堆積土】 20 層に分層した。1 ～ 4 層は住居堆積土で、4 層は貼床面上に点在して薄く堆積し、上面に起伏が見られる。本竪穴住居跡の天井崩落土と考えられる。5 ～ 16 層はカマドに関連した堆積土で、7 層はカマドの天井崩落土、11 層は燃焼部の堆積土、12・13 層はカマド 2 の廃棄による袖構築土などの堆積土、14 層は煙出し部分の堆積土、15 層はカマド袖構築土、16 層はカマド掘り方埋土である。17 ～ 20 層は掘り方埋土で、18 層はカマドに関連した掘り方埋土である。

【壁面】 ほぼ垂直に立ち上がる。壁高は、54 ～ 84cm を測る。

【床面】 3 層ないし 4 層下面を床面とする。貼床である。概ね平坦であるが、わずかに起伏がみられる。調査区南壁の土層観察により、3 回の貼り替えが確認できる。

【柱穴】 床面から 3 基（P1 ～ 3）、床面下から 3 基（P8・10・11）の 6 基検出した。P1 ～ 3 は規模と位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長軸 37 ～ 48cm、深さ 22 ～ 59cm を測る。P8・10・11 は建て替え前の主柱穴と考えられ、規模は長軸 46 ～ 59cm、深さ 56 ～ 71cm を測る。

【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除き、壁面に沿って全周する。規模は、幅 13 ～ 20cm、深さ 3 ～ 15cm を測り、断面は「U」字状である

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に直交して付設される。袖の規模は、東袖が長さ 85cm、幅 30cm、西袖は長さ 82cm、幅 42cm を測る。袖は壁面に対し、「ハ」字状に付設される。燃焼部の規模は奥行き 68cm、幅 45cm、奥壁高 16cm である。底面は平坦で、奥壁は 22cm 壁外へ突出し外傾して立ち上がる。燃焼部のほぼ全域に平面楕円形の焼面がみられる。煙道部の規模は長さ 133cm、幅 30cm 程で、なだらかに立ち上がる。煙出し部分は上部が削平されており不明瞭ではあるが、ピット状を呈すると考えられる。本カマド（カマド 1）の西隣にカマド堆積土が検出されたため、カマド 2 とした。カマド 2 の東袖は、カマド 1 の西袖として一部残存するが規模・形状などは不明である。カマド 2 に関連した燃焼部の土坑を見ると白色粘土が多量廃棄されており、カマド 2 の構築土に白色粘土が使用されていた可能性が示唆される。カマド 2 周辺から袖芯材もしくは支脚、懸架材と考えられる礫も出土しているが、煙道などは確認出来なかった。

【その他の施設】 床面から３基（P4 ～ 6）、貼床面下から６基（P7・9・12 ～ 15）の９基を検出した。P5・6 は焼土と炭化物が互層に堆積しており、カマド燃焼部～西袖前に位置することから、カマドに関連した土坑と考えられる。P12 は間仕切り溝で、東壁中央やや北寄りから壁面に直交して延び、規模は長さ 155cm、幅 14 ～ 28cm、深さ 14cm を測り、断面は「U」字状を呈す。P13 は北西の P10・11 の延長上に位置し、南端は調査区外へ延びる。検出した規模は長さ 135cm、幅 20 ～ 33cm、深さ 15cm を測り、断面は箱状である。竪穴住居跡の軸に斜行するものの、一種の間仕切り溝と考えられる。P15 は径 97cm の円形の土坑で、埋土に板状の灰白色粘土を含む。

【掘り方】 深さ５～ 12cm で底面はほぼ平坦であるが、壁面に沿って幅 40cm、深さ 20cm 程掘り窪める。

【出土遺物】 堆積土から出土した土師器がほとんどを占める。土師器坏４点、土師器鉢１点、土師器甕６点、金属製品１点、石製品２点を図示した（第 17・18 図）。また、カマドの構築材１点を写真のみ掲載した。

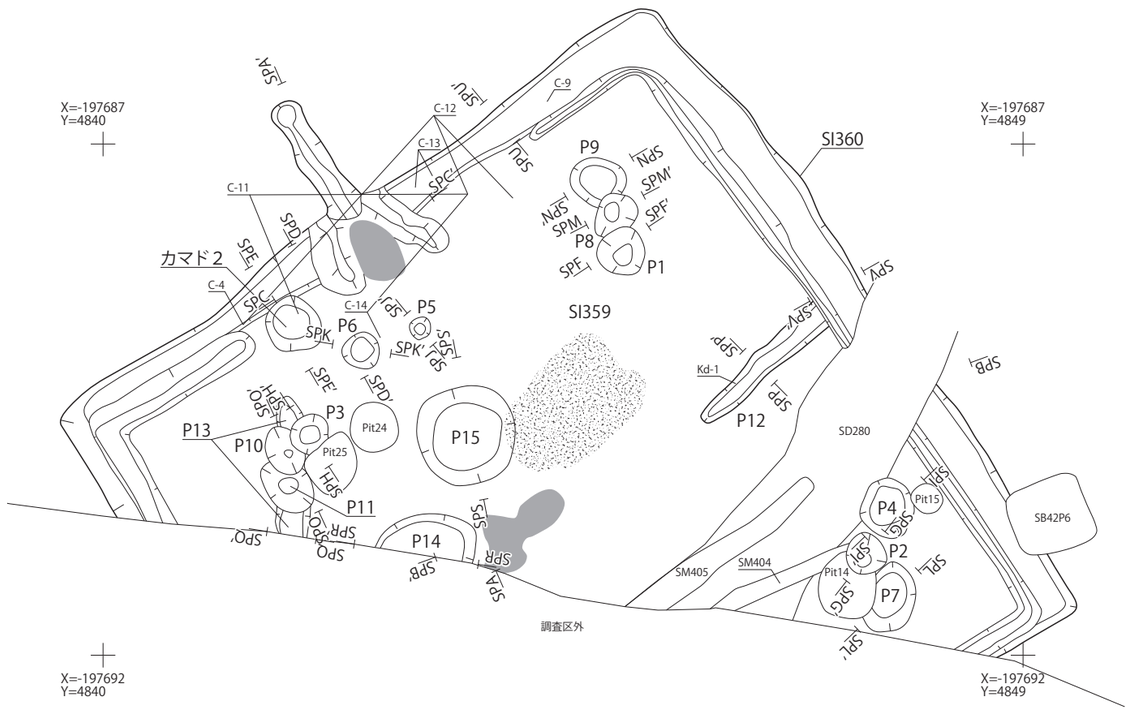
第 17 図－１～４は土師器の坏である。１は口縁部と体部の境界の稜が不明瞭なものであり、全体的に器壁が厚く特に底部が厚い。内外面ともヘラミガキが主体である。２は関東系土師器の坏である。丸底を呈し、口縁部は直線状に内傾する。内面はヘラミガキ調整で黒色処理される。３は有段丸底坏である。口縁部と体部の境界に段を持ち、口縁部は直線状に外傾する。内面はヘラミガキ調整で黒色処理される。４は口縁部と体部の境界に稜を持ち、口縁部は直線状に外傾する。内面はヘラミガキ調整で、内外面に黒漆の付着がみられる。

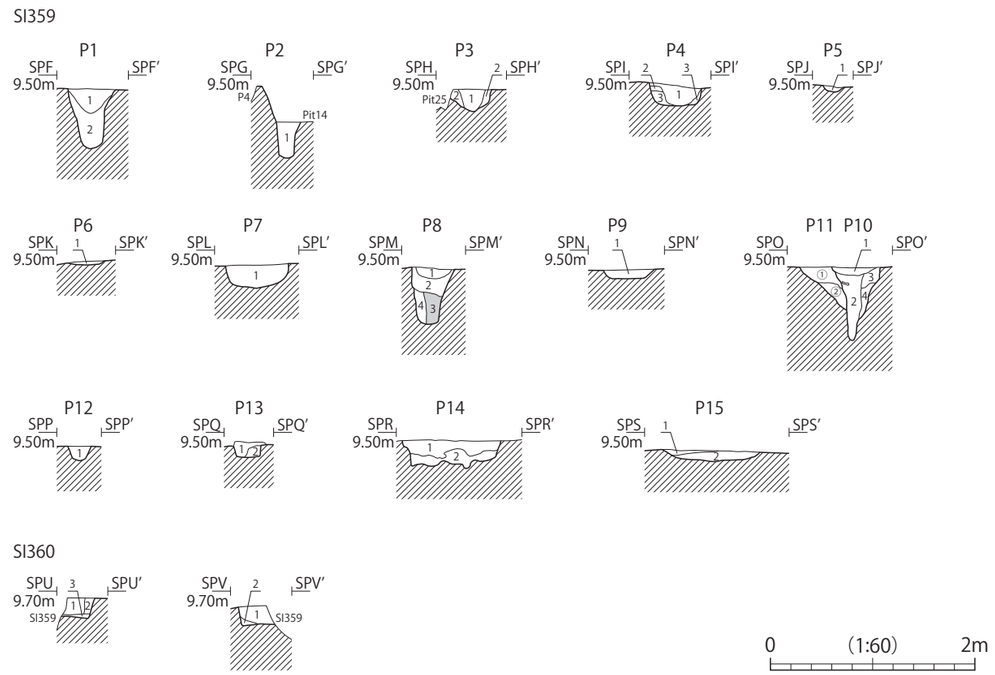
第 17 図－５は土師器の鉢である。５は口縁部と体部の境界に段を持ち、口縁部は外反する。底部は厚みを持ち、平底気味である。体部は外面がハケメ後ヘラナデ、内面がヘラミガキで調整される。

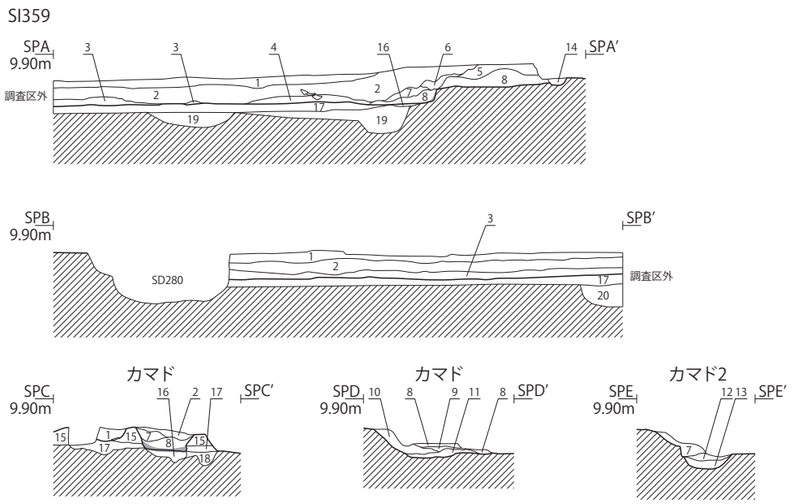
第 17 図－６・7、第 18 図－１～４は土師器の甕である。第 17 図－６は胴部上半が円筒状を呈し、口縁部は直線状に外傾する。胴部は外面がハケメ、内面がヘラナデで調整される。第 18 図－２～４は胴部が楕円形を呈し、口縁部と胴部の境に段を持つ。２・４の口縁部は直線状に外傾し、３の口縁部は外反する。さらに４は底部が台状を呈する。調整は共通しており、口縁部は内外面ともにヨコナデ、胴部は外面がハケメ、内面がヘラナデで調整される。第 17 図－７、第 18 図－１は胴部が球状を呈し、最大径が胴部下半にくる。口縁部は外反するなど器形の上では共通する点が多いが、第 17 図－７は外面がヘラケズリ、内面がヘラナデで調整されるのに対し、第 18 図

SI359 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜）30%含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜）50%含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色シルトブロック30%、底部にⅣ層土ブロック少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜）40%、焼土ブロック、炭化物微量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜）20%含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜）50%含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
P5	1	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物主体で、薄い板状の焼土層が混入する。
P6	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土と炭化物が薄い板状に互層に入る。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%含む。
P8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物10%、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物30%、焼土粒微量含む。（柱痕跡）
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒40%含む。
P9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜）20%、炭化物を微量含む。
P10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。
	3	10YR5/6黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック10%、焼土粒、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、褐灰色シルト粒10%含む。
P11	①	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
	②	10YR4/4褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック（5～10㎜）20%含む。
P12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、黒褐色粘土質シルトブロック10%、焼土粒、炭化物を微量含む。
P13	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程）斑状に30%含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
P14	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
P15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土を板状に少量、焼土粒を微量含む。







SI359 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物20%、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物、焼土粒を微量含む。(天井崩落土)
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物30%、焼土粒10%含む。
カマド	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒40%含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物10%含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。(天井崩落土)
	8	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒30%、炭化物を微量含む。
	9	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物を微量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒、炭化物を微量含む。
	11	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物80%、焼土粒30%、灰を微量含む。
	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	白色粘土ブロック多量、焼土ブロックを微量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック50%、炭化物5%含む。
	14	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物10%含む。(煙出し部分)
カマド袖	15	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	
カマド掘り方	16	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒5%、炭化物を微量含む。
住居掘り方	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰白色粘土ブロック20%、焼土粒、炭化物粒各5%含む。(貼床面)
	18	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒20%含む。
	19	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック10%、炭化物を微量含む。
	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトブロックを20%含む。

SI360 堆積土註記表

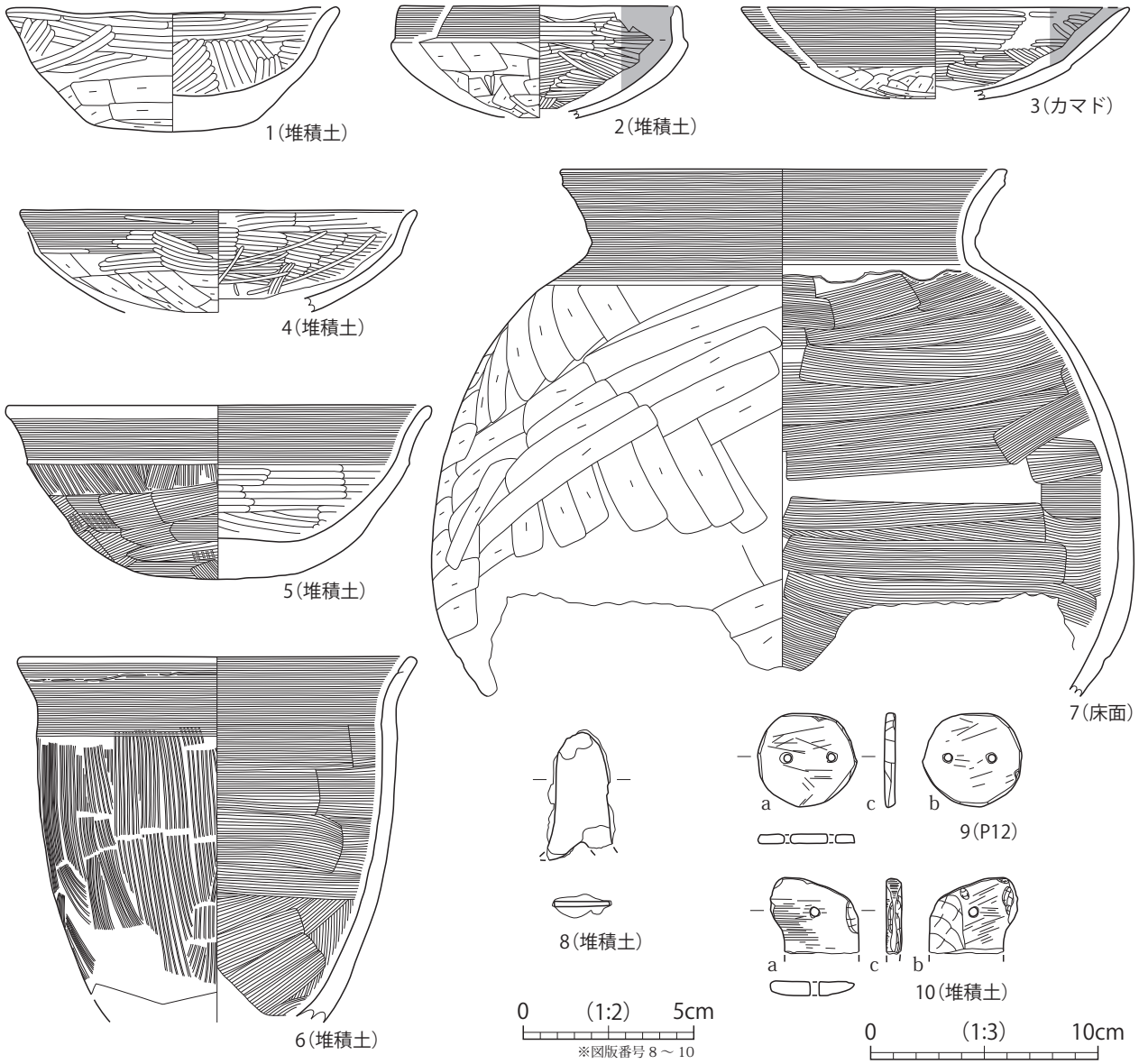
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物3%、焼土粒を微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒を微量含む。

SI359 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	48×47	59	
P2	円形	41×39	35	
P3	円形	37×35	22	
P4	円形	57×52	21	
P5	円形	23×20	6	
P6	円形	37×35	4	
P7	楕円形	69×50	29	
P8	楕円形	46×40	56	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P9	楕円形	55×45	9	
P10	楕円形	50×(35)	71	
P11	楕円形	59×42	40	
P12	不整円形	(155)×14～28	14	間仕切溝
P13	長楕円形	(135)×20	15	間仕切溝
P14	円形	97×(44)	25	
P15	円形	99×97	11	

第 16 図　SI359・360 竪穴住居跡

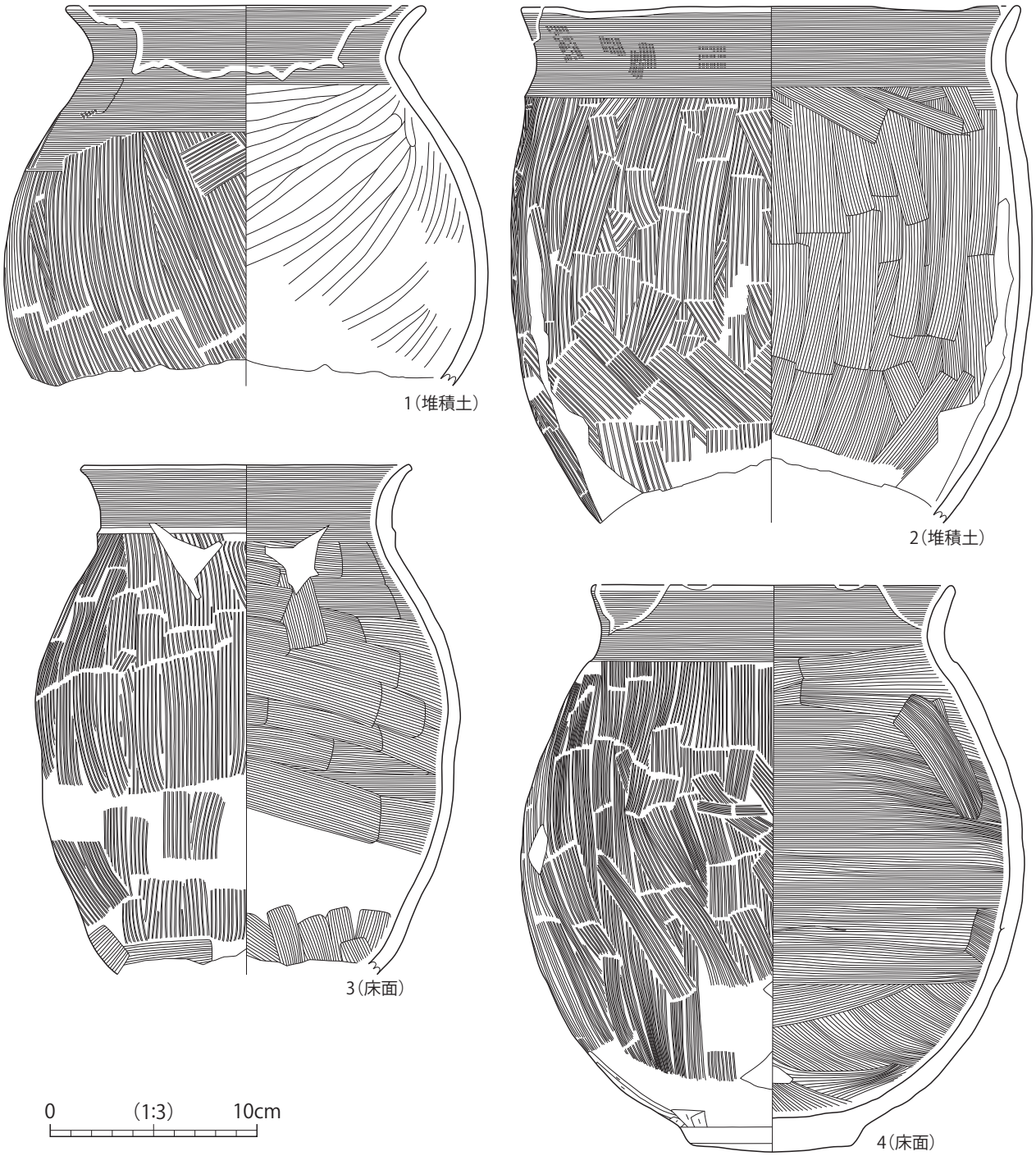


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-4	SI359	堆積土	土師器	坏	(14.4)	6.4	5.5	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ		23
2	C-5	SI359	堆積土	土師器	坏	(12.0)	—	(4.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		23
3	C-6	SI359	カマド	土師器	坏	(17.0)	—	(4.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		23
4	C-7	SI359(a区)	堆積土	土師器	坏	(17.2)	—	(4.5)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ→ヘラミガキ、黒漆付着	口縁～体部ヘラミガキ、黒漆付着		23
5	C-8	SI359(a区)	堆積土	土師器	鉢	(18.6)	(6.0)	7.7	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ→ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ		23
6	C-13	SI359	堆積土	土師器	甕	(17.2)	—	(16.1)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、輪積み痕、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		23
7	C-12	SI359	床面	土師器	甕	19.5	—	(21.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		24

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
8	N-1	SI359(a区)	堆積土	金属製品	鉄鏃	3.5	(2.0)	0.2	6.7		23

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
9	Kd-1	SI359	P12	石製品	双孔円盤	径2.9	孔径0.2	0.3	3.8	粘板岩		23
10	Kd-2	SI359(c区)	堆積土	石製品	石製模造品	(2.3)	(2.6)	0.5	4	粘板岩	孔径0.3cm	23

第 17 図　SI359 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-9	SI359	堆積土	土師器	甕	(17.2)	—	18.4	口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ→ハケメ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ		24
2	C-10	SI359(a区)	堆積土	土師器	甕	(24.0)	—	(25.0)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヘラナデ→ヨコナデ、胴部ヘラナデ		24
3	C-11	SI359	床面	土師器	甕	(15.8)	—	(12.6)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下位ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		24
4	C-14	SI359	床面	土師器	甕	17.4	7.6	27.4	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→胴部下位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積痕		25

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
-	Kd-11	SI359	カマド2	石製品	カマド構築材	21.0	13.0	9.5	2330	凝灰岩		24

第 18 図　SI359 竪穴住居跡出土遺物（2）

－1は外面がハケメ、内面がヘラミガキで調整されており、胴部の調整方法に違いがみられる。

第17図－8は鉄鏃である。無茎三角鏃と思われるが、鏃身部中央に穿たれるはずの単孔は錆の進行が著しく確認ができなかった。第17図－9は完形の双孔円盤で、石材は粘板岩である。第17図－10は欠損するが、勾玉形ないしは剣形の石製模造品と考えられ、径0.3cmの孔が1つ穿たれている。石材は粘板岩である。

【時期】 床面より出土した土師器甕（第18図－3・4）が直接伴う遺物で、3～5期（7世紀初頭～8世紀初頭）と考えられる。

SI360 竪穴住居跡（第16図）

【位置・確認】 調査区南端中央西寄りの20・21・24・25グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で、SI359の外周で検出された。当初はSI359のテラス部分として調査を行ったが、調査区南壁の土層観察により竪穴住居跡とした。本来はSI359Bとすべき竪穴住居跡と考えられる。

【重複】 SI359、SB42、SD280、SM404・405、Pit14・24・25と重複し、これより古い。

【規模・形態】 規模は長軸420cm、短軸が419cmを測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN－36°－Wである。SI359を東壁基準とした場合と同方向である。

【堆積土】 3層に分層した。当初SI359のテラスとして取り扱っていた経緯から、いずれも住居堆積土の上位の層を細分したものと考えられる。

【壁面】 調査区南壁の観察から、直線的に外傾して基本土層Ⅱ層下面まで立ち上がる。Ⅱ層下面までの壁高は、90cm程を測る。

【床面】 調査区南壁の観察から、SI359掘り方埋土下15cm程に、東に向かって緩やかに傾斜している床面が確認される。

【掘り方】 調査区南壁の観察から、深さ5～10cmである。底面に起伏を持ち、東に向かって緩やかに傾斜する。

【出土遺物】 土師器片がごく少量出土したのみで、図示できるものはない。

【時期】 重複関係にあるSI359の下限である5期（7世紀末葉～8世紀初頭）より古い。

SI361 竪穴住居跡（第19・20図）

【位置・確認】 調査区中央部東端の14・15・18・19グリッドに位置し、南東隅は調査区東壁外に延びる。

【重複】 SB44、SD283、SM423～429と重複し、SM423～429より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸508cm、短軸が487cmを測る。平面形状は隅丸方形である。

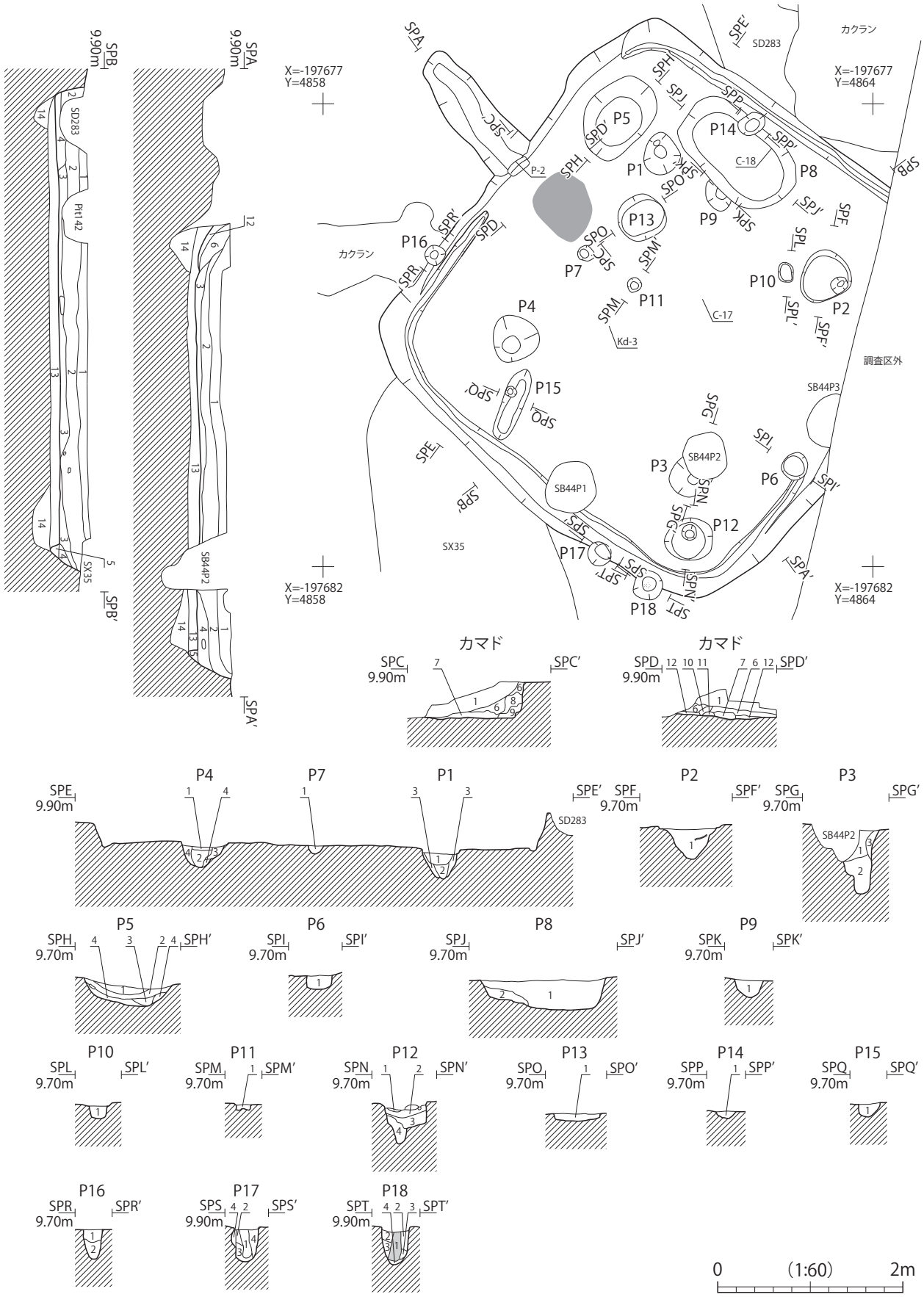
【方向】 カマドを基準としてN－41°－Wである。

【堆積土】 14層に分層した。1～4層は住居堆積土で、5層は周溝堆積土である。6～12層はカマドに関連した堆積土で、6層はカマド天井部崩落土、7層は燃焼部、8層は奥壁の構築土で燃焼部側が被熱により焼土化が著しい。13層は貼床面、14層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、22～37cmを測る。

【床面】 13層上面を床面とする。貼床である。概ね平坦であるが、撹乱の影響などにより部分的に床面がはがれ、掘り方が床面上で確認されるところが見受けられた。

【柱穴】 床面から11基（P1～4・6・7・9～12・14）、北壁から1基（P16）、西壁から2基（P17・18）の総数14基を検出した。P1～4は、規模と位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長軸42～55cm、深さ22～68cmを測る。P4～7・9・10はいずれも単層で、規模は長軸18～30cm、深さ9～18cmを測る。P7は位置関係から、カマド西袖芯材を埋設した可能性も考えられる。壁面に位置するP16～18は、長軸20～32cm、深



第 19 図　SI361 竪穴住居跡

SI361 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化粒を微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)40%、炭化物を微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
周溝	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含む。
カマド	6	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。(天井崩落土)
	7	7.5YR4/4 褐色	シルト	焼土粒50%、炭化物30%含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含む、燃焼部被熱を受け焼土化する。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物微量含む。
	10	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	焼土主体。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒15%、炭化物微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物(10㎜程度)60%、焼土粒微量含む。
住居掘り方	13	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～15㎜程度)40%、炭化物微量含む。(貼床面)
	14	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(50㎜程度)40%含む。

SI361 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜)20%、炭化物少量含む。(柱抜取痕)
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜)少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。
P2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜)60%、炭化物微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	
P4	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック40%、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	斑状に灰白色粘土ブロック20%、炭化物を微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(2～5㎜)20%含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜)40%、炭化物を微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
P8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%、炭化物粒10%、焼土ブロック3%含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%含む。
P9	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土中粒20%含む。
P10	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含む。
P11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物を微量含む。
P12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%、炭化物5%含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜)10%、炭化物を微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物を微量含む。
P13	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(30㎜)20%、炭化物微量含む。
P14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物5%、焼土粒微量含む。
P15	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物微量含む。
P16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、焼土粒、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%含む。
P17	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒20%含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒10%含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物を少量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物微量含む。
P18	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼土粒、炭化物粒微量含む。(柱痕跡)
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜)60%、炭化物微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜)10%、炭化物を微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒60%含む。

SI361 施設観察表

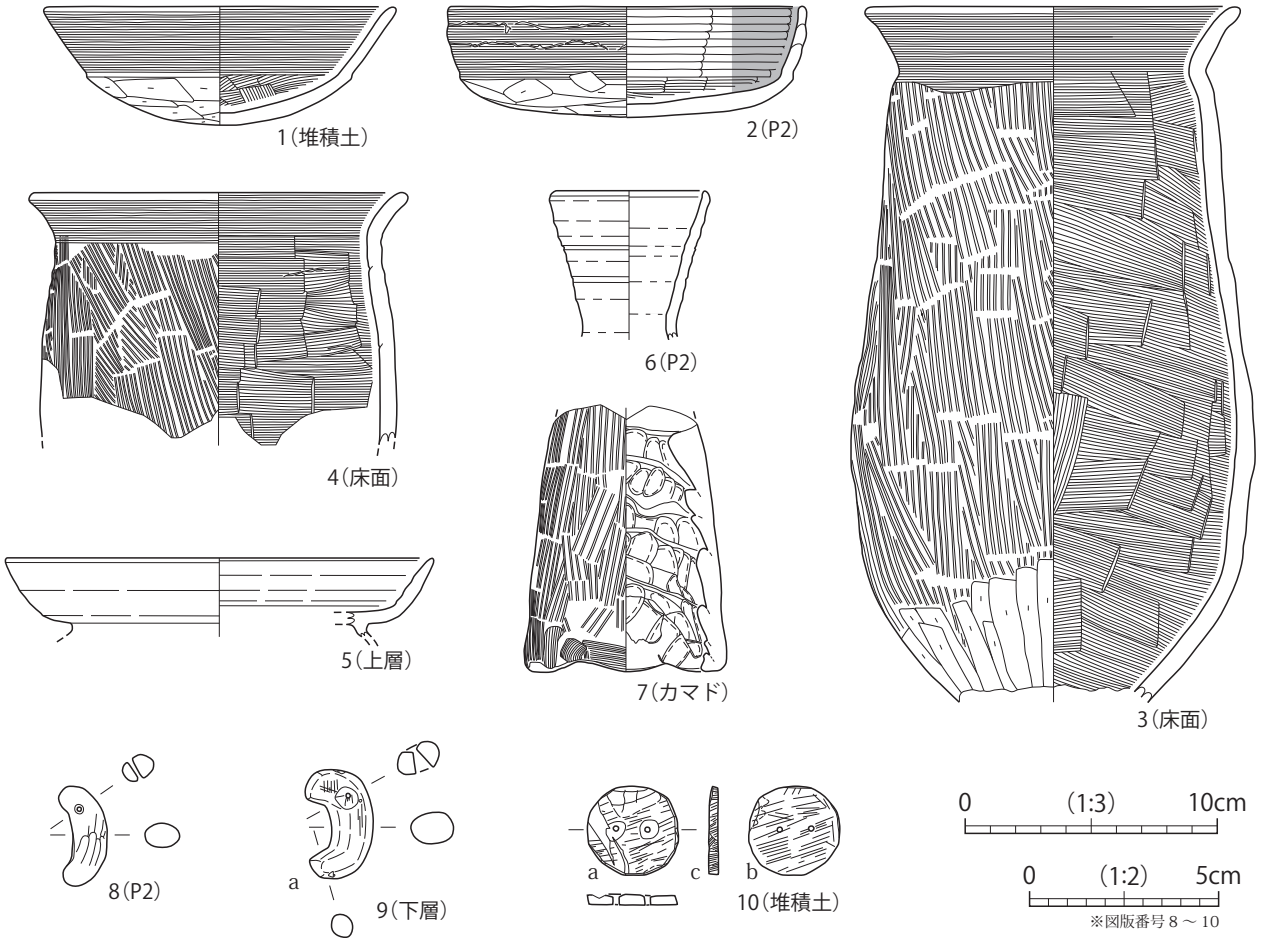
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	46×40	27	
P2	円形	55×53	32	
P3	円形	42×(24)	68	
P4	円形	52×52	22	
P5	楕円形	77×50	20	
P6	円形	30×28	15	
P7	円形	18×18	9	
P8	楕円形	141×78	32	
P9	円形	24×(20)	18	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P10	楕円形	21×16	14	
P11	円形	30×30	10	
P12	円形	51×46	37	
P13	円形	50×47	8	
P14	楕円形	30×20	11	
P15	楕円形	81×22	14	間仕切溝
P16	円形	20×20	31	
P17	円形	26×22	35	
P18	隅丸方形	32×30	35	

さ 31 ～ 35cm を測り、P18 から径 12cm の柱痕跡を確認した。

【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド・P5 周辺およびカマド逆面の南壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。規模は、幅 10 ～ 20cm、深さ 8 ～ 10cm を測り、断面形は「U」字状を呈す。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面より 18°東へ傾いて付設される。両袖ともに崩壊しているが、燃焼部の位置関係から長さ 90cm 程の袖が壁面に対し「ハ」字状に付設されていたと推察される。平坦な燃焼部には、径 58 × 67cm の焼面が見られる。奥壁は 25cm 程で、竪穴住居跡の壁面に沿って立ち上がり、奥壁上面から懸架材と考えられる礫が出土している。煙道部の規模は、長さ 147cm、幅 33 ～ 51cm を測り、徐々に幅を狭めながら緩やかにピット状に一段掘り窪められ煙出し部分へ立ち上がる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-15	SI361(a区)	堆積土	土師器	坏	(13.8)	—	4.7	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		25
2	C-16	SI361	P2	土師器	坏	(14.0)	—	4.4	口縁～体部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁～底部ヘラミガキ、黒色処理		25
3	C-18	SI361(a区)	床面	土師器	甕	14.6	—	27.7	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→胴部下位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		25
4	C-17	SI361(a区)	床面	土師器	甕	(15.0)	—	(10.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		25
5	E-1	SI361(d区)	上層	須恵器	高台付き坏	(17.0)	—	(3.1)	ロクロ調整	ロクロ調整		25
6	E-2	SI361	P2	須恵器	提瓶	(6.0)	—	(5.8)	ロクロ調整	ロクロ調整		25

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
7	P-2	SI361	カマド	土製品	円筒土製品	(10.5)	8.0	1.3	295.6	外面：ハケメ、下位ナデ 内面：ユビオサエ、輪積痕	25
8	P-3	SI361	P2	土製品	勾玉	2.7	径0.9	孔径0.1	1.8	ミガキ調整	25

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
9	Kd-3	SI361(d区)	下層	石製品	勾玉	2.9	1.1	0.8	5.4	メノウ	孔径0.1cm	25
10	Kd-4	SI361(a区)	堆積土	石製品	双孔円盤	径2.4	孔径0.1	0.3	2.6	粘板岩		25

第 20 図　SI361 竪穴住居跡出土遺物

【その他の施設】 床面から土坑３基（P5・8・13）、溝１条（P15）、総数４基を検出した。P5 は平面楕円形で、規模は長軸 94cm、短軸 66cm、深さ 20cm を測り、堆積土の中位に粘土ブロックを含む。規模と位置関係から貯蔵穴と考えられる。P15 は間仕切り溝と考えられ、規模は長さ 82cm、幅 23cm、深さ 14cm を測り、断面は半円状である。P8 は長軸 137cm、短軸 80cm の平面長楕円形を呈し、深さは 32cm を測る。人為的埋土であるが、性格は不明である。床面では一部の検出であり、床下の遺構の可能性もある。P13 は径 48 × 50cm、深さ 7cm を測る平面円形の土坑である。

【掘り方】 深さ 10cm 程である。底面は概ね平坦であるが、壁面に沿って幅 30 ～ 70cm、深さ 18cm 程掘り下げる。

【出土遺物】 堆積土から出土した土師器がほとんどを占め、少量の須恵器などが混ざる。土師器坏２点、土師器甕２点、須恵器高台付坏１点、須恵器提瓶１点、土製品２点、石製品２点を図示した（第 20 図）。

１・２は有段丸底坏である。１は口縁部が直線状に外傾し、底部は丸底を呈する。体部の調整は外面がヘラケズリで、内面がヘラナデである。２は体部下端に段が付き、底部は平底状を呈する。調整は外面の口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリ、内面はヘラミガキである。

３・４は土師器の甕である。３は胴部上半が円筒状を呈し、胴部下半に最大径がくる下膨れの器形である。口縁部は直線状に外傾する。胴部の調整は外面がハケメ、下半はヘラケズリ、内面がヘラナデである。４は口縁部が直線状に外傾し、胴部上半が円筒状を呈する。胴部の調整は外面がハケメ、内面がヘラナデであり、胴部下半の状況が不明であるが、口縁部～胴部上半の器形・調整は３と共通する部分が多い。

５は須恵器の高台付坏であり、体部から口縁部はほぼ直線的に外傾し、底部は平底で、断面「ハ」の字状に高台が付く。口径は 17cm と推定される。６は須恵器の提瓶の口縁部であり、逆「ハ」の字状に直線的に外傾する。口縁部の中央には平行する２条の沈線が確認できる。

７は円筒状の土製品の下部である。外面はハケメで下端の一部はナデにより調整される。内面はユビオサエで、輪積み痕が顕著に残る。用途などは不明であるが、その器形よりカマド構築材の可能性が考えられる。８は土製の勾玉であり、ヘラミガキで調整される。

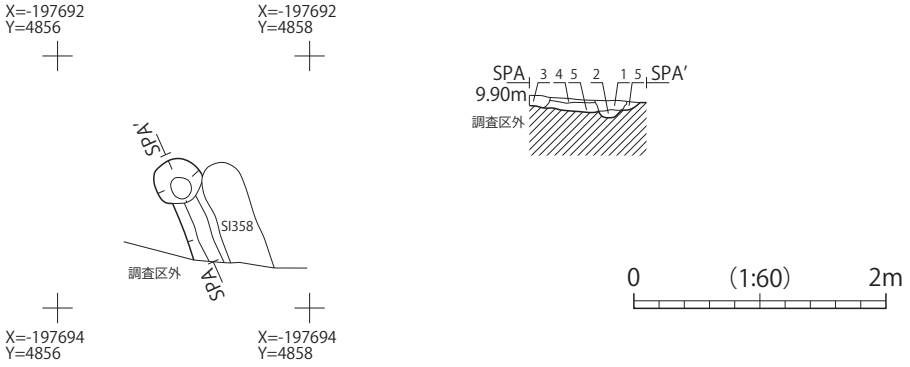
９は石製の勾玉で、石材はメノウである。10 はほぼ完形の双孔円盤で、石材は粘板岩である。

【時期】 床面から出土した第 20 図－３・４と P2 堆積土から出土した２・６が直接伴う遺物で、３期（7 世紀初頭～前葉）と考えられる。

SI362 竪穴住居跡（第 21 図）

【位置・確認】 調査区南端東隅の 26 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で、煙道部のみを検出した。

【重複】 SI358 と重複し、それより古い。



第 21 図　SI362 竪穴住居跡

SI362 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）20%含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒、炭化物を微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	
	5	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック（10㎜程度）10%含む。

【規模・形態】 不明である。

【方向】 カマド煙道部を基準としてＮ－20°－Ｗである。

【堆積土】 5 層に分層した。いずれもカマドの堆積土である。1・2 層は煙出し部分、4 層は煙道の天井崩落土、5 層は煙道である。

【カマド】 検出した煙道部の規模は、長さ 53cm、幅 30cm 程、深さ 9cm を測る。煙出し部分は、径 32 × 38cm の平面円形で、ピット状に 14cm 掘り窪められる。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

SI363 竪穴住居跡（第 22・23 図）

【位置・確認面】 調査区中央部北寄りの 9・10・13・14 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出した。

【重複】 SA7、SD279・281、SM434・435、Pit12 と重複し、SM434・435 より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 規模は長軸 398cm、短軸 394cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマド煙道部を基準としてＮ－15°－Ｗである。

【堆積土】 12 層に分層した。1・2 は住居堆積土、3 層は周溝堆積土である。4 ～ 11 層はカマドに関連する堆積土で、4 層は天井崩落土、5 層は燃焼部堆積土、7 層は煙道部堆積土、8 層は煙出し部分堆積土、10 層は煙出し部分の掘り方である。12 層は掘り方埋土であるが、10mm 程のⅣ層土ブロックと微量の焼土粒・炭化物を含み、硬く締まった貼床面である。

【壁面】 ほぼ直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、9cm ～ 22cm を測る。

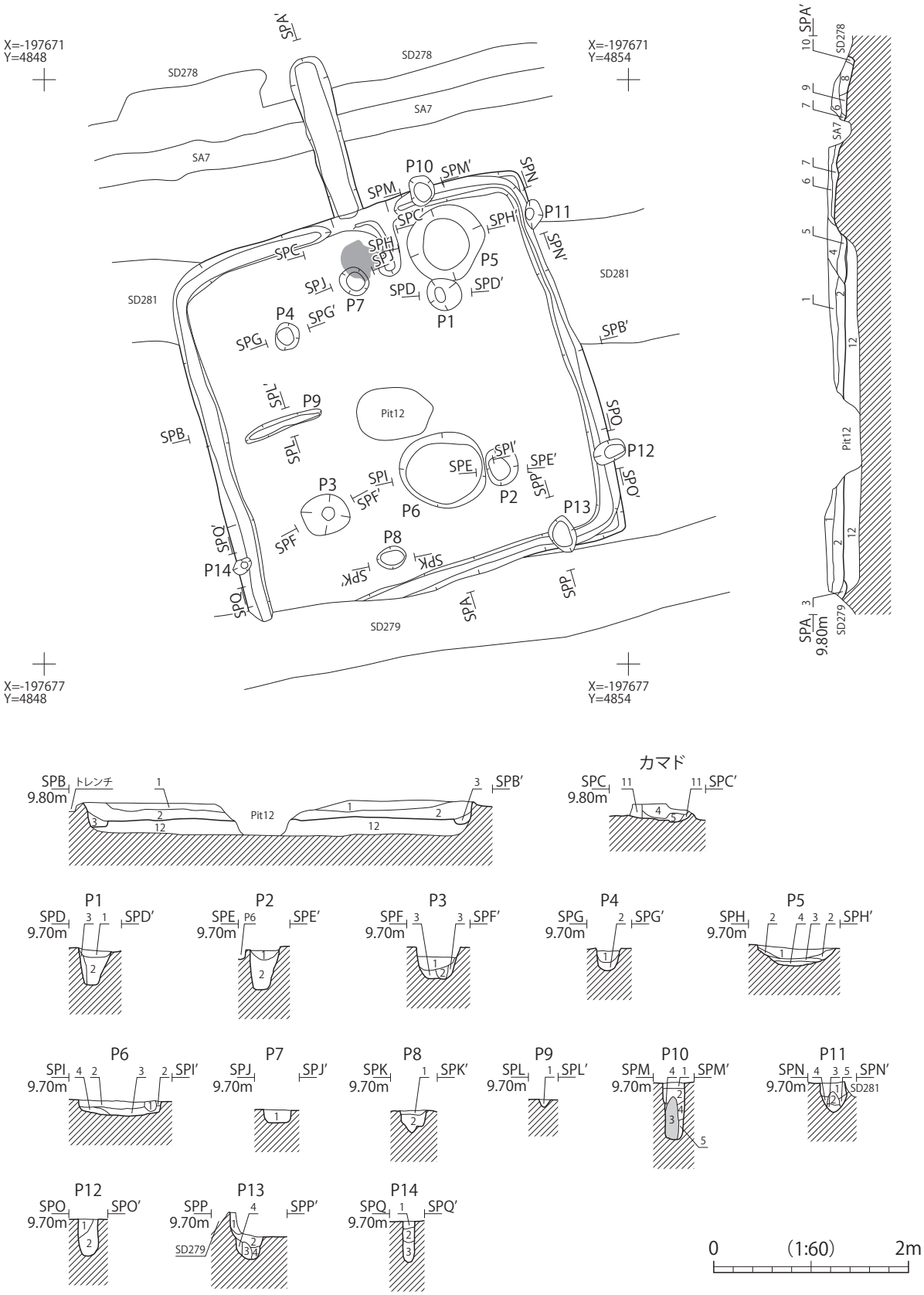
【床面】 2 層下面を床面とする。概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 6 基（P1 ～ 4・7・8）、壁面から 5 基（P10 ～ 14）の計 11 基を検出した。P1 ～ 4 は、規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は、長径 27 ～ 47cm、深さ 20 ～ 40cm を測る。P7 は平面円形で、規模は径 26 × 30cm、深さ 13cm を測り、位置関係から芯材の埋設などカマドに関連した可能性が考えられる。壁面で検出した P10 ～ 14 はいずれも平面円形で、径 13 ～ 28cm、深さ 30 ～ 59cm を測り、補助柱穴と考えられる。

【周溝】 北壁のカマド周辺を除き壁面に沿って全周するが、東壁面際の両隅は 11 ～ 15cm 壁面の内側に位置する。断面は浅い皿状で、規模は幅 13 ～ 20cm、深さ 5 ～ 8cm を測る。

【カマド】 北壁中央に位置し、壁面に直交して付設される。袖の規模は、東袖は長さ 52cm、幅 23cm を測り、西袖は不明である。東袖から、袖は北壁面に対し直交して付設されていたと考えられる。燃焼部の規模は、奥行き 43cm、幅 40cm、奥壁高 8cm 程と考えられる。底面はほぼ平坦で、奥壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面には径 40cm 程の焼面がみられる。煙道部の規模は、長さ 171cm、幅 30 ～ 40cm、深さ 10 ～ 15cm を測る。底面は、煙出し部分に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部分の形状は、上端を SD278 によって失っているため詳細は不明であるが、底面形状からはピット状の掘り込みは持たなかったと考えられる。

【その他の施設】 床面から土坑 2 基（P5・6）、溝 1 条（P9）を検出した。P5 は径 77 × 81cm の平面円形の土坑で、深さ 17cm を測る。規模と位置関係から貯蔵穴と考えられ、底面上位に焼土ブロックや灰を多く含む層が堆積し



第 22 図　SI363 竪穴住居跡

SI363 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物、焼土粒を微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物10%含む。
周溝	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)、炭化物、焼土粒を微量含む。
カマド	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物20%、焼土粒10%含む。(天井崩落土)
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物、焼土粒、灰を微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒20%、炭化物を微量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物主体。(煙道部)
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物30%、焼土粒20%、灰を微量含む。
	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物80%、焼土塊10%含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物70%含む。
カマド袖	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物10%、焼土粒を微量含む。
住居掘り方	12	10YR4/2 灰黄褐色	粘質土シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)10%、炭化物、焼土粒を微量含む。

SI363 施設堆積土註記表

遺構名	層 位	土 色	土 性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物10%含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物を微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物を微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。(柱抜取痕)
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物20%含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物10%含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量に含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土ブロック20%、炭化物微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	焼土粒を微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック40%、灰30%、炭化物を微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒を微量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック70%、炭化物10%含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック60%、炭化物20%含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック20%、炭化物を微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック、炭化物10%含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。
P8	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜)50%、炭化物微量含む。
P9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物微量含む。
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒を微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10～20㎜)50%含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。(柱痕跡)
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜)70%含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。
P11	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒を微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜)10%、炭化物を微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。
P12	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化粒を微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、焼土粒、炭化物を微量含む。
P13	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜)30%、炭化物を微量含む。
P14	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。

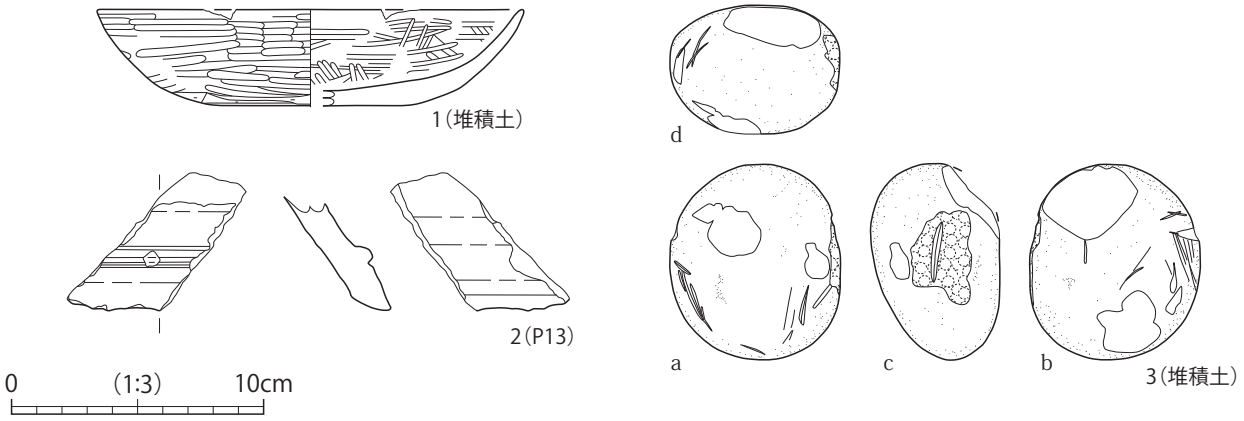
SI363 施設観察表

遺構名	平面形	規模(㎝)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	35×32	36	
P2	楕円形	39×31	40	
P3	円形	47×43	34	
P4	円形	27×24	20	
P5	円形	81×77	17	
P6	円形	87×78	15	
P7	円形	30×26	13	

遺構名	平面形	規模(㎝)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	楕円形	30×24	22	
P9	不整円形	84×13	8	間仕切溝
P10	円形	31×25	58	
P11	円形	30×17	30	
P12	円形	33×21	38	
P13	円形	39×27	27	
P14	円形	20×13	42	

ている。P6 は径 78 × 87cm の平面円形の土坑で、深さ 15cm を測る。堆積土に焼土ブロックを多量に含んでおり、カマドに関連した施設の可能性も考えられる。P9 の規模は、長さ 84cm、幅 11 ～ 13cm、深さ 8cm を測る。断面は「V」字状を呈し、一種の間仕切りと考えられる。

【掘り方】 深さ 12 ～ 18cm で、底面は概ね平坦である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-19	SI363	堆積土	土師器	坏	(16.8)	—	(3.8)	口縁部ヘラミガキ、体部下位ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ		25
2	E-3	SI363	P13	須恵器	円面硯？	—	—	(5.4)	ロクロ調整	ロクロ調整		25

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
3	Kc-2	SI363(d区)	堆積土	礫石器	敲石	7.8	6.8	5.1	188.1	凝灰岩		25

第 23 図　SI363 竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】 堆積土から土師器や須恵器、礫石器が少量出土した。土師器杯 1 点、須恵器 1 点、礫石器 1 点を図示した（第 23 図）。

1 は全体的に器壁がやや厚く、丸みを帯びる。底部は平底を呈し、内外面ともに調整はヘラミガキである。2 は須恵器の円面硯の台脚と思われる。台脚の外面中央部には横位の突帯が巡る。3 は礫石器で、敲打痕が認められることから敲石とした。石材は凝灰岩である。

【時期】 他の竪穴住居跡との重複関係がなく、直接伴う遺物もないため不明である。

SI364 竪穴住居跡（第 24 図）

【位置・確認】 調査区北端西側の 8・9 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で南東隅の一部を検出し、大半は調査区北壁外へ延びる。

【重複】 SI369 と重複し、それより新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 355cm、短軸 196cm を測る。平面形状は隅丸方形ないしは隅丸長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準として N － 1°－ E である。

【堆積土】 6 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3 ～ 6 層は周溝堆積土で、3 層は堰板痕跡である。

【壁面】 検出した部分では、直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、12 ～ 16cm を測る。

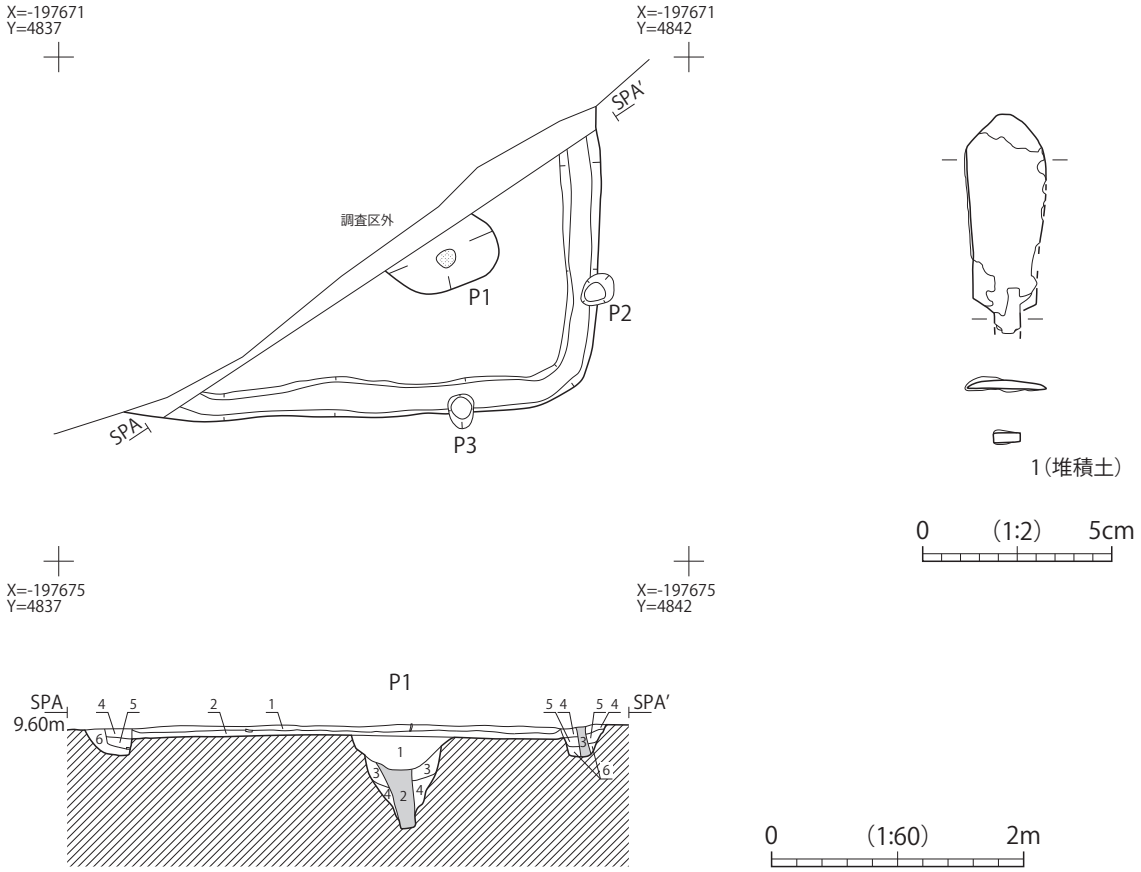
【床面】 掘り方底面を床面としており、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 1 基（P1）、壁面から 2 基（P2･3）の計 3 基を検出した。P1 は長径 90cm、深さ 73cm を測り、土層断面で径 21cm の柱痕跡、底面で径 12cm 程の変色範囲が認められた。規模と位置関係から主柱穴と考えられる。P2 は東壁面、P3 は南壁面から検出さり、規模は径 20 ～ 30cm、深さ 39 ～ 46cm を測る。位置関係から、P1 に伴う補助柱穴と考えられる。

【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈し、東壁面際の周溝では堰板痕跡が確認された。規模は幅 20 ～ 32cm、深さ 22 ～ 27cm を測る。

【出土遺物】 堆積土から土師器や須恵器、鉄製品が少量出土した。金属製品 1 点を図示した（第 24 図）。1 は鉄鏃である。鏃身部は長五角形を呈し、有茎である。

【時期】 出土遺物から時期の特定はできなかったが、重複関係にある SI369 が 4 期（7 世紀中葉～後葉）であることから、4 期以降と考えられる。



SI364 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	2.5GY3/1 暗オリーブ灰色	シルト	炭化物、焼土粒10%含む、グライ化。
	2	2.5GY2/1 黒色	シルト	炭化物、焼土粒を微量含む、グライ化。
周溝	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物を微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒10%、炭化物を微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物10%、焼土粒を微量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物を微量含む。

SI364 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物10%、焼土粒を微量含む、一部グライ化。（柱抜取痕）
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物10%、Ⅳ層土粒微量含む。（柱痕跡）
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土粒を微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物を微量含む。

SI364 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	90×(45)	73	
P2	隅丸長方形	30×23	46	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	楕円形	27×20	39	

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
1	N-2	SI364	堆積土	金属製品	鉄鏃	(5.7)	2.1	0.3	9.2		26

第 24 図　SI364 竪穴住居跡・出土遺物

SI365 竪穴住居跡（第 25 ～ 27 図）

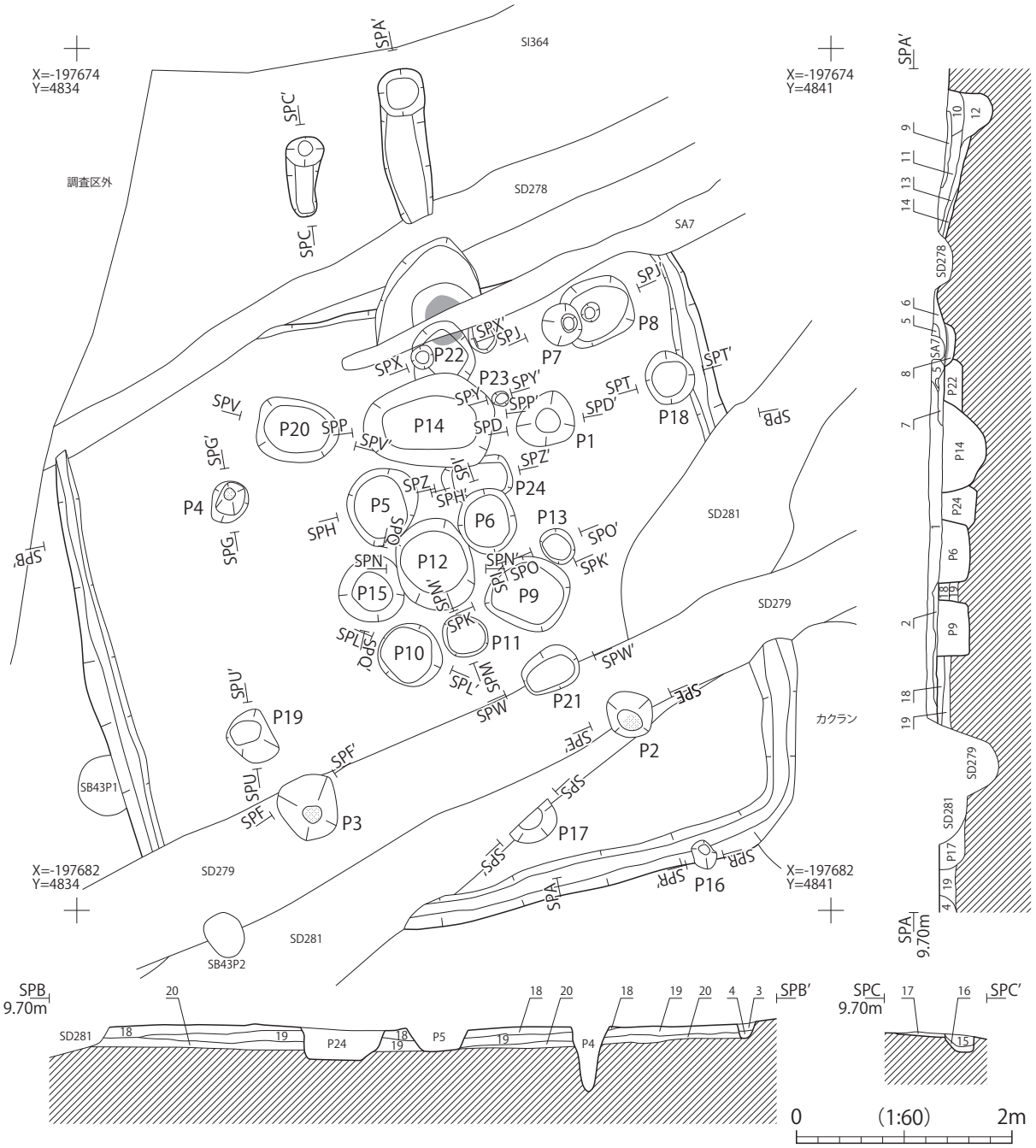
【位置・確認】 調査区中央部西端の 8・12・13・16・17 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出したが、西側はグライ化が著しく一部面を下げて確認を行った。

【重複】 SI369・370・378・379、SA7、SB43、SD278・279・281 と重複し、SI369・370・378・379 より新しく、SA7、SB43、SD278・279・281 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 642cm、短軸 575cm を測る。平面形状は方形である。

【方向】 カマド 1 煙道部を基準として N － 8°－ W である。

【堆積土】 20 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3・4 層は周溝堆積土である。5 ～ 14 層はカマド 1 に関連



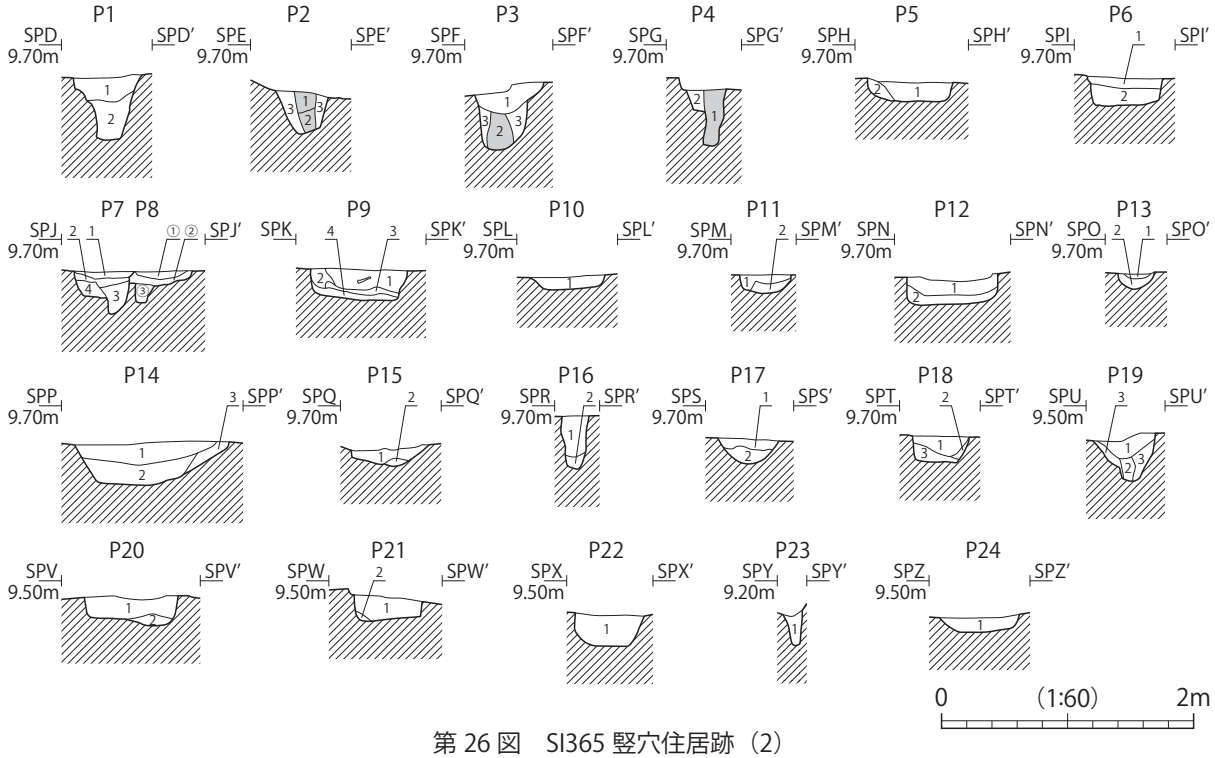
第 25 図　SI365 竪穴住居跡（1）

SI365 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物20%、焼土粒を微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物、焼土粒を微量含む。
周溝	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土中粒5%、炭化物を微量含む。
	4	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	グライ化。
カマド	5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒30%、炭化物、灰を微量含む。(天井崩落土)
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒を微量含む。
	7	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物80%、灰、焼土粒を微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物、焼土粒を微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物、焼土塊を微量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物主体。
	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土塊15%、炭化物10%含む。
	12	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物30%含む。
	13	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物40%含む。
	15	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物60%含む。
	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物を微量含む。
	17	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物30%含む。(煙道)
住居掘り方	18	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック薄板状の互層に20%、炭化物を微量含む。(貼床面)
	19	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック5%、炭化物を微量含む。
	20	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物を微量含む。

SI365 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物、焼土粒5%含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物を微量含む。(柱痕跡)
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物を微量含む。(柱痕跡)
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(3～5㎜)20%含む。(柱抜取痕)
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒、炭化物を微量含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(3～5㎜)40%、炭化物を微量含む。
P4	1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒20%、黒色小粒を微量含む。(柱痕跡)
	2	10GY3/1 暗緑灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化粒、焼土粒微量含む。
P6	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜)40%、薄い板状に炭化物と焼土混じりの土が入る。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物15%含む。
P7	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒10%、炭化物5%含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰白色粘土80%、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック60%、炭化物を微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。
P8	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物を微量含む。
	②	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰白色粘土ブロック(5～20㎜)20%、炭化物微量含む。
	③	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(3～5㎜)10%、炭化物微量含む。
P9	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒、炭化物10%含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土粒10%、Ⅳ層土ブロックを微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
P11	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物を微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒40%、炭化物10%、灰白色粘土ブロックを微量含む。
P12	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック70%、炭化物5%含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土ブロック15%、炭化物を微量含む。
P13	1	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物を微量含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土ブロック30%、炭化物10%含む。
P14	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物20%、焼土ブロック10%含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック40%、炭化物5%、Ⅳ層土ブロック少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒、炭化物を微量含む。
P15	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック40%、炭化物10%含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
P16	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、焼土粒、炭化物を微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
P17	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化粒を微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒30%含む。
P18	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土ブロック、Ⅳ層土ブロック各20%、骨片、炭化物粒各10%含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(20～40㎜)10%、Ⅳ層土ブロック、炭化物微量含む。
P19	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒20%、炭化物微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質土シルト	炭化物5%含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒30%、炭化物を微量含む。
P20	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、焼土粒10%含む、グライ化。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%、焼土粒少量含む。
P21	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土中粒20%、焼土ブロック、炭化物を微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
P22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック20%、炭化物少量含む。
P23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量、炭化物を微量含む。
P24	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック60%、炭化物、Ⅳ層土中粒各10%含む。



第 26 図　SI365 竪穴住居跡（2）

SI365 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	53×48	49	
P2	隅丸方形	43×42	34	
P3	楕円形	58×49	45	
P4	楕円形	41×39	45	
P5	円形	67×67	15	
P6	楕円形	61×54	22	
P7	隅丸方形	(58)×52	24	
P8	円形	38×36	33	
P9	隅丸方形	72×67	24	
P10	円形	58×57	10	
P11	円形	40×41	14	
P12	楕円形	86×68	19	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P13	円形	34×30	12	
P14	楕円形	119×85	34	
P15	円形	62×60	14	
P16	不整円形	27×19	42	
P17	円形	48×(25)	20	
P18	円形	49×46	21	
P19	隅丸方形	49×37	37	
P20	楕円形	74×57	20	
P21	隅丸方形	53×(33)	21	
P22	不整円形	(48)×52	24	
P23	円形	15×14	26	
P24	隅丸方形	64×(40)	11	

した堆積土で、5 層は天井崩落土、6・7 層は燃焼部による堆積土、12 層は煙出し部分、13 層は煙道である。15 ～ 17 層はカマド 2 煙道部の堆積土で、15・16 層は煙出し部分である。18 ～ 20 層は掘り方埋土で、18 層は薄板状にしたⅣ層土を互層に埋めて貼床面としている。

【壁面】 緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、4 ～ 11cm を測る。

【床面】 18 層上面を床面とする。貼床である。概ね平坦であったと考えられるが、グライ化が著しく、また重複する SD278・279・281 などの影響により、南側へ向かって緩やかに傾斜する。

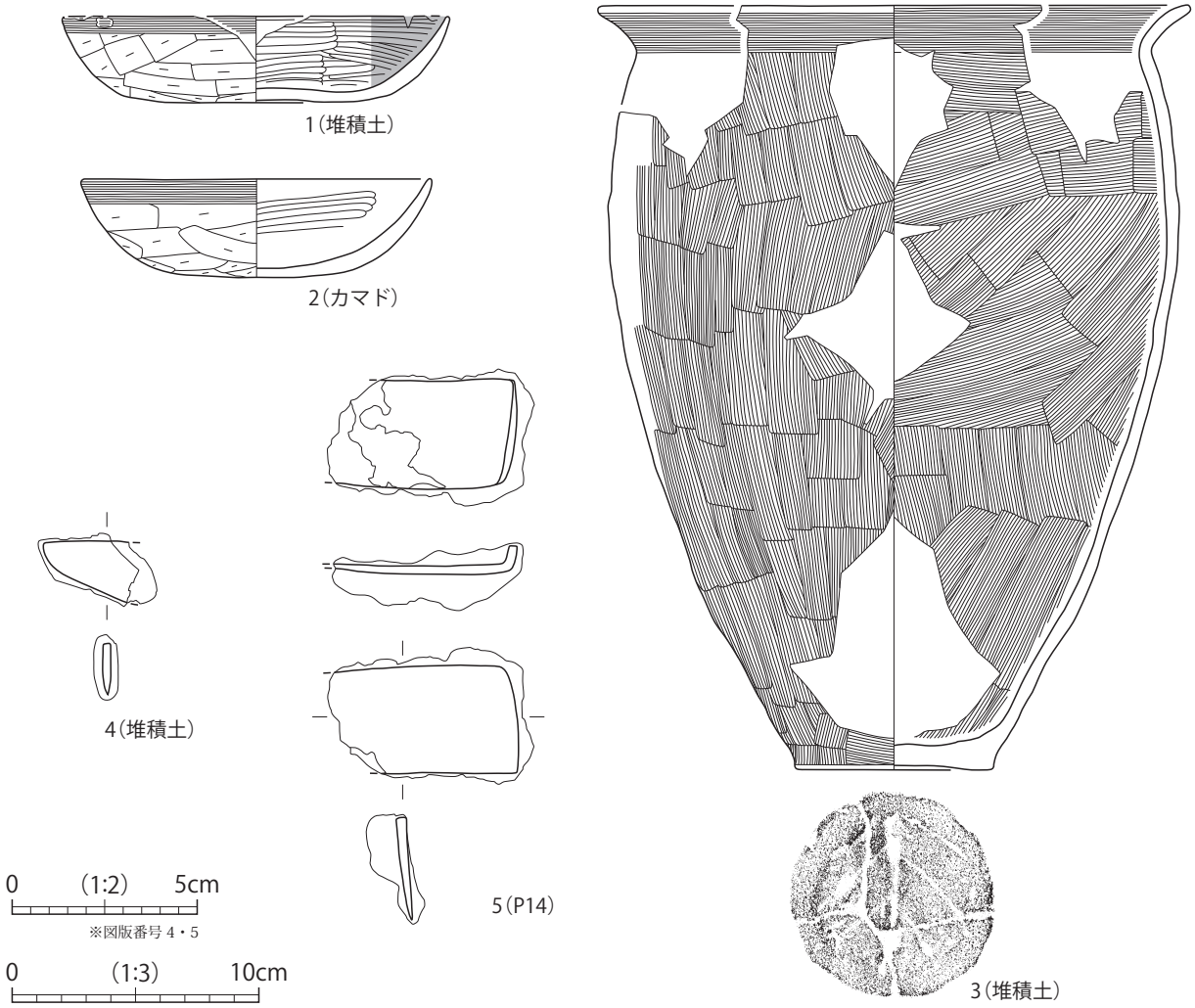
【柱穴】 床面から 7 基（P1 ～ 4・7・8・19）、壁面から 1 基（P16）、貼床面下から 1 基（P23）の計 9 基を検出した。P1 ～ 4 は、規模と位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長径 39 ～ 58cm、深さ 34 ～ 49cm を測る。P7・8 は断面形状から柱穴としたが、共に堆積土中位上部に灰白色粘土を多量に含む層が認められており、位置関係から貯蔵穴であった可能性も考えられる。

【周溝】 検出した部分では、北壁際を除き壁面に沿って周る。断面は「U」字状を呈し、規模は幅 15 ～ 26cm、深さ 7 ～ 15cm を測る。

【カマド】 カマド 1 は北壁東寄りに位置し、壁面に直交して付設される。両袖とも SA7 によって壊されているが、東袖は残存する先端部から長さ 57cm、幅 23cm 程であったと考えられる。燃焼部の規模は、径 30 × 40cm 程の

焼面がみられる事から、奥行き 50cm、幅 40cm 程で皿状に 5cm 程掘り窪められていたと考えられる。奥壁の高さや形状は不明である。煙道部の規模は、長さ 160cm、幅 44cm、深さ 18cm 程と考えられ、底面は煙出し部分に向かって傾斜する。煙出し部分は平面隅丸方形のピット状を呈し、規模は径 43cm、深さ 44cm を測る。カマド 1 の西側に煙道部が検出され、カマド 2 とした。検出された煙道部の規模は、長さ 47cm、幅 20 ～ 29cm、深さ 3cm を測る。底面は平坦で、煙出し部分に向かってやや幅広になる。煙出し部分は平面楕円形のピット状を呈し、規模は長軸 36cm、深さ 15cm を測る。

【その他の施設】 床面から土坑 12 基（P5・6・9・10 ～ 15・17・18・20）、貼床面下から 3 基（P21・22・24）の計 15 基を検出した。床面から検出した 12 基の土坑は中央部に密集しており、すべての土坑が堆積土に炭



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-20	SI365（南側）	堆積土	土師器	坏	(15.6)	—	3.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		26
2	C-21	SI365	カマド	土師器	坏	(14.0)	—	4.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部～体部ヘラミガキ		26
3	C-22	SI365（b区）	堆積土	土師器	甕	(24.0)	8.0	31.0	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		26

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
4	N-3	SI365（南側）	堆積土	金属製品	刀子（先端）	(3.2)	(1.6)	0.2	3.4		26
5	N-4	SI365	P14	金属製品	鎌（根元）	(5.0)	2.8	0.2	31.6		26

第 27 図　SI365 竪穴住居跡出土遺物

化物を含み、特に P11 ～ 15・18 は焼土ブロックを多量に含む。カマドに関連した施設とも考えられ、貼床面下の P24 も同様に焼土ブロックを多量に含む。

【掘り方】 深さ 5 ～ 19cm で、底面はやや起伏があり南西に向かって緩やかに傾斜する。

【出土遺物】 出土遺物の量は比較的多いが、小破片が多く図示可能なものが少ない。土師器坏 2 点、土師器甕 1 点、金属製品 2 点を図示した（第 27 図）。

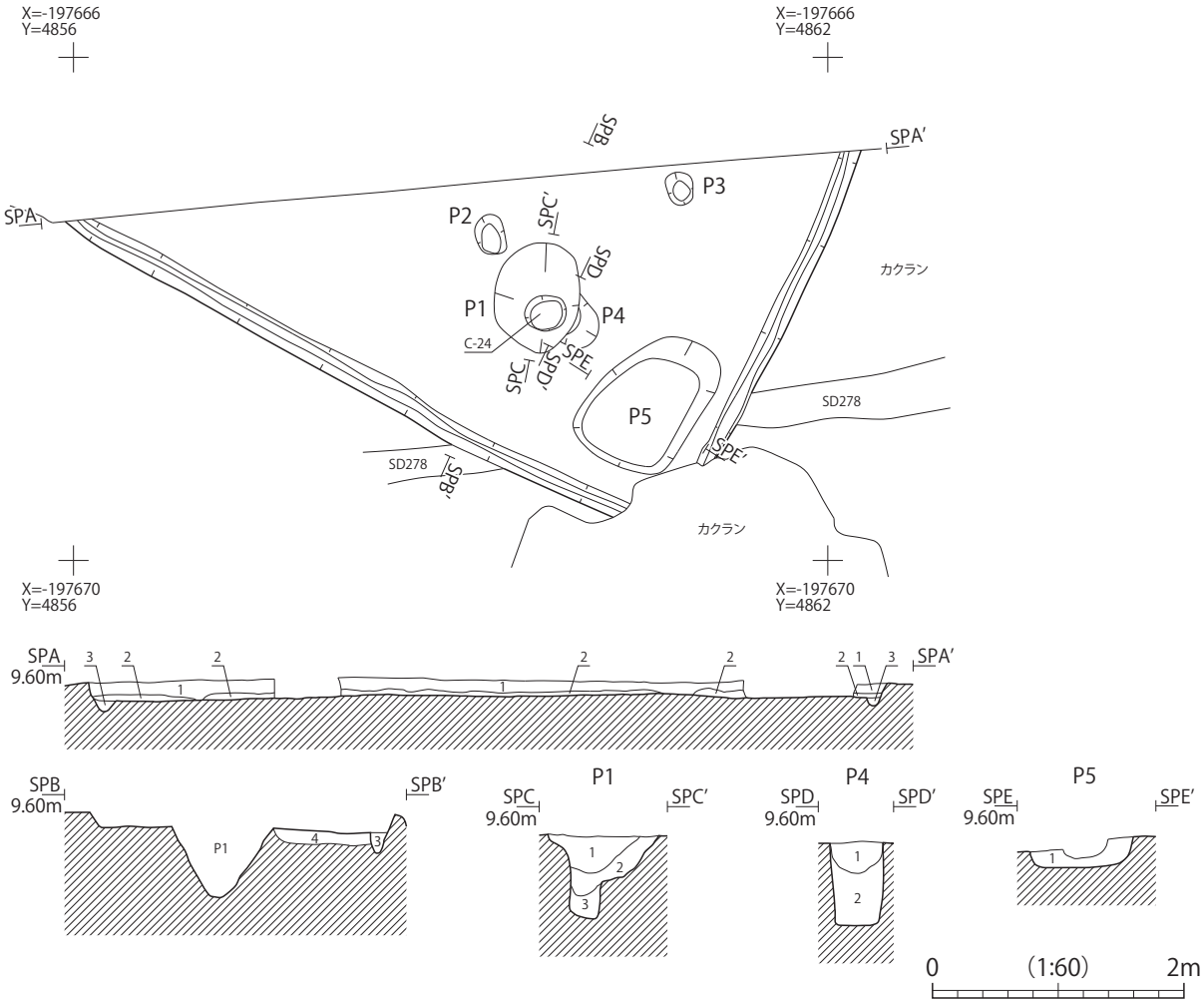
1・2 は土師器の坏で、体部から口縁部にかけて丸み帯びて外傾する。底部は平底だが、丸みを帯びるため体部と底部の境が判然としない。1・2 とも外面の調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリで共通する。内面もヘラミガキで共通するが、2 には黒色処理がみられない。3 は土師器の甕であり、外反する口縁部の角度が急で、胴部の最大径は上半にきている。胴部の調整は内外面ともにヘラナデで、底部には木葉痕が確認できる。4 は刀子の刃部先端と思われる。5 は曲刃鎌の刃部で、柄に近い部分と思われる。

【時期】 カマドから出土した第 27 図－ 2 が直接伴う遺物で、5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。

SI366 竪穴住居跡（第 28・29 図）

【位置・確認】 調査区北東隅の 6・7 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で南東部を検出し、北側および南東隅は撹乱によって壊される。

【重複】 SI371、SD278、SM406 と重複し、SI371、SM406 より新しく、SD278 より古い。



第 28 図　SI366 竪穴住居跡

SI366 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物を微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物を微量含む。
周溝	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック50%、炭化物を微量含む。
住居掘り方	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック粒30%、炭化物微量含む。

SI366 施設堆積土註記表

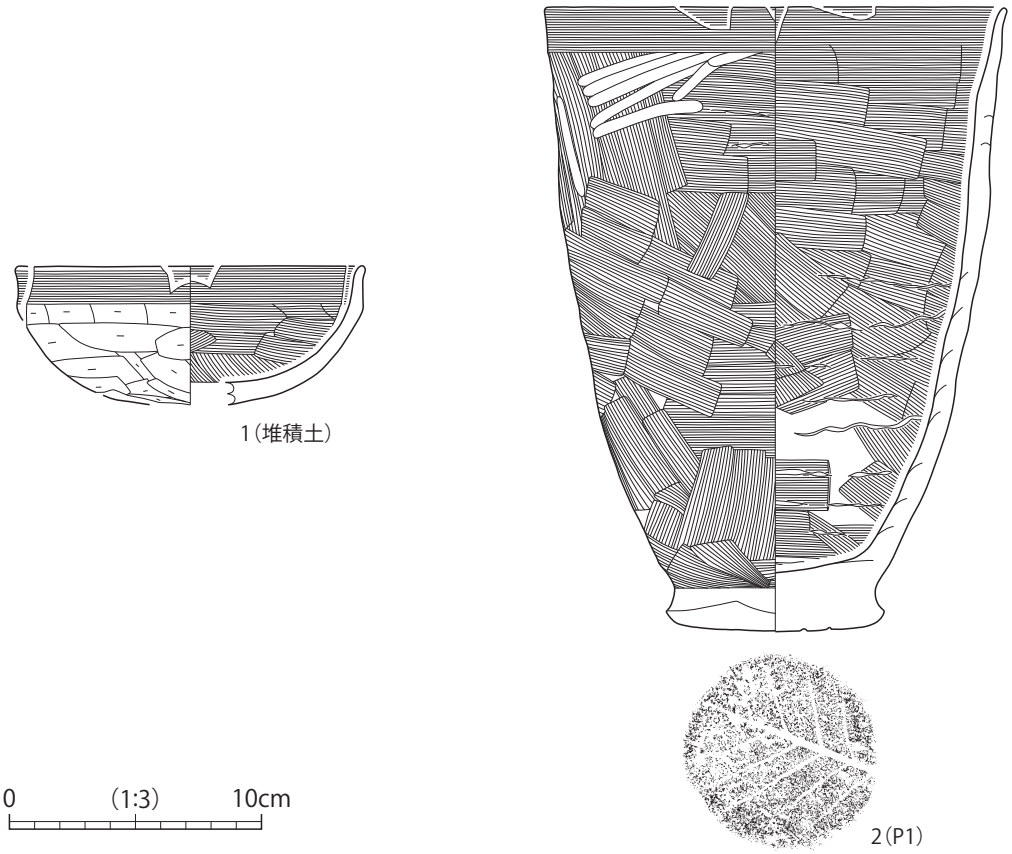
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。(柱抜取痕)
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む。(柱抜取痕)
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒、炭化物微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	粘質土	Ⅳ層土粒、炭化物微量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒、炭化物微量含む。
P4	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物微量含む。
P5	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック(30～50㎜)50%、炭化物微量含む。

SI366 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	86×67	65	
P2	楕円形	33×23	5	
P3	楕円形	27×22	18	
P4	楕円形	36 × (20)	67	
P5	楕円形	117 × 80	25	

【規模・形態】 検出した規模は、長軸（南壁）532cm、短軸（東壁）333cm を測る。平面形状は方形ないし隅丸方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてＮ－25°－Ｅである。

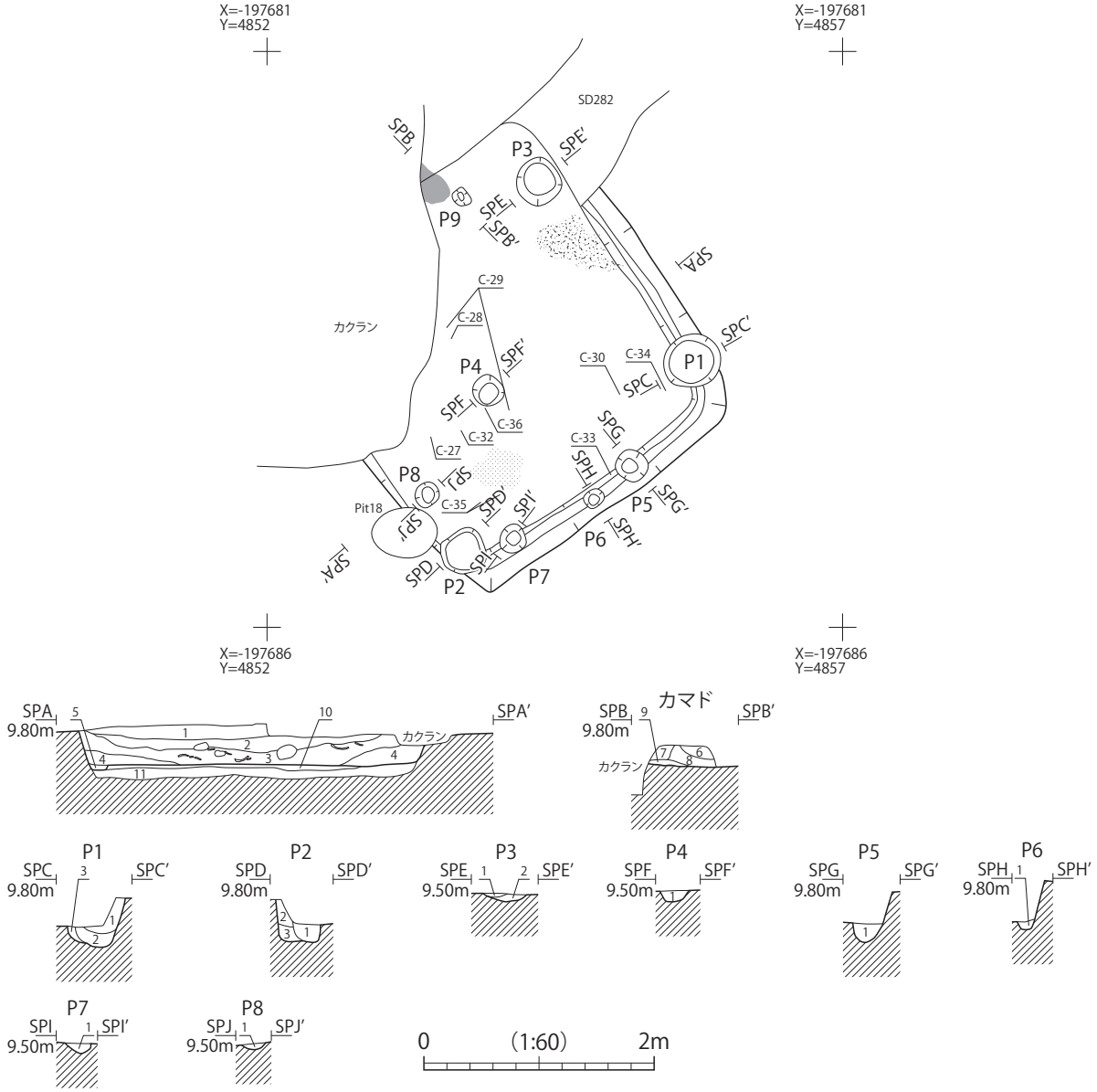


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-23	SI366	堆積土	土師器	坏	(13.6)	—	(5.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		26
2	C-24	SI366	P1	土師器	甕	18.2	8.0	24.8	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→一部ヘラミガキ、輪積痕、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積痕		26

第 29 図　SI366 竪穴住居跡出土遺物

【堆積土】 4 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3 層は周溝堆積土、4 層は掘り方埋土である。
【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は 13 ～ 15cm を測る。
【床面】 2 層下面ないしは 4 層上面を床面とし、概ね平坦である。
【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）検出した。P1 は平面楕円形を呈し、長軸 86cm、深さ 67cm を測る。規模と位置関係から主柱穴と考えられる。P4 は P1 と底面をほぼ共有しており、P1 の掘り方ないしは造り替えの可能性がある。
【周溝】 検出した部分では壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈する。規模は、幅 10 ～ 15cm、深さ 15 ～ 26cm を測る。
【その他の施設】 掘り方から 1 基（P5）検出した。P5 は平面楕円形で、規模は長軸 117cm、深さ 25cm を測る。掘り方の一部とも考えられる。
【掘り方】 深さ 10cm 程で、底面は概ね平坦で壁際がやや掘り窪められる。
【出土遺物】 堆積土から出土した土師器がほとんどを占める。土師器坏 1 点、土師器甕 1 点を図示した（第 29 図）。1 は関東系土師器の坏である。口縁部がほぼ直立状に立ち上がり、底部は丸底を呈する。口縁部と体部の境には明瞭な稜を伴い、全体的に器壁がやや厚い。内面に黒色処理はみられない。2 はほとんど膨らみを持たずにほぼ直線状に開く甕である。台部を持ち、底部は木葉痕がみられる。口縁部は内外面ヨコナデで、胴部は外面の一部にヘラミガキがみられるものの、それ以外はヘラナデで調整される。
【時期】 P1 から出土した土師器甕（第 29 図－ 2）から、3 期（7 世紀初頭～前葉）と考えられる。

SI367 竪穴住居跡（第 30 ～ 33 図）
【位置・確認】 調査区中央部東側の 18・22 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出した。撹乱により北西側が失われている。
【重複】 SD282、SM428 ～ 430、Pit18・137 と重複し、SM428 ～ 430 より新しく、SD282、Pit18・137 より古い。
【規模・形態】 検出した規模は、長軸 320cm、短軸 301cm を測る。平面形状は隅丸方形を呈する。
【方向】 東壁面を基準として N － 35°－ W である。
【堆積土】 11 層に分層した。1 ～ 4 層は住居堆積土で、2 層は炭化物をやや多く含み、3 層から遺物が多く出土している。5 層は周溝堆積土、6 ～ 9 層はカマド関連の堆積土、10・11 層は掘り方埋土で、10 層は灰白色粘土粒を含む貼床面である。
【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、15 ～ 34cm を測る。
【床面】 10 層及び 11 層上面を床面とし、部分的に貼床される。概ね平坦である。
【柱穴】 床面から 9 基（P1 ～ P9）検出した。P1 は東壁南東隅に位置し、規模は長径 50cm、深さ 43cm を測り、P2 は西壁南西隅に位置し、規模は長径 42cm、深さ 37cm を測る。P3 は北東隅東壁際に位置し、規模と位置関係からは主柱穴とも考えられるが、深さが 7cm と浅い。P5 ～ 7 は壁柱穴である。P9 は SD282 により消失したカマド東袖の先端部にあり、袖芯材の埋設施設と考えられる。
【周溝】 東壁と南壁で壁面に沿って検出した。断面は浅い皿状を呈する。規模は幅 13 ～ 17cm、深さ 5 ～ 13cm を測る。
【カマド】 北壁中央部に位置すると考えられる。撹乱および SD282 によって壊されるため構造などは不明であるが、燃焼部に長軸 32cm、短軸 25cm の楕円形の焼面が検出された。
【掘り方】 深さ 8 ～ 11cm を測り、底面は中央がやや高くなるものの概ね平坦である。
【出土遺物】 完形に近い遺物が、一括廃棄された状態で堆積土から多量に出土した。土師器坏 5 点、土師器鉢 1 点、



SI367 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物5%含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物20%、Ⅳ層土ブロック帯状に10%含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物を微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。
周溝	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒60%含む。
カマド	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土中粒、炭化物を微量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒20%含む。
	8	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物10%含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒40%、炭化物10%、灰を微量含む。
住居掘り方	10	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色粘土中粒3%、炭化物を微量含む。(貼床面)
	11	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化粒を微量含む。

SI367施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	50×46	43	
P2	隅丸方形	42×41	37	
P3	楕円形	43×39	7	
P4	円形	28×26	9	
P5	円形	28×26	16	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	円形	18 × 15	8	
P7	円形	25 × 22	9	
P8	円形	22 × 20	5	
P9	隅丸方形	16 × 13	4	

第 30 図　SI367 竪穴住居跡

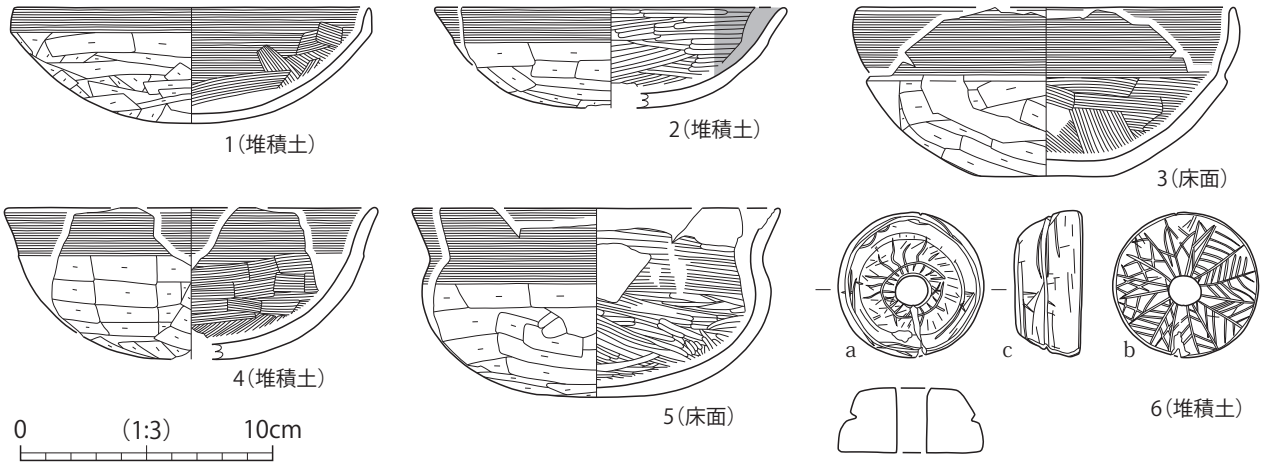
SI367 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒を微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物帯状に20%、Ⅳ層土ブロック10％含む。
	3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量、炭化物を微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10％、炭化物を微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20％含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量、炭化物を微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒10％、炭化粒を微量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物40%、焼土粒10%、灰を微量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
P5	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
P6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
P8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	焼土粒を微量含む。
P9	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物20%、Ⅳ層土ブロック10%含む。

土師器甑 1 点、土師器甕 6 点、石製品 1 点を図示した（第 31 ～ 33 図）。

第 31 図－ 1 は関東系土師器の坏である。口縁部が直立状に立ち上がり、底部は丸底を呈する。口縁部と体部の境には明瞭な稜を伴い、内面に黒色処理は施されない。2 は有段丸底坏で、口縁部が直線状に外傾し、底部は丸底を呈する。内面はヘラミガキで調整され、黒色処理が施される。3 は有段丸底坏で、体部から口縁部へ半球状に立ち上がるが、口縁部と体部の境に明瞭な段を持ち、底部は平底状を呈する。内面に黒色処理は施されない。4 は口縁部が逆「ハ」の字状に開き、体部から底部は半球状を呈する。口縁部と体部の境には明瞭な稜を持つ。内面に黒色処理は施されない。5 は口縁部が S 字状を呈し、底部は平底気味である。内面はヘラミガキで調整されるが、黒色処理は施されない。

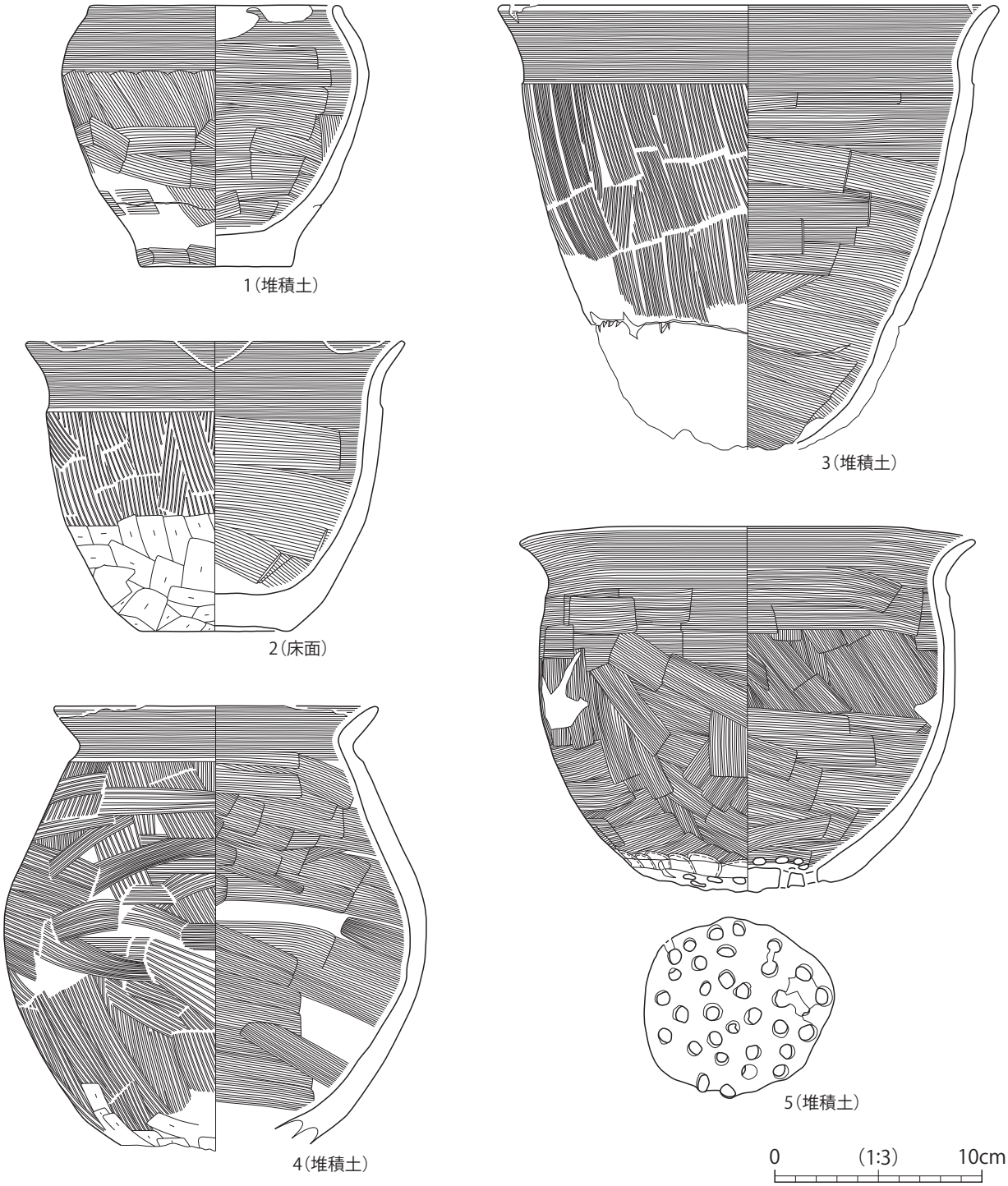
第 32 図－ 1 は土師器の鉢で、口縁部は内湾し、胴部上半に最大径を持つ。底部は台状に作られ、胴部の調整は内外面ともにヘラナデである。2 は小型の甕である。口縁部は外反し、口縁部と胴部の境に段がみられる。底部は



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-25	SI367(a区)	堆積土	土師器	坏	(14.2)	—	4.6	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		26
2	C-27	SI367	堆積土	土師器	坏	(13.8)	—	4.0	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		26
3	C-29	SI367	床面	土師器	坏	(15.0)	5.2	6.7	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		26
4	C-26	SI367	堆積土	土師器	坏	(14.6)	—	(6.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		26
5	C-28	SI367	床面	土師器	坏	(14.4)	—	7.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ		26

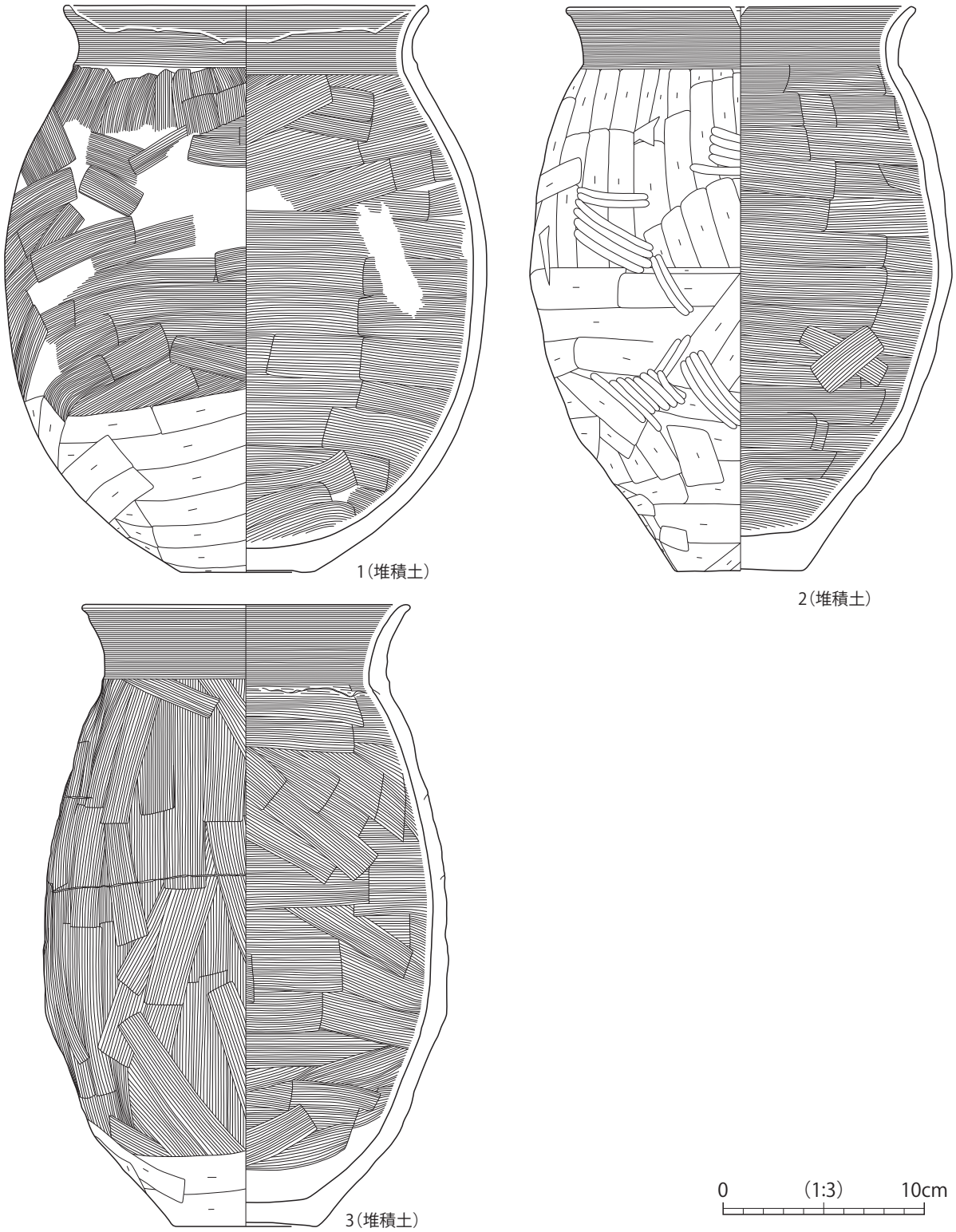
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
6	Kd-5	SI367(a区)	堆積土	石製品	紡錘車	径3.9	孔径1.0	1.7	43.3	蛇紋岩	SI383出土遺物と接合	26

第 31 図　SI367 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-30	SI367	堆積土	土師器	鉢	(12.0)	7.3	12.6	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、輪積痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		27
2	C-31	SI367(a区)	床面	土師器	甕	(18.0)	7.0	14.0	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラケズリ、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		27
3	C-36	SI367	堆積土	土師器	甕	(23.8)	—	(21.5)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、接合面キザミメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積痕		27
4	C-33	SI367	堆積土	土師器	甕	15.6	—	(21.5)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		27
5	C-32	SI367	堆積土	土師器	甑	(21.8)	9.2	17.7	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴部下位ユビオサエ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	穿孔33ヵ所	27

第 32 図　SI367 竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-34	SI367	堆積土	土師器	甕	(18.0)	6.6	28.2	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		27
2	C-37	SI367	堆積土	土師器	甕	17.0	6.2	28.1	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ→一部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		28
3	C-35	SI367	堆積土	土師器	甕	(16.2)	7.2	31.0	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→胴部下位ヘラケズリ、輪積痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積痕		28

第 33 図　SI367 竪穴住居跡出土遺物（3）

平底を呈し、わずかに木葉痕がみられる。胴部の調整は外面の胴部上半がハケメ、胴部下半がヘラケズリ、内面がヘラナデである。3 は逆台形状に開く器形であり、口縁部は外反し、口縁部と胴部の境に段を持つ。底部は丸みを帯びる形状がみられるが、欠損のため詳細は不明である。胴部下半の亀裂に、粘土積み上げ時の刻み目が確認でき、胴部の調整は外面がハケメ、内面がヘラナデである。第 33 図－ 1 ～ 3 は胴部が楕円形を呈する甕である。3 点とも口縁部はほぼ同じ角度で外反し、胴部中央に最大径をもつが、頸部と底部の径のバランスが異なる。外面の調整も異なり、1･3 はヘラナデで下位がヘラケズリになるのに対し、2 はヘラケズリで部分的にヘラミガキが施される。4 の口縁部は直線状に外傾し、胴部は中央に最大径を持ち、胴部上半はほぼ直線状に内傾する。口縁部と胴部の境には段がみられる。胴部の調整は外面がハケメ主体となり、内面はヘラナデ、底部は輪積みから剥離する。

第 32 図－ 5 は小型で多孔の甑である。底部から胴部は半球状を呈し、口縁部は外反する。口縁部と胴部の境にわずかに段がみられる。孔は 33 箇所穿たれている。調整は内外面ともに口縁部がヨコナデ、胴部がヘラナデである。

第 31 図－ 6 は石製の紡錘車である。a 面には中心の孔から放射状に蛇行した線が何本も描かれ、その上から中心の孔を取り囲む円が描かれる。側面には横位の沈線が巡り、b 面には石臼の目のような矢羽状の模様が描かれる。石材は蛇紋岩である。

【時期】 床面から 2 期と考えられる土師器坏（第 31 図－ 5）が出土している。一括廃棄されたと考えられる遺物（第 31 図－ 1・2・4、第 32・33 図）がいずれも 2b 期の様相を呈することから、本住居跡の時期は 2b 期（6 世紀中葉～末葉）と考える。

SI368 竪穴住居跡（第 34・35 図）

【位置・確認】 調査区中央部 13・14・17・18 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出し、南東隅は撹乱により失われている。

【重複】 SI372 と重複し、それより新しい。

【規模・形態】 規模は長軸 295cm、短軸 292cm を測る。平面形状は隅丸方形である。

【方向】 カマド煙道部を基準として N － 30°－ W である。

【堆積土】 20 層に分層した。1 ～ 7 層は住居堆積土で、2 層は炭化物・焼土ブロックを多く含み、5 層は位置関係からカマドに関連した堆積土の可能性もある。8・9 層は周溝堆積土、10 ～ 18 層はカマド関連の堆積土で、17 層は焼土層、18 層は焼土を多く含むカマド掘り方の埋土である。19・20 層は掘り方埋土である。

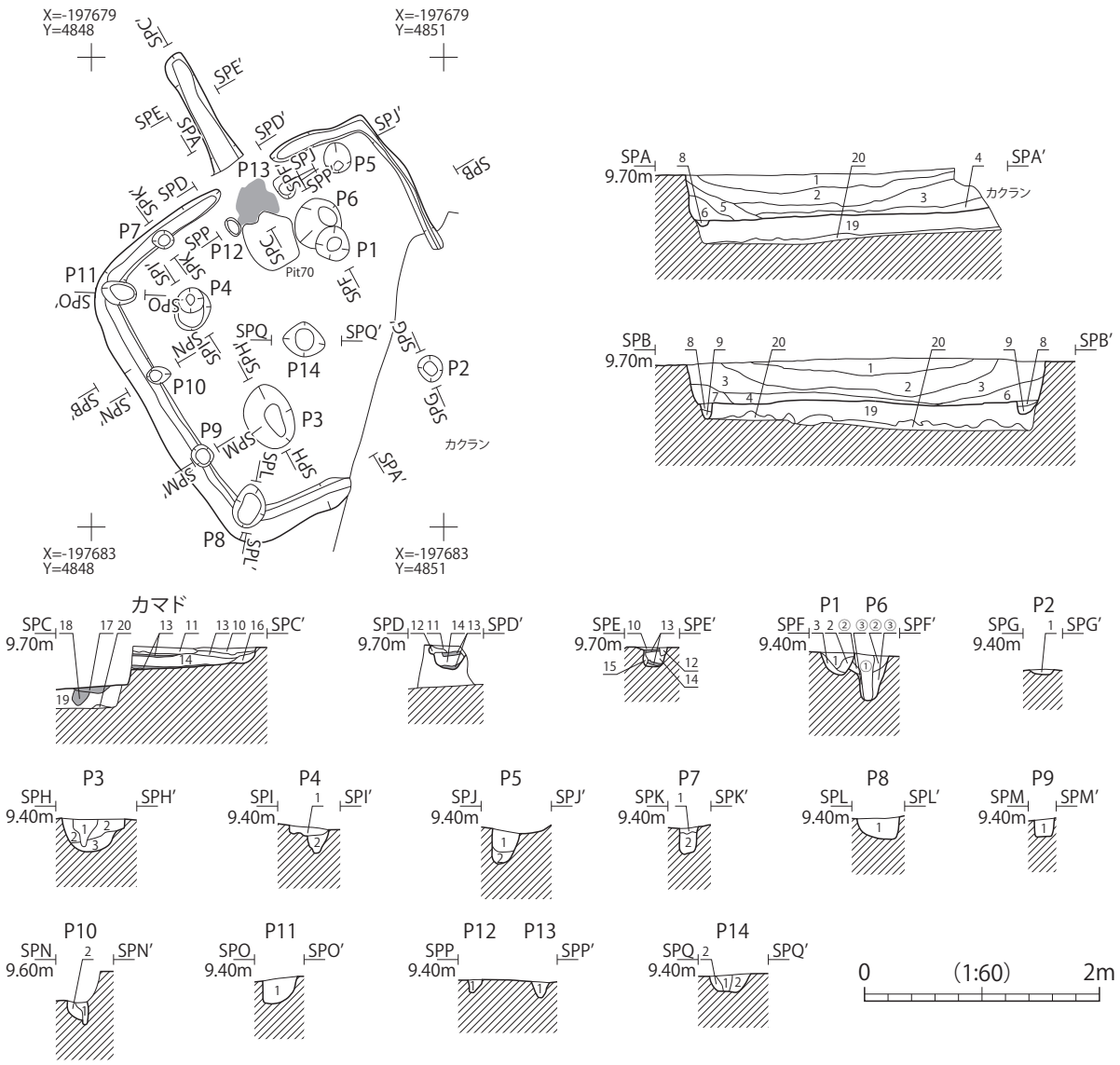
【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がる。壁高は、33cm ～ 38cm を測る。

【床面】 19 層上面を床面とする。起伏がみられ、中央がやや高くなる。

【柱穴】 床面で 12 基（P1・3 ～ 13）、撹乱底面で 1 基（P2）の計 13 基を検出した。P1 ～ 4 は、位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長径 23 ～ 55cm、深さは 4 ～ 29cm を測る。P6 の規模は長径 43cm、深さ 38cm を測り、位置関係から P1 以前の主柱穴であった可能性が考えられる。P7 ～ 11 は壁柱穴と考えられ、壁面から周溝にかけて位置する。規模は 19 ～ 30cm、深さ 16 ～ 23cm を測る。P12・13 はカマド両袖先端部と推定される場所に位置し、袖芯材の埋設施設と考察される。

【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除き壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈し、規模は幅 5 ～ 15cm、深さ 11 ～ 24cm を測る。

【カマド】 北壁中央東寄りに位置し、壁面に直交して付設される。芯材を埋設したと考えられる P12・13 の位置関係から、長さ 30cm 程の袖が「ハ」字状に壁面に付設されていたと推察される。また燃焼部の規模は、奥行き 30cm、幅 40cm 程であったと考えられ、径 25 × 30cm 程の焼面がみられる。床上 20cm の北壁面で煙道部が検出されており、奥壁は直線的に立ち上がっていたと考えられる。検出した煙道部の規模は、長さ 105cm、幅 20



SI368 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物5%含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物、焼土ブロックを帯状に多量に含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物を微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック20%、Ⅳ層土中粒、炭化物を微量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物を微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、黒褐色シルトブロック(5～10㎜)20%、炭化物を微量含む。
周溝	8	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化粒を微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒、炭化物を微量含む。
カマド	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜)30%、炭化粒を微量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒、炭化物を微量含む。
	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、焼土中粒を微量含む。
	13	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土主体。
	14	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、焼土粒10%、炭化物を微量含む。
	15	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土主体、Ⅳ層土ブロック(5～10㎜)を微量含む。
	16	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック20%、炭化粒を微量含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土。
カマド掘り方	18	7.5YR4/3 褐色	シルト	焼土主体、Ⅳ層土中粒10%含む。
住居掘り方	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜)15%、焼土粒を微量含む。
	20	10YR4/4 褐色	シルト	焼土粒、炭化粒を微量含む。

第 34 図　SI368 竪穴住居跡

SI368 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック60%含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む.
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%含む。
	3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅵ層土粒50%含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物微量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅵ層土ブロック50%、炭化物を微量含む。
P6	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、黒褐色シルト粒10%、炭化物微量含む。
	②	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%含む。
	③	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅵ層土粒50%含む。
P7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒60%含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物微量含む。
P8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック粒30%含む。
P9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
P10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化粒微量含む。
P11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%含む。
P12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土30%、焼土ブロック10%含む。
P13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
P14	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜)30%、炭化物微量含む。

SI368 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	30×29	20	
P2	円形	23×20	4	
P3	楕円形	55×40	29	
P4	楕円形	37×30	24	
P5	円形	25×23	30	
P6	円形	43×(27)	38	
P7	円形	19×15	23	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	楕円形	30×28	19	
P9	隅丸方形	20×17	16	
P10	楕円形	20×15	20	
P11	楕円形	30×20	23	
P12	楕円形	18×12	5	
P13	楕円形	20×15	14	
P14	隅丸方形	30×28	15	

～ 26cm で煙出し部分に向かってやや幅が狭くなり、深さは 18cm を測る。底面は、煙出し部分に向かって僅かに傾斜して立ち上がる。

【その他の施設】 床面から土坑 1 基（P14）を検出した。床面中央に位置し、規模は径 30cm、深さ 15cm を測る。

【掘り方】 深さ 13 ～ 23cm を測る。底面は起伏に富み、西側へ傾斜する。

【出土遺物】 堆積土から土師器や須恵器が少量出土したが、図示できるものはない。金属製品 1 点、土製品 3 点を図示した（第 35 図）。1 は断面が長方形を呈し棒状であることから、棒状鉄製品とした。長頸鏃の茎部の可能性がある。2 は土玉、3・4 は土製勾玉である。

【時期】 出土遺物から時期の決定はできなかったが、重複関係にある SI372 より新しいため、2a 期（6 世紀初頭～前葉）以降と考えられる。

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
1	N-5	SI368(a区)	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(4.8)	0.5	0.4	5.4		28
2	P-5	SI368(d区)	堆積土	土製品	土玉	1.8	径2.3	孔径0.7	8.2	ナデ調整	28
3	P-4	SI368(d区)	堆積土	土製品	勾玉	(2.2)	径0.9		1.8	ナデ調整	28
4	P-6	SI368(a区)	堆積土	土製品	勾玉	2.0	径0.9	孔径0.2	1.6	ミガキ調整	28

第 35 図　SI368 竪穴住居跡出土遺物

SI369 竪穴住居跡（第 36 ～ 38 図）

【位置・確認】 調査区北端西側の 8・9・12・13 グリッドに位置する。重複遺構により南壁の大半は失われており、北側は調査区北壁外へ延びる。基本土層Ⅳ層上面で検出した。

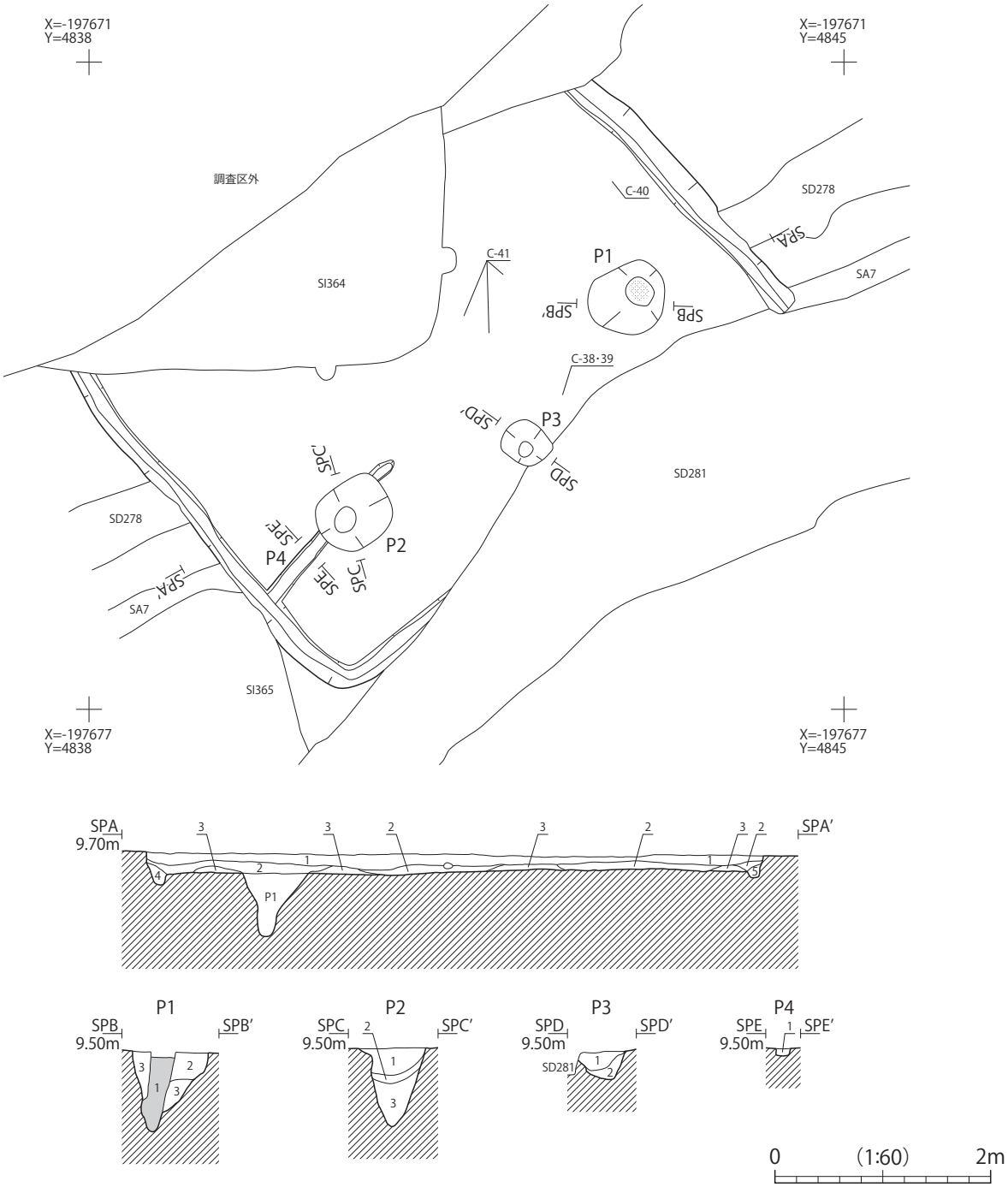
【重複】 SI364・365・382、SA7、SD278・281 と重複し、SI382 より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 検出された規模は、長軸 566cm、短軸 391cm を測る。平面形状は方形と考えられる。

【方向】 東壁面を基準として N － 39°－ W である。

【堆積土】 5 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土、4・5 層は周溝堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は 9cm ～ 21cm を測る。



第 36 図　SI369 竪穴住居跡

SI369 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土小粒20%、炭化物を微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)15%、炭化物を微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土小粒40%含む。
周溝	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土小粒15%含む。

SI369 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	70×70	70	
P2	隅丸方形	71×60	68	
P3	隅丸長方形	45×37	26	
P4	長楕円形	168×12～17	7	間仕切溝

SI369 施設堆積土註記表

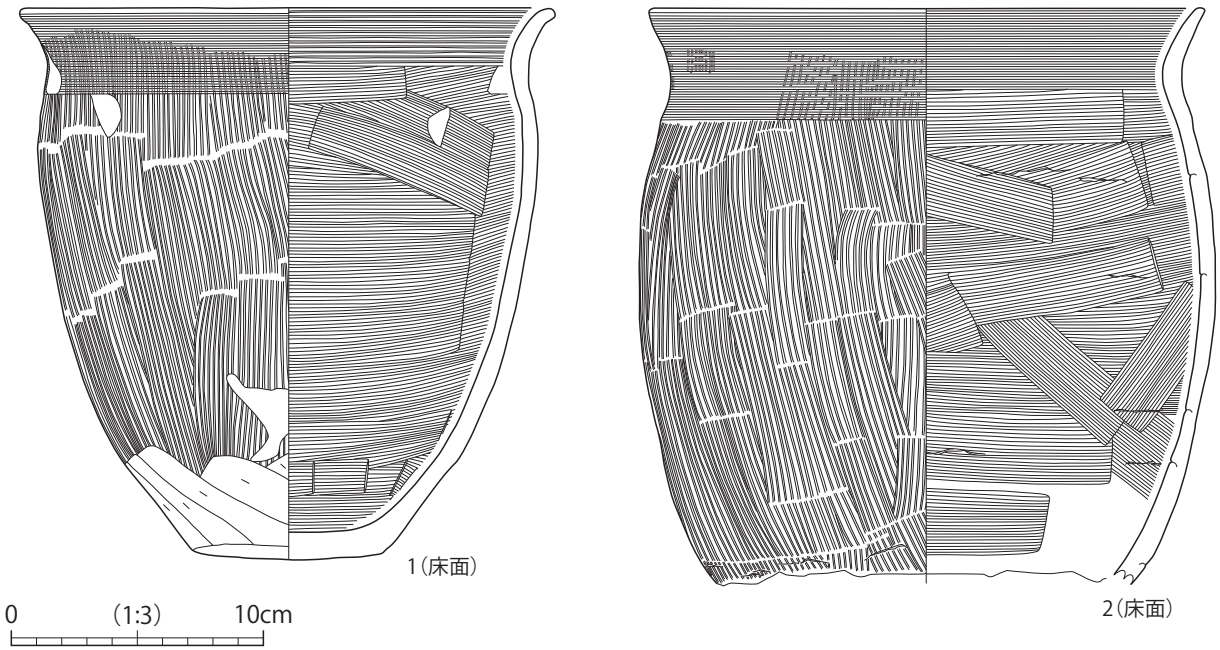
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。(柱痕跡)
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物5%含む。(柱抜取痕)
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物30%含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。
P3	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。

【床面】 基本土層Ⅳ層面を床面とする。検出した部分では、わずかに起伏があるが概ね平坦である。

【柱穴】 床面から２基（P1・2）を検出した。P1・2 は規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は、長径 70cm、深さ 68 ～ 70cm と類似しており、P1 では径 21cm の柱痕跡および底面に径 20cm の変色範囲が確認された。

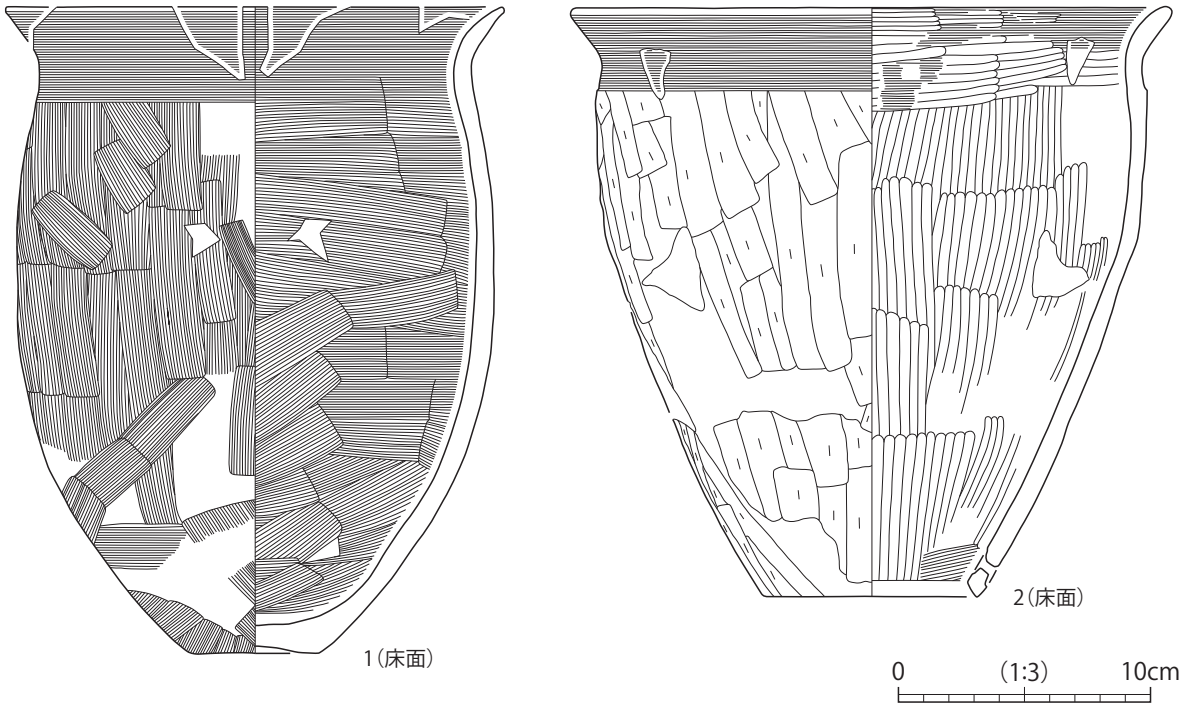
【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈し、規模は幅 10 ～ 20cm、深さ 6 ～ 11cm を測る。

【その他の施設】 床面から土坑１基（P3）、溝跡１条（P4）を検出した。P3 は平面隅丸長方形を呈し、規模は長



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-38	SI369	床面	土師器	甕	21.0	7.5	21.9	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→胴部下位ヘラケズリ	口縁部ハケメ、胴部ヘラナデ		28
2	C-39	SI369	床面	土師器	甕	(22.0)	―	(22.9)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ、輪積痕	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積痕		28

第 37 図　SI369 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-40	SI369	床面	土師器	甕	19.6	5.0	25.7	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		29
2	C-41	SI369	床面	土師器	甑	(23.5)	8.6	23.4	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、胴部ヘラナデ→ヘラミガキ	胴部下位対称する2ヵ所の穿孔(径0.4cm)あり。単孔	29

第 38 図　SI369 竪穴住居跡出土遺物（2）

軸 45cm、深さ 26cm を測る。南壁際のほぼ中央に位置することから、入口施設の可能性が考えられる。P4 は西壁から P2 へ延びる断面箱状の間仕切り溝と考えられ、規模は長さ 168cm、幅 12 ～ 17cm、深さ 7cm を測る。

【出土遺物】 床面からの遺物が比較的多く出土した。土師器甑 1 点、土師器甕 3 点を図示した（第 37・38 図）。第 37 図－ 1・2 は甕で、胴部外面がハケメ、内面はヘラナデで調整され、1 は口縁部内面にハケメが施されている。第 38 図－ 1 は甕で、胴部内外面ともヘラナデ調整が主体である。いずれの甕も、胴部が砲弾形で口縁部が外反する。2 は甑であり、胴部下半は直線状に外傾して立ち上がり、胴部上半は円状を呈し、口縁部は外反する器形である。内面の調整はヘラミガキが主体である。胴部下位の 2 箇所に孔が穿たれており、径は 0.4cm を測る。

【時期】 図示した床面出土の土師器甕・甑 4 点が直接伴う遺物で、5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）以前と考えられる。

SI370 竪穴住居跡（第 39・40 図）

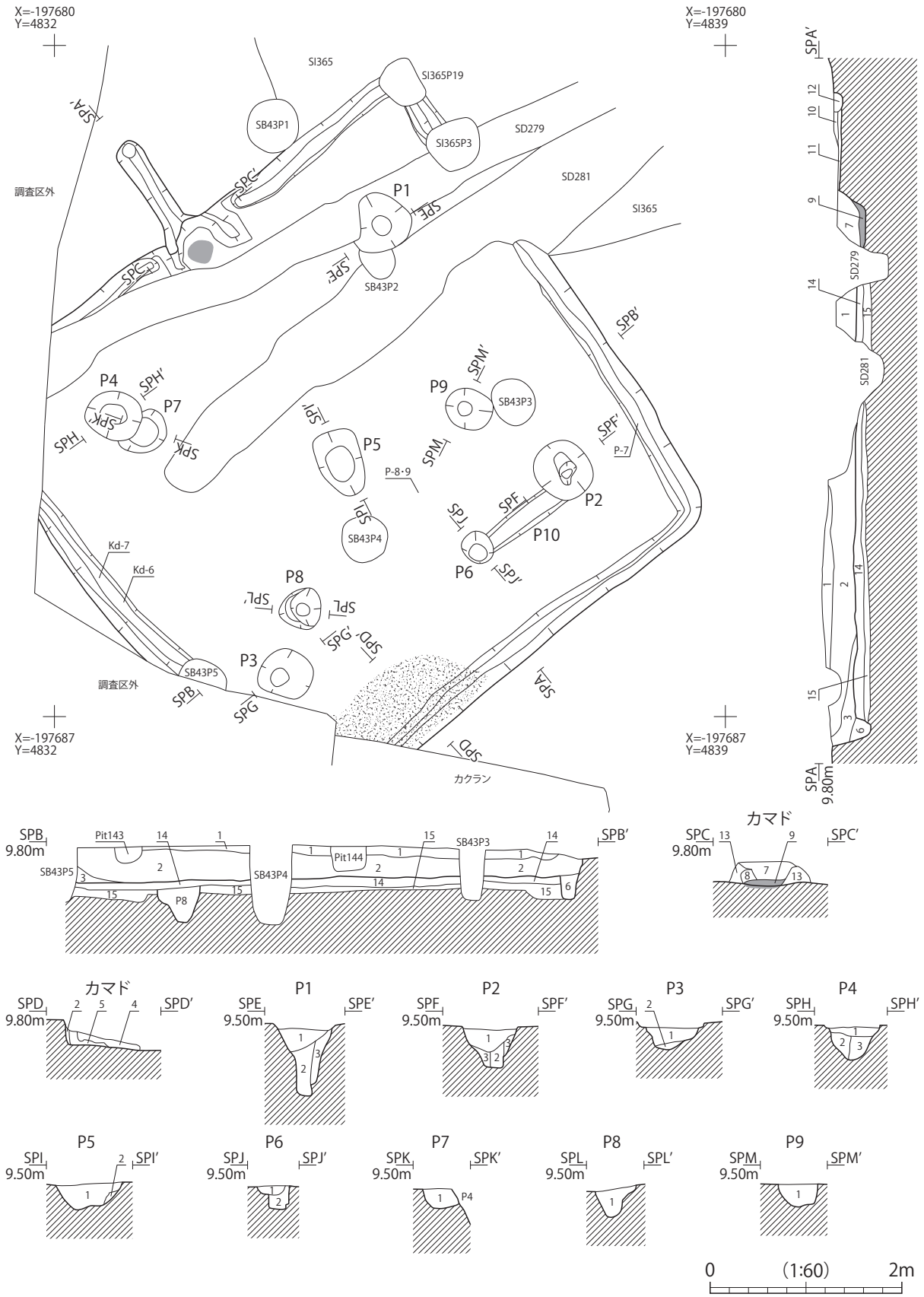
【位置・確認】 調査区南西隅の 16・20 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で確認し、北西隅および南西隅は調査区西壁外へ延びる。

【重複】 SI365・377 ～ 379、SB43、SD279・281 と重複し、SI377 ～ 379 より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 594cm、短軸 579cm を測る。平面形状は方形ないし隅丸方形である。

【方向】 カマド煙道部を基準として N － 34°－ W である。

【堆積土】 15 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土、4・5 層は南壁西側にみられる焼土範囲の堆積土、6 層は周溝堆積土である。7 ～ 13 層はカマド関連の堆積土で、7 層は天井崩落土、9 層は燃焼部、10 ～ 12 層は煙道部堆積土、



第 39 図　SI370 竪穴住居跡

SI370 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、焼土粒、炭化物を微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物を微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、焼土粒少量、炭化物を微量含む。
焼土	4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒20% 、炭化物10%含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物60%、焼土粒10%含む。
周溝	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土小粒30%含む。
カマド	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒30%、炭化物を微量含む。
	9	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒20%、灰を微量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	グライ化。
	11	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物を微量含む、グライ化。
	12	10Y3/1 オリーブ黒色	シルト	炭化物中粒30%含む、グライ化。
カマド袖	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
住居掘り方	14	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土を帯状に20%含む。(貼床面)
	15	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、焼土粒、炭化物を微量含む。

SI370 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物を微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒微量含む。
P2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物、Ⅳ層土粒10%含む。(柱抜取痕)
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P3	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。
P4	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒15%、炭化物微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。
P6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック60%、焼土粒、炭化物微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%、白色粘土ブロック、炭化物少量含む。
P7	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量、焼土粒微量含む。
P8	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒20%含む。
P9	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック70%含む。
P10	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒、炭化物を微量含む。

SI370 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	62×62	71	
P2	円形	63×57	63	
P3	隅丸方形	54×49	47	
P4	円形	57×51	53	
P5	楕円形	70×45	26	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	円形	32×32	24	
P7	円形	46×(29)	21	
P8	楕円形	43×43	28	
P9	円形	49×42	23	
P10	長楕円形	(77)×25～32	7	間仕切溝

13 層はカマド構築土である。14・15 層は掘り方埋土で、14 層は灰白色粘土を板状に含む貼床面である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、26 ～ 35cm を測る。

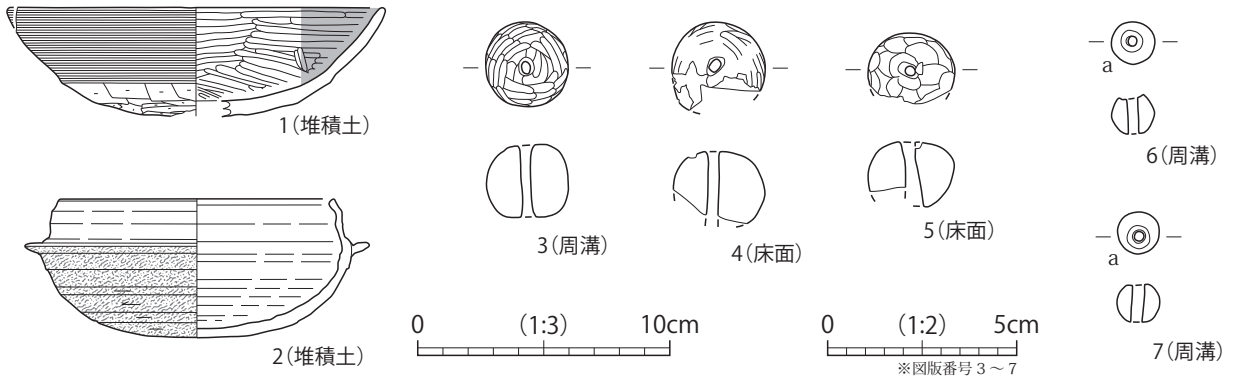
【床面】 検出された部分では 14 層上面を床面とする。貼床である。緩やかな起伏がみられるが、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。いずれも、規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は長径 54 ～ 63cm、深さ 47 ～ 71cm を測る。

【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除き壁面に沿って全周する。断面は「U」字状で、規模は幅 18 ～ 21cm、深さ 15 ～ 21cm を測る。

【カマド】 北壁中央に、壁面に直交して付設される。袖は北壁面に対し「ハ」字状に付設され、検出した袖の規模は、東袖は長さ 54cm、幅 34cm、西袖は長さ 31cm、幅 19cm を測る。燃焼部の規模は、奥行き 36cm、幅 32 ～ 42cm、奥壁高 28cm を測る。燃焼部に径 26cm 程の焼面がみられ、奥壁は直線的に外傾して立ち上がる。煙道部の規模は、長さ 104cm、幅 23 ～ 27cm、深さ 9cm を測り、底面はほぼ平坦である。煙出し部分は径 20cm、深さ 10cm を測り、ピット状の掘り込みは持たない。

【その他の施設】 床面から土坑 2 基（P5・6）、貼床面下から土坑 3 基（P7 ～ 9）、溝跡 1 条（P10）の、総数 6 基を検出した。P5 は床面のほぼ中央に位置し、平面楕円形を呈する。規模は長軸 70cm、深さ 26cm を測り、底



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-42	SI370	堆積土	土師器	坏	(14.8)	—	4.3	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		29
2	E-4	SI370(d区)	堆積土	須恵器	坏	(10.8)	—	5.5	ロクロ調整、体部回転ヘラケズリ、ツバより下位自然釉	ロクロ調整		29

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
3	P-7	SI370	周溝	土製品	土玉	1.9	径2.2	孔径0.3	10.4	ミガキ調整	29
4	P-8	SI370	床面	土製品	土玉	(1.9)	径2.5	孔径0.3	8.8	ミガキ調整	29
5	P-9	SI370	床面	土製品	土玉	1.7	径2.3	孔径0.3	5.9	ナデ調整	29
-	P-14	SI370	堆積土	土製品	土玉	2.0	径2.4	孔径0.3	11.4	ミガキ調整	29

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
6	Kd-6	SI370	周溝	石製品	丸玉	1.1	径1.2	孔径0.3	1.8	蛇紋岩		29
7	Kd-7	SI370	周溝	石製品	丸玉	1.1	径1.1	孔径0.3	1.8	蛇紋岩		29

第 40 図　SI370 竪穴住居跡出土遺物

面は起伏がみられる。P6 は平面円形で、規模は径 33cm、深さ 24cm を測り、堆積土に白色粘土ブロックを含む。P10 は P2 ～ P6 間の間仕切り溝と考えられ、規模は幅 25 ～ 32cm、深さ 7cm 程を測る。断面は浅い皿状を呈す。

【掘り方】 深さ 3 ～ 15cm を測る。底面には起伏がみられ、壁面に沿って一段掘り窪められる。

【出土遺物】 堆積土から多量の遺物が出土しており、床面や掘り方から土玉や丸玉などが出土している。土師器坏 1 点、須恵器坏 1 点、土玉 3 点、丸玉 2 点を図示した（第 40 図）。1 は有段丸底坏で、口縁部がほぼ直線状に外傾し、底部は丸底を呈する。内面の調整はヘラミガキであり、黒色処理が施される。2 は鍔付きの坏で、口径は 10.8cm、器高は 5.5cm を測る。また、鍔から口唇部までの立ち上がり高は 1.8cm、口縁部の立ち上がり角度は垂直方向を 0°とした場合、22°内傾する。3 ～ 5 は土玉であり、径が 2.2 ～ 2.5cm とほぼ同じ大きさである。調整は 3・4 がミガキ、5 がナデである。6・7 は石製の丸玉であり、径 1.1 ～ 1.2cm とこちらもほぼ同じ大きさである。石材は蛇紋岩である。

【時期】 時期を決定できる遺物は出土していない。重複関係にある SI378・379 が 3 期（7 世紀初頭～前葉）であることから 3 期以降と考えられる。

SI371A 竪穴住居跡（第 41・42 図）

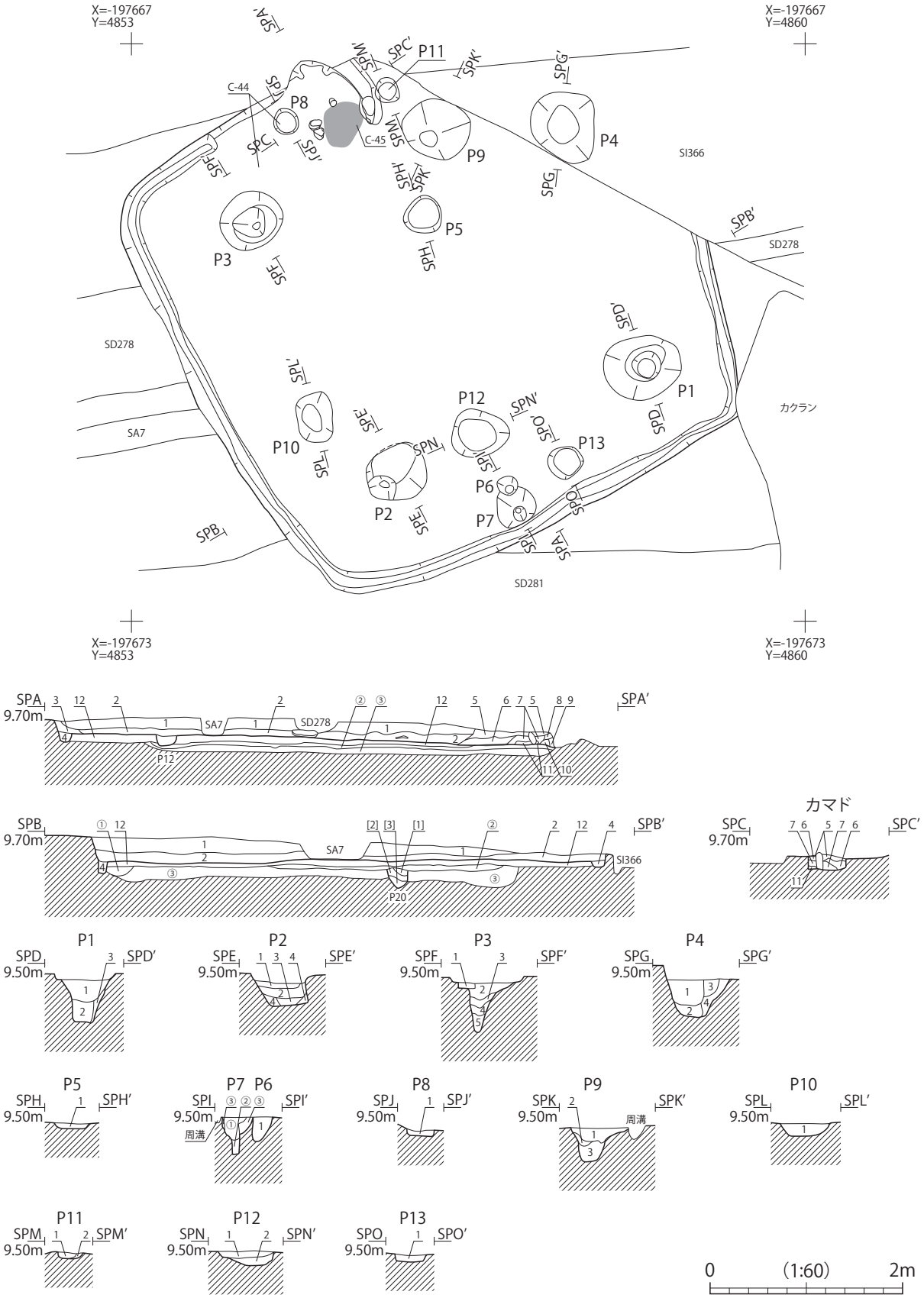
【位置・確認】 調査区北端東寄りの 6・10 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上部で検出したが、撹乱により削平を受け上部が一部失われている。

【重複】 SI366・371B、SA7、SD278・281、SM417・418・420 と重複し、SI371B より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 検出された部分での規模は、長軸 536cm、短軸 532cm を測る。平面形状は隅丸方形である。

【方向】 カマドを基準として N － 28°－ W である。

【堆積土】 12 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土で、3 層は炭化物を多く含む。4 層は周溝堆積土、5 ～ 11 層



第 41 図　SI371A 竪穴住居跡

SI371A 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～50㎜)30%、炭化物微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～50㎜)10%、炭化物微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物を微量含む。
周溝	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物微量含む。
カマド	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物微量含む。(天井崩落土)
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒30%、炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
	9	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、焼土粒、炭化物粒を微量含む。
	10	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物粒を微量含む。
	11	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物10%含む。
住居掘り方	12	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜)40%、炭化物微量含む。(貼床面)

SI371A 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	粘質土シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。(柱抜取痕)
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質土シルト	炭化物を微量含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質土シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	粘質土シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘質土シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質土シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
P3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘質土シルト	炭化物微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質土シルト	Ⅳ層土ブロック20%、焼土粒、炭化物微量含む、一部グライ化。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘質土シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物を微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘質土シルト	Ⅳ層土粒10%含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	粘質土シルト	Ⅳ層土粒を微量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック50%、炭化物を微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物を微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック、焼土ブロック20%、炭化物10%含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物を微量含む。
P7	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒15%、炭化物を微量含む。
	②	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%含む。
	③	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック60%、炭化物を微量含む。
P8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック5%含む。
P9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜)20%、焼土粒10%、炭化物を微量含む、グライ化。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜)50%、焼土粒、炭化物を微量含む。
P11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(10～20㎜)40%、Ⅳ層土ブロック少量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、焼土粒、炭化物微量含む。
P12	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック15%、炭化物微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。
P13	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%、焼土ブロック、炭化粒微量含む。

SI371A 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	80×65	62	
P2	不整円形	65×58	71	
P3	円形	65×63	74	
P4	不整円形	70×65	40	
P5	円形	40×40	5	
P6	円形	20×20	26	
P7	不整円形	(32)×42	39	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	円形	26×25	7	
P9	円形	70×60	35	
P10	隅丸長方形	50×38	13	
P11	円形	27×25	8	
P12	不整円形	60×52	15	
P13	円形	35×33	7	

はカマド関連の堆積土で、5 層は天井崩落土、6 層は燃焼部の堆積土である。12 層は掘り方埋土である。

【壁面】 ほぼ直線的に外傾して立ち上がる。壁高は 7 ～ 27cm を測る。

【床面】 12 層上面を床面とする。貼床である。中央部がやや高く、壁際に向かって緩やかに傾斜する。

【柱穴】 床面より 7 基（P1 ～ 4・6・7・9）を検出した。P1 ～ 4 は、規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は、長径 65 ～ 80cm、深さ 40 ～ 74cm を測る。P6・7 は南壁際中央に位置し、形態や位置関係から入口施設と考えられる。

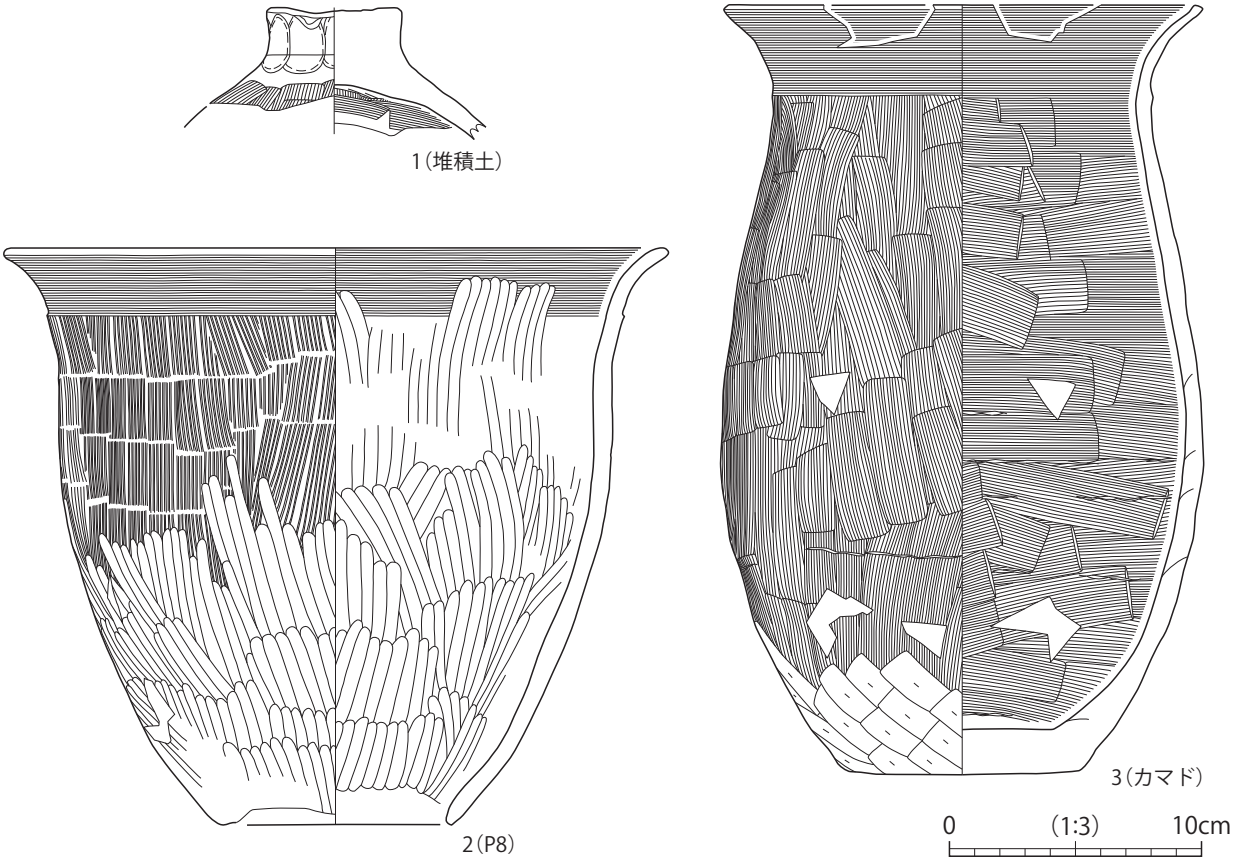
【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除き壁面に沿って全周する。断面は、「U」字状ないしは半円状を呈する。規模は、幅 9 ～ 14cm、深さ 6 ～ 12cm を測る。

【カマド】 北壁中央に、壁面に直交して付設される。東袖の規模は、長さ 65cm、幅 23cm を測り、先端部に長さ

30cm、幅 9cm、厚さ 7cm の自然礫の芯材が埋設される。西袖は削平により残存状態が悪く、規模は長さ 60cm 程であったと推察され、先端部に長さ 26cm、幅 12cm、厚さ 7cm の自然礫の芯材が確認された。袖は、北壁面に対し「ハ」字状に付設されていたと考えられる。燃焼部の規模は、奥行き 75cm、幅 30 ～ 40cm 程であったと考えられ、残存する奥壁高は 8cm 程で緩やかに立ち上がる。燃焼部には径 40 × 50cm 程の焼面がみられ、焼面に接した燃焼部中央には長さ 18cm、幅 6cm、厚さ 5cm の自然礫の支脚が埋設される。煙道部は、削平により検出できなかった。

【その他の施設】 床面から 5 基（P5・8・10・11・12）、貼床面下から 1 基（P13）の計 6 基を検出した。P5 は堆積土に焼土ブロック・炭化物を含み、カマドに関連する施設の可能性が考えられる。P8・11 は規模が類似し、カマドを介して対称位置にあることから、カマド関連の施設である可能性が高い。

【出土遺物】 堆積土を中心に、比較的多くの遺物が出土している。堆積土出土の遺物が多く、重複する SI371B の遺物の混在は少ないと思われる。土師器蓋 1 点、土師器甑 1 点、土師器甕 1 点を図示した（第 42 図）。1 は土師器の蓋であり、今回の調査では唯一の出土例である。ツマミ部はユビオサエで円柱状に整えられ、体部の内外面はヘラナデで調整される。過去の調査では、長町駅東遺跡第 3 次調査で SI109 からの出土例が確認でき（仙台市教委 2009）、周辺の遺跡では、郡山遺跡第 167 次調査で SI4A から蓋のツマミ部分の出土例が確認できる（仙台市



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-43	SI371	堆積土	土師器	蓋	(12.0)	5.0	(5.2)	ツマミ部ユビオサエ、坏部ヘラナデ	坏部ヘラナデ		29
2	C-44	SI371	P8	土師器	甑	26.0	9.2	22.9	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→胴部下位ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、胴部ヘラミガキ	単孔	29
3	C-45	SI371	カマド	土師器	甕	18.6	9.0	3.5	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→胴部下位ヘラケズリ、輪積痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積痕		29

第 42 図　SI371A 竪穴住居跡出土遺物

教委 2013)。これらと比較してみると、器形に差異は認められるものの調整方法は同一であり、SI109 は郡山Ⅰ期官衙期前半、郡山遺跡 SI4A は郡山Ⅰ期官衙以前という年代が与えられている。2 は単孔の甑であり、口縁部は外反し、胴部上半は円筒状、胴部下半は窄まる器形を呈する。口縁部と胴部の境にやや段がみられる。調整は口縁部が内外面ヨコナデであるが、胴部外面は上半がハケメ、下半がヘラミガキとなり、胴部内面はヘラミガキとなる。3 は甕であり、口縁部は外反し、胴部は楕円形状を呈し、最大径は胴部中央からやや下半にくる。調整は胴部が内外面ともヘラナデを主体とする。

【時期】 床面から出土した第 42 図－ 2・3 が直接伴う遺物と考えられ、3 ～ 5 期（7 世紀初頭～ 8 世紀初頭）と考えられる。

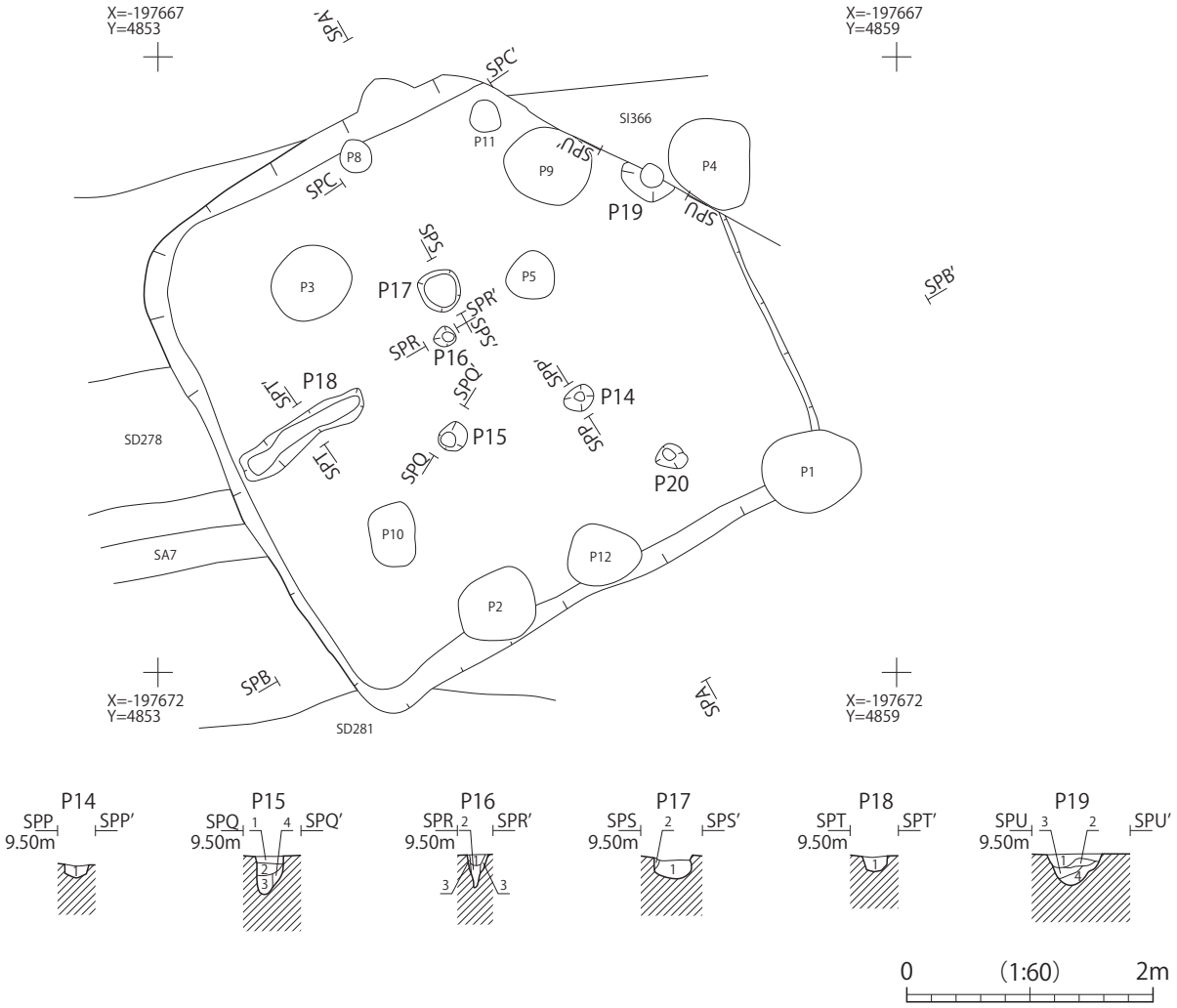
SI371B 竪穴住居跡（第 43 図）

【位置・確認】 調査区北端東寄りの 6・10 グリッドに位置する。SI371A の掘り方調査時に一回り狭い貼床面を検出し、SI371B とした。

【重複】 SI366・371A、SA7、SD278・281、SM417・418・420 と重複し、それらより古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 452cm、短軸 441cm を測る。平面形状は方形ないし隅丸方形である。

【方向】 西壁面を基準として N － 26°－ W である。



第 43 図　SI371B 竪穴住居跡

SI371B 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜)30%、炭化物を微量含む。
住居掘り方	②	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、灰白色粘土ブロック20%含む。(貼床面)
	③	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック40%、炭化物を微量含む。

SI371B 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P14	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化粒、焼土粒微量含む。
P15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。
P16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック50%含む。
P17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック70%、Ⅳ層土ブロック、炭化物各10%含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。
P18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む。
P19	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物を微量含む。含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化粒微量含む。
P20	[1]	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
	[2]	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜)20%、炭化物を微量含む。
	[3]	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜)30%含む。

SI371B 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P14	楕円形	25×20	10	
P15	円形	24×23	31	
P16	隅丸方形	16×16	27	
P17	円形	35 × 34	15	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P18	不整形	114×22	12	間仕切溝
P19	楕円形	46×(21)	26	
P20	楕円形	24×19	10	

【堆積土】 3 層に分層した。①層は周溝堆積土、②・③層は掘り方埋土で、②層は灰白色粘土ブロックを含む貼床面である。

【壁面】 SI371A によって失われているが、SI371A と同様の立ち上がりを呈したと考えられる。

【床面】 ②層上面を床面とする。貼床である。概ね平坦であったと考えられるが、SI371A の掘り方による起伏がみられる。

【柱穴】 床面から 2 基（P15・16）を検出した。P15 は長径 24cm、深さ 31cm を測り、P16 は径 16cm、深さ 27cm を測る。

【周溝】 土層断面の観察によれば、断面は半円状を呈し、規模は幅 30cm、深さ 10cm 程を測る。

【その他の施設】 床面から土坑 2 基（P14・17）、溝跡 1 条（P18）、貼床面下から土坑 2 基（P19・20）の総数 5 基を検出した。P17 は床面中央やや北壁寄りに位置し、平面円形を呈す。規模は径 35cm、深さ 15cm を測り、堆積土に焼土ブロックを多く含むことからカマド関連の施設と考えられる。P18 は断面「U」字状を呈し、規模は長さ 114cm、深さ 12cm を測る。西壁に直交しており、一種の間仕切り溝と考えられる。

【掘り方】 深さ 7 ～ 22cm を測る。底面はほぼ平坦であるが、東西壁際は 40 ～ 50cm 幅で一段掘り下げられる。

【出土遺物】 SI371A と重複するため、SI371B に直接伴うと思われる遺物はほとんど出土していない。図示可能なものはない。

【時期】 SI371A が 3 ～ 5 期（7 世紀初頭～ 8 世紀初頭）であり、それよりは古くなる。しかし SI371A・B は北壁と西壁の一部を共有しており SI371A への建て替えが予想されることから、3 ～ 5 期と考えられる。

SI372 竪穴住居跡（第 44 ～ 46 図）

【位置・確認】 調査区中央部西寄りの 9・13・14・17・18 グリッドに位置する。南東隅は撹乱により失われる。

【重複】 SI368・382・383、SA9、SD279・281、SE10、SK324、Pit36・59・77・79・80・82・83・87・90・

99・102・110・112・113・118 と重複し、SI382・383 より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 規模は、長軸 760cm、短軸 748cm を測る。平面形状は方形である。

【方向】 カマドを基準として N － 30°－ W である。

【堆積土】 23 層に分層した。1 ～ 9 層は住居堆積土で、中位に堆積する 4 層には焼土ブロック・炭化物を比較的多く含む。10・11 層は周溝堆積土、12 ～ 21 層はカマド関連の堆積土で、12・13 層は天井崩落土、14 層は燃焼部堆積土、15 層は焼土、17 層は煙道部堆積土、18 層は支脚埋設施設埋土、19・20 層はカマド袖崩落土、21 層は白色粘土のカマド構築土である。22・23 層は掘り方埋土で、22 層は貼床面である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は 20 ～ 44cm を測る。

【床面】 22 層上面を床面とする。貼床である。やや起伏がみられるが、概ね平坦である。

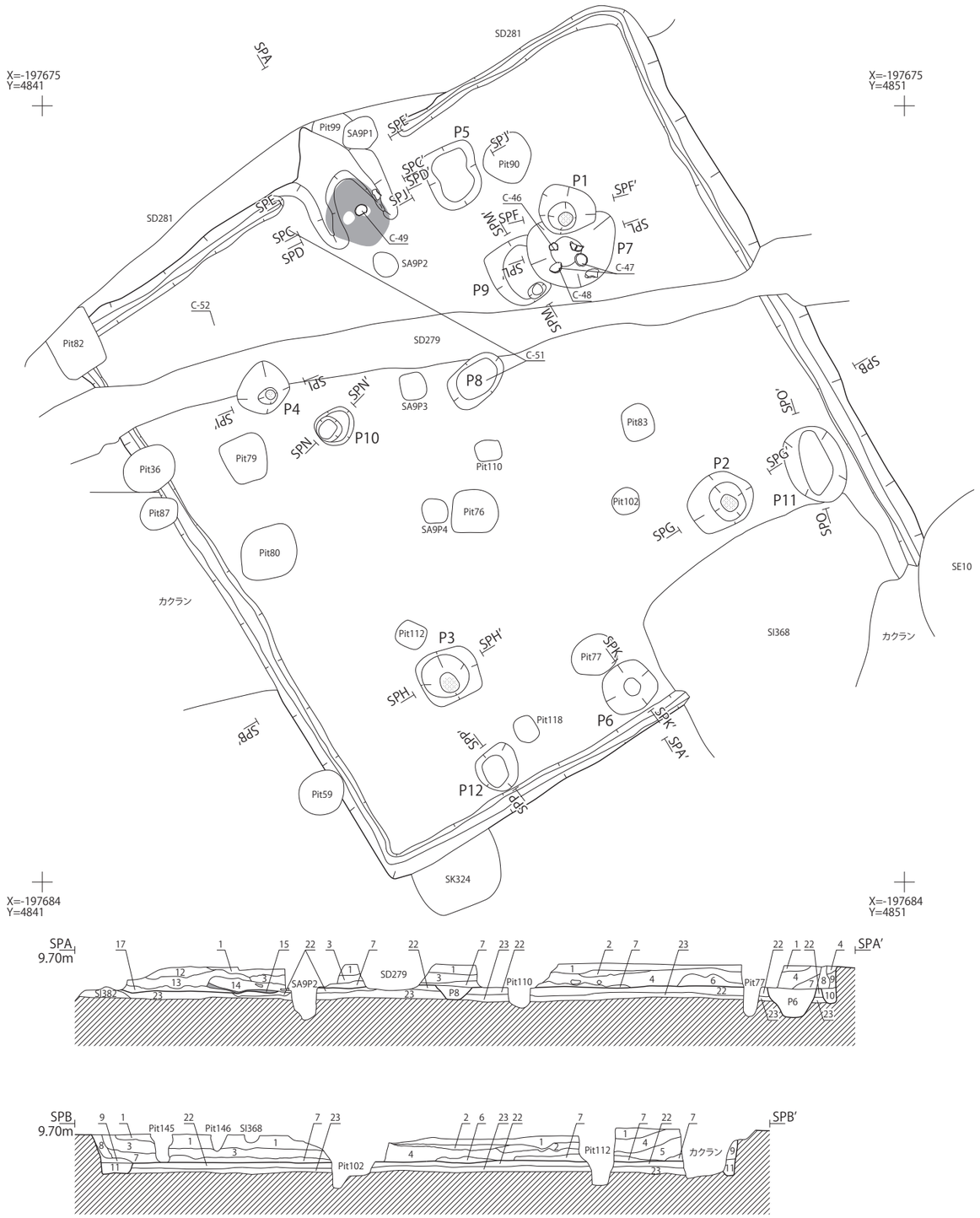
【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）、貼床面下から 2 基（P9・10）、総数 6 基を検出した。P1 ～ 4 は、規模と位置関係から主柱穴と考えられる。規模は、長径 60 ～ 77cm、深さ 69 ～ 110cm を測る。いずれの柱穴からも径 12 ～ 22cm の柱痕跡、径 8 ～ 19cm の底面の変色部分が確認されている。

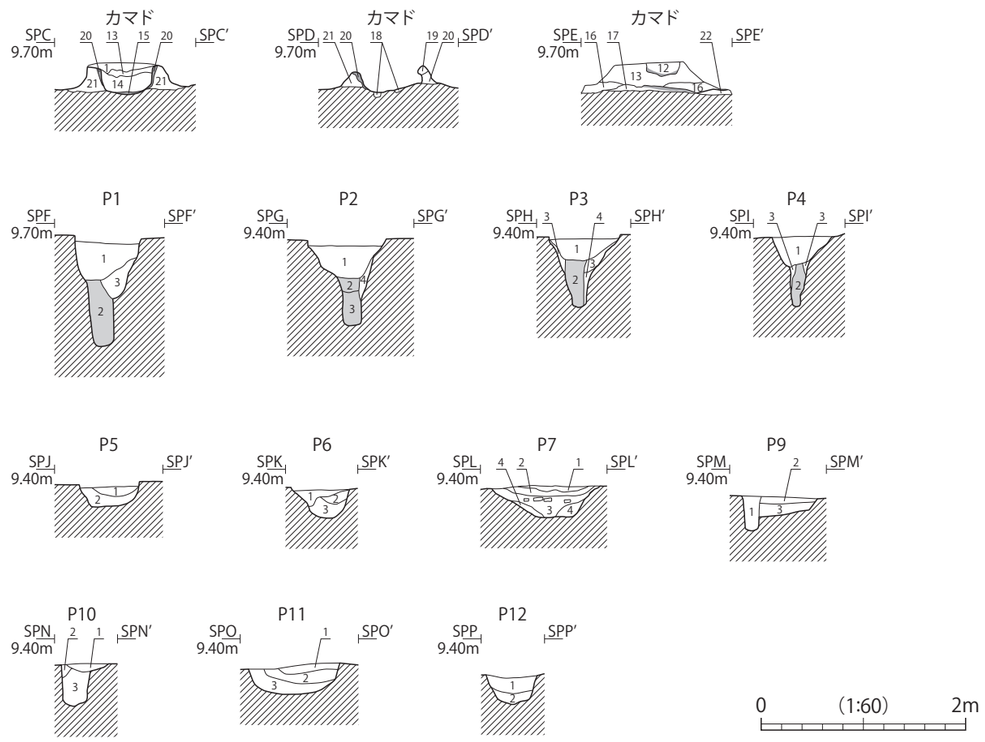
【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除いて壁面に沿って全周する。断面は「U」字状を呈し、規模は幅 15 ～ 21cm、深さ 8 ～ 18cm を測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、北壁にほぼ直交して付設される。袖の規模は、東袖が長さ 75cm、幅 20 ～ 35cm、西袖が長さ 82cm、幅 26 ～ 35cm を測る。袖は、壁面に対してほぼ直線的に付設される。燃焼部の規模は、奥行き 65cm、幅 28 ～ 48cm、奥壁高 15cm 程である。底面は皿状に 5cm 程窪み、長径 80cm 程の焼面がみられる。奥壁は被熱が顕著で、やや外傾して立ち上がる。焼面中央に、被熱の弱いピット状の窪みを 2 基並列して検出した。位置関係から支脚の埋設施設と考えられ、規模は径 7cm、深さ 3 ～ 5cm を測る。煙道部の先端は SD281 によって失われており、検出した規模は長さ 100cm、幅 20cm 程、深さ 6cm を測る。底面はほぼ平坦で、いったん窪ん

SI372 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック60%含む。(柱抜取痕)
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物、橙色粒を微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物を微量含む。(柱抜取痕)
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。(柱痕跡)
	4	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、橙色粒微量含む。(柱抜取痕)
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物5%含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物を微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物を微量含む。(柱抜取痕)
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒、炭化物を微量含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
P5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック少量、炭化物を微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土中粒40%、炭化物5%、焼土粒を微量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、橙色粒、炭化物を微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	白色粘土ブロック30%、炭化物を微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物を少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒15%、炭化物10%含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%含む。
P8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物を微量含む。
P9	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物を微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物を微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
P10	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、焼土ブロック、炭化物を微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒を少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物を微量含む。
P11	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、黒褐色粘質シルトブロックを微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
P12	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物を微量含む。
	2	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒を微量含む。





SI372 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土中粒20%、焼土ブロック、炭化物を微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒60%、炭化物10%含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物を微量含む。
	4	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物20%、焼土ブロック10%含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒5%含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒30%、炭化物を微量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、焼土粒、炭化物を微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物を微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
周溝	10	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	
	11	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
カマド	12	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	白色粘土ブロック30%、焼土ブロック20%、炭化物を微量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック60%含む。(天井崩落土)
	14	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土主体、灰10%含む。
	15	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	焼土を少量含む。
	16	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	焼土ブロック10%、炭化物を微量含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物10%、焼土ブロックを少量含む。
	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	被熱により、上部一部焼土化する。
	19	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土主体、白色粘土ブロック10%含む。
	20	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック少量含む。
カマド袖	21	10YR5/1 褐灰色	粘土	灰白色粘土主体、焼土粒を微量含む。
住居掘り方	22	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物5%含む。(貼床面)
	23	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物を微量含む。

SI372 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P1	楕円形	65×59	110	
P2	楕円形	77×64	84	
P3	隅丸方形	70×61	70	
P4	隅丸方形	60×52	69	
P5	隅丸方形	73×63	18	
P6	円形	60×58	27	

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P7	楕円形	108×(65)	31	
P8	楕円形	73×46	14	
P9	隅丸方形	76×(49)	34	
P10	円形	46×40	41	
P11	楕円形	92×67	28	
P12	隅丸方形	50×50	26	

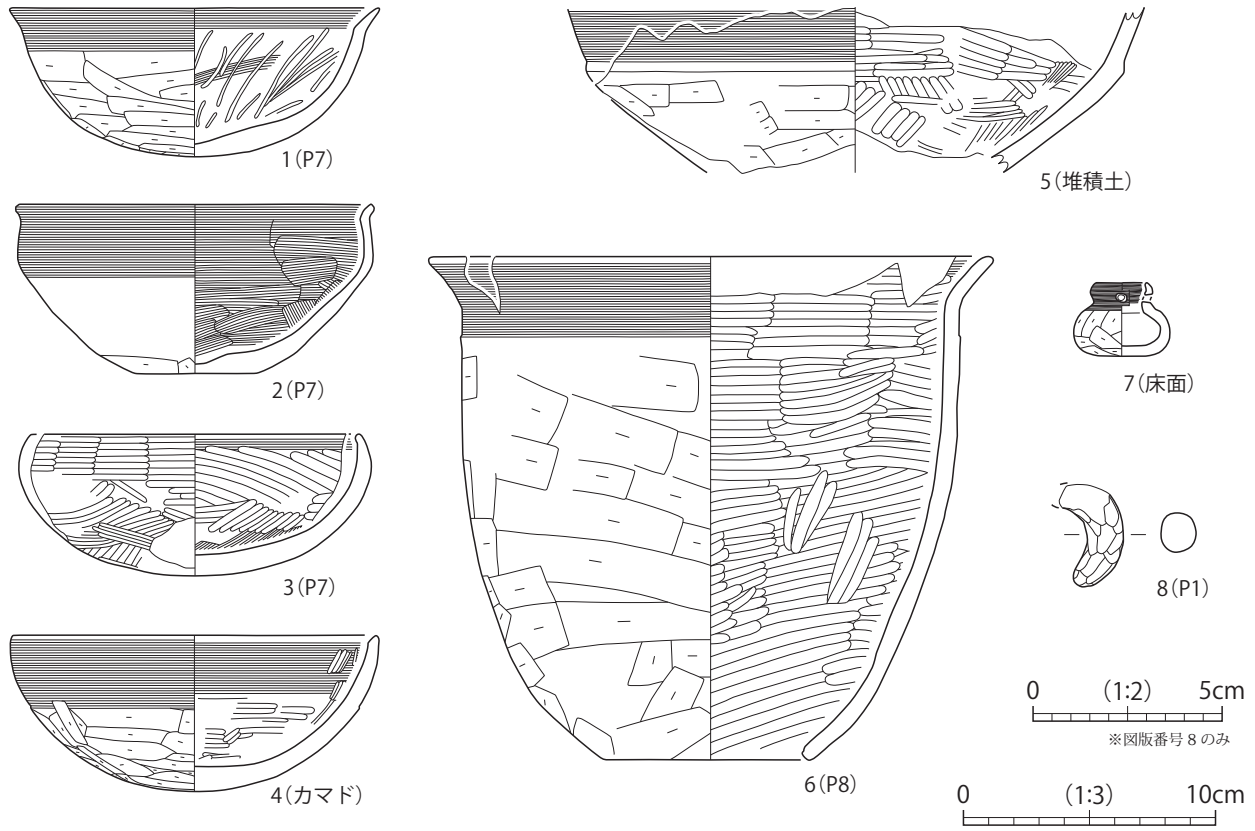
第 44 図　SI372 竪穴住居跡

だ後に煙出し部分に向って緩やかに立ち上がると考えられる。煙出し部分の形状は不明である。カマド構築土は、3 段に積み重ねられた灰白色粘土が使用される。

【その他の施設】 床面から土坑 4 基（P5 ～ 8）、貼床面下から土坑 2 基（P11・12）の総数 6 基を検出した。P5 はカマド東側に位置する平面隅丸方形の土坑で、規模は長径 73cm、深さ 18cm を測る。位置関係から、貯蔵穴と考えられる。P6 は南壁際中央に位置する平面円形の土坑で、規模は長径 60cm、深さ 27cm を測る。堆積状況と位置関係から、入口施設と考えられる。P7 は長軸 108cm、深さ 31cm を測る平面楕円形の土坑で、堆積土中から土師器坏（第 45 図－ 1 ～ 3）がまとまって出土した。P1 の掘り方とも考えられるが、性格は不明である。

【掘り方】 深さ 11 ～ 15cm を測る。底面には起伏がみられ、西側に向かって緩やかに傾斜する。

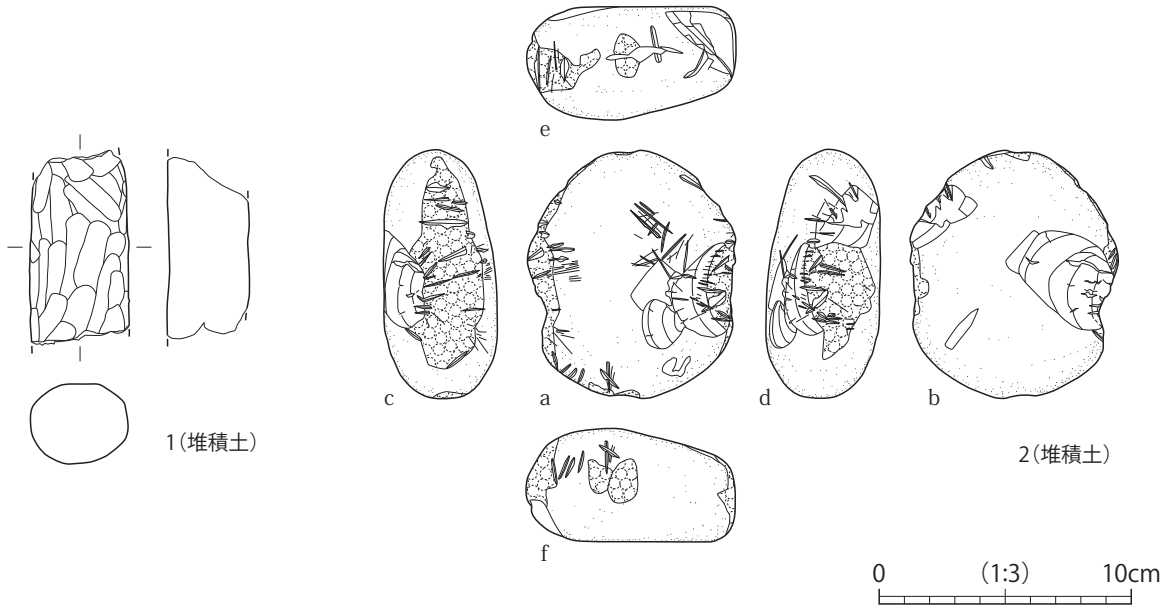
【出土遺物】 住居の面積が広いこともあり、比較的多量の遺物が出土した。土師器の坏 4 点、高坏 1 点、ミニチュ



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-47	SI372	P7	土師器	坏	14.6	－	5.9	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデ→ヘラミガキ		30
2	C-48	SI372	P7	土師器	坏	14.0	4.8	6.7	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデ		30
3	C-46	SI372	P7	土師器	坏	(13.0)	－	5.6	口縁～体部ヘラミガキ	口縁～体部ヨコナデ→ヘラミガキ、底部ヘラナデ		30
4	C-49	SI372	カマド	土師器	坏	14.4	－	6.2	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラミガキ		30
5	C-50	SI372(b区)	堆積土	土師器	高坏？	－	－	(6.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、赤彩	口縁～体部ヘラミガキ		30
6	C-51	SI372	P8	土師器	甑	22.4	8.3	20.0	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ→一部ヘラミガキ、胴部ヘラミガキ	単孔	30
7	C-52	SI372	床面	土師器	ミニチュア土器(壺形)	2.0	2.0	2.9	口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ	口縁部穿孔あり(径0.4cm)	30

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
8	P-11	SI372	P1	土製品	勾玉	(2.7)	径1.0		3.4	ナデ調整	30

第 45 図　SI372 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
1	P-10	SI372(c区)	堆積土	土製品	支脚	(7.7)	径3.9		101.2	ナデ調整	30

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
2	Kc-3	SI372(c区)	堆積土	礫石器	石錘	9.9	8.2	4.5	254.6	凝灰岩		30

第 46 図　SI372 竪穴住居跡出土遺物（2）

ア土器 1 点、甑 1 点、土製品 2 点、礫石器 1 点を図示した（第 45・46 図）。

第 45 図－ 1 ～ 4 は土師器の坏である。1 は体部が半球状を呈し、口縁部が直線状にするどく外傾するものである。体部内面の調整は、ヘラナデ後に放射状にヘラミガキが施される。2 は口縁部が直立し、口唇部で短く外反する。底部は平底を呈する。調整は胴部内面がヘラナデである。3 は口縁部が内湾気味で、底部が丸底である。調整は内外面ともにヘラミガキが主体である。4 は半球状の器形を呈し、調整は口縁部が内外面ヨコナデで、体部は外面がヘラケズリ、内面がヘラミガキである。5 は高坏の坏部と思われ、口縁部と体部の境には段が付く。外面は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリ、内面はヘラミガキで調整され、外面には赤彩が確認できる。6 は甑で、口縁部は直線状に外傾し、胴部上半は円筒状、胴部下半で丸みを帯びつつ窄まる器形である。口縁部と胴部の境にはわずかに段が確認できる。外面は口縁部がヨコナデ、胴部がヘラケズリで、内面はヘラミガキで調整される。7 は壺形のミニチュア土器である。紐を通すためか、頸部の正対する位置に口径 0.4cm の孔が 2 箇所穿たれている。調整は口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面がヘラケズリ、内面は不明である。8 は土製勾玉である。上部が欠損しており、ナデ調整される。

第 46 図－ 1 は土製の支脚である。支脚の上下部が欠損しているが、最大径は 3.9cm を測る。ナデ調整される。2 は両側面の中央部を意識的に打ち欠いているとみられたため石錘とした。ただし、敲石として両側面を敲打している可能性があり、結果として石錘の器形になっているとも考えられる。石材は凝灰岩である。

【時期】 P7 堆積土より第 45 図－ 1 ～ 3、カマドより 4、P8 堆積土より 6 が出土している。これらは直接伴う遺物で、2a 期（6 世紀初頭～前葉）と考えられる。

SI373 竪穴住居跡　※欠番　整理段階で SI365 の一部と判明

SI374 竪穴住居跡（第 47 図）

【位置・確認】 調査区北端西隅の 26 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面でカマドの煙道部のみを確認し、大部分は調査区南壁外へ延びる。

【重複】 SI356、SX36 と重複し、SI356 より新しく、SX36 より古い。

【規模・形態】 不明である。

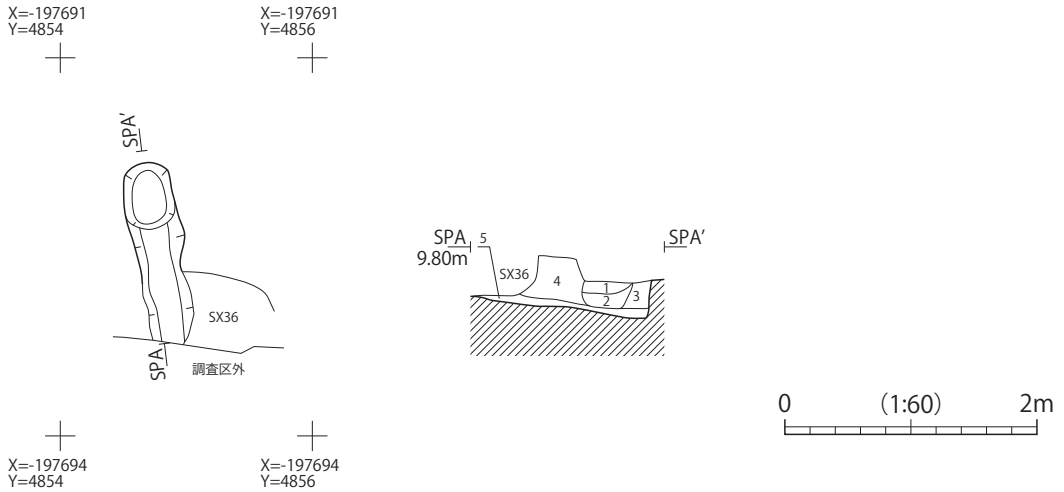
【方向】 カマド煙道部を基準として N － 9°－ W である。

【堆積土】 5 層に分層した。いずれもカマド煙道部関連の堆積土で、1 ～ 3 層は煙出し部分の堆積土、5 層は炭化物を薄板状に含む煙道の堆積土である。

【カマド】 検出した煙道部の規模は、長さ 143cm、幅 32 ～ 42cm、深さ 40cm を測る。底面は、煙出し部分に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部分は平面楕円形を呈するピット状に掘り込まれ、規模は長軸 53cm、深さ 20cm を測る。

【出土遺物】 煙道部から土師器の小片が微量出土したが、図示可能なものはなかった。

【時期】 SI356 が 2b 期（6 世紀中葉～末葉）であることから、それ以降と考えられる。



SI374 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を薄板状に10%含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロックを少量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物を薄板状に30%含む。(煙道)

第 47 図　SI374 竪穴住居跡

SI375 竪穴住居跡（第 48 図）

【位置・確認】 調査区南寄り東端の 23 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出したが、調査区東壁の土層観察からⅢ層上面より掘り込まれる。東側の大部分は調査区東壁外へ延びる。

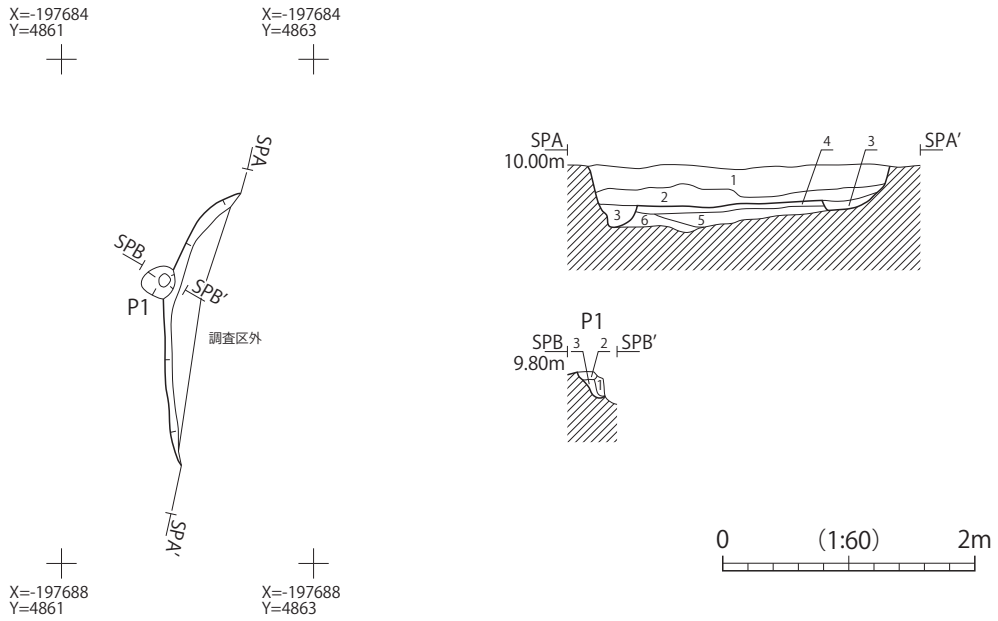
【重複】 SM407 と重複し、それより新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 205cm、短軸 50cm 程を測る。平面形状は、隅丸方形ないし隅丸長方形と推察される。

【方向】 西壁面を基準として N － 3°－ W である。

【堆積土】 6 層に分層した。1・2 層は住居堆積土で、2 層は炭化物・Ⅳ層土ブロックを比較的多く含む。3 層は周溝堆積土、4 ～ 6 層は掘り方埋土で、4 層は貼床面で焼土ブロックを含む。

【壁面】 検出した部分では、ほぼ直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、18 ～ 32cm を測る。



SI375 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(2～20㎜)25%、炭化物10%、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物40%、Ⅳ層土ブロック(5～10㎜)20%、焼土微量含む。
周溝	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物を少量含む。
住居掘り方	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜)50%、炭化物、焼土ブロック微量含む。(貼床面)
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜)50%、炭化物少量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物、焼土粒を微量含む。

SI375 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒30%含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒を微量含む。

SI375 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	26×24	21	

第 48 図　SI375 竪穴住居跡

【床面】 4 層上面を床面とする。貼床である。やや起伏がみられ、北側に向かって緩やかに傾斜する。

【柱穴】 壁面より 1 基（P1）検出した。平面円形で、規模は径 26cm、深さ 21cm を測る。

【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。断面は「U」字状ないし半円状を呈し、規模は幅 15 ～ 30cm、深さ 7 ～ 18cm を測る。

【掘り方】 深さ 9 ～ 21cm である。底面には起伏がみられ、北側が低くなる。

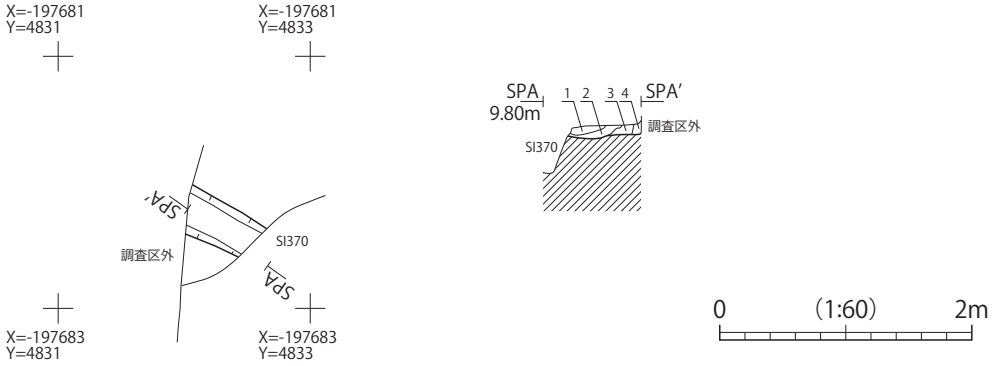
【出土遺物】 堆積土から土師器の小片が出土したが、図示可能なものはなかった。

【時期】 時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

SI376 竪穴住居跡（第 49 図）

【位置・確認】 調査区南側西端の 16 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面でカマド煙道部の一部を検出した。南側は重複する SI370 によって失われており、北側は調査区西壁外へ延びる。SI370 のカマドに隣接することから SI370 に付設するカマドの可能性も考えたが、煙道部の方向が SI370 の N － 34°－ W に対して振りが大きいことから単独の遺構とした。

【重複】 SI370 と重複し、それより古い。



SI376 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物を微量含む、グライ化。
	2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物80%含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物10%含む。
	4	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物90%、焼土粒を微量含む。

第 49 図　SI376 竪穴住居跡

【規模・形態】 不明である。

【方向】 カマド煙道部を基準として N － 60°－ W である。

【堆積土】 4 層に分層した。1 ～ 4 層はいずれもカマド煙道部堆積土で、4 層は煙出し部分の堆積土と考えられる。

【カマド】 検出した煙道部の規模は、長さ 58cm、幅 32 ～ 36cm、深さ 7 ～ 10cm を測る。底面は浅い皿状の窪みから北側に向かって緩やかな立ち上がりを示す。煙出し部分の形状は不明である。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 時期は不明である。

SI377 竪穴住居跡（第 50・51 図）

【位置・確認】 調査区南西隅の 20 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出し、北側は重複する SI370、南側は撹乱により失われる。撹乱の東側で本住居跡の延長は検出されておらず、南側の撹乱内に南東隅が位置すると考えられる。

【重複】 SI370 と重複し、それより古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 125cm、短軸 112cm を測る。平面形状は不明である。

【方向】 東壁面を基準として N － 34°－ W である。

【堆積土】 4 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3 層は周溝堆積土、4 層は掘り方埋土である。

【壁面】 検出した部分では、直線的にほぼ直立する。壁高は 22cm を測る。

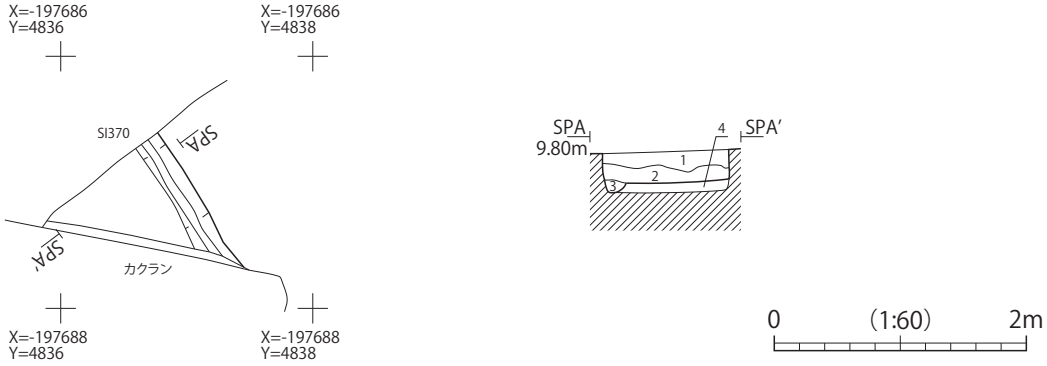
【床面】 4 層掘り方埋土上面を床面とする。検出した部分は、概ね平坦である。

【周溝】 壁面に沿って周る。規模は幅 16cm、深さ 10cm を測る。

【掘り方】 深さ 6 ～ 8cm である。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土から微量の土師器や石器が出土した。土師器甕 1 点を図示した（第 51 図）。1 は小型の甕であり、口縁部は外反し、胴部は上から徐々に窄まり、底部は平底を呈する。口縁部は内外面ヨコナデ、胴部は外面の上半がヘラナデ、下半がヘラケズリ、内面がヘラナデで調整される。

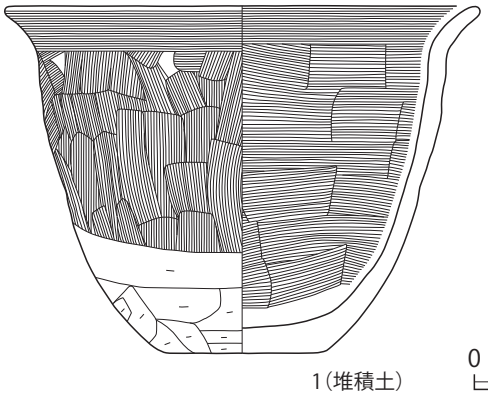
【時期】 直接伴う遺物は出土しておらず、時期は不明である。重複関係からみると、本竪穴住居跡より新しい SI370 が 3 期（7 世紀初頭～前葉）以降であることから、それ以前の時期となる。



SI377 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物5%含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、焼土ブロック微量含む。
周溝	3	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	
住居掘り方	4	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒30%、炭化物を微量含む。

第 50 図　SI377 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	出土地点	層　位	種　別	器　種	法量(cm)		
						口径	底径	器高
1	C-53	SI377	堆積土	土師器	甕	(18.6)	6.5	13.8
	外面調整			内面調整		備　考		写真図版
	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→体部下位ヘラケズリ			口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ				30

第 51 図　SI377 竪穴住居跡出土遺物

SI378 竪穴住居跡（第 52 ～ 54 図）

【位置・確認】 調査区南側西寄りの 16・17・20・21 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出し、南西隅上面は撹乱により失われる。

【重複】 SI365・370・379、Pit107 と重複し、SI379 より新しく、他の遺構より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 376cm、短軸 310cm を測る。平面形状は隅丸長方形である。

【方向】 東壁面を基準として N － 39°－ W である。

【堆積土】 5 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土で、いずれの層も炭化物を含み、2 層は白色粘土中粒を含む。4 層は周溝堆積土で、灰白色火山灰と考えられる白色微粒を含む。5 層は掘り方埋土である。

【壁面】 検出した部分では、直線的に緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は、8 ～ 11cm を測る。

【床面】 5 層掘り方上面を床面とする。起伏がみられ、南側に向かって緩やかに傾斜する。

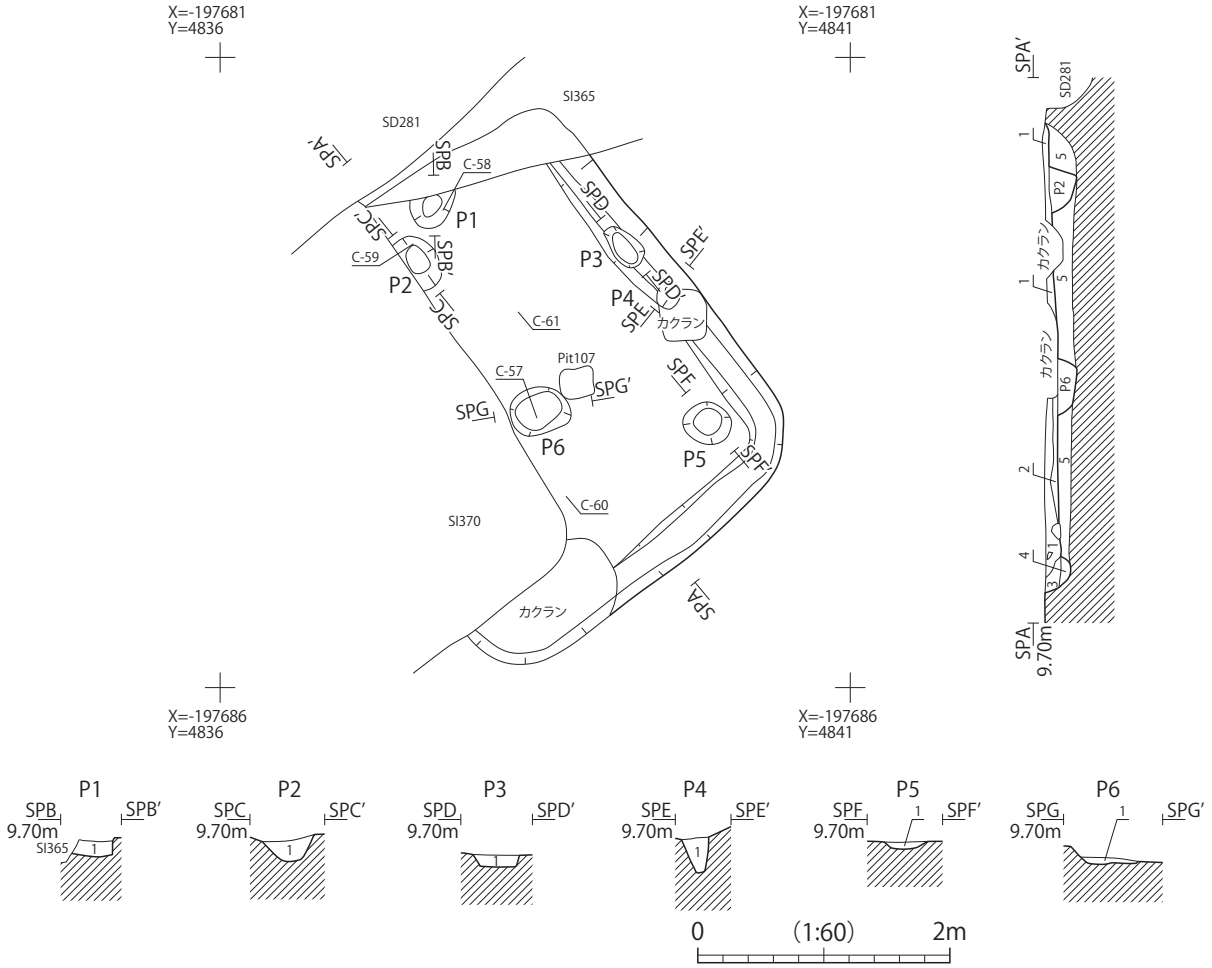
【柱穴】 周溝内から 1 基（P4）検出した。平面楕円形を呈し、規模は長径 20cm、深さ 28cm を測る。

【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。断面は浅い皿状を呈し、規模は幅 20 ～ 30cm、深さ 6 ～ 8cm を測る。

【その他の施設】 床面から土坑 5 基（P1 ～ 3・5・6）を検出した。P1 は平面楕円形を呈し、規模は長軸 32cm、深さ 15cm を測る。堆積土中から土師器甕（第 54 図－ 1）が出土した。P2 は平面楕円形を呈し、規模は長軸 46cm、深さ 20cm を測り、堆積土中から土師器甕（第 54 図－ 2）が出土した。

【掘り方】 深さ 7 ～ 18cm である。底面には起伏がみられ、東壁際を一段深く掘り込む。

【出土遺物】 出土量に対して復元可能な個体が多く、土師器坏 1 点、土師器高坏 1 点、



SI378 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物を微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜）10%、白色粘土中粒少量、焼土粒、炭化物を微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜）30%、炭化物を微量含む。
周溝	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物5%、白色微粒（火山灰）微量含む。
住居掘り方	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰白色粘土ブロック40%、Ⅳ層土ブロック（5～10㎜）20%、炭化物微量含む。

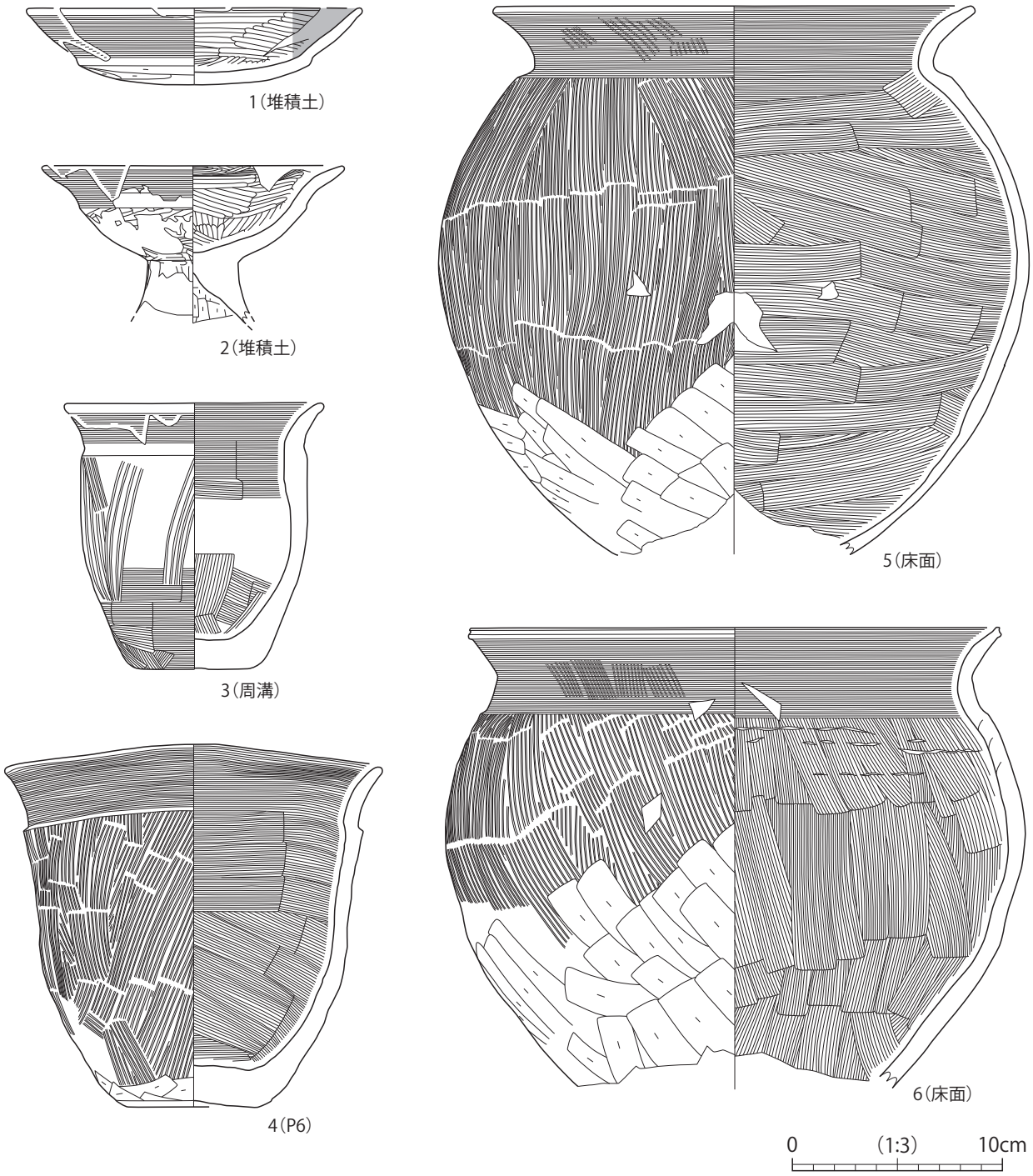
SI378 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒、橙色粒、炭化物を微量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物を微量含む。

SI378 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	32×（25）	15	
P2	楕円形	46×（25）	20	
P3	隅丸長方形	38×22	10	
P4	楕円形	20×（18）	28	
P5	円形	38×35	5	
P6	楕円形	48×38	6	

第 52 図　SI378 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-54	SI378(b区)	堆積土	土師器	坏	(15.8)	—	3.6	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		30
2	C-55	SI378(c区)	堆積土	土師器	高坏	(14.2)	—	(7.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	口縁～体部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ		30
3	C-56	SI378(c区)	周溝	土師器	甕	(12.2)	5.4	12.7	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		30
4	C-57	SI378	P6	土師器	甕	(17.8)	(6.2)	17.3	口縁部ヨコナデ、胴部上～中位ハケメ、胴部下位ハケメ→ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		31
5	C-60	SI378	床面	土師器	甕	(22.6)	—	(26.1)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		31
6	C-61	SI378	床面	土師器	甕	25.2	—	(21.9)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積痕		31

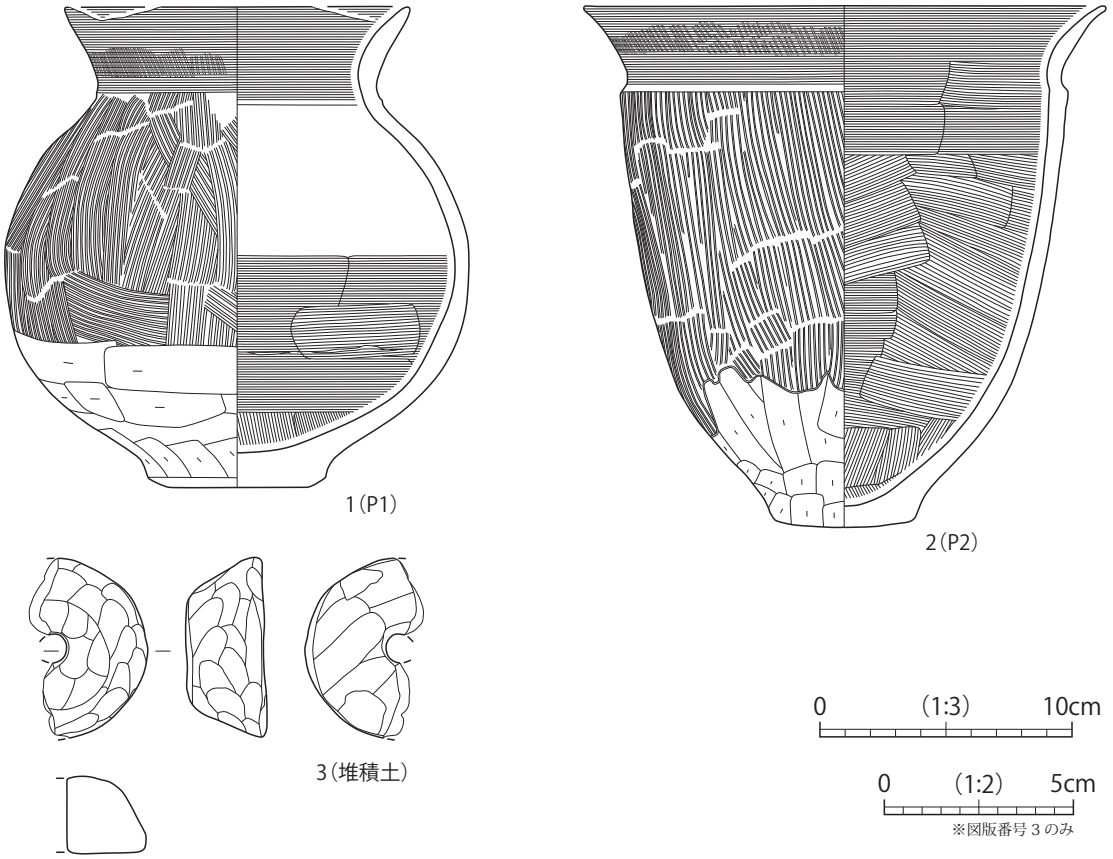
第 53 図　SI378 竪穴住居跡出土遺物（1）

土師器甕 6 点、土製品 1 点を図示した（第 53・54 図）。

第 53 図－ 1 は有段丸底坏であり、口縁部は直線状に外傾し、底部はほぼ丸底を呈する。口縁部と体部の境の段は体部下位にみられる。内面の調整はヘラミガキであり、黒色処理が施される。2 は高坏で、SI370 の堆積土から出土した破片と接合した。器形は口縁部がほぼ直線状に大きく外傾し、口縁部と体部の境には段を有する。脚部は下位をわずかに広げているところまでは確認できる。坏部の体部外面と内面はヘラミガキで調整される。

3・4 は小型の甕である。口縁部が外反し、胴部上半が円筒状、胴部下半がやや窄まる。口縁部と胴部の境には段が確認でき、底部は平底である。調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、胴部は外面がハケメ主体で、内面はヘラナデである。5・6 は大型の球胴甕で、口縁部は外反し、口縁部と胴部の境にわずかに段がみられ、最大径は胴部中央よりやや上である。調整は胴部外面がハケメで、下半はヘラケズリ、胴部内面はヘラナデである。5 は、SI370 の掘り方や堆積土から出土した破片と接合した。6 は、胴部外面のヘラケズリが胴部中央付近まで及んでいる。

第 54 図－ 1 は中型の甕で、口縁部は直線状に外傾し、胴部は球状で、最大径が胴部中央にくる。底部は台部を意識した作りとなっており、口縁部と胴部の境の段はあまり明瞭ではない。胴部の調整は外面がハケメ主体となり、



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-58	SI378	P1	土師器	甕	13.5	5.5	18.9	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		31
2	C-59	SI378	P2	土師器	甕	20.6	5.6	20.7	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ヘラケズリ→粘土貼付→ハケメ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		31

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
3	P-12	SI378(b区)	堆積土	土製品	紡錘車	径(4.8)	孔径0.8	2.0	25.3	ナデ調整	31

第 54 図　SI378 竪穴住居跡出土遺物（2）

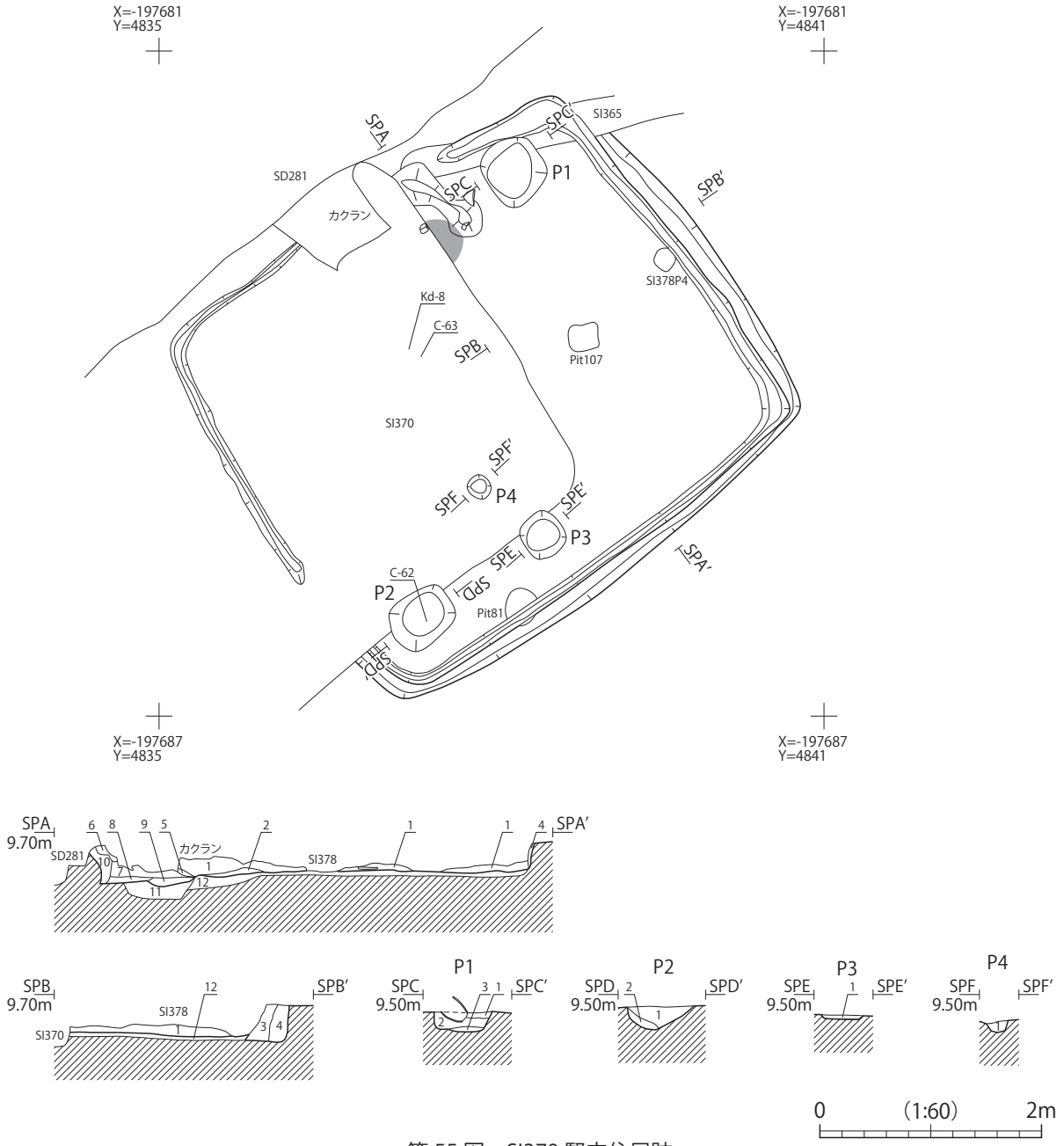
内面がヘラナデとなる。2 の甕は口縁部が外反し、口縁部と胴部の境に段を持ち、胴部は砲弾形、底部は平底を呈する。胴部の調整は外面がハケメ主体であり、内面がヘラナデである。3 は土製の紡錘車であり、半分欠損した状態で出土した。中心の孔径は 0.8cm を測り、ナデ調整される。

【時期】 周溝から出土した第 53 図－ 3、床面から出土した 5・6、P1・2 から出土した第 54 図－ 1・2 などが直接伴う遺物で、3 期（7 世紀初頭～前葉）と考えられる。

SI379 竪穴住居跡（第 55・56 図）

【位置・確認】 調査区南側西寄りの 16・17・20・21 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面、重複する SI370 南東壁面などの観察により検出した。

【重複】 SI365・370・378、SB43、Pit81・107 と重複し、それらより古い。



第 55 図　SI379 竪穴住居跡

SI379 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
周溝	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物を微量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物を微量含む。
カマド	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物を微量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック10%含む。
	7	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土70%、灰白色粘土ブロックを微量含む。
	8	10YR4/4 褐色	シルト	焼土粒10%、炭化物、白色粘土粒を微量含む。
	9	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土主体。
カマド袖	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック、焼土粒を微量含む。
住居掘り方	11	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物を微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜）少量、炭化物を微量含む。

SI379 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	上位に黒褐色シルトブロック30％、Ⅳ層土粒20%、炭化物を微量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土	灰白色粘土ブロック60％、黒褐色シルト中粒、炭化物を微量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物を微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量、炭化物を微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色粘土ブロック10%含む。
P4	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒15%含む。

SI379 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	58×53	18	
P2	隅丸長方形	61×46	22	

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	隅丸方形	40×39	4	
P4	円形	22×20	11	

【規模・形態】 規模は、長軸 480cm、短軸 416cm を測る。平面形状は方形である。

【方向】 カマドを基準として N － 35°－ W である。

【堆積土】 12 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3・4 層は周溝堆積土で堰板跡と考えられる。5 ～ 10 層はカマド関連の堆積土で、9 層は焼土、10 層はカマド構築土である。11・12 層は掘り方埋土である。

【壁面】 検出した部分では、ほぼ直立する。壁高は 23 ～ 33cm を測る。

【床面】 1・2 層下の掘り方埋土上面を床面とする。床面には、軽微な起伏が多くみられる。

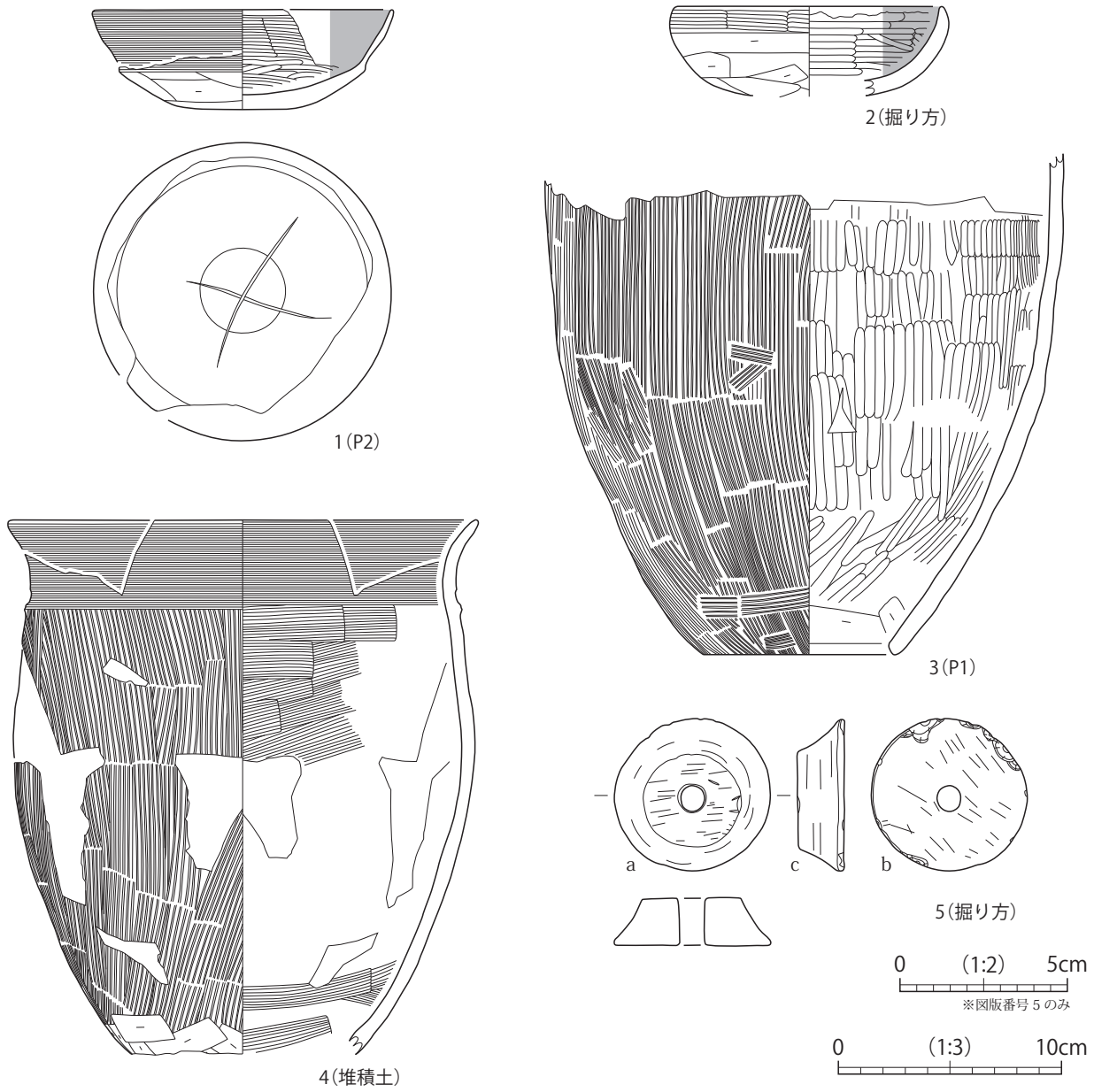
【周溝】 北壁のカマド周辺および西壁の一部を除いて全周する。残存状態の良い東・南壁際では、南東隅を除き壁面より 20cm 程内側に周溝が位置しており、北・西壁際も同様であったと推察される。周溝は断面「U」字状を呈し、規模は幅 5 ～ 25cm、深さ 2 ～ 27cm を測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、北壁にほぼ直交して付設されると考えられる。袖の規模は、東袖が長さ 75cm、幅 32cm を測る。西袖は SI370 によって失われている。東袖の形状から、袖は壁面に対して馬蹄形状に付設されていたと考えられる。東袖の先端部から長さ 35cm、幅 18cm、厚さ 10cm 前後の自然礫が直立した状態で出土した。出土状況からカマド袖芯材と考えられる。燃焼部の規模は奥行き 50cm、幅は推定で 40cm 程、奥壁高は 15cm 程と考えられる。底面は皿状に 5cm 程窪み、径 44cm 程の焼面がみられる。焼面中央に長さ 15cm、幅 10cm、厚さ 3cm 程の礫が埋設されており、位置関係から支脚と考えられる。奥壁および煙道部は失われており、形状は不明である。

【その他の施設】 床面から土坑 4 基（P1 ～ 4）を検出した。P1 は北東隅に位置し、平面隅丸方形を呈す。規模は長軸 58cm、深さ 18cm を測る。底面には粘土が貼られ、堆積状況から人為的に埋め戻されていると考えられる。形状や位置関係から貯蔵穴と考えられ、堆積土中から土師器甑（第 56 図－ 3）が出土した。P2 は南西隅に位置し、平面隅丸長方形を呈す。規模は、長軸 61cm、深さ 22cm を測る。P3 は平面隅丸方形を呈し、。堆積土に白色粘土ブロックを含む。規模は長辺 40cm、深さ 4cm を測る。P4 は平面円形で、規模は径 22cm、深さ 11cm を測る。

【掘り方】 深さ 5 ～ 13cm である。カマド周辺が一段深く掘り下がる。底面はほぼ平坦で、中央部から土師器坏（第 56 図－ 2）と石製紡錘車（第 56 図－ 5）が出土した。

【出土遺物】 石製紡錘車 1 点以外は土師器で、出土量は少量である。土師器坏 2 点、土師器甑 1 点、土師器甕 1 点、石製品 1 点を図示した（第 56 図）。1 は有段丸底坏であり、口縁部と体部の境に段を持ち、底部は平底を呈する。また、底部には「×」のヘラ記号が確認できる。調整は外面口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリ、内面がヘラミ



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-62	SI379	P2	土師器	坏	(13.5)	—	4.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラ記号「×」	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		32
2	C-63	SI379	掘り方	土師器	坏	(12.0)	—	(4.1)	口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		32
3	C-65	SI379	P1	土師器	甑	—	8.6	(22.5)	胴部ハケメ	胴部ヘラミガキ→胴部下位ヘラケズリ	単孔	32
4	C-64	SI379(b区)	堆積土	土師器	甕(甑)	(21.0)	(10.1)	24.0	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→胴部下位ヘラケズリ	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ヘラナデ		32

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
5	Kd-8	SI379	掘り方	石製品	紡錘車	径4.7	孔径0.8	1.5	37.3	粘板岩		32

第 56 図　SI379 竪穴住居跡出土遺物

ガキで黒色処理が施される。2 は口縁部と体部の境に段や稜が不明瞭で、丸みを帯びる。外面は口縁部がヘラミガキ、体部がヘラケズリ、内面はヘラミガキで調整される。また、内面には黒色処理が施される。3 は単孔の甑であり、胴部上半は円筒状、胴部下半は窄まる。胴部外面はハケメ、胴部内面はヘラミガキ、下位はヘラケズリで調整される。4 は大型の甕であり、口縁部は外反し、口縁部と胴部の境に段を持ち、胴部は楕円状を呈する。口縁部は内外面ヨコナデで、胴部は外面がハケメ、下位はヘラケズリ、内面はヘラナデで調整される。底部を意識的に欠いて甑として転用した可能性が考えられる。5 は、粘板岩製の紡錘車である。

【時期】 掘り方より出土した土師器坏（第 56 図－ 2）が直接伴う遺物で、3 期（7 世紀初頭～前葉）と考えられる。重複関係にある SI378 も 3 期と考えており、3 期の中でもそれよりは古くなる。

SI380 竪穴住居跡（第 57 図）

【位置・確認】 調査区中央部の 13 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で、煙道部を検出した。

【重複】 SI372 と重複し、それより古い。

【規模・形態】 不明である。

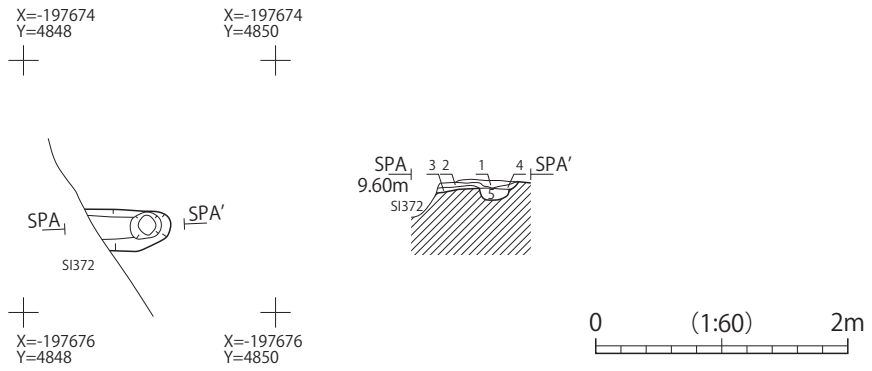
【方向】 カマド煙道部を基準として N － 90°－ E である。方向から、本調査区で唯一の東カマドと考えられる。

【堆積土】 5 層に分層した。1 ～ 5 層はカマド煙道部関連の堆積土で、5 層は煙出し部分の堆積土である。

【カマド】 検出した煙道部の規模は、長さ 61cm、幅 33cm、深さ 7cm を測る。底面は概ね平坦で、煙出し部分に向かって緩やかに立ち上がる。煙出し部分は平面楕円形、断面は半円状のピット状を呈す。規模は長径 25cm、深さ 16cm を測る。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【時期】 重複関係にある SI372 が 2a 期（6 世紀初頭～前葉）であることから、それ以前の時期である。



SI380 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1	10YR4/4 褐色	シルト	焼土30%、焼土粒10%、炭化物、Ⅳ層土粒を微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化粒を微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	帯状に焼土ブロック（10～25㎜）30％含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒、炭化物を微量含む。

第 57 図　SI380 竪穴住居跡

SI381 竪穴住居跡（第 58・59 図）

【位置・確認】 調査区北東隅の 7・11 グリッドに位置する。大半は撹乱により失われる。

【重複】 SI366、SA7、SD278、Pit91・147 と重複し、それらより古い。

【規模・形態】 検出した部分の規模は、長軸 432cm、短軸 143cm を測る。平面形状は、隅丸方形ないし隅丸長

方形と考えられる。

【方向】 東壁面を基準としてＮ－17°－Ｗである。

【堆積土】 5 層に分層した。1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土、3・4 層はカマド関連の堆積土で、3 層は被熱による赤化がみられ燃焼部と考えられる。5 層は掘り方埋土である。

【壁面】 検出した部分では、ほぼ直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、5 ～ 13cm を測る。

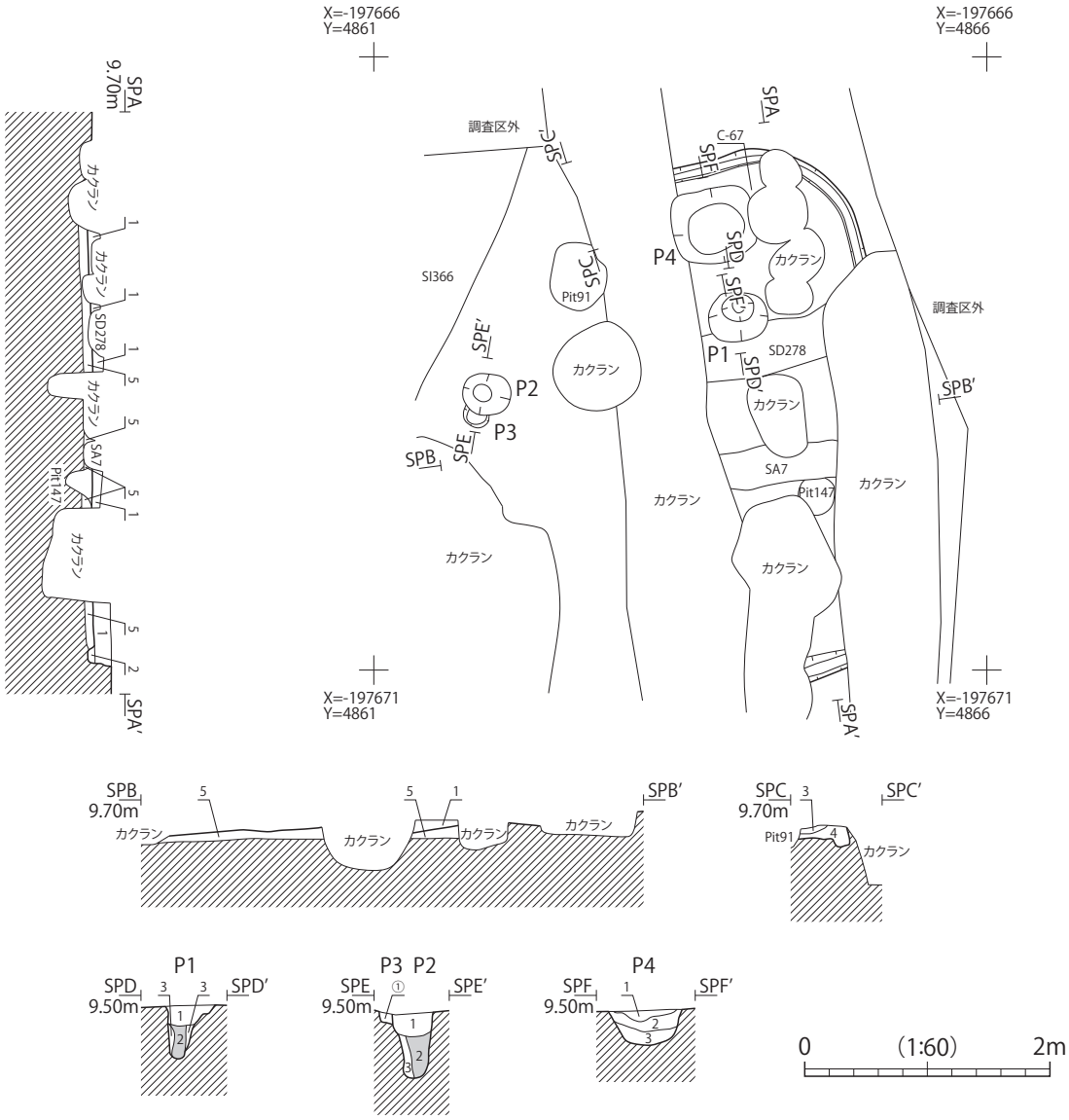
【床面】 5 層掘り方埋土上面を床面とする。起伏はみられるが、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 3 基（P1 ～ 3）検出した。P1 の規模は長径 49cm、深さ 44cm、P2 の規模は長径 39cm、深さ 53cm を測る。P1・2 は、規模と位置関係から主柱穴と考えられる。

【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。規模は、幅 10cm 前後、深さ 4 ～ 6cm を測る。

【カマド】 北壁ほぼ中央部に位置したと推察される。撹乱の断面でカマド関連の堆積土を一部確認したのみで、規模や形状は不明である。

【その他の施設】 床面から土坑 1 基（P4）を検出した。P4 は北東隅に位置し、平面隅丸方形を呈す。規模は長辺



第 58 図　SI381 竪穴住居跡

SI381 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物微量含む。
周溝	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%含む。
カマド	3	7.5YR5/4 にぶい褐色	シルト	焼土ブロック(10～20㎜)40%含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰白色粘土粒50%、焼土粒5%含む。
住居掘り方	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、灰白色粘土粒少量、焼土粒微量含む。

SI381 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物少量、焼土粒を微量含む。(柱抜取痕)
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物少量含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%、炭化物を微量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%、炭化物を微量含む。(柱抜取痕)
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物を微量含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む。
P3	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック60%、炭化物微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック40%、炭化物20%、Ⅳ層土中粒少量含む。
	3	10YR7/2 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、焼土粒、炭化物を微量含む、グライ化。

SI381 施設観察表

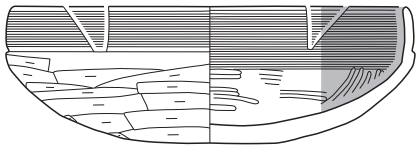
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	49×41	44	
P2	楕円形	39×34	53	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	円形	22×(11)	8	
P4	隅丸方形	(68)×62	28	

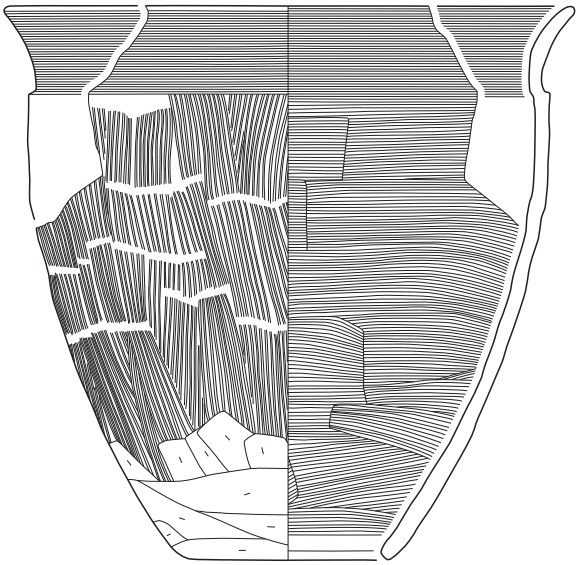
63cm、深さ 28cm を測る。堆積土に焼土ブロック・炭化物を多く含み、カマド関連の施設の可能性もあるが、位置関係からは貯蔵穴と考えられる。P4 から土師器坏（第 59 図－ 1)、床面から土師器甑（第 59 図－ 2）などが出土した。

【掘り方】 深さ 6 ～ 10cm である。底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 出土遺物は土師器が主体であり、出土量は他の住居に比べ少量である。土師器坏 1 点、土師器甑 1 点を図示した（第 59 図)。1 は関東系土師器の坏であり、口縁部は直立し、底部が丸底を呈する。調整は口縁部が内外面ヨコナデ、体部外面がヘラケズリ、体部内面がヘラミガキであり、内面は黒色処理が施される。2 は単孔



1(P4)



2(床面)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-66	SI381	P4	土師器	坏	(15.6)	―	5.4	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、黒色処理		32
2	C-67	SI381	床面	土師器	甑	(22.4)	8.0	22.0	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	単孔	32

第 59 図　SI381 竪穴住居跡出土遺物

の甑であり、口縁部が外反し、口縁部と胴部の境に段を持ち、胴部上半が円筒状、胴部下半が窄まる。胴部の調整は外面がハケメ、下半がヘラケズリ、内面がヘラナデである。

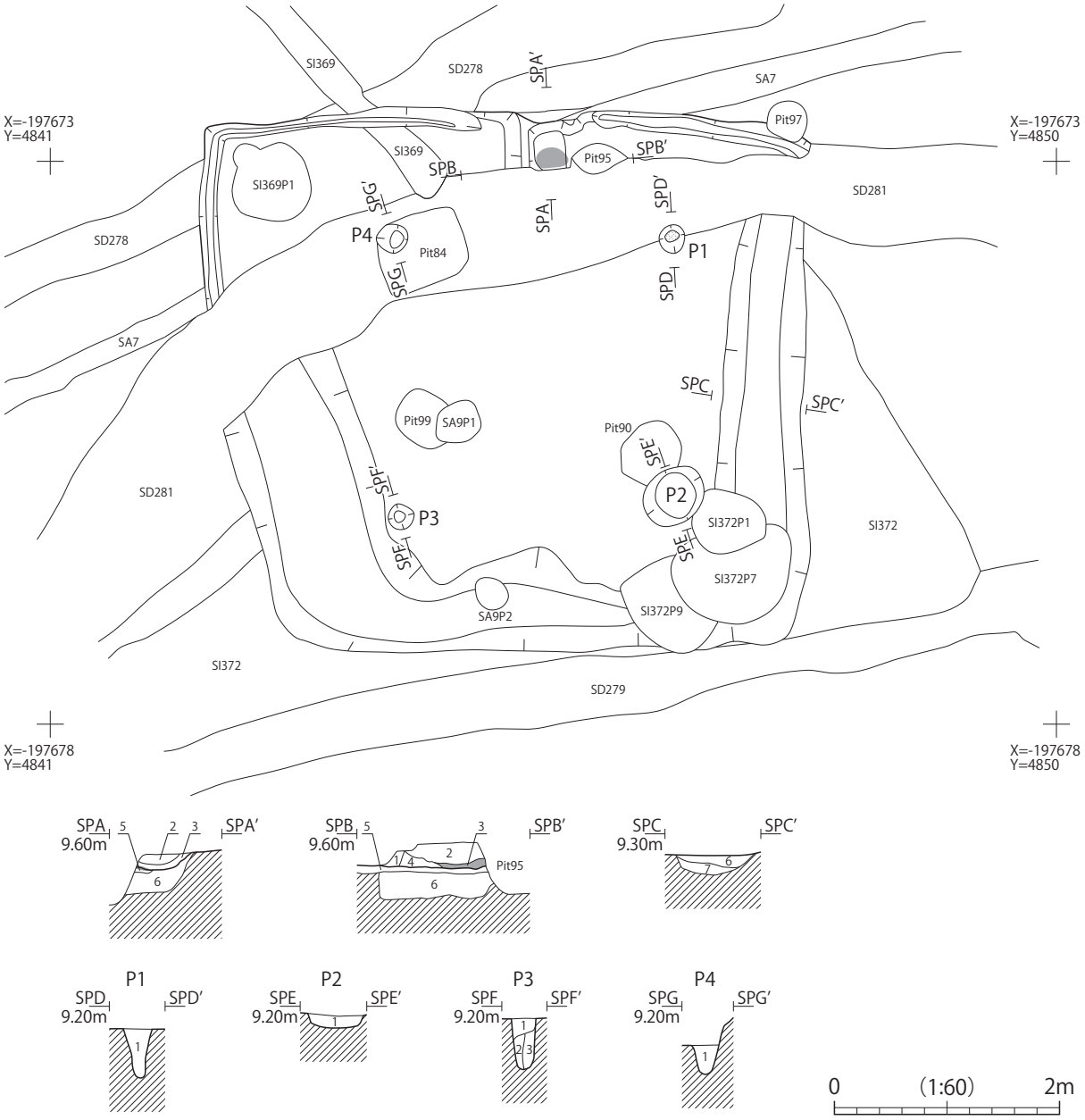
【時期】 床面から出土した土師器甑（第 59 図－ 2）が直接伴う遺物で、2b ～ 3 期（6 世紀中葉～ 7 世紀前葉）と考えられる。

SI382 竪穴住居跡（第 60 図）

【位置・確認】 調査区中央部北側の 9・13 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で確認し、南側の大部分を重複する遺構によって失う。

【重複】 SI369・372、SA7、SD278・279・281、Pit84・88・90・95・97・99・103 と重複し、それらより古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 535cm、短軸 480cm を測る。平面形状は方形である。



第 60 図　SI382 竪穴住居跡

SI382 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物、橙色粒を微量含む。
カマド	2	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック5%、炭化物を微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒80%、炭化物薄い板状に5%含む。
カマド袖	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒、炭化物を微量含む。
住居掘り方	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物を微量含む。(貼床面)
	6	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜)30%、炭化物を微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。

SI382 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物を微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土ブロックを微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒、炭化物を微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物を微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物、焼土粒を微量含む。

SI382 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	26×24	43	
P2	円形	58×49	11	
P3	円形	24×24	46	
P4	円形	27×25	25	

【方向】 カマドを基準としてＮ－2°－Ｗである。

【堆積土】 7 層に分層した。1 層は住居堆積土、2 ～ 4 層はカマド関連の堆積土で、2 層は天井崩落土、3 層は燃焼部、4 層はカマド構築土である。5 ～ 7 層は掘り方埋土で、5 層は貼床面である。

【壁面】 北壁のみの残存であり、緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は 24cm 程を測る。

【床面】 5 層上面を床面とする。貼床である。検出した部分では、やや起伏は見られるが概ね平坦である。

【柱穴】 SI372 掘り方から 3 基（P1 ～ 3）、SD281 底面から 1 基（P4）、計 4 基を検出した。位置関係からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長径 24 ～ 58cm、深さ 11 ～ 46cm を測る。

【周溝】 検出した部分では、北壁のカマド周辺を除き壁面に沿って周る。規模は、幅 12 ～ 15cm、深さ 7 ～ 11cm を測る。

【カマド】 北壁中央部やや東寄りに位置し、北壁面に直交して付設されている。検出した西袖の規模は、長さ 48cm、幅 26cm を測る。袖は壁面に直交して付設されていたと考えられる。検出した燃焼部の規模は、奥行き 20cm、幅 36cm、奥壁高 10cm 程である。奥壁は緩やかに立ち上がり、長径 28cm の平面半円形の焼面がみられる。

【掘り方】 深さ 22 ～ 36cm である。底面にはやや起伏がみられ、壁面に沿って一段掘り下げる。

【出土遺物】 SI382 の出土遺物として取り上げたものは土師器がわずかにみられるのみであるが、重複する SD281 や SI372 の出土遺物に混入している可能性がある。SI382 の出土遺物として明らかなものの中には、図示可能な遺物はなかった。

【時期】 重複関係にある SI369 を 4 ～ 5 期（7 世紀中葉～ 8 世紀初頭）、SI372 を 2a 期（6 世紀初頭～前葉）としていることから、SI382 は 2a 期以前になると考えられる。

SI383 竪穴住居跡（第 61・62 図）

【位置・確認】 調査区中央部西寄りの 17・21 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出し、東半は重複する SI372 によって失われる。

【重複】 SI372、SK324、Pit59 と重複し、それらより古い。

【規模・形態】 検出した規模は、長軸 452cm、短軸 447cm を測る。平面形状は方形である。

【方向】 西壁面を基準としてＮ－24°－Ｗである。

【堆積土】 8 層に分層した。1 ～ 5 層は住居堆積土で、2 層は灰白色粘土ブロックを比較的多く含む。6 層は周溝

堆積土、7・8 層は掘り方埋土である。

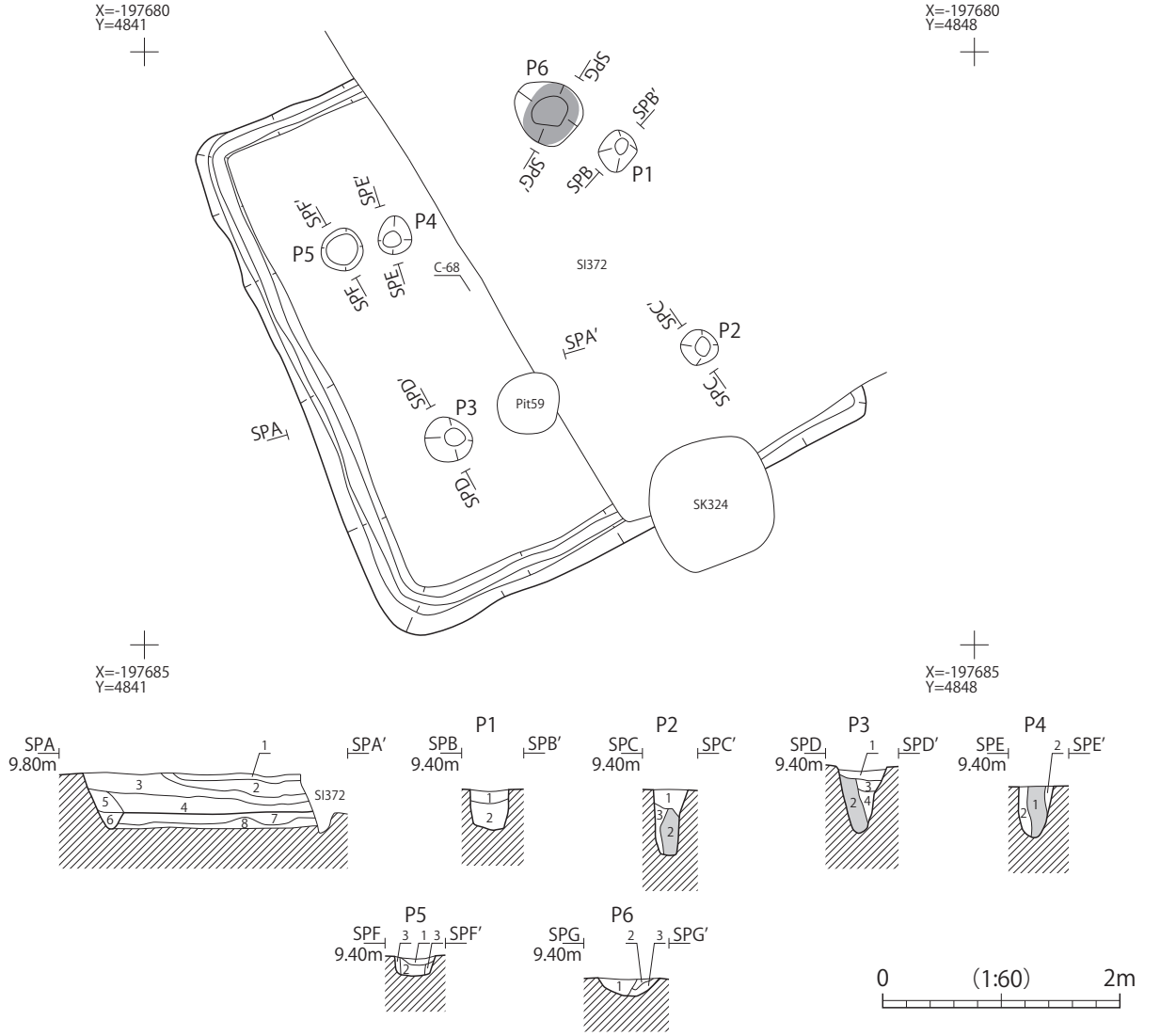
【壁面】 直線的に外傾して立ち上がる。壁高は、13 ～ 32cm を測る。

【床面】 7 層掘り方埋土上面を床面とする。緩やかな起伏はみられるが、概ね平坦である。

【柱穴】 SI372 掘り方から 2 基（P1・2）、床面から 2 基（P3・4）、計 4 基を検出した。規模や位置関係から主柱穴と考えられる。規模は、長径 31 ～ 40cm、深さ 33 ～ 57cm を測る。P2 ～ 4 は、径 14 ～ 16cm の柱痕跡がみられる。

【周溝】 検出した部分では、壁面に沿って全周する。規模は、幅 10 ～ 22cm、深さ 7 ～ 14cm を測る。

【その他の施設】 床面から土坑 1 基（P5）、SI372 掘り方から土坑 1 基（P6）を検出した。P6 は平面円形を呈し、規模は長径 58cm、深さ 14cm を測る。堆積土に焼土を多量に含み、堆積状況から人為的に埋め戻されていると考



SI383 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物15%、焼土粒を微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック20%含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜）少量、炭化物を微量含む。
	4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物を微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%含む。
周溝	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒を少量含む。
住居掘り方	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～30㎜）20%、炭化物を微量含む。

第 61 図　SI383 竪穴住居跡

SI383 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック主体、焼土粒、炭化物を微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック主体。(柱抜取痕)
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒、炭化粒を微量含む。(柱痕跡)
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%含む。(柱抜取痕)
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化粒を微量含む。(柱痕跡)
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒、炭化物を少量含む。(柱痕跡)
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化粒を微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化粒を微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒20%含む。
P6	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック60%、炭化物を少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック主体、焼土粒、炭化粒を微量含む。
	3	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック20%、炭化物、Ⅳ層土ブロック少量含む。

SI383 施設観察表

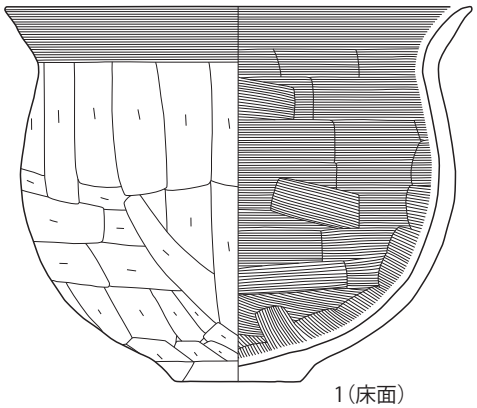
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	32×28	33	
P2	円形	31×29	56	
P3	円形	40×38	57	
P4	楕円形	32×28	44	
P5	円形	37×35	14	
P6	楕円形	58×50	14	

えられる。規模や位置関係から、貯蔵穴ないしはカマド関連の施設と考えられる。

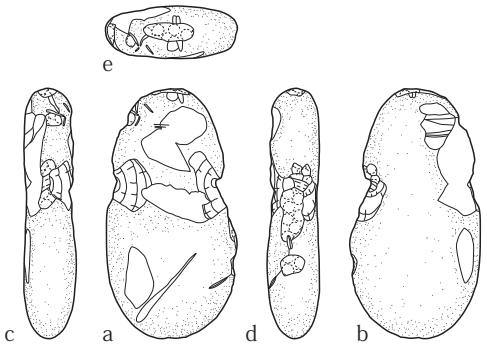
【掘り方】 深さ 12 ～ 14cm である。底面は軽微な起伏がみられるが、概ね平坦である。

【出土遺物】 土師器と石製品が少量出土した。土師器甕 1 点と礫石器 1 点を図示した(第 62 図)。1 は小型の甕で、口縁部はほぼ直線状に外傾し、胴部は球状を呈し、底部は台を意識した作りとなっている。胴部外面はヘラケズリ、胴部内面はヘラナデで調整される。2 は楕円形の礫の両側面を意識的に打ち欠いていると考えられたため、石錘とした。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面から出土した土師器甕（第 62 図－ 1）が直接伴う遺物で、2a 期（6 世紀初頭～前葉）以前と考えられる。重複関係にある SI372 は 2a 期であるが、それより古い段階となる。



1（床面）



2（堆積土）

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-68	SI383	床面	土師器	甕	18.4	5.0	14.9	口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		32

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
2	Kc-4	SI383	堆積土	礫石器	石錘	9.9	5.2	2.1	69.8	凝灰岩		32

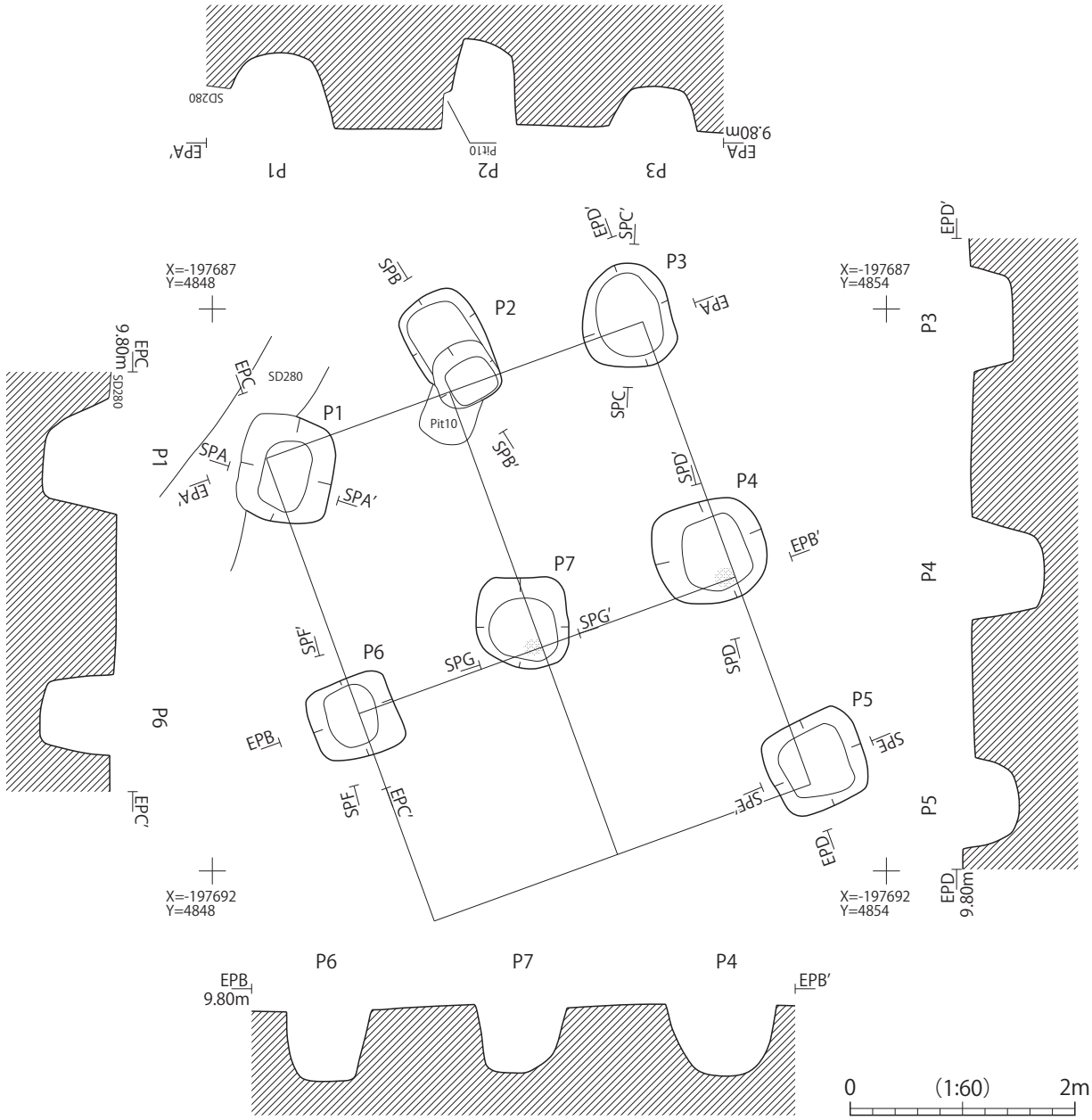
第 62 図　SI383 竪穴住居跡出土遺物

（2）掘立柱建物跡（第 63 ～ 67 図）

本調査区で掘立柱建物跡 3 棟を検出したが、調査時に検出したものは SB42 の 1 棟である。SB43・44 については、調査段階で桁行の柱列は確認していたが梁間が不明であり、整理段階で柱穴の規模や形状、柱間寸法などから掘立柱建物跡とした。本調査区で検出した単独ピットには柱痕跡の認められるものが多くあり、さらに掘立柱建物跡が存在した可能性も考えられる。

SB42 掘立柱建物跡（第 63・64 図）

調査区中央部南端の 21・22・25・26 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で 7 基の柱穴を検出した。SI355・356・359、SD280 と重複し、SI355・356・359 より新しく SD280 より古い。



第 63 図　SB42 掘立柱建物跡（1）

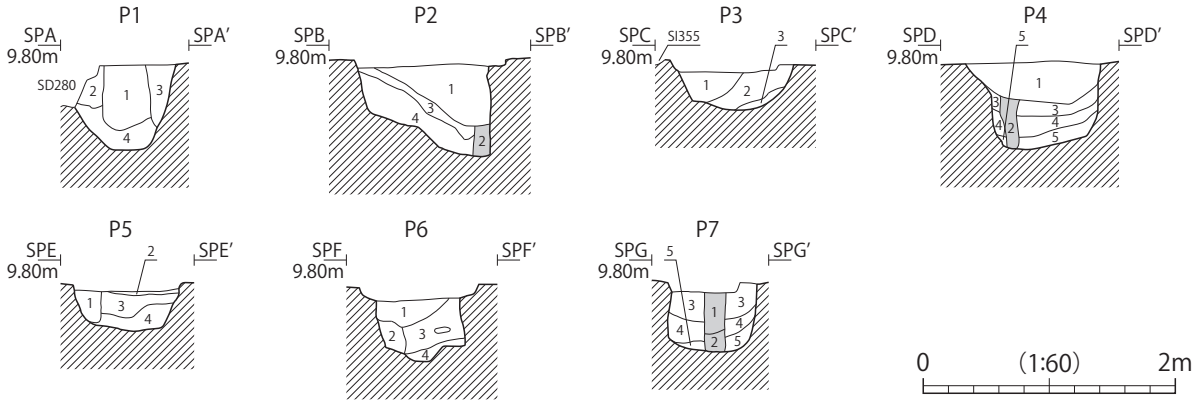
桁行（南北）2 間、梁間（東西）2 間の南北棟の総柱建物跡と考えられる。棟方向は東側の桁行方向で N － 20° － W である。

規模は桁行総長 450cm、梁間長 360cm を測る。柱間寸法は、桁行北柱間（P1 ～ P6・P2 ～ P7・P3 ～ P4）で 240cm、南柱間（P4 ～ P5）では 210cm を測り、梁間は 180cm で等間である。

柱掘り方は平面隅丸方形を基本形としており、規模は長軸 76 ～ 105cm、短軸 67 ～ 92cm と大型である。断面形は箱状ないし台形状を呈し、深さ 31 ～ 69cm を測る。P2・4・6 では柱抜取痕がみられ、P2・4・7 で径 13 ～ 16cm の柱痕跡、P4・7 の底面で径 16cm 程の変色範囲が確認できた。

遺物は P2 ～ 7 の堆積土から土師器や須恵器の破片が少量出土したのみで、図示できるものはない。

時期は、重複する SI355 を 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）としたことから、5 期以降と考えられる。



第 64 図　SB42 掘立柱建物跡（2）

SB42 掘立柱建物跡 観察表

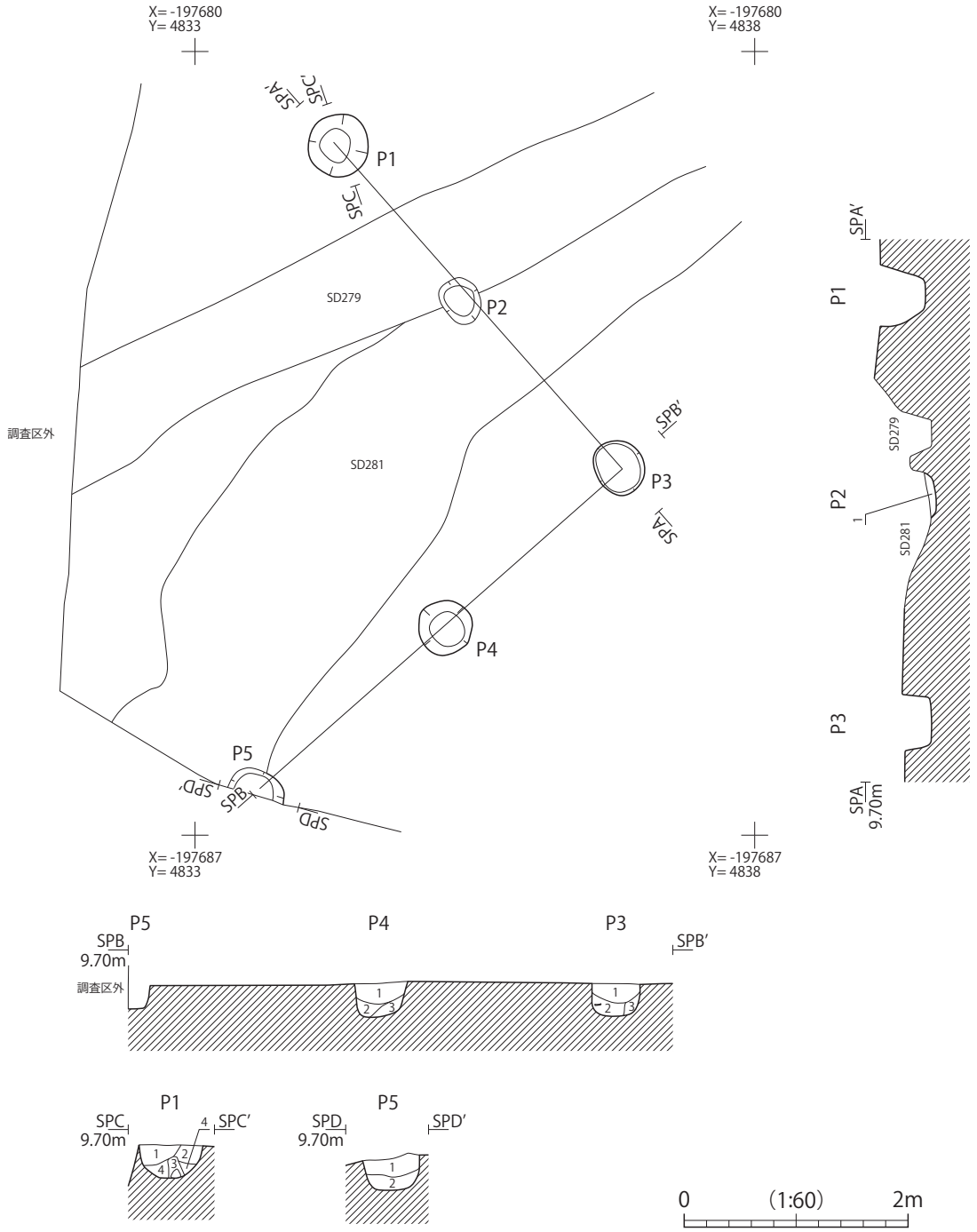
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	21	隅丸方形	95×82	67	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む。	SI355より新しく、SD280より古い
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒、炭化物を微量含む。	
P2	21・22	隅丸長方形	105×67	34	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物、焼土微量含む。(柱抜取痕)	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20～50㎜)10%、炭化物を微量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。	
P3	22	楕円形	93×81	30	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	SI355・S1356より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物、橙色粒微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
P4	22	隅丸方形	98×92	69	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物微量含む、グライ化。(柱抜取痕)	SI355・356より新しい
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物微量含む、グライ化。(柱痕跡)	
					3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック帯状に20%、炭化物微量含む、グライ化。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む、グライ化。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む、グライ化。	
P5	26	隅丸方形	85×82	31	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SI355より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒、炭化物、橙色粒を微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜)30%含む。	
					4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物微量含む。	
P6	25・26	隅丸方形	76×71	49	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物10%含む。(柱抜取痕)	SI359より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物微量含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。	
P7	22・26	楕円形	82×80	55	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物40%、焼土粒10%、Ⅳ層土粒微量含む。(柱痕跡)	SI355より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	粘質シルト	炭化物80%、Ⅳ層土粒微量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。	
					5	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	

SB43 掘立柱建物跡（第 65 図）

調査区南西隅の 16・20 グリッドに位置し、5 基の柱穴を検出した。SI365・370・379、SD279・281 と重複し、SI365・370・379 より新しい。SD279・281 との新旧関係は、直接的な切り合いがないため確認できなかった。

検出した部分は南北 2 間、東西 2 間の範囲で、北側および西側は調査区外へ延びるため全体の規模は不明である。

規模は南北総長 390cm、東西総長 420cm を測り、柱間寸法は南北柱列の P1 ～ P2 が 180cm、P2 ～ P3 が 210cm、東西柱列は 210cm で等間である。柱間寸法から南北棟の側柱建物跡と考えられ、棟方向は東側の桁行方向で N － 42°－ W である。



第 65 図　SB43 掘立柱建物跡

SB43 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	16	円形	56×55	30	1	7.5Y4/1 灰色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物3%含む。グライ化。	SI365・370より新しい
					2	7.5Y4/1 灰色	シルト	Ⅳ層土粒、炭化物微量含む。グライ化。	
					3	5Y4/1 灰色	粘土質シルト	Ⅳ層粒10%、僅かに炭化物含む。グライ化。	
					4	10Y3/1 オリーブ黒色	シルト	Ⅳ層土中粒20%、炭化物微量含む。グライ化。	
P2	16	円形	43×33	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物、Ⅳ層土ブロック各10%含む。	SD279・281より古い
P3	16	円形	50×44	30	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI379より新しい
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒30%含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量、Ⅳ層土小粒含む。	
P4	16・20	円形	50×48	30	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	SI370より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層小粒10%含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒20%含む。	
P5	20	隅丸方形	51×(22)	33	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI370より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒20%含む。	

柱掘り方は、平面円形で、規模は長径 43 ～ 56cm、深さ 11 ～ 33cm を測る。断面形は「U」字状を呈す。

遺物は P3 ～ 5 の堆積土から土師器がわずかに出土したが、図示可能なものはなかった。

時期は、重複する SI365 を 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と推定しており、SB43 はそれ以降と考えられる。

SB44 掘立柱建物跡（第 66・67 図）

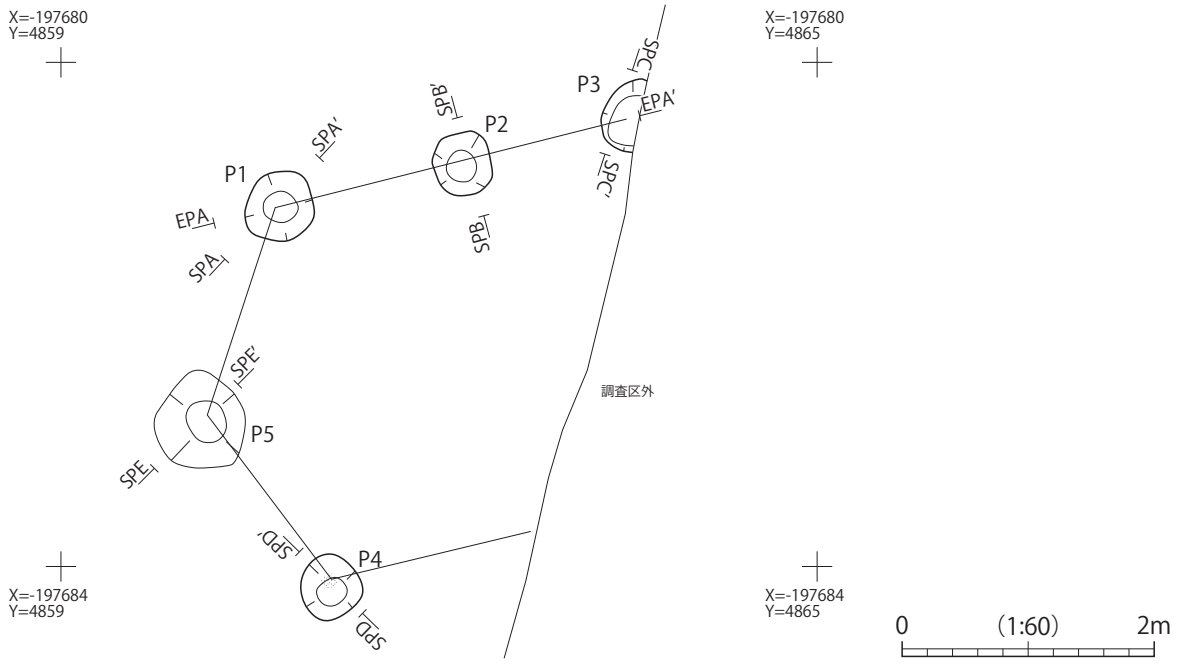
調査区南寄り東端の 18・19 グリッドに位置し、5 基の柱穴を検出した。SI361、SX35、SM413 と重複し、SI361、SM413 より新しく、SX35 より古い。東側は調査区外へ延びる。

桁行（東西）2 間以上、梁間（南北）1 間の東西棟の独立棟持式の側柱建物跡で、北側桁行方向を基準とした棟方向は N － 76°－ E である。

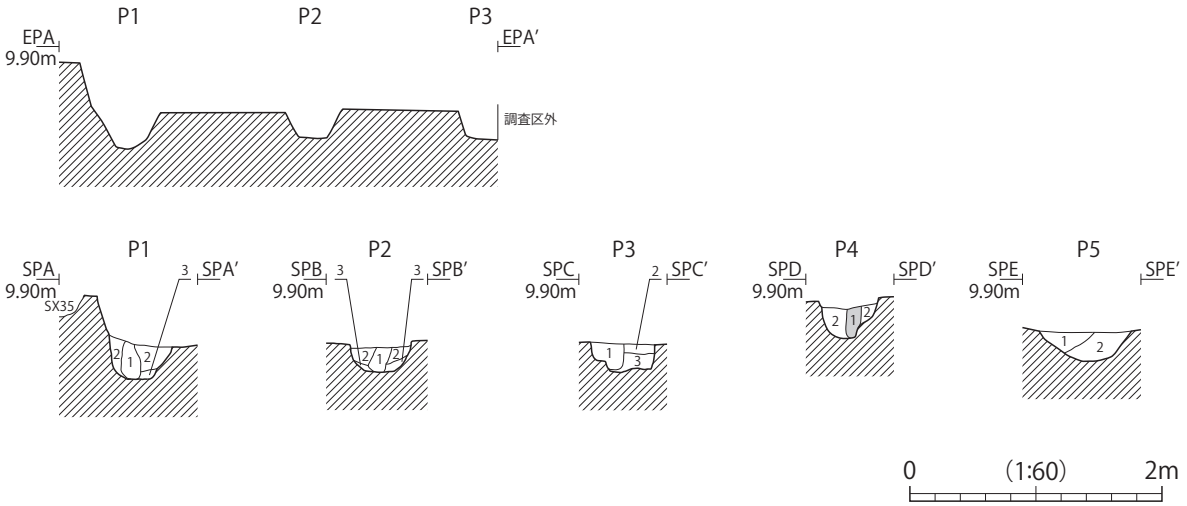
規模は、桁行総長 300cm、梁間長 300cm を測り、西側梁間の中央より 80cm 西側に棟持柱（P5）が設置される。

柱間寸法は、桁行は 150cm 等間、梁間は 300cm で棟持柱までの寸法は P1 ～ P5・P4 ～ P5 間ともに 170cm を測る。

柱掘り方は、P1 ～ 4 は平面円形を基本形とし、規模は長径 50 ～ 60cm、深さ 20 ～ 29cm を測る。断面形は「U」字状を呈し、調査区東壁の土層観察などから、本来は 80cm 以上の深さを有していたと考えられる。P5 は長



第 66 図　SB44 掘立柱建物跡（1）



第 67 図　SB44 掘立柱建物跡（2）

SB44 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	19	円形	55×54	29	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む、グライ化。(柱痕跡)	SI361より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜)60%、黒褐色シルト粒微量含む。	
P2	19	隅丸方形	50×44	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。(柱痕跡)	SI361より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%,炭化物微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
P3	19	円形	60×(29)	22	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む。	SI361より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
P4	19	円形	50×48	24	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む、一部グライ化。(柱痕跡)	SM413より新しい
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
P5	18・19	不整円形	78×72	23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む、グライ化。	SX35より古い
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	

径 78cm、深さ 23cm を測り、断面形は皿状を呈す。P4 で径 11cm の柱痕跡が認められ、底面では径 13cm の変色範囲がみられた。

遺物は、P1 ～ 3 の堆積土から土師器がわずかに出土したが図示できるものはない。

時期は、重複関係にある SI361 が 3 期（7 世紀初頭～前葉）、SX35 が 6 期（8 世紀前葉以降）であることから 3 期～ 6 期と考えられる。

(3) 杭列・一本柱列（第 68 ～ 72・75 図）

本調査区で杭列 1 列、一本柱列 2 列を検出した。塀などの区画施設と考えられるが、本来は掘立柱建物跡の柱穴列であった可能性も考えられる。

SA7 杭列（第 72・75 図）

調査区北側の 9・10・11・12・13 グリッドに位置する。SI363・365・369・371・381・382、SD281 と重複し、それらより新しい。東端は、調査区外へ延びる。

検出した規模は、長さ 3000cm 程、幅 20 ～ 35cm、深さ 10 ～ 18cm を測る。方向は N － 60 ～ 80°－ E と湾曲している。断面形は半円状ないしは「U」字状を呈し、30 ～ 35cm 間隔で径 5cm 程の杭が打杭される。

堆積土はⅣ層土主体で、底面には起伏がみられる。北側に位置する SD278 と並走しており、SD278 に伴う施設の可能性も考えられる。

遺物は土師器や須恵器とともに近世陶磁器が少量出土しているが、図示できるものはない。

時期は、堆積土や出土遺物から近世以降と考えられる。

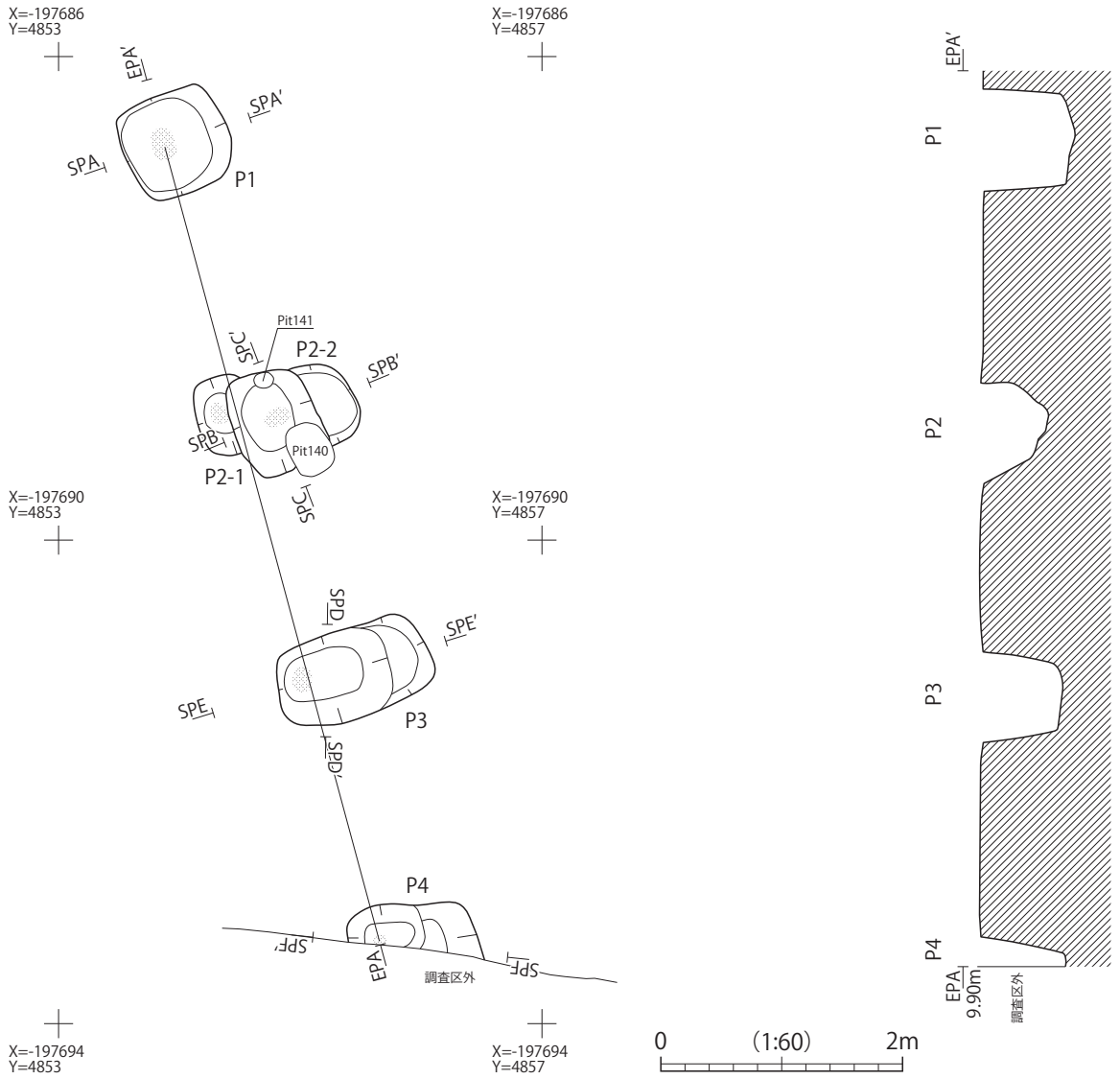
SA7 杭列 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模(cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SA7	9・10・11・12・13	N-60～80°-E	3000	20～35	10～20	10～18	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	

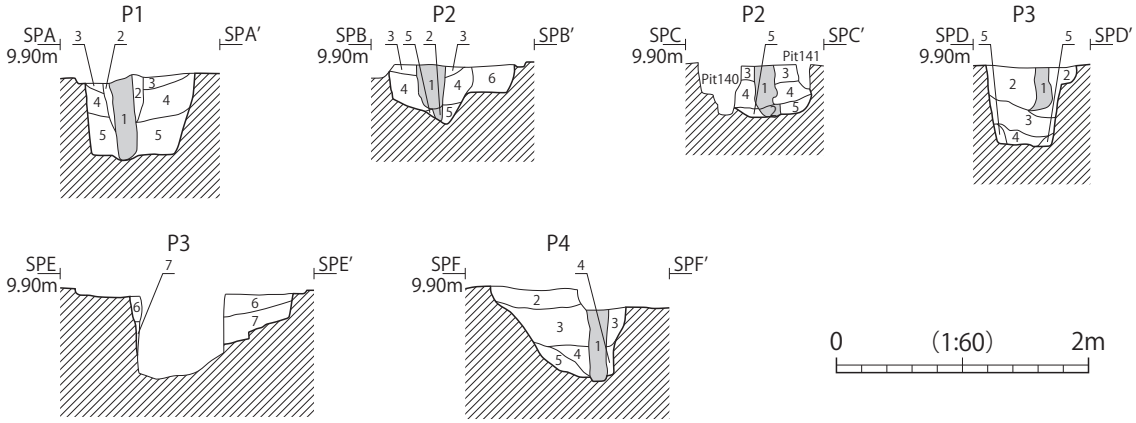
SA8 一本柱列（第 68 ～ 70 図）

調査区南側東寄りの 22・26 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で柱穴 4 基を検出し、南側は調査区外へ延びる可能性がある。SI355・356、SX36 と重複し、それらより新しい。

方向は N － 15°－ W で、検出した規模は長さ 690cm、柱間寸法は 220 ～ 240cm とほぼ等間である。柱掘り方は、平面隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈し、規模は長軸 87 ～ 128cm、短軸 35 ～ 85cm、断面は台形状を呈し、深さ 47 ～ 72cm を測る。すべての柱穴から、径 12 ～ 21cm の柱痕跡と底面に径 12 ～ 22cm の変色範囲が確認さ



第 68 図　SA8 一本柱列（1）



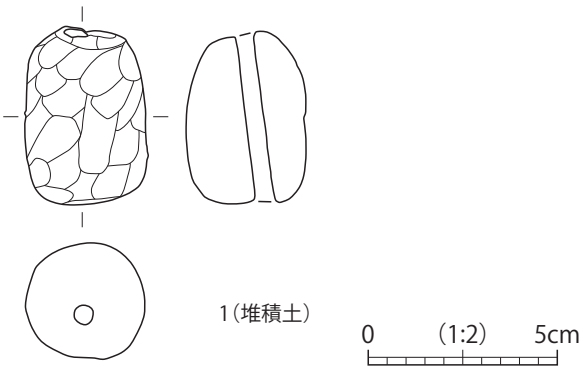
第 69 図　SA8 一本柱列（2）

SA8 一本柱列 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	22	隅丸方形	87×85	67	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物・Ⅳ層土ブロック20%。(柱痕跡)	SI356より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量、炭化物含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物5%含む。	
					4	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に30%、炭化物10%含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
P2	22	隅丸長方形	92×69	47	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物、Ⅳ層土粒20%、焼土粒微量含む。(柱痕跡)	SI355・356より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト		
					3	10YR 3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物5%含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック極厚い板状に40%、炭化物微量含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト		
					6	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック互層に80%含む。版築土。	
P3	26	隅丸長方形	128×75	62	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。(柱痕跡)	SIA356より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に50%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
					4	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック60%含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト		
					6	10YR3/4 暗褐色	シルト		
					7	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック極厚い板状に60%、炭化物含む。	
P4	26	隅丸方形	105×(35)	72	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物20%、Ⅳ層土ブロック10%含む。(柱痕跡)	SX37より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック80%含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、僅かに炭化物含む。	

れている。堆積状況から柱痕跡の両側には版築がみられ、P2 ～ P4 は東側にテラス状の掘り方を伴う。P2 では柱痕跡が 2 本あることから、建て替えなどの可能性も考えられる。

柱穴の形態や規模からは掘立柱建物跡の柱穴列とも考えられるが対応する柱穴列がなく、柱間寸法など類似性が



図版番号	登録番号	出土地点	層　位	種　別	器　種	法量(cm) 全長	法量(cm) 幅	法量(cm) 厚さ	重量(g)	備　考	写真図版
1	P-13	SA8 P2-2	堆積土	土製品	土錘	4.7	径3.2	孔径0.5	48.4	ナデ調整	33

第 70 図　SA8 一本柱列出土遺物

高いSB42の付設施設とも考えたが、方向にずれが生じるため単独の一本柱列とした。

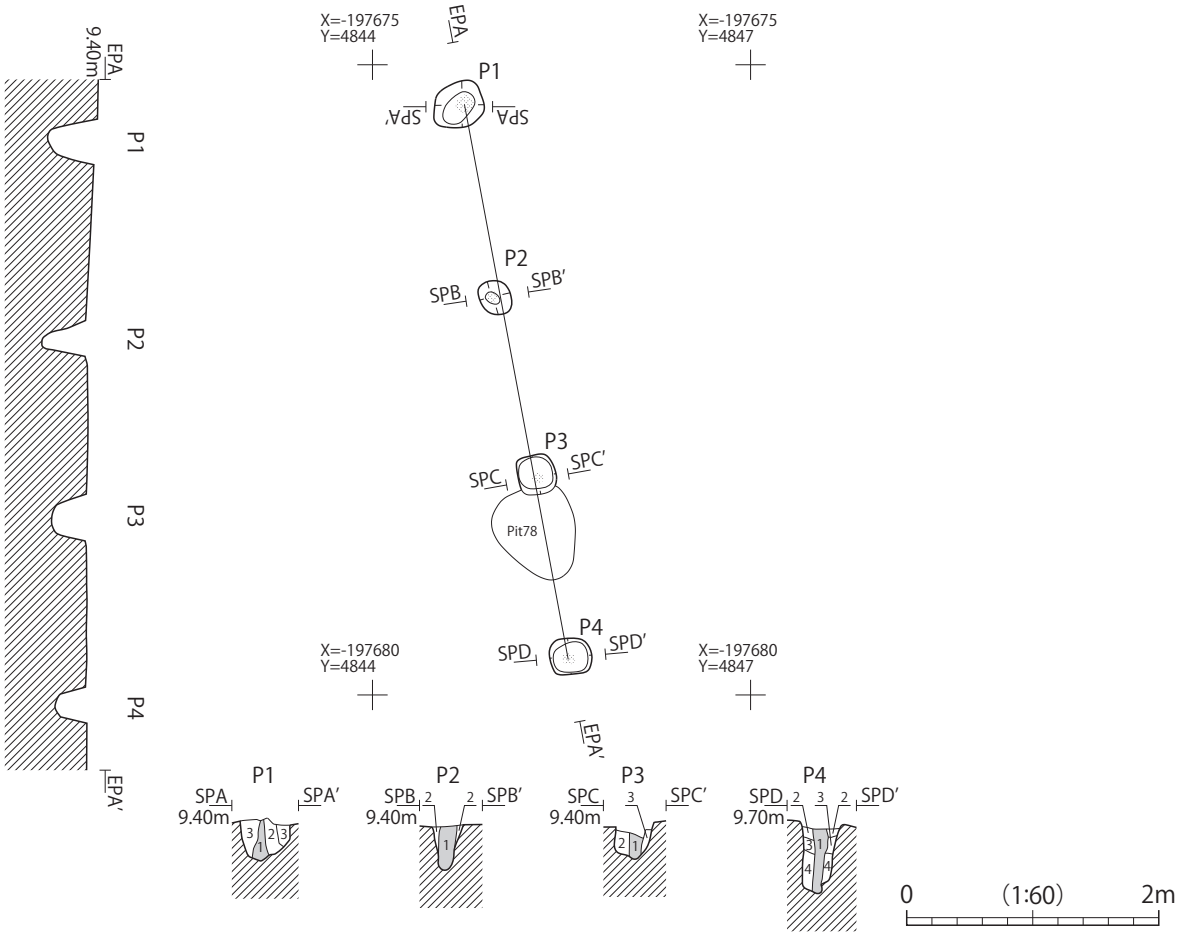
遺物はP1～3から土師器や須恵器、石器が出土しており、P2出土の土製品1点を図示した（第70図）。1は土錘であり、径3.2cm、長さ4.7cmの円柱状であり、中央に径0.5cmの孔が穿たれる。ナデ調整される。

時期は、重複関係にあるSI355が5期（7世紀末葉～8世紀初頭）であるため、5期以降と考えられる。

SA9 一本柱列（第71図）

調査区中央部西寄りの13グリッドに位置し、柱穴4基を検出した。SI372・382、SD279と重複し、SI372・382より新しい。SD279とは直接的な切り合いを持たないため、SD279との新旧関係は確認できなかった。

方向はN－10°－Wで、規模は長さ450cmを測り、柱間寸法は150cm等間である。柱掘り方は平面方形を基



SA9 一本柱列 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	13	方形	40×34	33	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。(柱痕跡)	SI372・382より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。	
P2	13	円形	29×25	35	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に30%、炭化物10%含む。(柱痕跡)	SI372より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、僅かに炭化物含む。	
P3	13	方形	31×30	23	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒、炭化物粒僅かに含む、しまりあり。(柱痕跡)	SI372・SD279より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒5%含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒20%含む。	
P4	13	方形	34×28	52	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	僅かにⅣ層土粒、炭化物含む。(柱痕跡)	SI372より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒50%含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物微量、Ⅳ層土ブロック含む。	

第71図　SA9 一本柱列

本とし、長径 29 ～ 40cm、深さ 23 ～ 52cm を測る。SA9 周辺に平面形状や規模などの類似するピットがみられるが、対応関係が確認できなかったため一本柱列とした。

遺物は、P2 と P4 から土師器、須恵器がわずかに出土したのみで図示できるものはない。

時期は、直接の重複関係にある SI372 からみれば 2a 期（6 世紀初頭～前葉）以降ということになる。間接的な重複関係にある SD279 は出土遺物から近世以降としており、堆積土にレンガ片が混じるなど近・現代的な要素が多分に見受けられる。SA9 は 5 期以降だが SD279 より古いと考えられる。

(4) 溝跡（第 72 ～ 75 図）

溝跡は 7 条検出し、東西方向に走行する溝跡（SD278・279・281）と南北方向に走行する溝跡（SD277・280・282・283）がある。

東西方向の溝跡は両端が調査区外へ延びるのに対し、南北方向の溝跡の北端はいずれも調査区内で収まる。これは、調査区北側が旧河川である地形的な要因によるものと考えられる。

いずれの溝跡も重複する竪穴住居跡より新しく、特に SD278・279 は堆積土から近・現代の可能性も考えられる。

SD277 溝跡（第 72・75 図）

調査区南東隅の 27 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で確認し、南端は調査区外へ延びる。検出した規模は、長さ 120cm、上幅 40 ～ 44cm、深さ 7 ～ 12cm を測り、断面は浅い皿状を呈す。南北方向にやや湾曲して延び、中軸を基準とする走行方向は N － 26°－ W を指す。

堆積土は 3 層に分層され、Ⅳ層土ブロックを多く含む灰黄褐色シルトが主体である。

遺物は出土していない。時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。

SD278 溝跡（第 72・75 図）

調査区北側の 6 ～ 10・12 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出し、東西両端は調査区外へ延びる。SI365・369・382・363・371・366・381、SM406、Pit69・98 と重複し、それより新しい。

検出した規模は、長さ 3310cm、上幅 20 ～ 130cm、深さ 16 ～ 25cm を測る。断面は台形状ないし「U 字状」を呈し、底面は起伏がみられる。東西方向に湾曲して延び、中軸を基準とする走行方向は N － 63 ～ 81°－ E である。

3 層に分層した堆積土の 1 層中に小礫を多く含むが、本溝跡の北側には礫を大量に含む河川堆積土がみられ、氾濫などによりそれらの礫が流入したものと考えられる。また南側に SA7 が並走しており、本溝跡に付設する可能性も考えられる。

遺物は堆積土から土師器がわずかに出土したのみである。重複する遺構で新しいのは 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）としている SI365 などが挙げられるが、並走する SA7 が付設するとすれば、近世以降の時期が考えられる。

SD279 溝跡（第 72・75 図）

調査区中央部北側の 10 ～ 16 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出し、東西両端は調査区外へ延びる。SI363・365・370・372・382、SD281・282・284、SM417 ～ 421・431 ～ 433 と重複し、それらより新しい。

検出した規模は、長さ 3320cm、上幅 60 ～ 100cm、深さ 50 ～ 67cm を測る。断面は「U」字状で、部分的に箱薬研掘状の掘り方を呈す。底面には起伏がみられ、西側に向かって傾斜する。東西方向に湾曲して延び、中軸を基準とする走行方向は N － 63 ～ 78°－ E を指す。

堆積土は 3 層に分層され、黒褐色シルトが主体で下層堆積土中にまでレンガ片がみられる。SD278 と 450 ～

第 72 図　SA7 杭列・SD277 ～ 283 溝跡（1）

600cm の間隔をもってほぼ並走しており、断面形状から 2 条一対で道路状遺構の側溝などを形成していた可能性も考えられる。

遺物は堆積土から土師器や須恵器、陶器、金属製品などが少量出土した。時期は近世以降と考えられる。

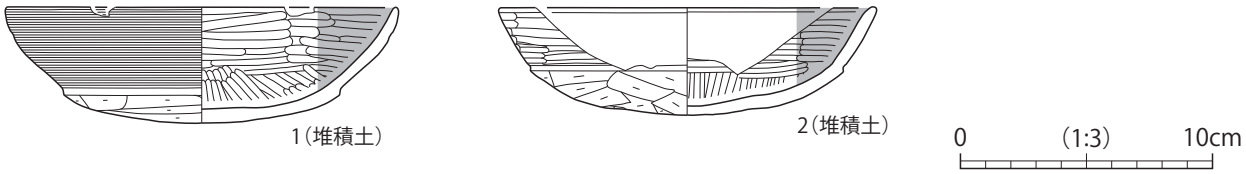
SD280 溝跡（第 72・73・75 図）

調査区中央部南側の 18・21・25 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出したが、調査区南壁の土層観察でⅢ層上面からの掘り込みが確認できる。南端は調査区外へ延び、北端は撹乱によって失われるが、走行方向から SD282 に連続する可能性が考えられる。SI359、SB42、SM404・405 と重複し、SI359、SB42 より新しく、SM404・405 より古い。

検出した規模は、長さ 880cm、上幅 40 ～ 120cm、深さ 8 ～ 46cm を測る。断面は台形状を呈し、底面は南側に向かって傾斜する。南北方向にほぼ直線的に延び、中軸を基準とした走行方向は N － 31°－ E を指す。
堆積土は 3 層に分層され、最下層はⅣ層土ブロックを多量に含み人為埋土と考えられる。

遺物は堆積土から土師器が少量出土しており、土師器坏 2 点を図示した（第 73 図）。1・2 は有段丸底坏であり、1 は外面の段が体部下端にくるものである。2 は口縁部が直線状に外傾し、口縁部と体部の境に段を持ち、底部が丸底を呈する。調整は 1・2 ともに外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリで、内面がヘラミガキである。

時期は、第 73 図－ 1・2 からみれば 4 ～ 5 期（7 世紀中葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。重複関係にある SI359 からみれば 3 期（7 世紀初頭～前葉）以降となり遺物の年代観と一致するが、SB42 を 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）以降としており、SD280 は SB42 － P1 より新しいため 5 期以降になると考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-69	SD280	堆積土	土師器	坏	(15.4)	－	4.6	口縁～体部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		33
2	C-70	SD280	堆積土	土師器	坏	(15.0)	－	4.3	口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		33

第 73 図　SD280 溝跡出土遺物

SD281 溝跡（第 72・75 図）

調査区中央部北側から西側にかけての 9 ～ 13・16・20 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出し、東西両端は調査区外へ延びる。SI363・365・369・370 ～ 372・379・382、SA7、SB43、SD279、SM419 ～ 421・434・435、Pit82・84・95・111・131・132 と重複し、SD279、SA7 より古く、他の遺構より新しい。

検出した規模は、長さ 3900cm、上幅 102 ～ 145cm、深さ 21 ～ 67cm を測る。断面は台形状ないしは浅い皿状を呈し、底面には大きな起伏がみられる。東西方向に延びるが 9 グリッドを境に走行方向を大きく変換し、東側では N － 87°－ E、西側では N － 41°－ E を指す。

堆積土は 3 層に分層され、1 層は僅かに炭化物を含む暗褐色シルト、3 層はⅣ層土ブロックを比較的多く含む灰黄褐色シルトである。

遺物は堆積土から土師器や須恵器が多量に出土しているが、図示できるものはない。

時期は、重複関係にある SI365 を 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えており、SD281 はそれ以降で SD279 より古いと考えられる。

SD282 溝跡（第 72・74・75 図）

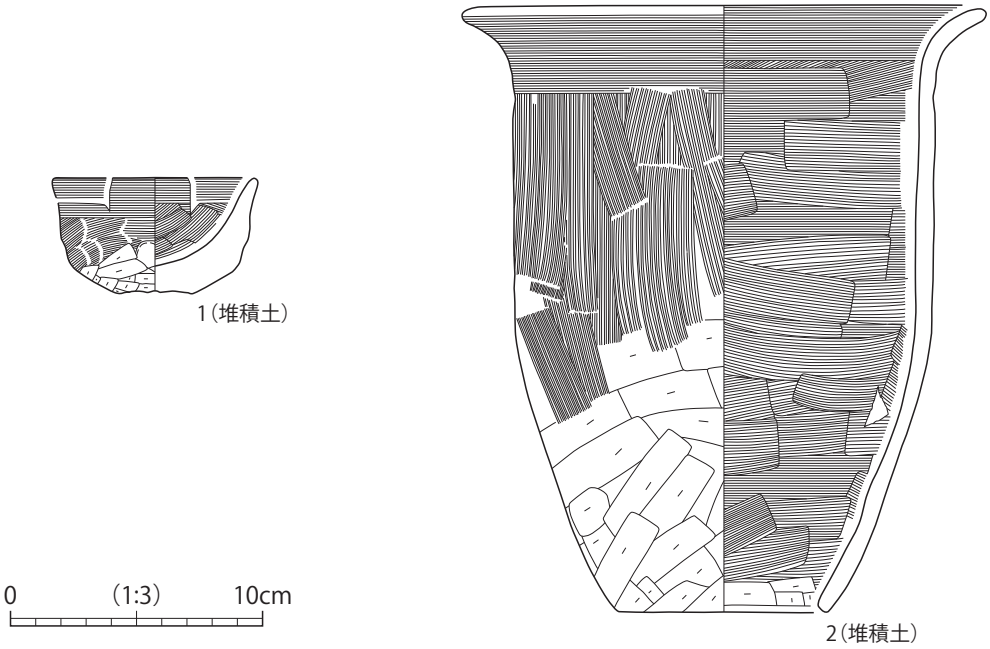
調査区中央部東側の 10・14・18 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出し、南端は撹乱により失う。SI367、SD279・283、SM415・416・431 ～ 433、Pit105 と重複し、SI367、SD283、SM415・416・431 ～ 433、Pit105 より新しく、SD279 より古い。

検出した規模は、長さ 1100cm、上幅 70 ～ 120cm、深さ 17 ～ 29cm を測る。断面は皿状を呈し、底面は南に向かって僅かに傾斜する。南北方向に湾曲して延び、中軸を基準とする走行方向は、N － 38°－ E を指す。

堆積土は 5 層に分層され、僅かに炭化物を含む暗褐色土が主体である。堆積土と走行方向から、SD280 と同一溝跡の可能性も考えられる。

遺物は堆積土から土師器と石器がわずかに出土した。ミニチュア土器 1 点、土師器甑 1 点を図示した（第 74 図）。1 は鉢形のミニチュア土器であり、器壁が厚い。2 は単孔の甑であり、口縁部は外反し、胴部上半は円筒状、胴部下半は窄まる。胴部の調整は外面がヘラケズリ後、上半のみハケメ、内面がヘラナデ、下位のみヘラケズリとなる。

時期は重複する SD283 を 3 期（7 世紀初頭～前葉）以降と推定しており、SD282 はさらにそれ以降と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-71	SD282	堆積土	土師器	ミニチュア土器（鉢形）	（8.0）	3.0	4.6	口縁部ヨコナデ、体部ユビナデ→ユビオサエ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		33
2	C-72	SD282	堆積土	土師器	甑	（20.2）	（8.2）	24.1	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ→ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→胴部下位ヘラケズリ	単孔	33

第 74 図　SD282 溝跡出土遺物

SD283 溝跡（第 72・75 図）

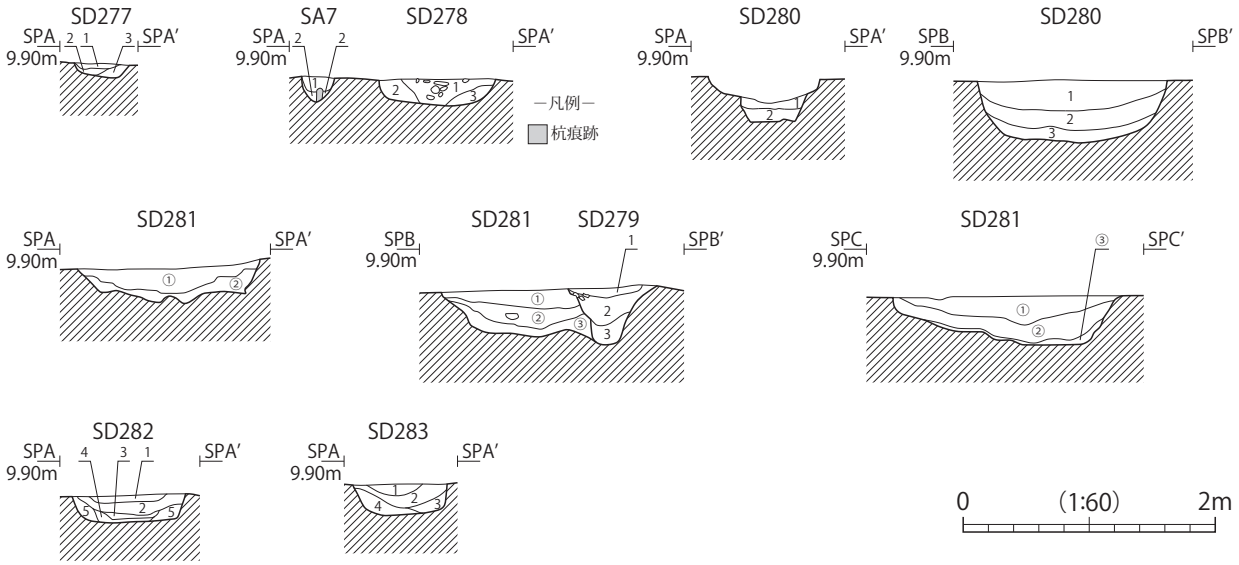
調査区中央部東端の 11・15 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出し、北端は撹乱によって失われ、南端は調査区外へ延びる。SI361 と重複し、それより新しい。

検出した規模は、長さ 460cm、上幅 77 ～ 93cm、深さ 15 ～ 30cm を測り、断面は台形状を呈す。南北方向にやや湾曲して延び、中軸を基準とする走行方向は、N － 19°－ W を指す。

堆積土は 4 層に分層され、Ⅳ層土ブロックを比較的多く含む灰黄褐色シルトが主体である。

遺物は堆積土から土師器がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は重複する SI361 を 3 期（7 世紀初頭～前葉）と推定しており、SD283 はそれ以降と考えられる。



溝跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SD277	27	N-26-W	120×40～44	7～12	1	10YR3/4 暗褐色	シルト		
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)40%含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜以下)30%含む。	
SD278	6～10・12	N-63～81°-E	3310×20～130	16～25	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	礫を多く含む。	SI363・365・366・369・371・381・382、SM406、Pit69・98より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)20%、炭化物微量含む。	
SD279	10～16	N-63～78°-E	3320×60～100	50～67	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		SI363・365・370・372・382、SD281・282・284、SM417～421・431～433より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	
SD280	18・21・25	N-31°-E	880×40～120	8～46	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI359、SB42より新しく、SM404・405より古い
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物10%含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土主体。	
SD281	9～13・16・20	N-87°-E N-41°-E	3900×102～145	21～67	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む。	SI363・365・369・370～372・379・382、SB43、SM419～421・434・435、Pit82・84・95・111・131・132より新しく、SD279・SA7より古い
					②	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	
					③	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
SD282	10・14・18	N-38°-E	1100×70～120	17～29	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト		SI367、SD283、SM415・416・431～433・Pit105より新しく、SD279より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		
SD283	11・15	N-19°-W	460×77～93	15～30	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト		SI361より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト		
					4	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	

第 75 図　SA7 杭列・SD277 ～ 283 溝跡（2）

（5）小溝状遺構（第 76・77 図）

本調査区から、32 条の小溝状遺構が検出された。耕作の痕跡と考えられ、検出位置や走行方向などから A・B の 2 群に分類した。

A 群（第 76・77 図）

調査区北端西側の 25 グリッドに位置する SM404・405 の 2 条で構成する。基本土層Ⅳ層上面で確認し、南端はともに調査区南壁外へ延びる。

SI359、SD280、Pit14 と重複し、それより新しい。

検出した規模は、長さ 150 ～ 190cm、上幅 18 ～ 24cm、条間は 30cm 程を測る。中軸を基準とする走行方向は、SM404 が N － 68°－ E、SM405 が N － 51°－ E を指し、ばらつきがみられる。

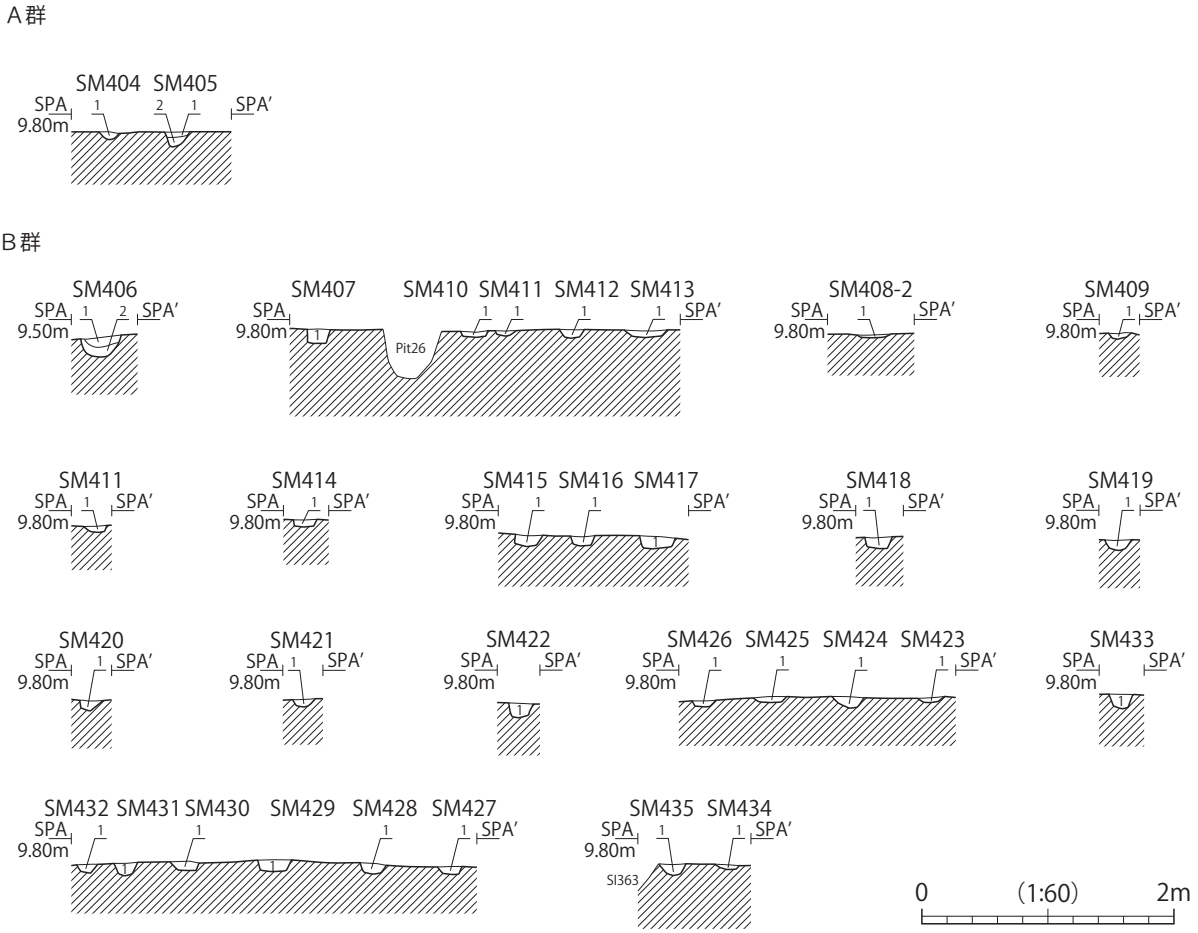
堆積土は、SM404 は単層、SM405 は 2 層に分層されるが、いずれも灰黄褐色シルトが主体である。

遺物は、SM404・405 ともに堆積土から土師器片がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は SD280 を 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）以降としており、それ以降と考えられる。

B 群（第 76・77 図）

調査区東半の 7・10・11・14・15・18・19・22・23・26 グリッドに位置する。基本土層Ⅳ層上面で検出した概ね東西 15 m、南北 30 mの範囲にある SM406 ～ 435 の 30 条からなる。



第 76 図　SM404 ～ 435 小溝状遺構（1）

第 77 図　SM404 ～ 435 小溝状遺構（2）

小溝状遺構群 A 群 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
SM404	25	N-68°-E	(150)×18	2～4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		SI359、SD280、Pit14より新しい
SM405	25	N-51°-E	(190)×18～21	6～12	1	10YR4/2 灰黄灰色	シルト		SI359、SD280、Pit14より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト		

小溝状遺構群 B 群 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
SM406	7	N-26°-E	(288)×25～42	9～16	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。	SI366より古い
					2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
SM407	23	N-42°-E	(282)×18～22	8～12	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	―
SM408	23	N-29°-E	80×27	3	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	―
SM409	22・23	N-38°-E	270×19～31	3～8	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	Pit26・101より古い
SM410	22	N-47°-E	(108)×23	6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	Pit56より古い
SM411	22・23	N-43°-E	336×18～28	5	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	Pit53より古い
SM412	19・22・23	N-43°-E	(696)×26	4～9	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI356・Pit29より古い
SM413	19・22・23	N-45°-E	(744)×39	6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI356・Pit27・30・54より古い
SM414	26	N-40°-E	(300)×22	6～9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物微量含む。	SI356より古い
SM415	14・18	N-41°-E	(390)×21～30	6～15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物微量含む。	SD282より古い
SM416	14・18	N-40°-E	(372)×21～30	4～9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物微量含む。	SD282より古い
SM417	10・14・18	N-31°-E	(1020)×19～32	6～10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物微量含む。	SI371・SD279・SE10より古い
SM418	10・14	N-30°-E	(912)×21	5～8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI371・SD279・SE10より古い
SM419	10・14	N-38°-E	468×18～21	8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SD279より古い
SM420	10・14	N-32°-E	(390)×20	7～13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI371・SD279より古い
SM421	10・14	N-21°-E	480×18 ～21	6～9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SD279・SD281より古い
SM422	10	N-29°-E	166×21	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SD281より古い
SM423	19・22	N-45°-E	(672)×24	3～16	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI356・361・Pit30・51より古い
SM424	18・19・22	N-40°-E	318×26	4～7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI361、SX35、Pit39より古い
SM425	18・22	N-43°-E	(366)×32	6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI356・361、SX35、Pit40・52・64より古い
SM426	18・22	N-45°-E	(438)×24	3～7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI356・361、SX35、Pit41・42・43より古い
SM427	18・22	N-38°-E	(732)×20	2～10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI356・361、SX35、Pit44・45・66より古い
SM428	18・22	N-35°-E	(450)×18～30	8～12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI361・367、Pit48・49より古い
SM429	14・18	N-38°-E	(660)×20～36	5～9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI361・367、Pit61より古い
SM430	14・18	N-36°-E	(672)×21	4～9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI361・367、SD283、SX38、Pit50・65より古い
SM431	11・14・15・18	N-36°-E	(588)×20	7～11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI361・367、SD283、SX38・39、Pit37より古い
SM432	14・18	N-36°-E	606×18～24	8～11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SD282、SX39、Pit37より古い
SM433	14	N-39°-E	(402)×20～28	11～14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SD279・282より古い
SM434	10	N-21°-E	(120)×20	3～8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI363・SD281・Pit73より古い
SM435	10	N-15°-E	(115)×23	10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI363・SD281より古い

SI356・361・363・366・367・371、SE10、SD279・281・282、SX35 などと重複するが、新旧関係をもつ遺構の中で一番古い。

検出した規模は、長さ 80 ～ 1020cm、上幅 18 ～ 42cm、条間は 20 ～ 110cm を測る。中軸を基準とする走行方向は N － 21 ～ 42°－ E を指し、条間と走行方向から本来は 3 群程度の支群に分別されると考えられる。

堆積土は単層ないし 2 層に分層され、いずれも暗褐色シルトが主体である。

遺物は SM406・413・414・434 から土師器片がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は、重複関係にある遺構の中で最も古い SI367 を 2b 期（6 世紀中葉～末葉）としているため、それ以前と考えられる。

(6) 井戸跡（第 78 図）

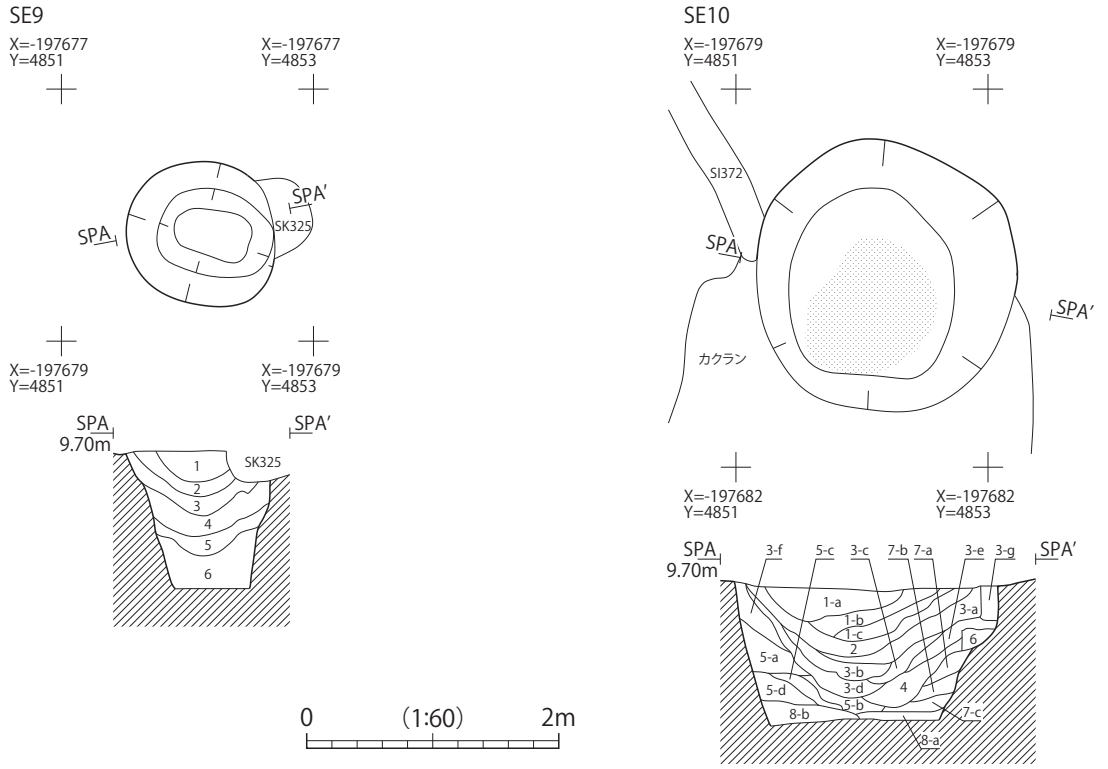
本調査区から、井戸跡を 2 基検出した。いずれも基本土層Ⅳ層上面での検出であり、その間隔は 1 m程と近接している。いずれも基底面まで調査を行えなかったため、本体構造など不明な点が多い。小溝状遺構 B 群の西縁部に位置するが、小溝状遺構とは時期差が認められるため小溝状遺構との関連性は無いと考えられる。また、本調査区で検出した竪穴住居跡の軒数に対して極端に少なく、集落に伴う給水施設とは考え難い。

SE9 井戸跡（第 78・79 図）

調査区中央部やや東寄りの 14 グリッドに位置し、重複する SK325 によって東壁の一部を失う。

平面形状は円形、断面は台形状を呈し、主軸方向は N － 46°－ W を指す。規模は、長軸 125cm、短軸 116cm、深さ 109cm 以上を測る。底部は長辺 90cm、短辺 60cm の長方形を呈す。本体の調査はしておらず、井戸側などの有無は確認できなかった。

堆積土は 6 層に分層され、自然堆積と考えられる。2 層はⅣ層土が 10cm 程の厚さでレンズ状に堆積しており、



SE9・10 井戸跡 観察表

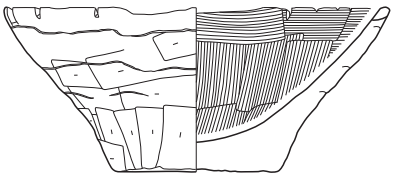
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SE9	14	円形	125×116	109	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒40%、炭化物1%含む。	SK325より古い
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粗粒砂、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒5%、炭化粒、橙色粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒5%含む。	
					5	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%含む。	
					6	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒5%、橙色粒微量、炭化物含む。	SI372、SM417・418より新しい
SE10	14・18	円形	215×215	110	1a	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物帯状に25%、Ⅳ層土粒10%含む。	
					1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物1%含む。	
					1c	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック5%、炭化物微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層崩落土。	
					3a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック3%含む。	
					3b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%、層下部帯状に炭化物20%含む。	
					3c	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック5%含む。	
					3d	10YR3/3 暗褐色	シルト	白色粘土大粒15%、層下部に帯状に炭化物10%含む。	
					3e	10YR3/3 暗褐色	シルト	白色粘土大粒15%含む。	
					3f	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒5%含む。	
					3g	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック15%含む。	
					5a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒5%含む。	
					5b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック5%、炭化物微量、白色粘土粒含む。	
					5c	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロック10%、Ⅳ層土ブロック微量含む。	
					5d	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	粘土ブロック層上層部を中心に帯状に30%含む。	
					6	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック80%含む。	
					7a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
					7b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト		
					7c	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト		
					8a	2.5Y5/1 黄灰色	粘土		
					8b	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	粘土ブロック10%、粗粒砂を含む。	

第 78 図　SE9・10 井戸跡

それより下層は粘性が強くなり色調も暗くなる。

遺物は堆積土から土師器がわずかに出土した。土師器甕 1 点を図示した（第 79 図）。1 は大型の甕の胴部下半から底部で、輪積みの部分で欠損する。欠損部の内面を横位のヘラナデによって調整し擬口縁としており、疑口縁部外面には帯状にススが付着する。底部は平底を呈する。外面は、底部は縦位、胴部は横位のヘラケズリ、内面はヘラナデで調整される。また、内面には漆の付着がみられる。

時期を決定できる遺物や遺構との重複関係がなく、時期は不明である。



1（堆積土）　0　（1:3）　10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-73	SE9	堆積土	土師器	甕	―	6.4	(6.5)	胴～底部ヘラケズリ、輪積み痕	胴～底部ヘラナデ、漆付着		33

第 79 図　SE9 井戸跡出土遺物

SE10 井戸跡（第 78 図）

調査区中央部やや東寄りの 14・18 グリッドに位置する。南半上部は、撹乱により失われる。SI372、SM417・418 と重複し、それより新しい。

平面形状は円形、断面は台形状を呈し、主軸方向は N － 1°－ E を指す。規模は、径 215cm、深さ 110cm 以上である。本体の調査はしておらず、井戸側などの有無は確認できなかった。

堆積土は大略 8 層に分層され、2 層は層厚 6 ～ 15cm のⅣ層土である。3 ～ 5 層は人為埋土と考えられる。4 層以降は粘性が強くなり、8 層は黄灰色粘土である。8 層下面で、長軸 113cm、短軸 88cm を測る青灰色粘土範囲を検出した。平面形状は楕円形で、井戸本体部分にあたると考えられる。

遺物は、堆積土より土師器がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は、重複関係にある SI372 を 2a 期（6 世紀初頭～前葉）、SM417・418 を 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以前としていることから、SE10 は 2b 期以降と考えられる。

（7）土坑（第 80 図）

基本土層Ⅳ層上面で、土坑を 3 基検出した。SK324 が大型の土坑で、掘立柱建物跡の柱穴に形状が類似する。また、SK325・326 は検出した場所や規模、堆積土などに類似性が認められる。

SK324 土坑（第 80 図）

調査区中央部南寄りの 17 グリッドに位置する。SI372・383 と重複し、それより新しい。

平面形状は隅丸方形、断面は台形状を呈し、主軸方向は N － 80°－ E を指す。規模は、長辺 104cm、深さ 40cm を測る。堆積土は 5 層に分層され、黒褐色シルトが主体である。規模と形状からは SB42 の柱穴と類似性が認められるが、堆積土の状況が異なるため土坑とした。

遺物は、堆積土から土師器がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は、重複関係にある SI372 を 2a 期（6 世紀初頭～前葉）としていることから、SK324 はそれ以降と考えられる。

SK325 土坑（第 80 図）

調査区中央部やや東寄りの 14 グリッドに位置する。SE9 と重複し、それより新しい。

平面形状は円形、断面は半円状を呈す。規模は、長径 68cm、短径 66cm、深さ 22cm を測る。堆積土は、Ⅳ層土ブロックを含む黒褐色シルトの単層である。

遺物は、堆積土から土師器がわずかに出土したが、図示できるものはない。

時期は不明である。

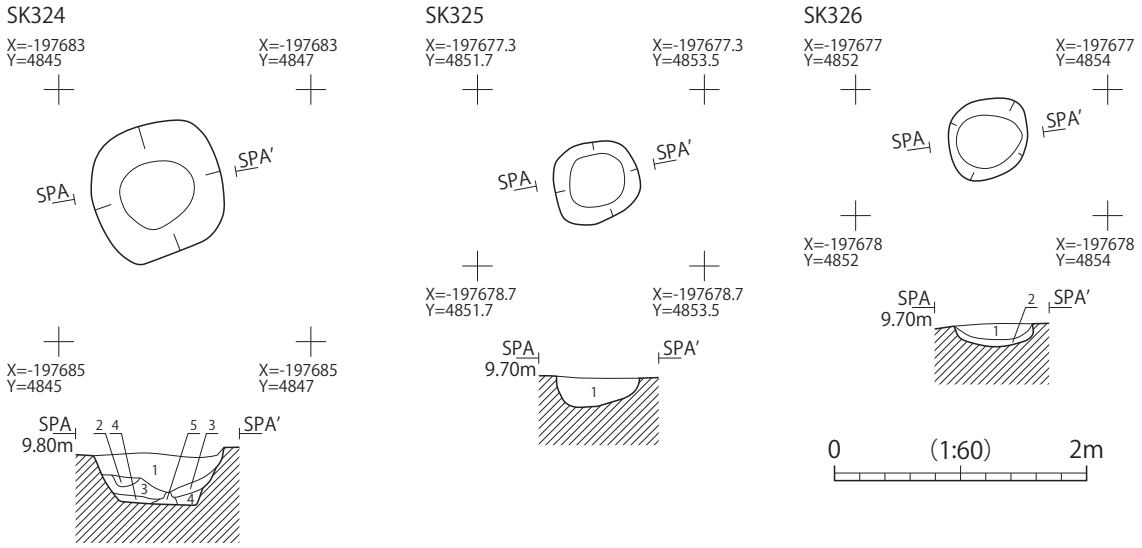
SK326 土坑（第 80 図）

調査区中央部やや東寄りの 14 グリッドに、SK325 に近接して位置する。

平面形状は円形、断面は浅い皿状を呈す。規模は、長径 72cm、短径 63cm、深さ 18cm を測る。堆積土は 2 層に分層され、Ⅳ層土ブロックを含む黒褐色シルトが主体である。

遺物は、堆積土から土師器坏・甕の小片が数点出土したが、図示できるものはない。

時期は不明である。



SK 土坑 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK324	17	隅丸方形	104×103	40	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI372・383より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に20%含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト		
					4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	
					5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層ブロック（10㎜程度）20%含む。	
SK325	14	円形	68×66	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物5%含む。	SE9より新しい
SK326	14	円形	72×63	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物3%含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒5%、炭化物微量含む。	

第 80 図　SK324 ～ 326 土坑

(8) ピット（第 81 ～ 84 図）

本調査において 105 基のピットを検出した。分布は調査区のほぼ全域におよぶが、特に調査区中央部西側の 13・17 グリッド、調査区南東側の 18・19・22・23 グリッドに集中する傾向が窺われる。柱痕跡のあるピットも多く、掘立柱建物跡や柱列などを考慮したが、規則的な配列はみられなかった。

竪穴住居跡では SI355・356・359・360・363・367・372・378・379・381・382・383 と重複しており、いずれのピットもそれより新しい。

平面形状は円形・楕円形・隅丸方形などがあり、規模も長軸 13 ～ 82cm と多様である。長軸を基準に分類すると、

※ゴシック体は柱痕跡検出ピット
（[　] 表記は別図あり）

0　(1:150)　10m

第 81 図　ピット（1）

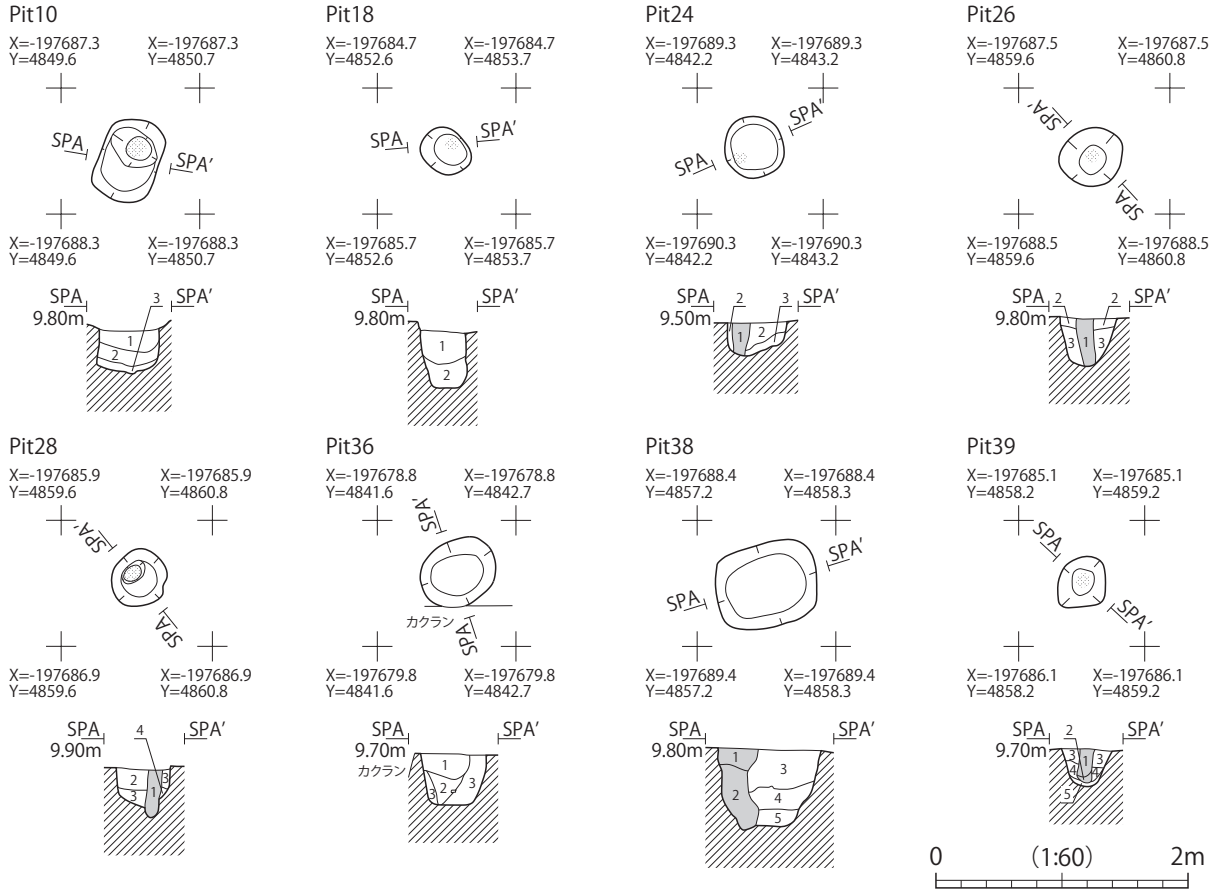
24cm未満が23基、25～50cmが58基と半数以上を占め、51cm以上と大型のものが25基である。断面形状は「U」字状ないしは台形状を呈するものが多く、検出面からの深さは4～65cmを測る。検出した深さは、15cm以下が19基、16～30cmが53基と半数以上を占め、31～45cmが28基、46cm以上が5基を数え、最深はPit38の65cmを測る。

Pit24・26・28・39・41・49・51・58・59・62・63・69・72・73・78・80・81・83・85・86・87・91・93・97・98・99・101・106・107・108・109・121・127・131・132・138の36基で柱痕跡がみられた。柱痕跡の径はPit131の7cm～Pit86の22cmまで幅があるが、15cm前後のものが大半である。底面で柱のアタリが確認できたピットは22基あり、その内16基で顕著な変色がみられた。底面の柱のアタリ部分が階段状に掘り込まれるピットが19基あり、Pit18では柱痕跡の直下に扁平礫が置かれる。

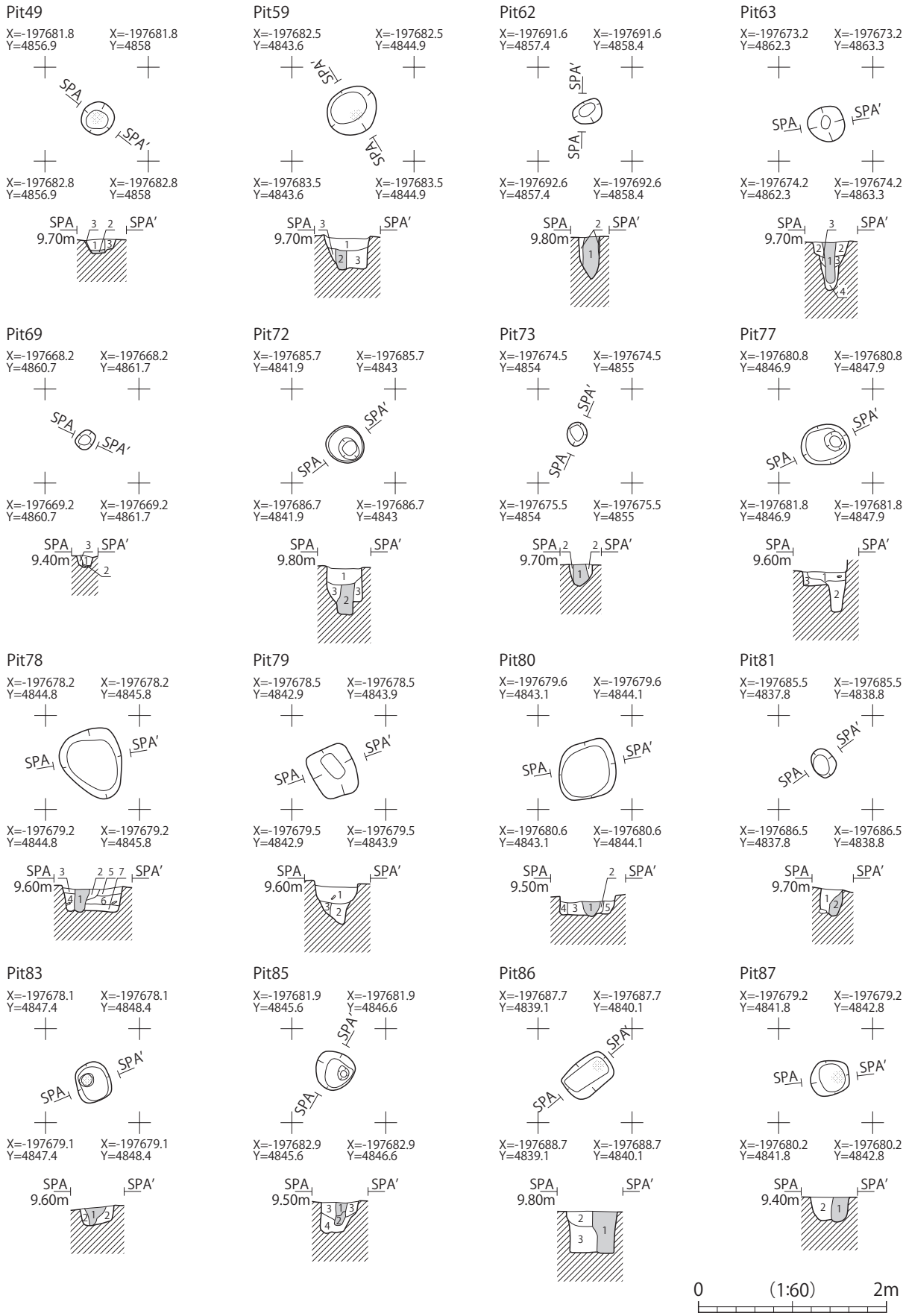
各ピットの詳細については、観察表を参照していただきたい。

遺物は、P10・12～14・18・21～23・30・36・38・39・41・46・47・54・59・62・63・70・73・76～80・82・83・85・87・90・91・106・109・110・112・118・125・127・131・133・139の合計42基から出土したが、少量の土師器にわずかに須恵器や礫石器が混じる程度の破片資料がほとんどであり、図示できるものはない。

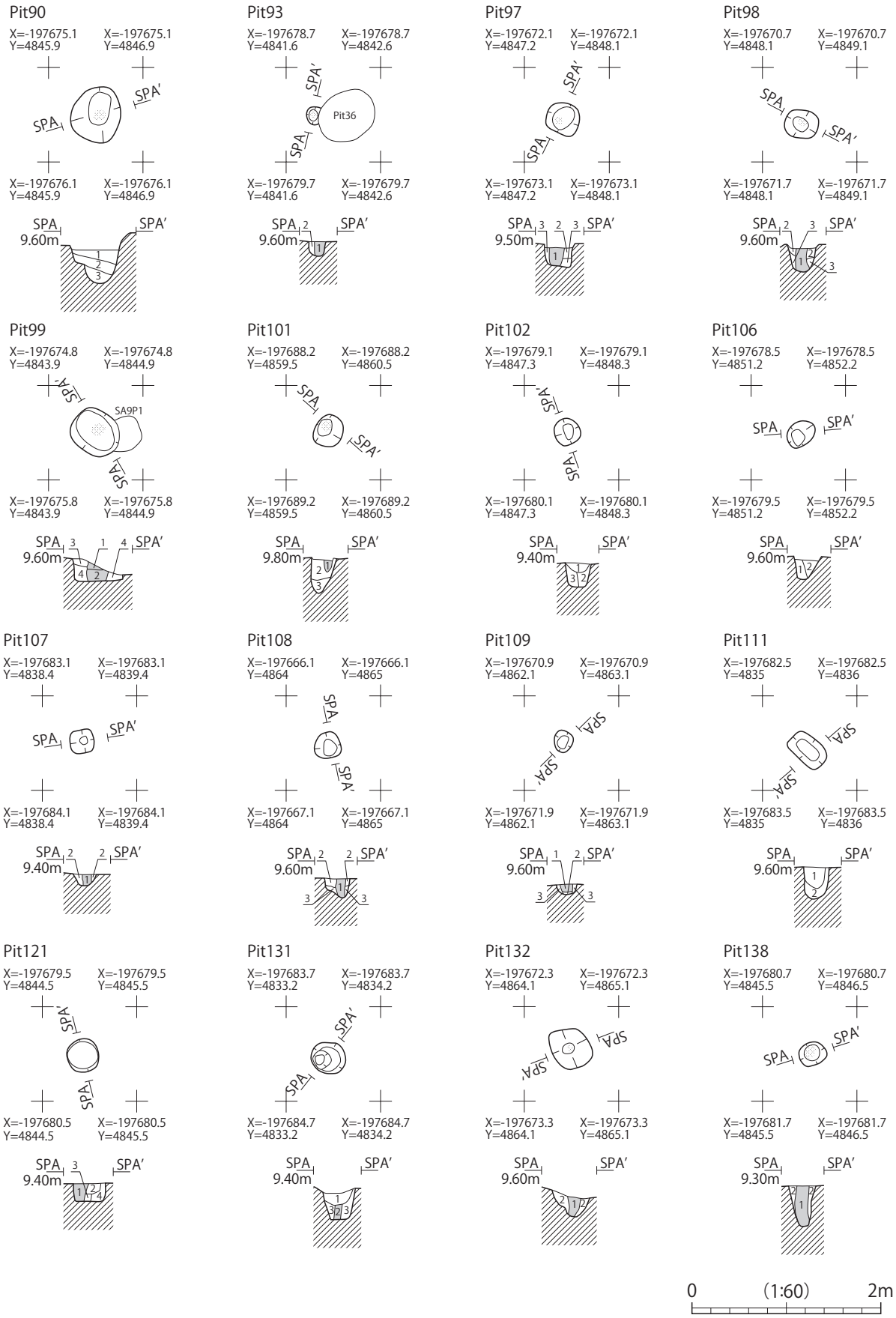
ピットは時期幅が大きいと考えられるが、いずれのピットも重複関係にある竪穴住居跡より新しい。本調査区における竪穴住居跡は2a期（6世紀初頭～前葉）～5期（7世紀末葉～8世紀初頭）と年代幅が広く、一概にピットの時期を決定できないが、検出された掘立柱建物跡や一本柱列がいずれも5期以降であることから、ピットの主たる時期も5期以降と考えられる。



第82図　ピット（2）　※一部抜粋



第 83 図　ピット（3）　※一部抜粋



第 84 図　ピット（4）　※一部抜粋

ピット 観察表（1）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit10	21・22	不整円形	39×29	34	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。	SB42より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物10%含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
Pit12	10	不整円形	79	36	1	10G2/1 緑黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む、グライ化。	SI363より新しい
					2	5G3/1 暗緑灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒20%、グライ化。	
Pit13	22	円形	56×51	33	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物5%含む。	SI355・356より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒50%、炭化物微量含む。	
					4	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物微量含む。	
					5	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物微量含む。	
Pit14	25	楕円形	65×56	29	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	SI359・360より新しく、SM404・405より古い
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物少量含む。	
Pit15	25	円形	30×27	17	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	SI359より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
Pit16	22	隅丸方形	27×22	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。	―
Pit17	22	円形	37×32	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%含む。	SI355より新しい
Pit18	22	隅丸方形	40×35	45	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	SI367より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。	
Pit21	22	隅丸長方形	(83)×69	38	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に30%含む。	SI355、SB42より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック中板状に40%含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。	
Pit22	22	隅丸長方形	59×47	49	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物10%、焼土粒微量含む。	SI355より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物微量含む。	
Pit23	22	隅丸長方形	38×(27)	37	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物5%、Ⅳ層土粒、焼土粒微量含む。	SI355より新しい
					②	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					③	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒、炭化物微量含む。	
Pit24	21	円形	48×47	36	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SI359・360より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
Pit25	21・25	楕円形	52×47	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む、一部グライ化。	SI359・360より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック少量、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む、一部グライ化。	
Pit26	23	円形	49×47	38	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程)30%、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SM409より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%含む。	
Pit28	23	円形	46×44	38	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SM412より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、焼土粒、炭化物微量含む。	
					4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト		
Pit29	19	円形	47×47	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	SM412より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む、一部グライ化。	
Pit30	19	円形	52×50	43	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物微量含む。	SM413・423より新しい
					2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。	
Pit31	10	円形	20×19	24	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	SM421より新しい
Pit36	13	円形	60×(40)	41	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒斑状に20%、炭化物微量含む。	SI372、Pit93より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒5%、炭化物微量含む、。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit38	22	隅丸長方形	82×66	65	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物、焼土粒微量含む。	SI356より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒微量含む。	
					4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit39	22	隅丸方形	38×37	30	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、焼土粒、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SM424より新しい
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	グライ化。(柱痕跡)	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック60%含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。	
Pit40	18	隅丸方形	28×26	9	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	SM425より新しい
Pit41	18	楕円形	49×34	22	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土中粒20%、炭化物、焼土粒微量含む。	SM426・Pit42より新しい
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土中粒少量、焼土粒微量含む。	
					3	10YR6/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物、焼土粒微量含む。(柱痕跡)	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物、焼土粒微量含む。	
Pit43	18	円形	20×19	7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物微量含む。	SM426より新しい
Pit46	18・22	円形	19×19	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。	―
Pit47	22	円形	21×21	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む。	―
Pit48	18	隅丸方形	29×28	21	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%含む。	SM428より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
Pit49	18	円形	34×34	45	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒20%、焼土粒、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SM428より新しい
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む、グライ化。(柱痕跡)	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%含む。	
Pit50	14	隅丸長方形	37×29	4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物微量含む。	SM430より新しく、SX38より古い
Pit51	19	隅丸方形	37×36	5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒、炭化物少量含む。(柱痕跡)	SM423より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物微量含む。	

ピット 観察表（2）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit52	18	隅丸方形	32×28	16	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	SM425より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。	
Pit53	23	円形	26×22	12	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物微量含む、グライ化。	―
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
Pit54	22	円形	38×36	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	SM413より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒40%含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物少量含む。	
Pit55	22	隅丸方形	20×20	5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物、橙色粒微量含む。	―
Pit56	22	不整円形	35×31	23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒、焼土粒微量含む。	SM410より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
Pit57	22	隅丸長方形	62×34	27	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物微量含む。	―
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む。	
Pit58	22・26	円形	56×52	23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。(柱痕跡)	―
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。	
Pit59	17	円形	54×50	33	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土中粒20%、橙色粒微量含む。	SI372・383より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土中粒30%、橙色粒、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物粒微量含む。	
Pit60	19	隅丸方形	26×26	9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。	―
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒20%含む。	
Pit61	18	隅丸長方形	52×41	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む。	SM429より新しい
					2	10YR6/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒10%、炭化物微量含む、グライ化。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒50%含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
Pit62	26	楕円形	32×25	42	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒少量、炭化物微量含む。(柱痕跡)	―
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
Pit63	11	円形	39×37	52	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD279より古い
					2	10YR6/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒30%含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%含む。	
Pit66	18	円形	31×34	17	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	SM427より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%、炭化物微量含む。	
Pit67	7	円形	20×20	8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。	―
Pit68	7	隅丸方形	20×17	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。	―
Pit69	7	隅丸方形	22×17	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒、炭化物10%含む。	SD278より古い
					2	10YR6/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物微量含む、グライ化。(柱痕跡)	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
Pit70	17	不整円形	51×41	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック50%、焼土粒、炭化物微量含む。	―
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。	
Pit72	21	円形	40×38	49	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土斑状に20%、炭化物微量含む。(柱抜取痕)	―
					2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量、炭化物含む。(柱痕跡)	
					3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒20%含む。	
Pit73	10	円形	25×21	22	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物微量含む、一部グライ化。(柱痕跡)	SI363、SM434より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物粒微量含む。	
Pit74	21	楕円形	29×24	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物微量含む。	―
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。	
Pit76	13	隅丸方形	53×49	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI372より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物少量、Ⅳ層土粒微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物微量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック15%、炭化物少量、橙色粒微量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物少量、Ⅳ層土中粒、橙色粒微量含む。	
Pit77	17	隅丸方形	49×43	43	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物少量、Ⅳ層土粒微量含む。	SI372より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、白色粒、炭化物少量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、白色粒微量含む。	
Pit78	13	楕円形	75×58	24	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒30%、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SI372、SA9より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物、橙色粒微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10% 、炭化物微量含む。	
					5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒30%、炭化物微量含む。	
					6	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物微量含む。	
					7	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒20%、炭化物微量含む。	
Pit79	13	隅丸方形	53×47	41	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物微量含む。	SI372より新しい
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒15%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒5%、炭化物微量含む。	
Pit80	13・17	隅丸方形	61×60	16	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物、焼土粒微量含む。(柱痕跡)	SI372、Pit82より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒20%含む。	
					3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒20%、炭化粒微量含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化粒、焼土粒微量含む。	
					5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化粒、焼土粒、Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit81	20	楕円形	30×24	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物少量含む。(柱痕跡)	SI379より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化粒微量含む。	

ピット 観察表（3）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit82	13	隅丸長方形	74×56	42	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	SI372より新しく、SD281より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒少量含む。	
					4	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒30%含む。	
Pit83	13	隅丸方形	41×36	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒少量、炭化粒微量含む。(柱痕跡)	SI372より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。	
Pit84	9	隅丸長方形	79×64	2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック多量、炭化物微量含む。	SI382より新しく、SD282より古い
Pit85	17	楕円形	42×40	33	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒多量、炭化物、焼土粒微量含む。(柱痕跡)	SI372より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒少量、炭化物、焼土粒微量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物微量含む。	
Pit86	20	隅丸長方形	54×36	44	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒30%、炭化物微量含む。(柱痕跡)	—
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化粒微量含む。	
Pit87	13	隅丸方形	42×36	25	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SI372より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。	
Pit90	13	円形	59×51	35	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、橙色粒微量含む。	SI372・382より新しい
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。	
Pit91	7	円形	38×36	30	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒、焼土粒、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SI381より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物少量、焼土ブロック(5㎜)微量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物、焼土粒微量含む。	
Pit93	13	円形	20×(13)	16	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物20%含む。(柱痕跡)	Pit36より古い
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック多量、炭化物微量含む。	
Pit95	9	不整円形	50×(27)	29	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物10%、焼土粒微量含む。	SI382より新しく、SD282より古い
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒20%、Ⅳ層土粒10%、炭化粒微量含む。	
Pit97	9	隅丸方形	35×35	19	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化粒微量含む。(柱痕跡)	SI382より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック15%含む。	
Pit98	9	隅丸方形	36×30	25	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック、橙色粒、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD278より古い
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒20%含む。	
Pit99	13	隅丸方形	53×45	24	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒15%含む。(柱痕跡)	SI372・382より新しい
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰白色粘土ブロック30%、炭化物粒微量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物粒微量含む。	
Pit101	22・23	円形	36×32	36	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物微量含む。(柱痕跡)	SM409より新しい
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
Pit102	13	円形	27×26	26	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック少量含む。	SI372・Pit115より新しい
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。	
Pit106	14	楕円形	31×24	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒40%、炭化物微量含む、グライ化。(柱痕跡)	—
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物微量含む、グライ化。	
Pit107	16	隅丸方形	24×24	12	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%含む。(柱痕跡)	SI378・379より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒30%、炭化物微量含む。	
Pit108	7	楕円形	27×27	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。(柱痕跡)	—
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
Pit109	11	円形	29×23	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒、炭化物微量含む。(柱痕跡)	—
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒30%含む、グライ化。(柱痕跡)	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒10%含む。	
Pit110	13	隅丸方形	24×24	23	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック15%、炭化物微量含む。	SI372より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒40%、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。	
Pit111	16	隅丸長方形	43×27	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック縞状に30%含む。	SD281より古い
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物微量含む。	
Pit112	17	隅丸方形	30×29	24	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒30%含む。	SI372より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む、一部グライ化。	
Pit114	13	楕円形	24×19	27	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量含む。	Pit139より新しい
Pit115	13	円形	22×(12)	42	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量、焼土粒含む。	Pit102より古い
Pit116	17	隅丸方形	21×18	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		—
Pit118	17	隅丸方形	31×26	21	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI372より新しい
Pit119	17	隅丸方形	32×30	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック5%、橙色粒微量含む。	—
Pit120	17	隅丸長方形	30×25	14	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック5%、炭化物微量含む。	—
Pit121	13・17	円形	35×32	19	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒微量含む。(柱痕跡)	SI372より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト		
					4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
Pit122	13	円形	16×14	26	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量含む。	SI372より新しい

ピット観察表（4）

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit123	13	円形	21×18	41	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		SI372より新しい
Pit125	17	円形	28×27	13	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。	SI372より新しい
Pit127	26	不整円形	(44)×(11)	23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒、炭化物微量含む。(柱痕跡)	—
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
Pit130	22	不整円形	16×11	19	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、焼土粒微量含む。	SI356より新しい
Pit131	16	円形	36×34	27	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	SD281より古い
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒、炭化物微量含む。(柱痕跡)	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック15%、炭化物少量含む。	
Pit132	11	隅丸方形	43×40	23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SD281より古い
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
Pit133	16	隅丸方形	23×20	21	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%含む。	SD279より古い
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック60%含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック微量含む。	
Pit135	19	—	55×(—)	56	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%、炭化物微量含む。	—
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック20%、炭化物微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック40%含む。	
Pit137	18	楕円形	24×14	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック、炭化物少量含む。	SI367より新しい
Pit138	17	円形	30×25	44	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒30%、炭化物微量含む。(柱痕跡)	SI372より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック10%含む。	
Pit139	13	円形	23×18	27	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土中粒10%、炭化物微量含む。	Pit114より古い
Pit140	22	隅丸長方形	44×34	43	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物10%含む。	SI356より新しい
Pit141	22	円形	17×13	21	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。	SI356より新しい
Pit142	15	—	58×—	27	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物10%含む。	SI361より新しい
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%含む。	
Pit143	20	—	29×—	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土中粒、焼土粒微量含む。	—
Pit144	20	—	37×—	25	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土中粒、炭化物微量含む。	—
Pit145	13	—	26×—	33	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物微量含む。	—
Pit146	13	—	19×—	19	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒20%含む。	—
Pit147	7	円形	30×(29)	10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック30%、炭化物微量含む。	SI381より新しい

(9) 性格不明遺構（第 85・86 図）

SX35 性格不明遺構（第 85 図）

調査区中央部東側の 18・19 グリッドに位置する。基本土層Ⅲ層中で検出したが、北側上部は撹乱によって失う。SI361、SB44、SM424 ～ 428 と重複し、それより新しい。

平面は、楕円形の土坑に長楕円形のテラスが付帯した形状を呈す。2 遺構に分離される可能性もあるが、堆積土が連続することから 1 つの遺構とした。規模は、長さ 412cm、幅 157 ～ 203cm、深さ 4 ～ 30cm を測る。土坑部とテラス部で分離した場合の規模は、土坑部で長軸 217cm、短軸 180cm、深さ 30cm、テラス部で長軸 310cm、短軸 157 ～ 206cm、深さ 4 ～ 15cm を測る。

堆積土は 7 層に分層される。黒褐色および暗褐色粘土質シルトが主体を占め、3 層には多量の炭化物と比較的多い焼土粒を含む。焼成遺構の可能性も考えられる。

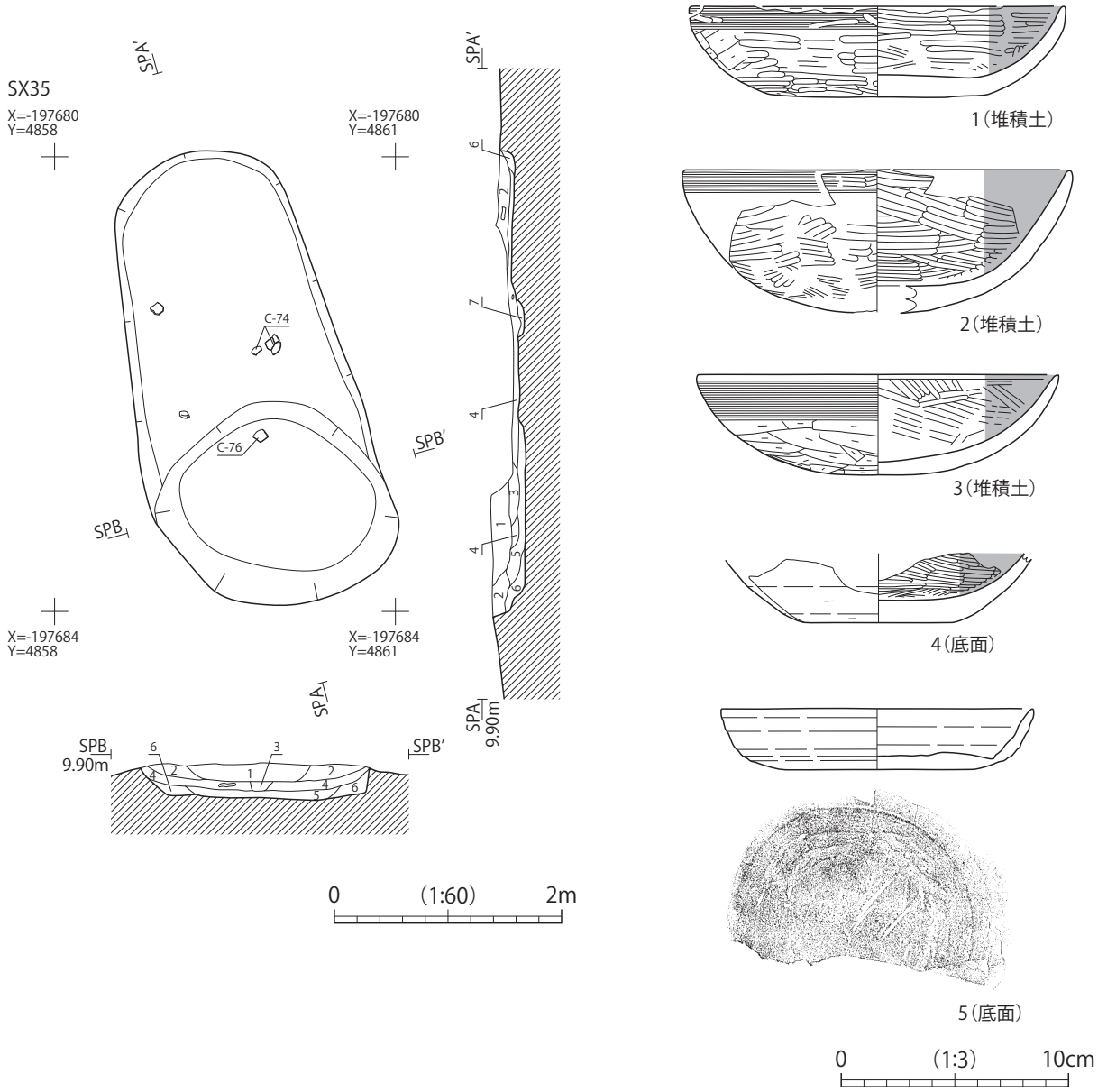
遺物は底面や堆積土から土師器や須恵器がまとまって出土しており、土師器坏 4 点、須恵器坏 1 点を図示した（第 85 図）。

1 ～ 3 は、口縁部と体部の境の段や稜が不明瞭で丸みを帯びる。1 は平底であるが、2・3 は丸底である。内面の調整はヘラミガキで、黒色処理が施される。4 はロクロ土師器の坏である。体部は外面が回転ヘラケズリで、内面がヘラミガキで黒色処理が施される。5 は須恵器の坏であり、口径が推定 6.8cm、器高が 2.7cm を測る。底部は静止ヘラ切り後、ヘラケズリで調整される。

時期は遺構底面から出土した第 85 図－ 4・5 が直接伴う遺物で、6 期（8 世紀前葉以降）と考えられる。

SX36 性格不明遺構（第 86 図）

調査区南端東側の 26 グリッドに位置し、南側は調査区外へ延びる。SI374、SA8 － P4 と重複し、SI374 より新しく、SA8 － P4 より古い。



SX35 性格不明遺構 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SX35	18・19	楕円形	412×157～203	4～30	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物30%、焼土粒10%含む。	SI361、SB44、SM424～428より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒、炭化物10%含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物50%、焼土粒20%含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物10%、焼土粒微量含む。	
					5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む。	
					6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(50㎜程)10%、炭化物少量含む。	
					7	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト		

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-74	SX35	堆積土	土師器	坏	16.4	9.6	4.0	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ→ヘラミガキ	口縁→体部ヘラミガキ、黒色処理		33
2	C-75	SX35	堆積土	土師器	坏	(17.0)	—	6.3	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラミガキ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		33
3	C-76	SX35	堆積土	土師器	坏	(16.0)	—	4.4	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁～体部ヘラミガキ、黒色処理		33
4	D-1	SX35	底面	土師器	坏	—	6.6	(3.1)	体部回転ヘラケズリ	体部ヘラミガキ、黒色処理		33
5	E-5	SX35	底面	須恵器	坏	(13.6)	8.4	2.7	ロクロ調整、体部下位回転ヘラケズリ、底部静止ヘラ切り→ヘラケズリ	ロクロ調整		33

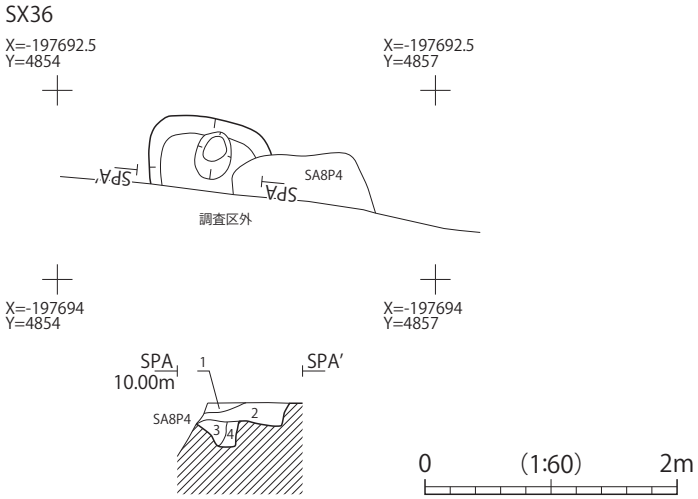
第 85 図　SX35 性格不明遺構・出土遺物

平面形状は隅丸方形と推察され、断面は階段状を呈する。検出した規模は、長軸 97cm、深さ 35cm を測る。

堆積土は 4 層に分層され、1 層には焼土粒を含む。重複する SI374 の影響とも考えられるが、本性格不明遺構が SI374 の一部であった可能性も考えられる。

遺物は、堆積土から土師器と須恵器がわずかに出土したが図示できるものはない。

時期は、重複する SI374 を 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降、SA8 を 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）以降としており、2b ～ 5 期と考えられる。



SX36 性格不明遺構 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SX36	26	隅丸方形	97×59	35	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。	SI374より新しく、SA8P4より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程)20%含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト		
					4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト		

第 86 図　SX36 性格不明遺構

第 6 章　総括

第 1 節　長町駅東遺跡第 13 次調査区について

今回の調査では、竪穴住居跡 29 軒、掘立柱建物跡 3 棟、杭列・一本柱列 3 列、溝跡 7 条、小溝状遺構 32 条、井戸跡 2 基、土坑 3 基、ピット 105 基、性格不明遺構 2 基が検出された。

これらの遺構に共伴して出土した遺物は土師器が大半であり、時期的には古墳時代の 5 世紀末葉から古代の 8 世紀前半のものがある。調査区内は長期にわたって居住域として存続していたと考えられ、1 ～ 6 期に区分した各期の特徴を考えてみたい。

1 期（5 世紀中葉～後葉）

長町駅東遺跡の集落の初現と考えられるが、本調査区では竪穴住居跡は検出されていない。第 9 次調査区の当期に属する SI324・328 はともに東壁にカマドが付設されており、本調査区で唯一東壁にカマドが付設すると考察される SI380 に可能性が考えられる。

2a 期（6 世紀初頭～前葉）

調査区中央部西寄りに位置する SI372・383 の 2 軒が当期と考えられる。SI372 は本調査区において最大の竪

穴住居跡で、床面積はおよそ 57㎡である。他の竪穴住居跡と比べて大きく違いが認められるのがカマドの構造で、両袖は灰白色粘土を 3 段に積み重ねて構築され、燃焼部から支脚を埋設したと考えられる落ち込みが 2 基並列して検出されている。

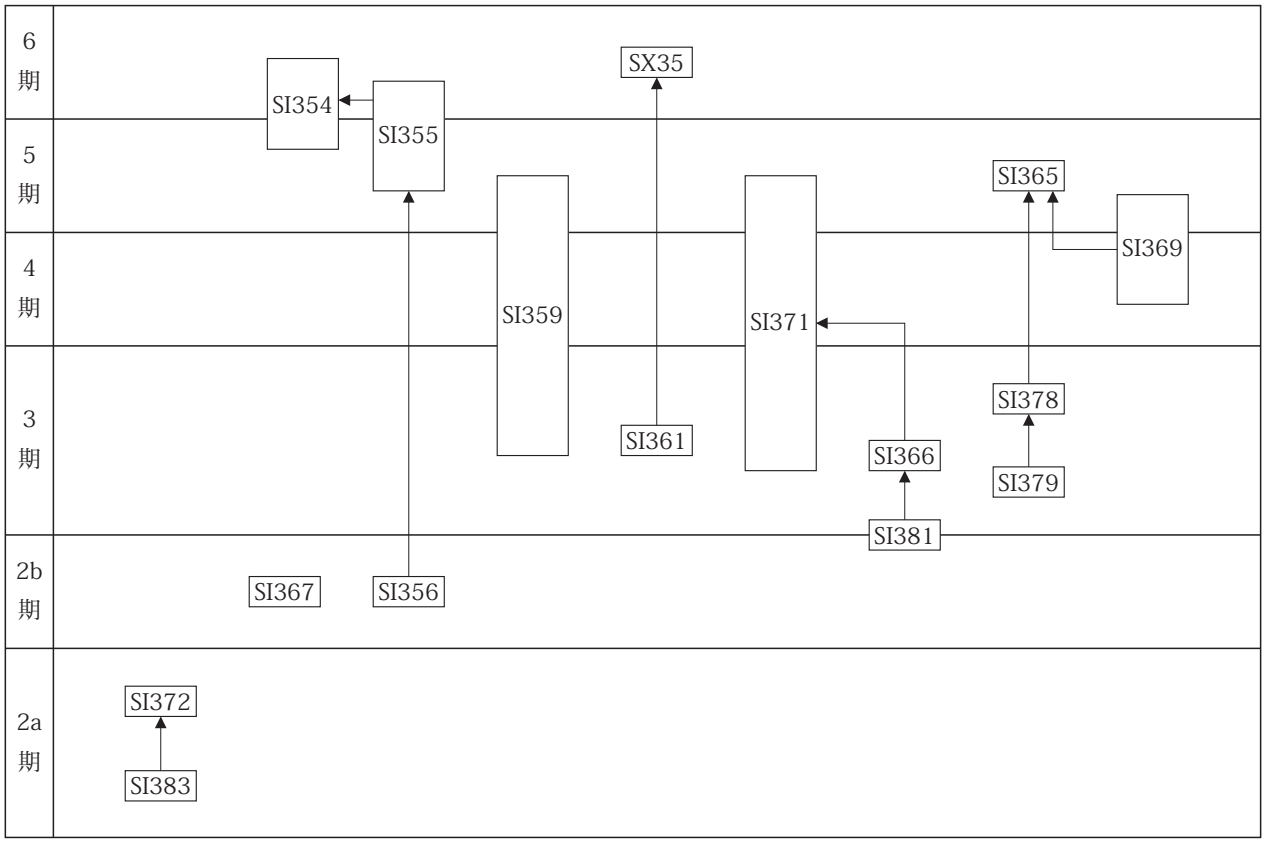
本調査区の小溝状遺構 B 群（SM406 ～ 435）は、2a 期との重複関係はないが、重複する 2b 期の竪穴住居跡よりも古く、当期以前の遺構と考えられる。小溝状遺構 B 群を当期の遺構とした場合、水利的要因から河川沿いに占地した住耕一体型の在来集落であったと考えられる。

2b 期（6 世紀中葉～末葉）

調査区南東寄りの SI356、中央部東寄りの SI367、北東隅の SI381 の 3 軒が当期の竪穴住居跡と考えられる。竪穴住居跡の方向をみてみると、SI356・381 が N － 17°－ W、SI367 が N － 35°－ W といずれも西側に傾くものの角度に違いがみられる。平面形状はいずれも方形基調でカマドは北壁に付設されるが、長軸での規模は SI356 で 610cm、SI381 で 432cm、SI367 で 320cm と規格性は認められず多様化する。

3 期（7 世紀初頭～前葉）

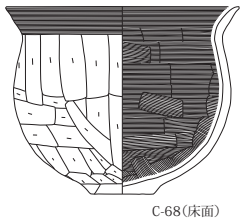
調査区北側に位置する SI366、東側に位置する SI361、西側に位置する SI378・379 などが当期の竪穴住居跡と考えられる。竪穴住居跡の方向をみてみると、25 ～ 41°西側に傾いている。長町駅東遺跡で当期の竪穴住居跡は 30 ～ 50°西側に傾くものが主体であり、本調査区も同様の様相を呈している。平面形状はいずれも方形基調で、カマドは北壁に付設される。長軸での規模は 500cm 前後が主体であり、また SI361・366 では壁沿いを一段掘り下げる掘り方が確認されており、規格化の一端が垣間見られる。



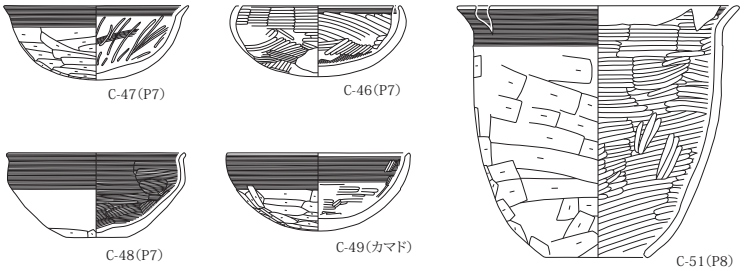
第 87 図　主要遺構重複関係模式図

2a期（6世紀初頭～前葉）

SI383

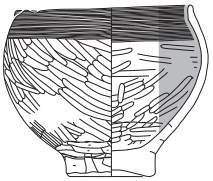


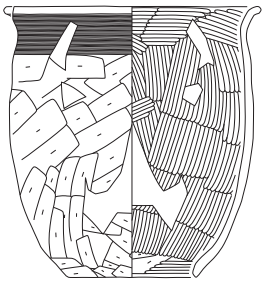
SI372



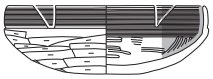
2b期（6世紀中葉～末葉）

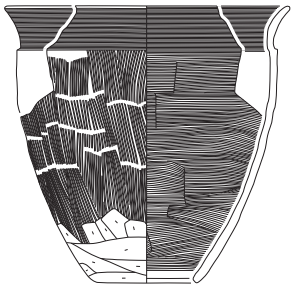
SI356



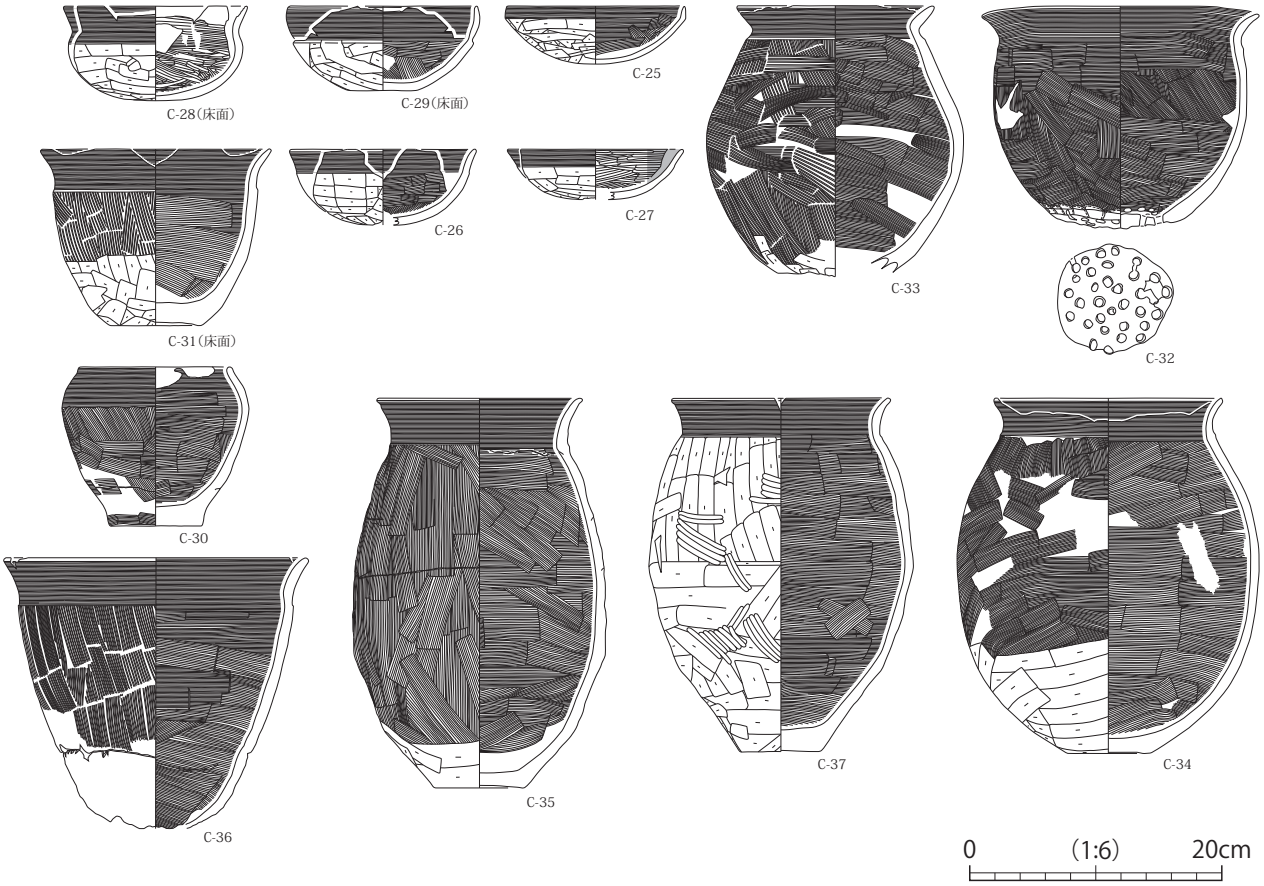


SI381





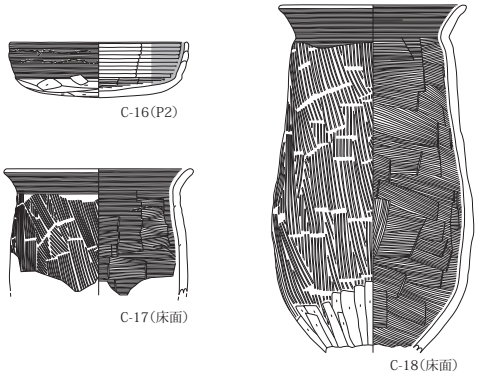
SI367



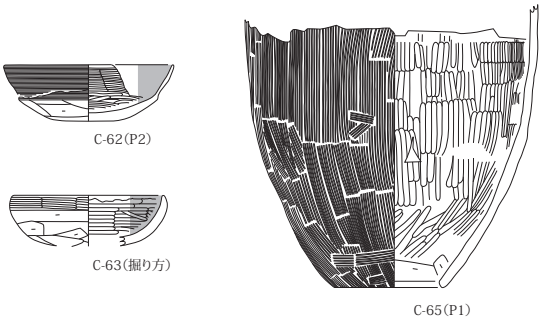
第 88 図　出土遺物集成（1）

3期（7世紀初頭～前葉）

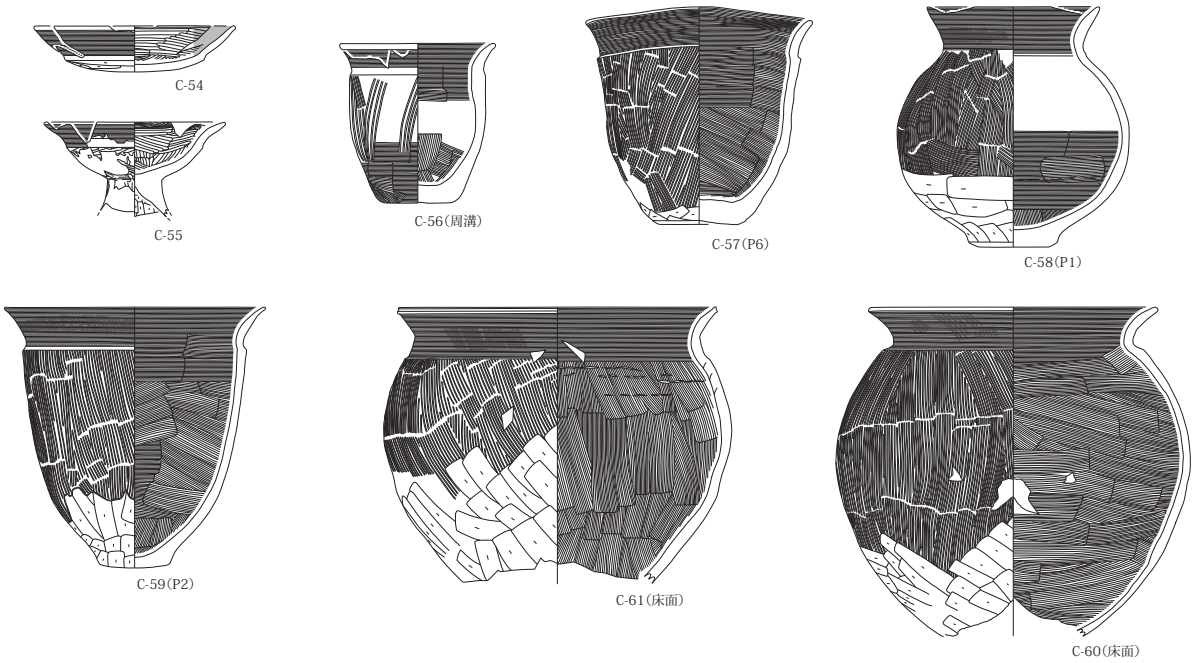
SI361



SI379

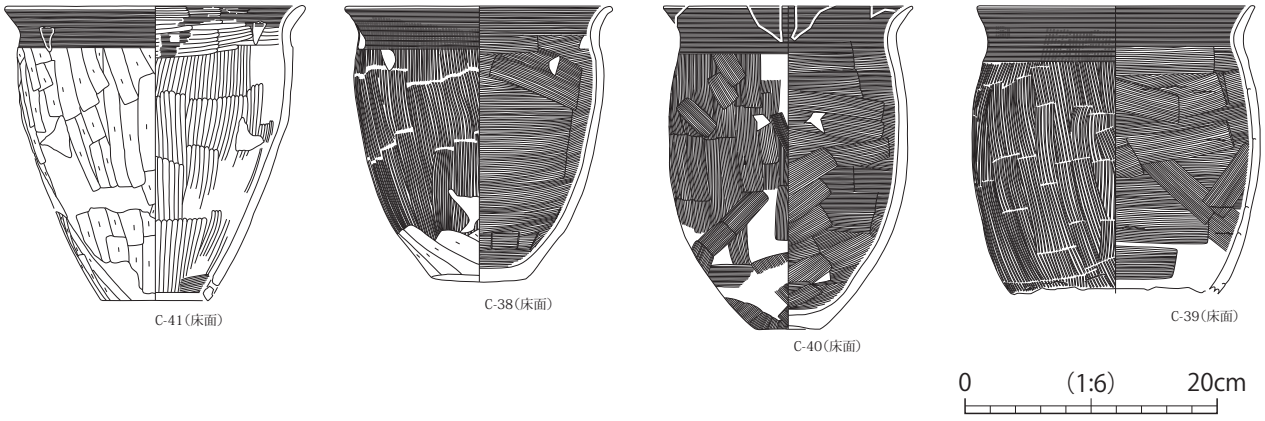


SI378

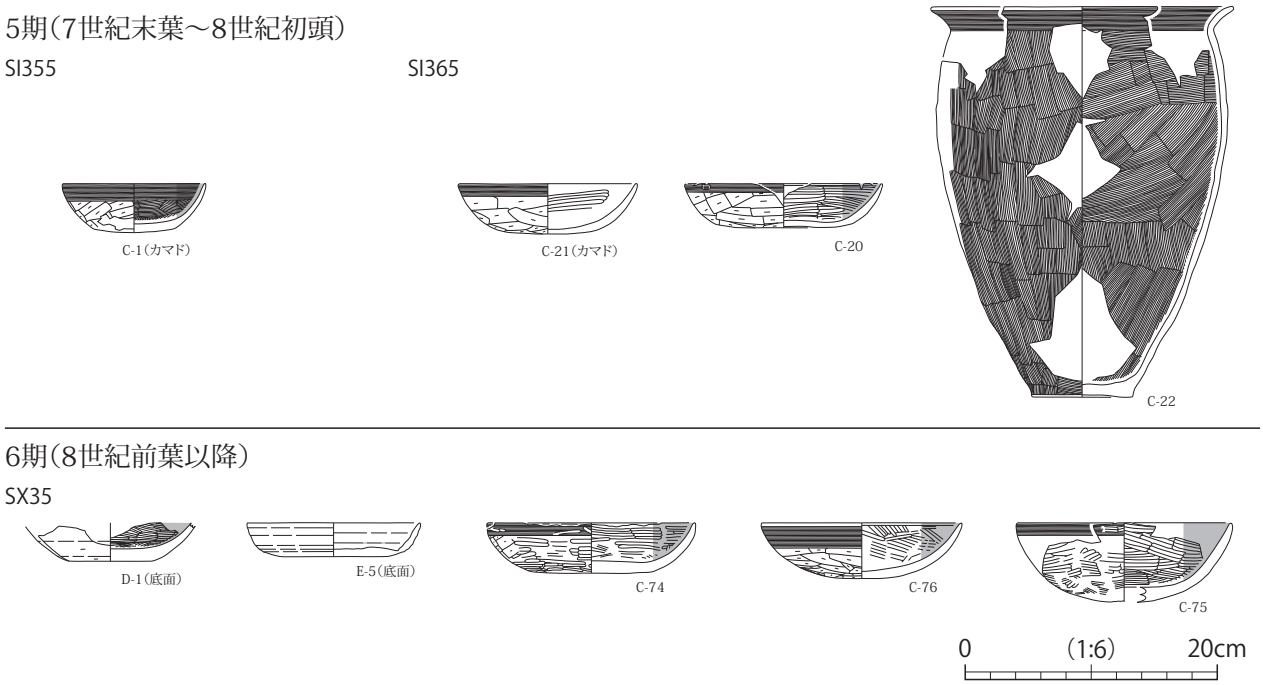


5期（7世紀末葉～8世紀初頭）以前

SI369



第 89 図　出土遺物集成（2）



第 90 図　出土遺物集成（3）

4 期（7 世紀中葉～後葉）

郡山遺跡のⅠ期官衙期にあたり、調査区北側に位置する SI369 が当期に属する可能性が高い。SI369 の方向は N － 39°－ W を指し、規模は長軸 566cm を測る。第 4 次調査などで検出された区画施設と考えられる大溝跡（SD66）の N － 34°－ W と概ね同方向であり、区画を意識したものと考えられる。

5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）

郡山遺跡のⅡ期官衙期にあたり、調査区中央部南側の SI355、中央部西端の SI365 が当期に属すると考えられる。竪穴住居跡の方向は、SI355 が N － 32°－ W、SI365 が N － 8°－ W を指す。平面形状はいずれも方形が基調で、主柱穴は 4 基を対角線上に配置する。長軸での規模は、SI355 の 418cm に対し、SI365 は 642cm と大型である。カマドは北壁に付設され、煙道部の長さはいずれも 100cm を超える。

6 期（8 世紀前葉以降）

当期の竪穴住居跡は検出されておらず、性格不明遺構（SX35）が 1 基あるのみである。SX35 は堆積土中に多量の炭化物が確認されており、焼成遺構の可能性も考えられる。底面からはロクロ土師器坏（第 85 図－ 4）、須恵器坏（第 85 図－ 5）などが出土しているが、このロクロ土師器は破片資料も含めて本調査区で唯一の出土であり、集落の下限を示す資料と考えられる。

竪穴住居跡がみられなくなる一方で 5 期以降に 3 軒の掘立柱建物跡が構築され、重複関係から 5 期末～ 6 期前半には掘立柱建物跡と一本柱列（SA8）が集落の一端を担っていたと考えられる。調査区南側に位置する南北棟の総柱建物跡である SB42 の棟方向は N － 20°－ W を指し、調査区中央部東端に位置する側柱建物跡の SB44 は東西棟であるため棟方向が N － 76°－ E を指すが、梁間でみた場合では N － 14°－ W となる。SB42 の西側に隣接する SA8 の方向も N － 15°－ W を指し、長町駅東遺跡の 5 期の竪穴住居跡の大半が西側へ 20°未満傾くことに一致している。

長町駅東遺跡第 13 次調査　竪穴住居跡の属性一覧（1）

住居番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形状・規模		軸方位		カマド			煙道部			その他の施設	備考
		平面形状	長軸×短軸（cm）	方位	算出基準	付設位置	燃焼部位置	袖構築土※（ ）は芯材	長さ（cm）	底面	煙出し		
SI354	26	方形 or 隅丸方形	256×135	N-26°-W	カマド煙道部	北壁	やや外	盛土	104	低くなる	ピット状	床面から土坑2基（1基は貯蔵穴）	カマドを含む北壁の2/3程度の検出。南側の大半は調査区外へ延びる。
SI355	21・22 26	隅丸方形	418×410	N-32°-W	カマド煙道部	北壁	内	盛土	115	—	ピット状	床面から土坑5基	
SI356	18・22 26	やや膨らむ方形	610×580	N-17°-W	カマド	北壁	内	盛土（東袖自然礫・加工礫、西袖加工礫）	①170 ②54	—	②U字状	床面から土坑6基、貼床面下から6基（2基はカマド関連）	東袖の延長上に煙道を検出し、カマド2とした。
SI357	22・27	隅丸方形 or 隅丸長方形	138×112	N-27°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	—	北西隅のみを検出。大半は調査区東壁外へ延びる。
SI358	26	不明	不明	N-21°-W	カマド煙道部	—	—	—	85	—	ピット状	—	煙道部のみを検出。
SI359	20・21 24・25	方形 or 長方形	684×656	N-33°-W	カマド	北壁	内	白色粘土（礫）	133	—	ピット状	床面から土坑3基（2基はカマド関連）、貼床面から土坑6基	南西半は調査区南壁外へ延びる。
SI360	20・21 24・25	隅丸方形	420×419	N-36°-W	東壁	—	—	—	—	—	—	—	SI359の外周で検出。調査区南壁の土層観察より竪穴住居跡とした。
SI361	14・15 18・19	隅丸方形	508×487	N-41°-W	カマド	北壁	内	—	147	—	ピット状	床面から土坑3基（1基は貯蔵穴）、溝1条	南東隅は調査区東壁外に延びる。
SI362	26	不明	不明	N-20°-W	カマド煙道部	—	—	—	53	—	ピット状	—	煙道部のみを検出。
SI363	9・10 13・14	方形	398×394	N-15°-W	カマド煙道部	北壁	内	盛土	171	緩やかに傾斜	不明	床面から土坑2基（1基貯蔵穴、1基カマド関連？）、溝1条	
SI364	8・9	隅丸方形 or 隅丸長方形	355×196	N-1°-E	東壁	—	—	—	—	—	—	—	南東隅の一部を検出。大半は調査区北壁外へ延びる。
SI365	8・12 13・16 17	方形	642×575	N-8°-W	カマド1煙道部	①北壁 ②カマド1の西側	内	—	①160 ②47	①傾斜 ②平坦	①② ピット状	床面から土坑12基（6基はカマド関連）、貼床面下から3基	西側はグライ化が著しく一部面を下げて確認を行った。
SI366	6・7	方形 or 隅丸方形	532×333	N-25°-E	東壁	—	—	—	—	—	—	掘り方から1基（掘り方の一部）	北側および南東隅は撹乱によって壊される。
SI367	18・22	隅丸方形	320×301	N-35°-W	東壁	北壁	やや外	—	—	—	—	—	北西側は撹乱によって失われている。
SI368	13・14 17・18	隅丸方形	295×292	N-30°-W	カマド煙道部	北壁	内	—	105	僅かに傾斜	—	床面から土坑1基	南東隅は撹乱によって失われている。
SI369	8・9 12・13	方形	566×391	N-39°-W	東壁	—	—	—	—	—	—	床面から土坑1基、間仕切り溝1条	重複遺構により南壁の大半は失われる。北側は調査区北壁外へ延びる。
SI370	16・20	方形 or 隅丸方形	594×579	N-34°-W	カマド煙道部	北壁	内	盛土	104	ほぼ平坦	—	床面から土坑2基、貼床面下から土坑3基、間仕切り溝1条	北西隅および南西隅は調査区に西壁外へ延びる。
SI371A	6・10	隅丸方形	536×532	N-28°-W	カマド	北壁	内	（自然礫）	—	—	—	床面から5基（1基はカマド関連）、貼床面下から1基	撹乱により削平を受け上部が一部失われる。
SI371B	6・10	方形 or 隅丸方形	452×441	N-26°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	床面から土坑2基（1基はカマド関連）、溝跡1条、貼床面下から土坑2基	SI371Aの掘り方調査時に一回り狭い貼床面を検出。
SI372	9・13 14・17 18	方形	760×748	N-30°-W	カマド	北壁	内	灰白色粘土	100	ほぼ平坦	不明	床面から土坑4基（1基は貯蔵穴）、貼床面下から土坑2基	南東隅は撹乱によって失われる。
SI374	26	不明	不明	N-9°-W	カマド煙道部	—	—	—	143	緩やかに傾斜	ピット状	—	カマドの煙道部のみを確認。大部分は調査区南壁外へ延びる。
SI375	23	隅丸方形 or 隅丸長方形	205×50	N-3°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	—	東側の大部分は調査区東壁外へと延びる。
SI376	16	不明	不明	N-60°-W	カマド煙道部	—	—	—	58	浅い皿状	不明	—	カマド煙道部の一部を検出。南側は重複するSI370によって失われる。
SI377	20	不明	125×112	N-34°-W	東壁	—	—	—	—	—	—	—	北側は重複するSI370、南側は撹乱により失われる。

長町駅東遺跡第13次調査　竪穴住居跡の属性一覧(2)

住居番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形状・規模		軸方位		カマド			煙道部			その他の施設	備考
		平面形状	長軸×短軸(cm)	方位	算出基準	付設位置	燃焼部位置	袖構築土※( )は芯材	長さ(cm)	底面	煙出し		
SI378	16・17 20・21	隅丸長方形	376×310	N-39°-W	東壁	―	―	―	―	―	―	床面から土坑5基	南西隅上面は撹乱により失われる。
SI379	16・17 20・21	方形	480×416	N-35°-W	カマド	北壁	内	盛土(自然礫)	―	―	―	床面から土坑3基(1基は貯蔵穴)	東半は重複するSI370によって失われる。
SI380	13	不明	不明	N-90°-E	カマド煙道部	―	―	―	61	平坦	ピット状	―	煙道部のみを検出。
SI381	7・11	隅丸方形 or 隅丸長方形	432×143	N-17°-W	東壁	北壁	―	―	―	―	―	床面から土坑1基(貯蔵穴)	大半は撹乱によって失われる。
SI382	9・13	方形	535×480	N-2°-W	カマド	北壁	内	盛土	―	―	―	―	南側の大部分を重複する遺構によって失われる。
SI383	17・21	方形	452×447	N-24°-W	西壁	―	―	―	―	―	―	床面から土坑1基、掘り方から土坑1基(カマド関連)	東半は重複するSI372によって失われる。

※カマド燃焼部位置は、壁面の内側に構築されるものを「内」、壁面の外側に1/2程度張り出すものを「やや外」とした。

長町駅東遺跡第13次調査　掘立柱建物跡の属性一覧

遺構番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形状・規模				方位	算出基準	柱穴			備考
		桁行×梁間(間)	柱間構造	平面形状	総長(桁行×梁間 cm)			検出数	平面形状	長軸規模(cm)	
SB42	21・22 25・26	(2)×2	総柱	長方形	450×360	N-20°-W	東側柱列	7	隅丸方形基調	76～105	SI355(5～6期)より新しい。南側調査区外。
SB43	16・20	(2)×2	側柱	―	390×420	N-42°-W	東側柱列	5	円形基調主体	43～56	SI365(5期)、SI370(3期以降)より新しい。北・西側調査区外。
SB44	18・19	(2)×1	側柱	長方形(独立棟持柱)	(300)×300	N-76°-E	北側柱列	5	円形基調主体	50～60	SI361(3期)より新しく、SX35(6期)より古い。東側調査区外。

※表中の各数値について、( )は現存値を表す。
※総長については、桁行・梁行ともに最大値で示した。

長町駅東遺跡では、多賀城の築城に伴い郡山Ⅱ期官衙がその機能を移転する段階で集落としての機能を急激に低下させるが、本調査区でもそれに従い６期の前半には既に居住域としての機能を失っていたと考えられる。

居住域としての機能が失われると、長町駅東遺跡は小溝状遺構などの検出状況から生産域（耕作域）へと変貌を遂げると考えられており、本調査区も溝跡や小溝状遺構Ａ群の存在から同様の変化を辿ったと考えられる。

引用・参考文献

吾妻俊典　2004　「多賀城とその周辺におけるロクロ土師器の普及開始年代」『宮城考古学』第６号　宮城県考古学会

加藤道男　1983　「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢』　芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会

菊池佳子　1994　「多賀城以前の陸奥国と須恵器」『歴史』第 82 号　東北史学会

木本元治　1990　「南東北地方における歴史時代の須恵器編年Ⅰ」『伊東信雄先生追悼 考古学古代史論攷』伊東信雄先生追悼論文集刊行会

工藤信一郎　2010　「長町駅東遺跡・西台畑遺跡の集落について」『宮城考古学』第 12 号　宮城県考古学会

国士舘大学考古学会　2009　『古代社会と地域間交流』六一書房

松本太郎「鬼高系の系譜と歴史的背景」　富田和夫「移民の携えた土器」

桜岡正信「古代東北と上野」　池田敏広「栃木県域における６・７世紀の土器様相」

長島榮一「官衙からみた関東系土師器」　村田晃一「律令国家形成期の陸奥北辺経営と坂東」

櫻井友梓　2011　「古墳時代終末期から多賀城創建前後の須恵器生産の展開」『宮城考古学』第 13 号　宮城県考古学会

佐藤敏幸　2007　「宮城県北部・沿岸部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』 東北学院大学文学部

仙台市教育委員会　1992　『郡山遺跡―第 65 次発掘調査報告』仙台市文化財調査報告第 156 集

1992　『郡山遺跡―第 112 次発掘調査報告書―』仙台市文化財調査報告書第 222 集

1994　『南小泉遺跡―第 22・23 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 192 集

1998　『南小泉遺跡―第 26 次調査報告書―』仙台市文化財報告書第 225 集

1998　『南小泉遺跡―第 30・31 次発掘調査報告書―』仙台市文化財報告書第 226 集

2000　『王ノ壇遺跡』仙台市文化財調査報告書第 249 集

2001　『郡山遺跡―第 124 次発掘調査報告書―』仙台市文化財調査報告書第 251 集

2004　『鴻ノ巣遺跡―第 7 次発掘調査報告書―』仙台市文化財調査報告書第 280 集

2005　『郡山遺跡発掘調査報告書―総括編―』仙台市文化財調査報告書第 283 集

2007　『長町駅東遺跡第 4 次調査』仙台市文化財調査報告書第 315 集

2008　『長町駅東遺跡第 1・2 次調査』仙台市文化財調査報告書第 324 集

2008　『南小泉遺跡他』仙台市文化財調査報告書第 326 集

2009　『長町駅東遺跡第 3 次調査』仙台市文化財調査報告書第 340 集

2010　『西台畑遺跡第 1・2 次調査』仙台市文化財調査報告書第 359 集

2010　『沼向遺跡第 4 ～ 34 次調査（第 9 分冊）』仙台市文化財調査報告書第 360 集

2011　『西台畑遺跡第 3 次調査』仙台市文化財調査報告書第 388 集

2013　『西台畑遺跡第 8 次調査』仙台市文化財調査報告書第 409 集

2013　『西台畑遺跡第 4・5・7 次調査』仙台市文化財調査報告書第 411 集

2013　『郡山遺跡第 167・180・196 次調査』仙台市文化財調査報告書第 412 集

高橋誠明　1999　「宮城県における古墳時代中期の土器様相」『東国土器研究』（第 5 号）東国土器研究会

東北古代土器研究会　2005　『東北古代土器集成―古墳後期～奈良・集落編―』＜福島＞　研究報告 1

2005　『東北古代土器集成―古墳後期～奈良・集落編―』＜宮城＞　研究報告 2

2008　『東北古代土器集成―須恵器・窯跡編』＜陸奥＞　研究報告 3

奈良佳子　2003　「宮城県域の 7 世紀の須恵器」『古代東北北海道研究会資料』古代東北北海道研究会

奈良文化財研究所　2003　『古代の官衙遺跡 Ⅰ遺構編』

2004　『古代の官衙遺跡 Ⅱ遺物・遺跡編』

古川市教育委員会　1991　『名生館遺跡Ⅸ』古川市文化財調査報告書 8 集

宮城県教育委員会　1991　『合戦原遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 140 集

1994　『山王遺跡八幡地区の調査』宮城県文化財調査報告書第 162 集

1999　『名生館遺跡・下草古城本丸跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 181 集

2001　『山王遺跡八幡地区の調査 2―古墳時代後期 SD2050B 河川編―』宮城県文化財調査報告書第 186 集

2009　『市川橋遺跡の調査』宮城県文化財調査報告書第 218 集

村田晃一　1996　「陸奥国における 7 世紀の様相」『飛鳥・白鳳時代の諸問題Ⅰ』 国際古代史シンポジウム実行委員会

2000　「飛鳥・奈良時代の陸奥国北辺」『宮城考古学』第 2 号　宮城県考古学会

2002　「7 世紀集落研究の視点（1）」『宮城考古学』第 4 号　宮城県考古学会

2003　「宮城県中・南部における 6 ～ 8 世紀の土師器編年」『古代東北北海道研究会第 1 回研究資料』
古代東北北海道研究会

2007　「ｖ．宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』東北学院大学文学部

柳沼賢治　1999　「福島県における 5 世紀土器とその前後」『東国土器研究』（第 5 号）東国土器研究会

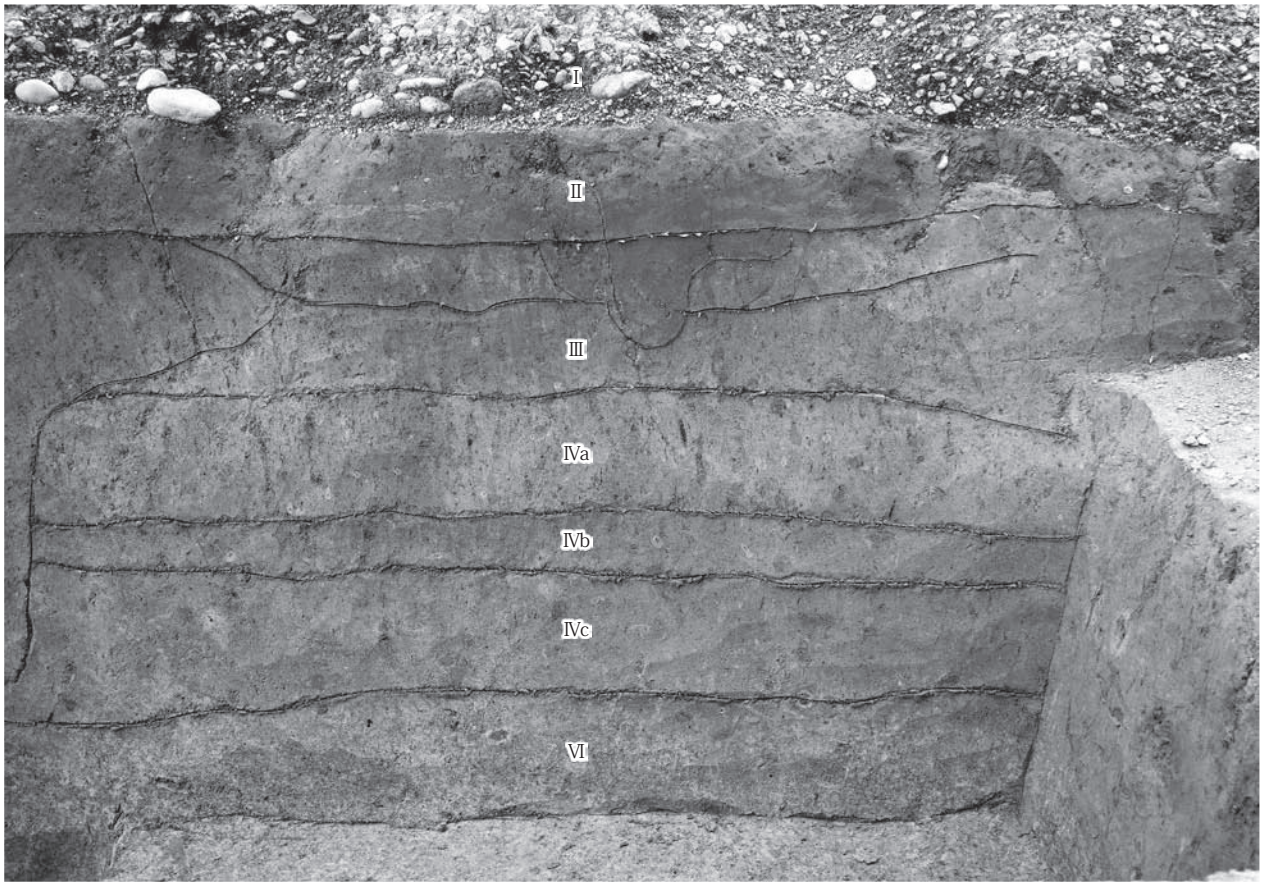
利府町教育委員会　2011　『硯沢窯跡Ⅱ』利府町文化財調査報告書第 13 集

写　真　図　版

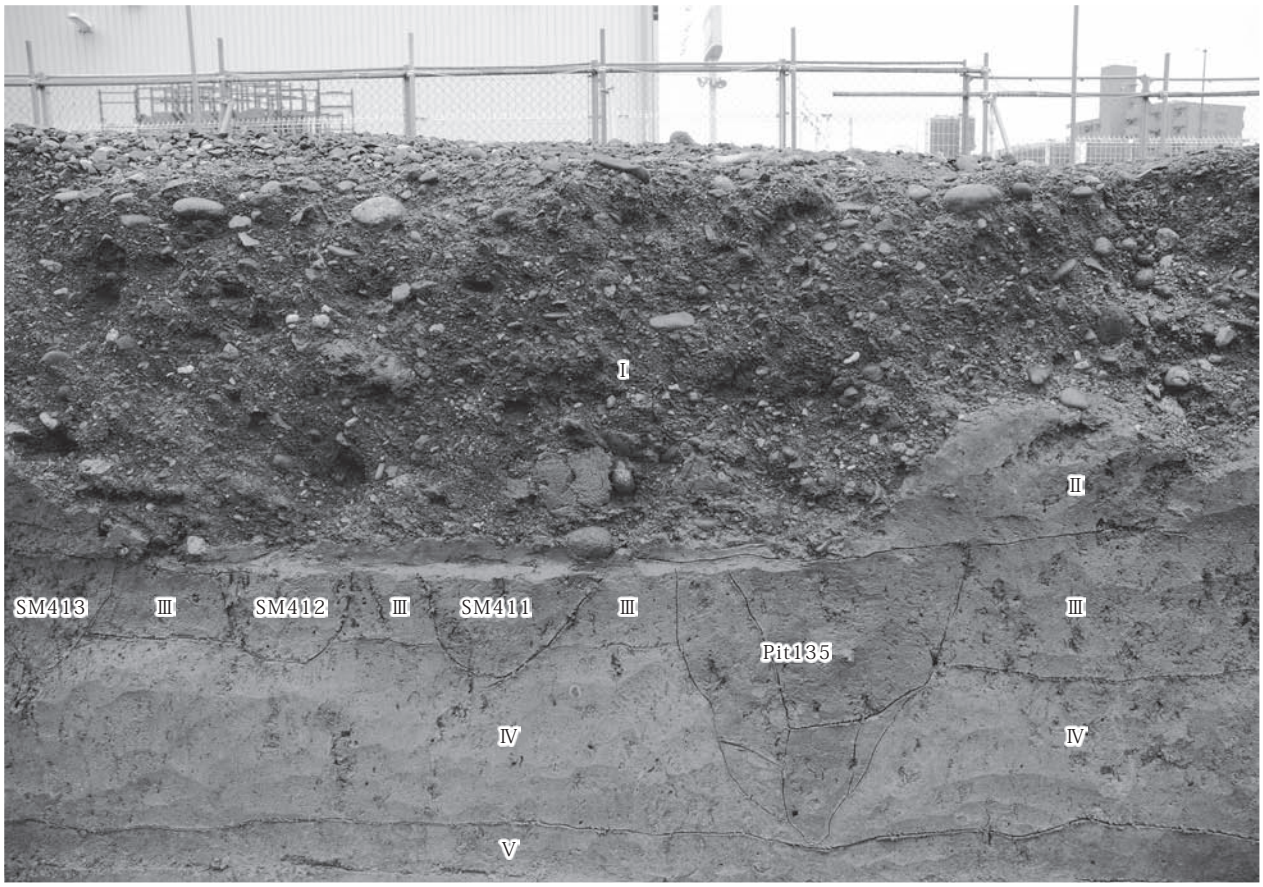
全景（北から）

全景（南東から）

写真図版１　調査区全景



南壁断面（北から）



東壁断面（西から）

写真図版 2　基本層序

SI354 完掘（南から）

SI354 煙道断面（南西から）

SI355 完掘（南東から）

SI355 カマド遺物出土状況（南東から）

SI356 完掘（南から）

SI356 カマド袖芯材検出状況（南から）

SI356 床面検出（南から）

SI357 完掘（東から）

写真図版 3　竪穴住居跡（1）

SI358 完掘（南東から）

SI359 完掘（南東から）

SI359 カマド完掘（南東から）

SI359 カマド遺物出土状況（南東から）

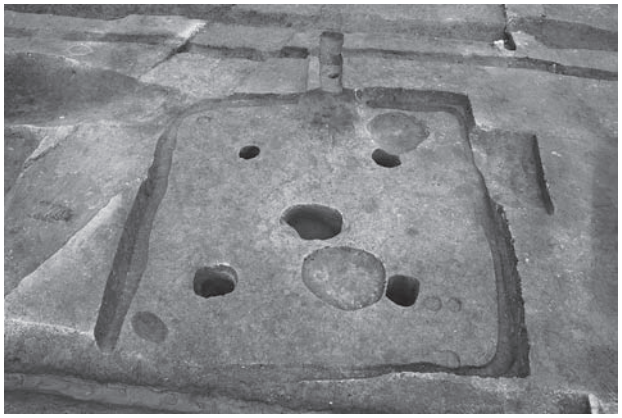
SI359 カマド 2 断面（西から）

SI361 完掘（南東から）

SI361 カマド（南東から）

SI361 遺物出土状況（西から）

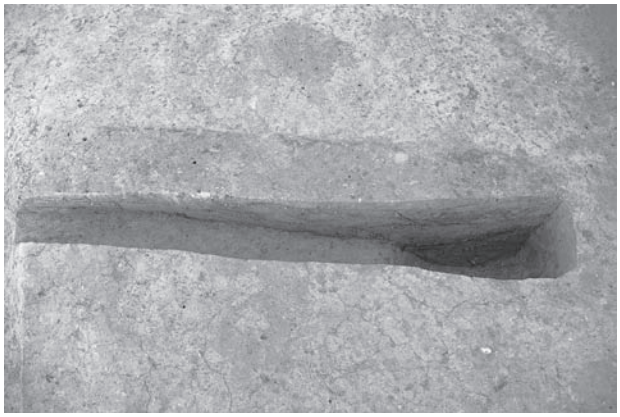
写真図版 4　竪穴住居跡（2）



SI363 完掘（南から）

SI364 完掘（南西から）

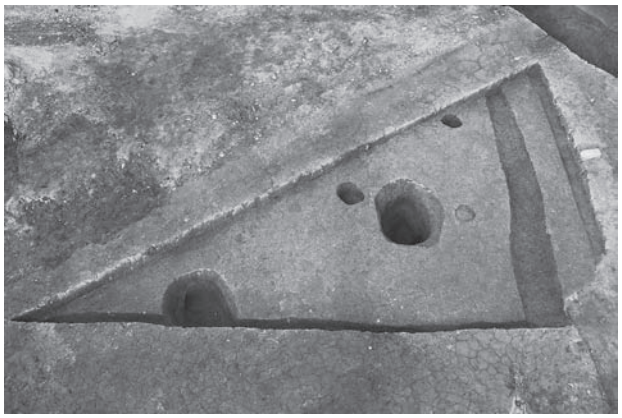
SI365 床面検出（南から）



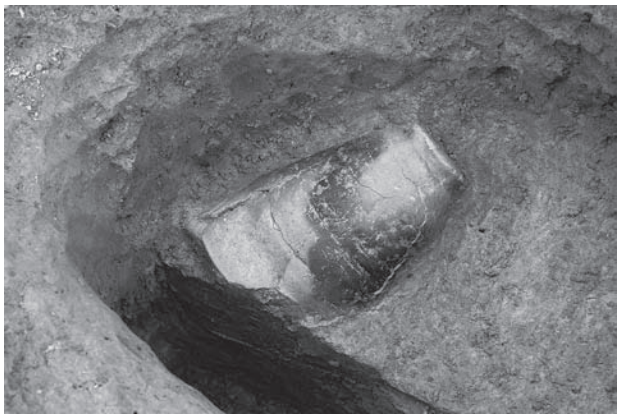
SI365 カマド 1 煙道断面（東から）

SI365 カマド 2 煙道断面（東から）

SI365 掘り方完掘（南から）

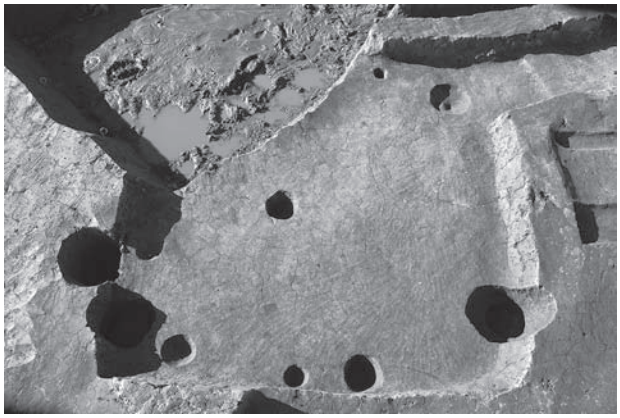


SI366 完掘（南西から）



SI366-P1 遺物出土状況（東から）

写真図版 5　竪穴住居跡（3）

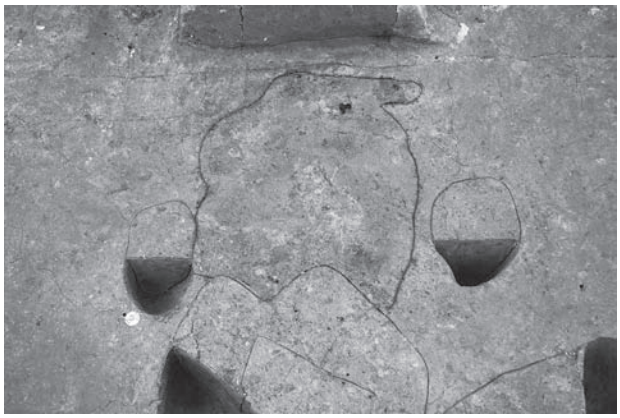


SI367 完掘（南東から）

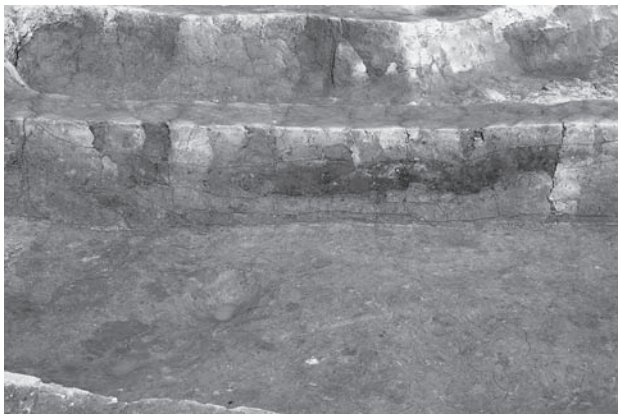
SI367 遺物出土状況（東から）

SI367 作業風景（北から）

SI368 完掘（南東から）



SI368 カマド袖芯材埋設穴断面（南から）



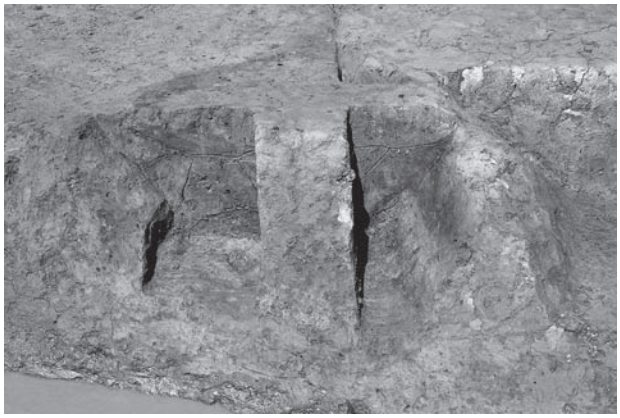
SI368 断面（南から）

SI369 完掘（南東から）

SI369 遺物出土状況（北西から）

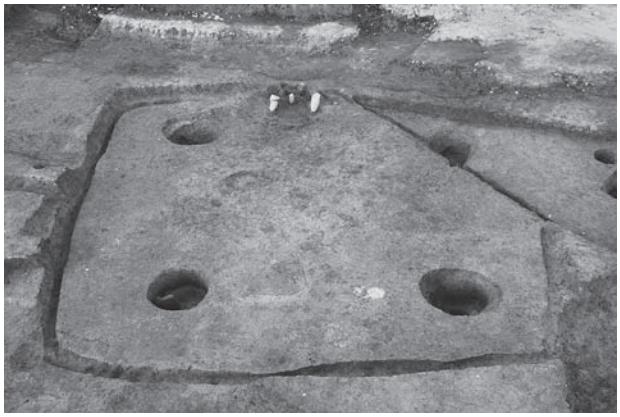
写真図版 6　竪穴住居跡（4）

SI370 完掘（南東から）



SI370 カマド断面（南東から）

SI370 遺物出土状況（東から）

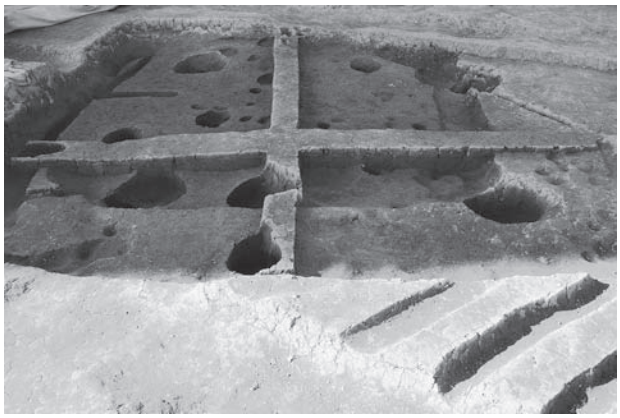


SI371A 完掘（南から）

SI371A カマド完掘（南から）

SI371A カマド遺物出土状況（南東から）

SI371B 完掘（南から）



SI371B 断面（南から）

写真図版 7　竪穴住居跡（5）

SI372 完掘（南から）

SI372 カマド（南から）

SI372 カマド支脚断面（南東から）

SI372 カマド遺物出土状況（南から）

SI372-P7 遺物出土状況（北西から）

写真図版 8　竪穴住居跡（6）

SI374 煙道完掘（南から）

SI375 掘り方完掘（西から）

SI376 煙道完掘（南東から）

SI377 完掘（南東から）

SI378 完掘（東から）

SI378 遺物出土状況（北西から）

SI378 遺物出土状況（西から）

SI378 遺物出土状況（西から）

写真図版 9　竪穴住居跡（7）

SI379 完掘（南東から）

SI379 カマド（南東から）

SI379-P1 断面（南から）

SI379 掘り方遺物出土状況（北から）

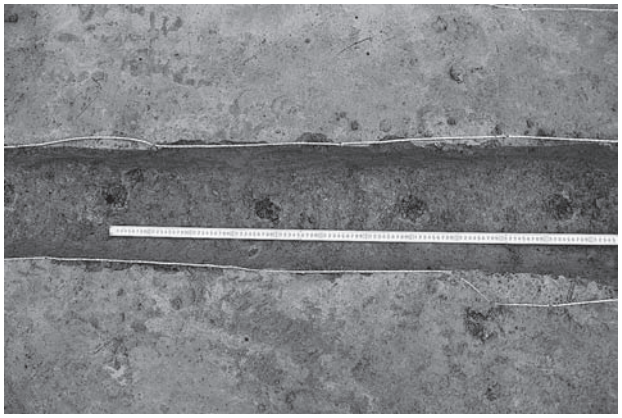
SI380 煙道完掘（南西から）

SI381 遺物出土状況（南から）

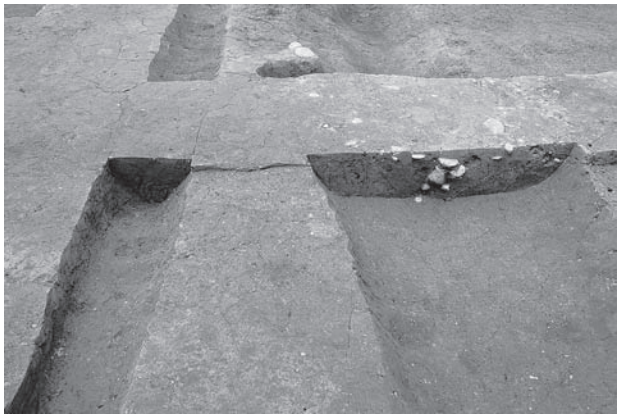
SI382 完掘（南から）

SI383 完掘（南から）

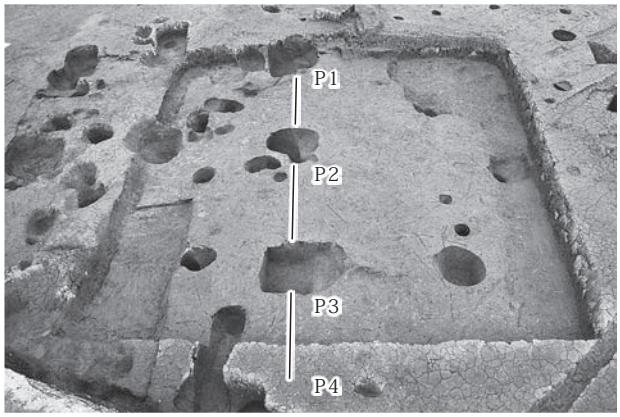
写真図版 10　竪穴住居跡（8）



SA7 検出状況（南から）



SA7・SD278 断面（東から）



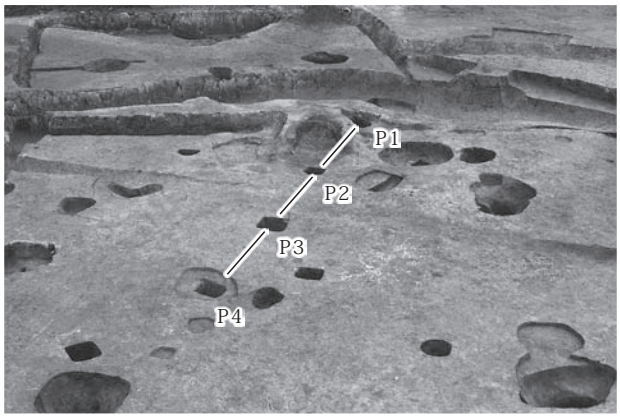
SA8 全景（南から）

SA8-P1 完掘（南から）

SA8-P2 断面（北東から）

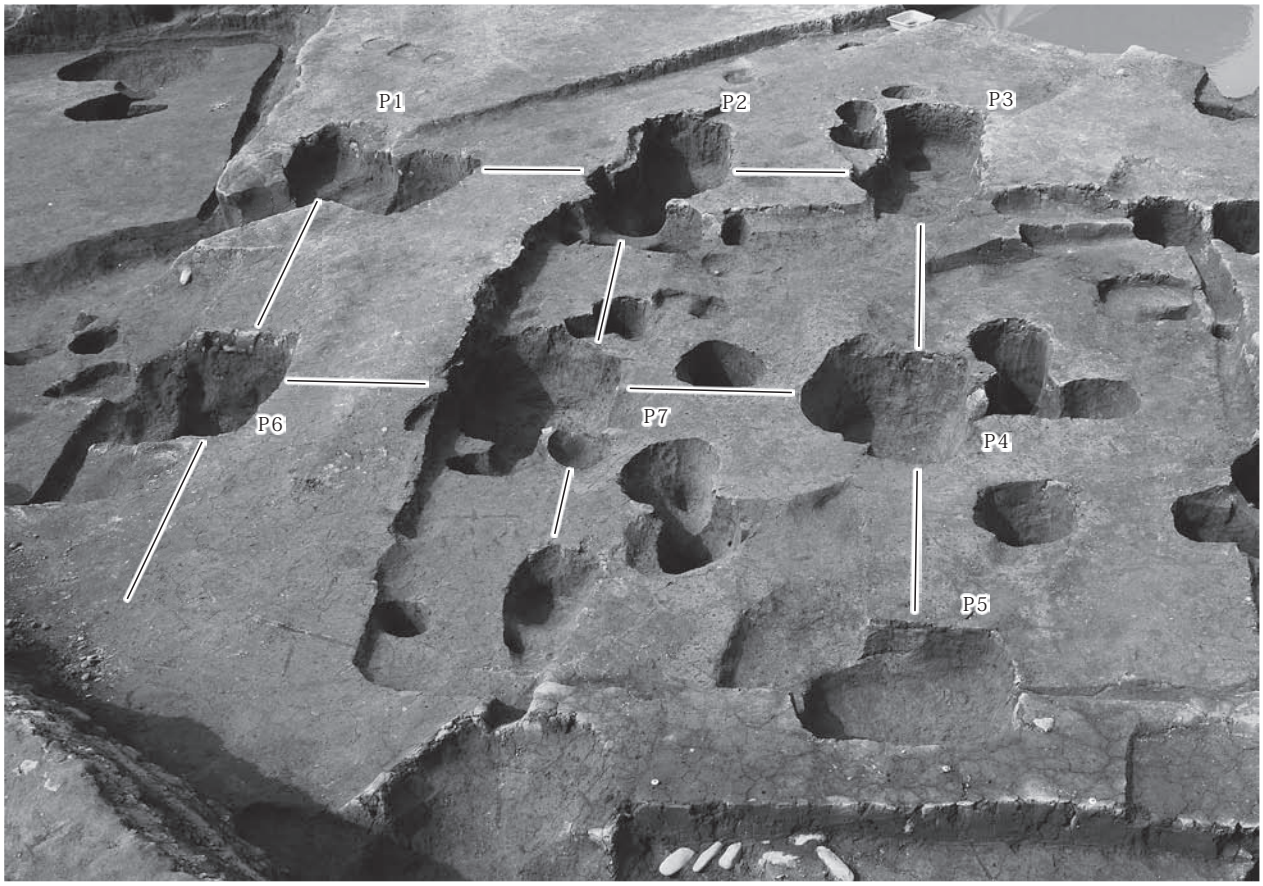
SA8-P3 完掘（南から）

SA8-P4 断面（北から）



SA9 全景（南から）

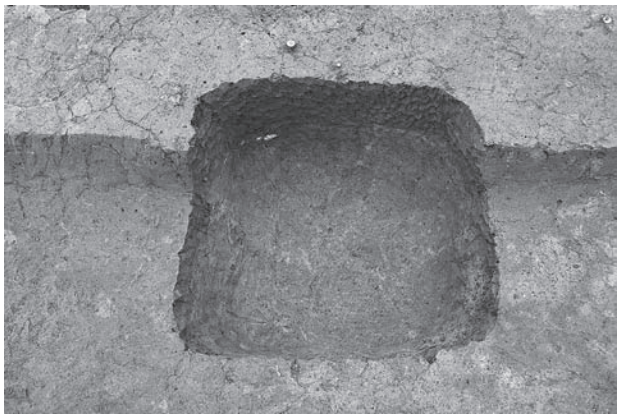
写真図版 11　杭列・一本柱列



SB42 全景（南から）

SB42-P2 完掘（南西から）

SB42-P4 断面（東から）

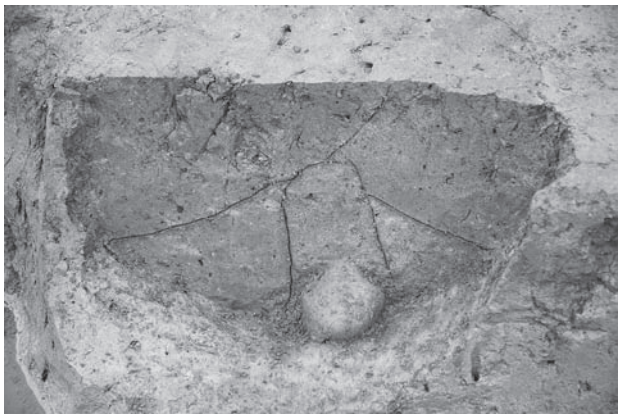


SB42-P5 完掘（北から）

SB42-P7 断面（南から）

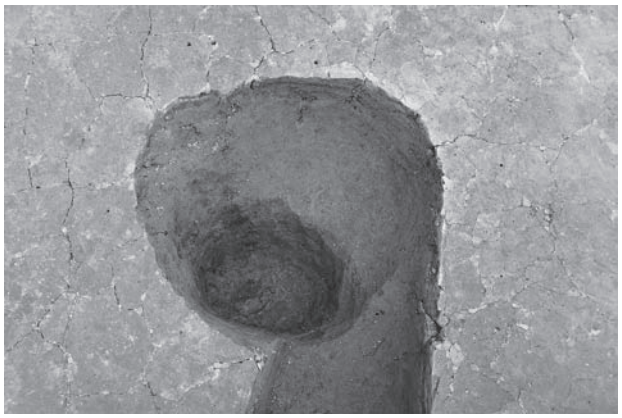
写真図版 12　掘立柱建物跡（1）

SB43 全景（南東から）



SB43-P1 断面（北東から）

SB43-P3 断面（南東から）

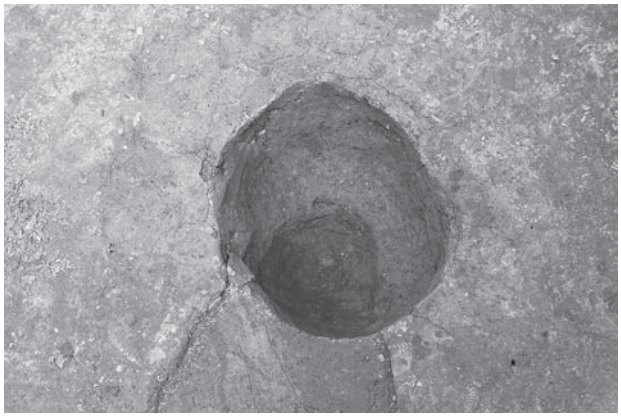


SB43-P4 完掘（東から）

SB43-P5 断面（北から）

写真図版 13　掘立柱建物跡（2）

SB44-P1 断面（南西から）



SB44-P2 完掘（南から）

SB44-P2 断面（南東から）

SB44-P4 断面（北東から）

SD280 完掘（北から）

SD281 断面（東から）

SD282 断面（南西から）

SD284 断面（北西から）

写真図版 14　掘立柱建物跡（3）・溝跡

SM A 群（404・405）完掘（北東から）

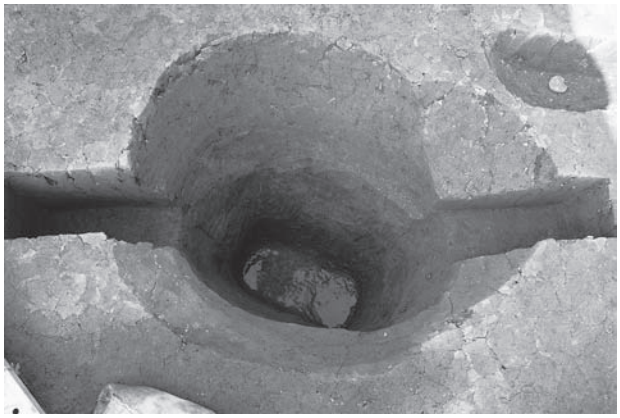
SM A 群（404・405）断面（北東から）

SM B 群（406）断面（南から）

SM B 群（415）断面（北東から）

SM B 群全景（北から）

写真図版 15　小溝状遺構



SE9 完掘（南から）

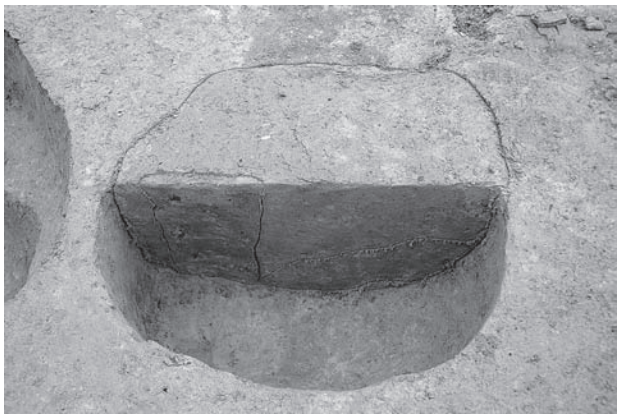
SE9 断面（南から）

SE10 完掘（南から）

SE10 断面（南から）

SK324 完掘（北から）

SK324 断面（南から）

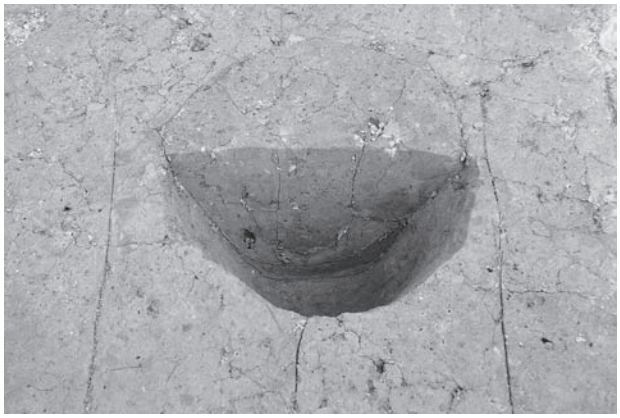


Pit24 断面（南東から）

Pit26 断面（北東から）

写真図版 16　井戸跡・土坑・ピット（1）

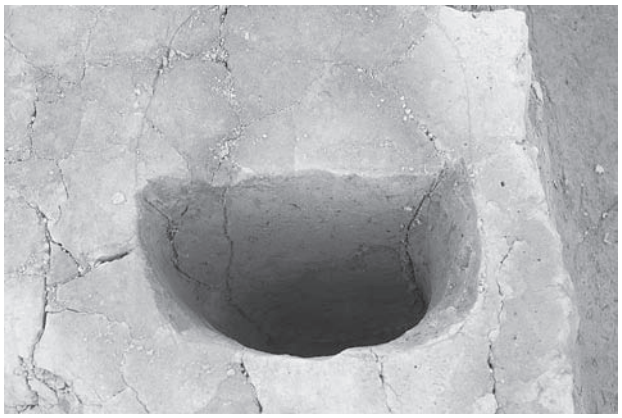
Pit28 断面（北東から）



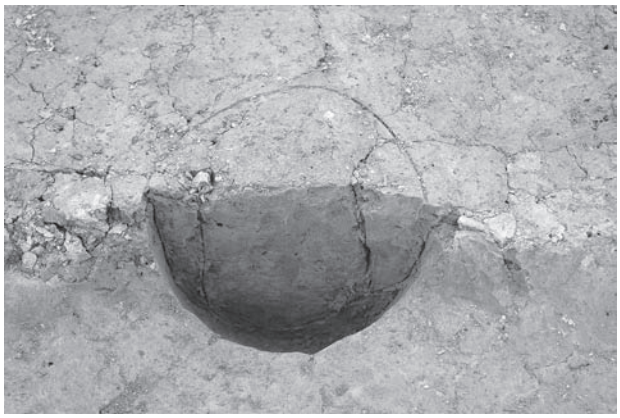
Pit39 断面（南西から）

Pit49 断面（南から）

Pit59 断面（東から）



Pit62 断面（東から）



Pit73 断面（東から）

Pit76 断面（東から）

Pit78 断面（南から）

写真図版 17　ピット（2）

Pit79 断面（南から）

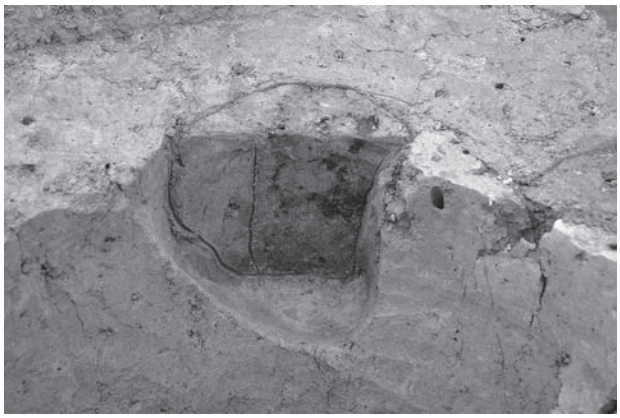
Pit80 断面（南から）

Pit85 断面（南東から）

Pit86 断面（南東から）

Pit87 断面（南から）

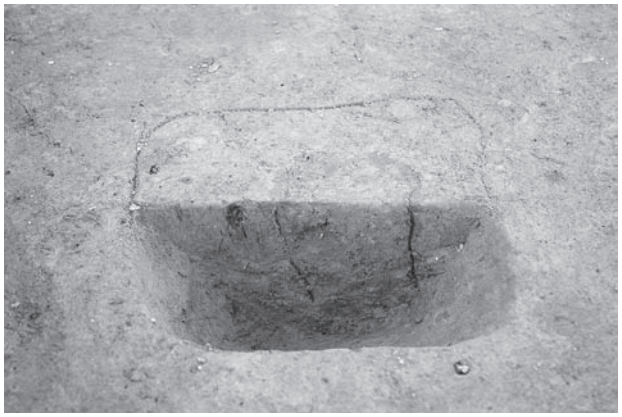
Pit91 断面（東から）



Pit93 断面（南東から）

Pit98 断面（南西から）

写真図版 18　ピット（3）



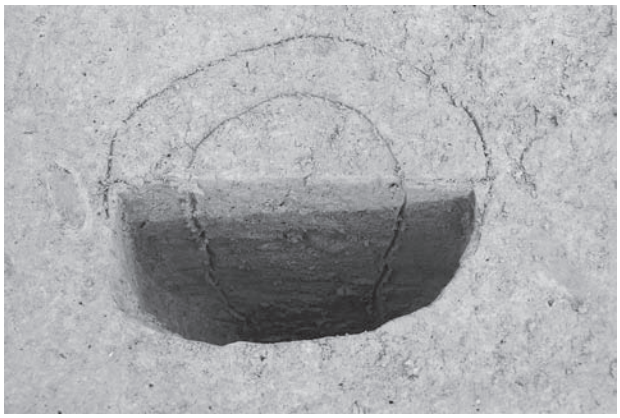
Pit107 断面（南から）

Pit108 断面（西から）

Pit121 断面（東から）

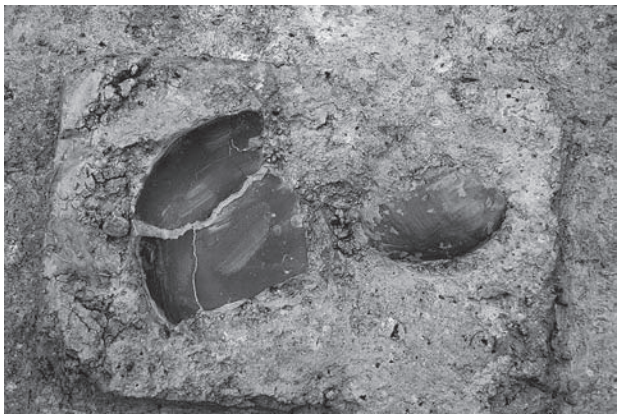
Pit127 断面（西から）

Pit132 断面（北から）



Pit138 断面（南から）

SX35 完掘（南西から）



SX35 遺物出土状況（西から）

写真図版 19　ピット（4）・性格不明遺構

SI372 出土土器（2a 期）

SI367 出土土器（2b 期）

写真図版 20　竪穴住居跡出土遺物（1）

SI378 出土土器（3 期）

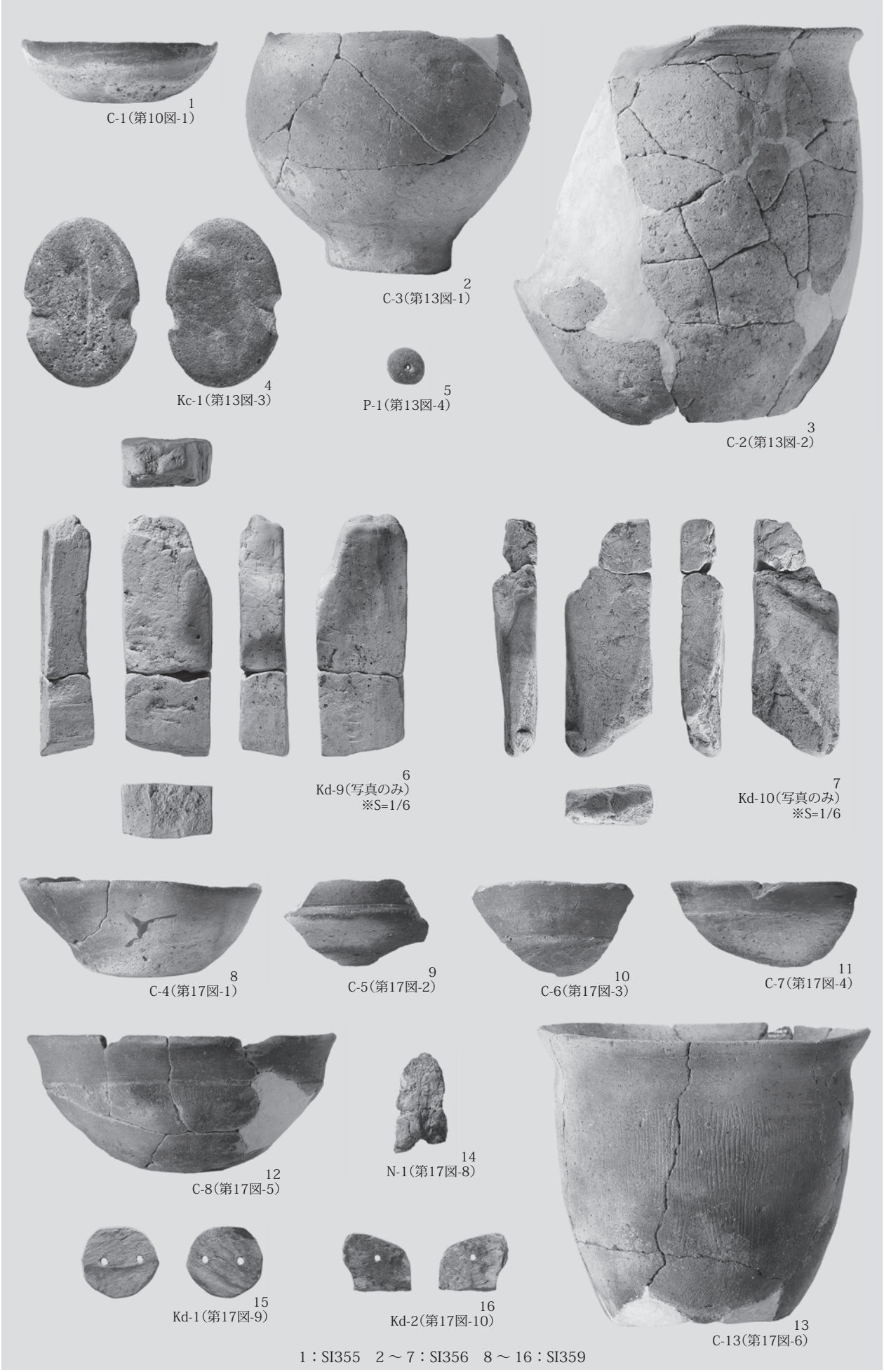
SI361 出土土器（3 期）

写真図版 21　竪穴住居跡出土遺物（2）

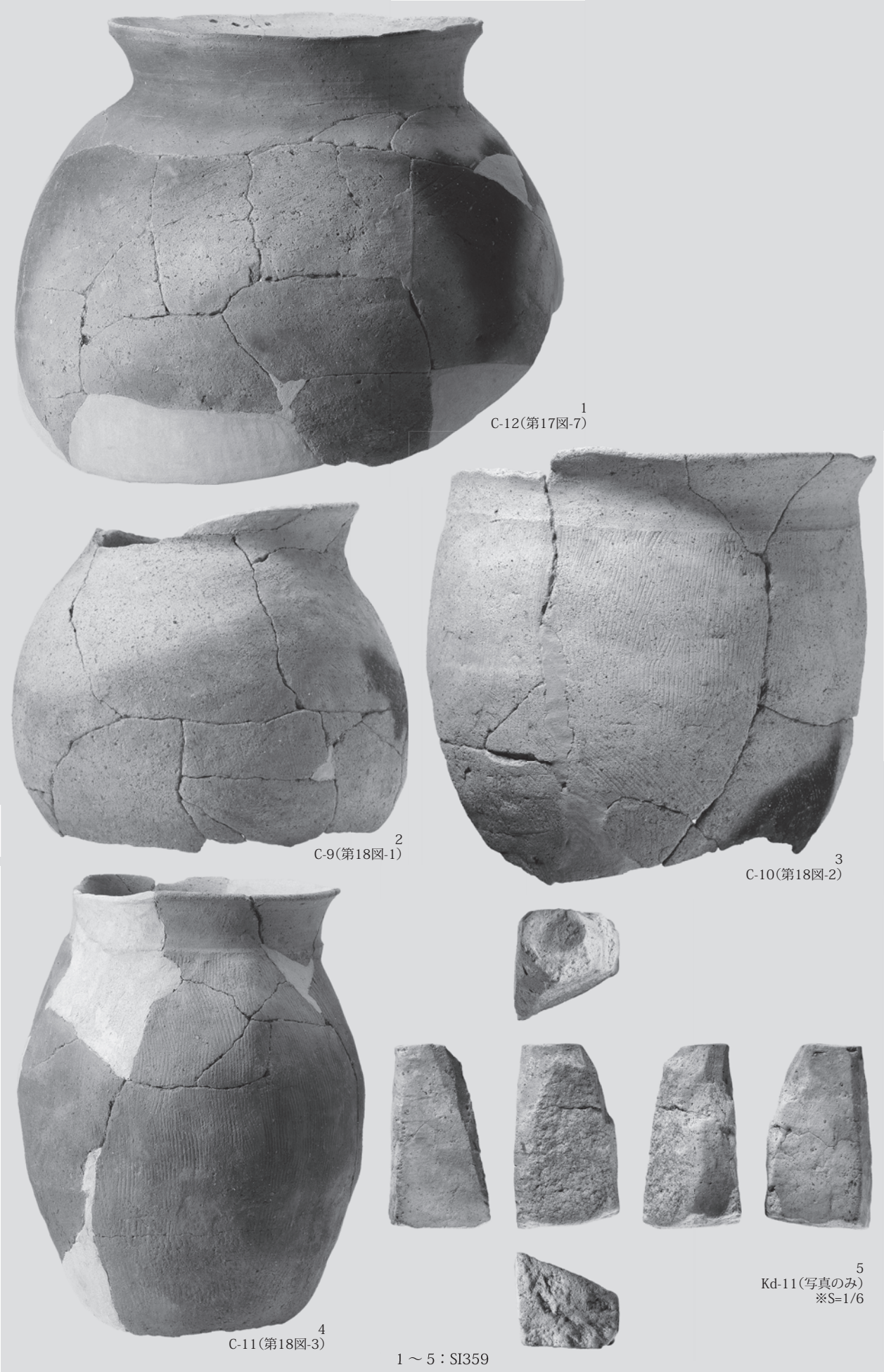
SI359 出土土器（3 ～ 5 期）

SI369 出土土器（5 期以前）

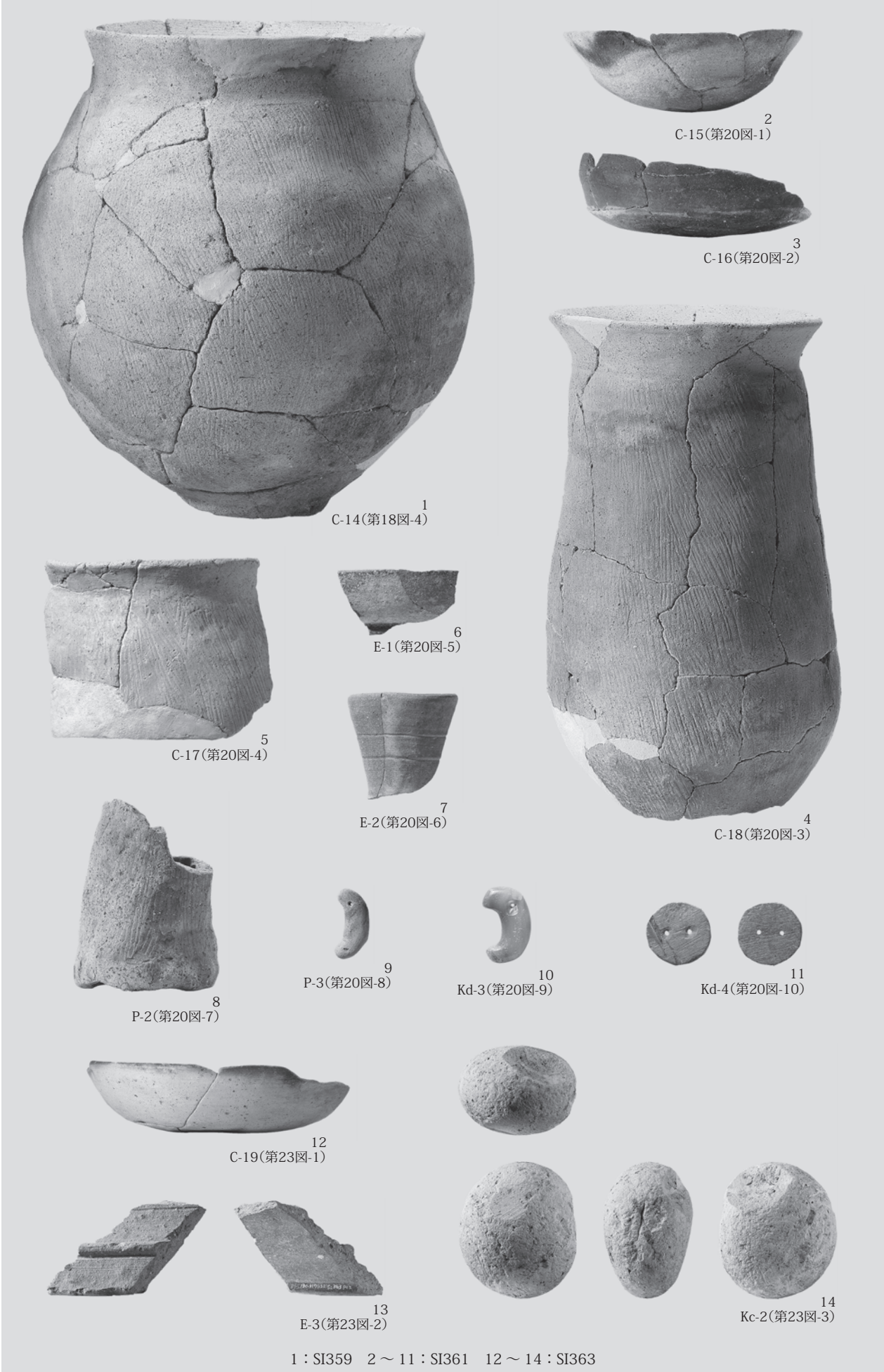
写真図版 22　竪穴住居跡出土遺物（3）



写真図版 23　竪穴住居跡出土遺物（4）

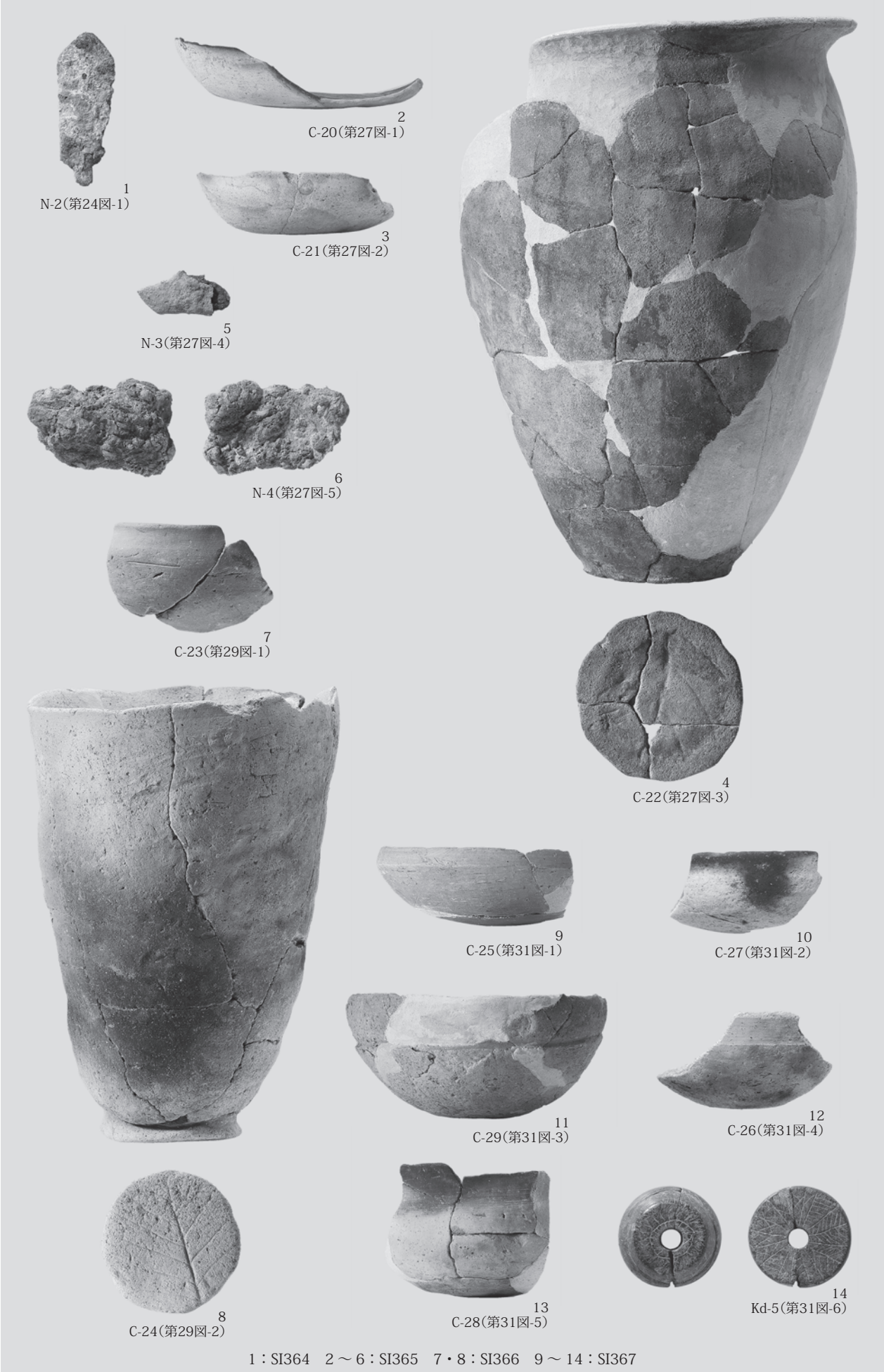


写真図版 24　竪穴住居跡出土遺物（5）



1：SI359　2～11：SI361　12～14：SI363

写真図版 25　竪穴住居跡出土遺物（6）

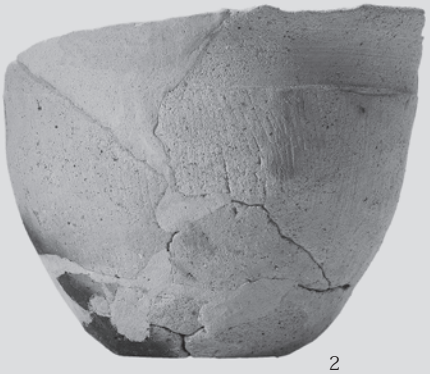


1：SI364　2～6：SI365　7・8：SI366　9～14：SI367

写真図版 26　竪穴住居跡出土遺物（7）

1
C-30（第32図-1）

3
C-36（第32図-3）



2
C-31（第32図-2）

4
C-33（第32図-4）

5
C-32（第32図-5）

6
C-34（第33図-1）

1～6：SI367

写真図版 27　竪穴住居跡出土遺物（8）

1
C-37（第33図-2）

2
C-35（第33図-3）

3
N-5（第35図-1）

4
P-5（第35図-2）

5
P-4（第35図-3）

6
P-6（第35図-4）

7
C-38（第37図-1）

8
C-39（第37図-2）

1・2：SI367　3～6：SI368　7・8：SI369

写真図版 28　竪穴住居跡出土遺物（9）

1
C-40（第38図-1）

2
C-41（第38図-2）

C-41穿孔部分拡大

3
C-42（第40図-1）

4
E-4（第40図-2）

5
P-7（第40図-3）

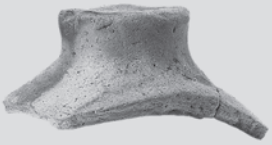
6
P-8（第40図-4）

7
P-9（第40図-5）

8
P-14（写真のみ）
※S=1/2

9
Kd-6（第40図-6）

10
Kd-7（第40図-7）



11
C-43（第42図-1）

12
C-44（第42図-2）

13
C-45（第42図-3）

1・2：SI369　3～10：SI370　11～13：SI371A

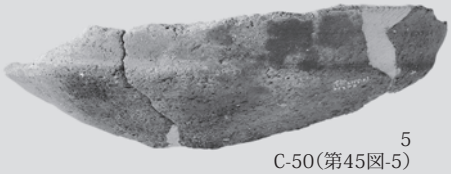
写真図版 29　竪穴住居跡出土遺物（10）

1
C-47（第45図-1）

2
C-48（第45図-2）

3
C-46（第45図-3）

4
C-49（第45図-4）



5
C-50（第45図-5）

6
C-51（第45図-6）

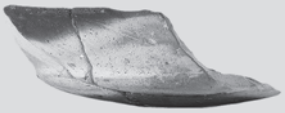
7
C-52（第45図-7）

8
P-11（第45図-8）

9
P-10（第46図-1）

10
Kc-3（第46図-2）

11
C-53（第51図-1）



12
C-54（第53図-1）

13
C-55（第53図-2）

14
C-56（第53図-3）

1～10：SI372　11：SI377　12～14：SI378

写真図版 30　竪穴住居跡出土遺物（11）

1
C-57（第53図-4）

2
C-60（第53図-5）

3
C-61（第53図-6）

4
C-58（第54図-1）

5
C-59（第54図-2）

6
P-12（第54図-3）

1～6：SI378

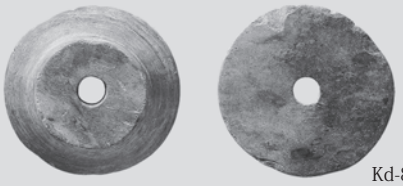
写真図版 31　竪穴住居跡出土遺物（12）

1
C-62（第56図-1）

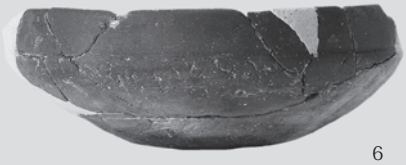
2
C-63（第56図-2）

3
C-65（第56図-3）

4
C-64（第56図-4）



5
Kd-8（第56図-5）



6
C-66（第59図-1）

7
C-67（第59図-2）

8
C-68（第62図-1）

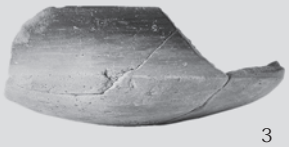
9
Kc-4（第62図-2）

1～5：SI379　6・7：SI381　8・9：SI383

写真図版 32　竪穴住居跡出土遺物（13）

1
P-13（第70図-1）

2
C-69（第73図-1）



3
C-70（第73図-2）

4
C-71（第74図-1）

5
C-72（第74図-2）

6
C-73（第79図-1）

7
C-74（第85図-1）

8
C-75（第85図-2）

9
C-76（第85図-3）

10
D-1（第85図-4）

11
E-5（第85図-5）

1：SA8　2・3：SD280　4・5：SD282　6：SE9　7～11：SX35

写真図版 33　一本柱列・溝跡・井戸跡・性格不明遺構出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	ながまちえきひがしいせきだい13じちょうさ
書名	長町駅東遺跡第13次調査
副書名	仙台市あすと長町28街区・店舗付駐車場新築工事に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第423集
編著者名	荒井 格　工藤 信一郎　水野 一夫　庄子 裕美　結城 慎一　細野 高伯　北村 和穂
編集機関	仙台市教育委員会（文化財課）
所在地	〒980-0811　宮城県仙台市青葉区一番町四丁目1番25号
発行年月	2014年 3月 20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
ながまちえきひがしいせき 長町駅東遺跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 たいはくくあすとながまち 太白区あすと長町 28がいく4かくち 28街区4画地	4100	01449	38° 13′ 20″	140° 53′ 7″	2013/7/1 ～ 2013/10/31	824㎡	店舗付駐車場新築工事に伴う埋蔵文化財の事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長町駅東遺跡	集落跡	古墳時代 ～ 古代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡	土師器・須恵器 石製品・土製品 金属製品	

要約	長町駅東遺跡では、これまでに350軒以上の竪穴住居跡や集落の区画施設と考えられる大溝跡・材木列が検出されている。出土土器の年代幅などから隣接する郡山遺跡の官衙造営・運営に関連すると考えられており、今回の調査地点は長町駅東遺跡の北西端に位置する。検出された竪穴住居跡から、郡山Ⅱ期官衙機能移転時まで継続した集落跡と考えられ、特に郡山Ⅰ期官衙造営時に集落が盛行したと考えられる。

仙台市文化財調査報告書第４２３集

長町駅東遺跡第13次調査

－仙台市あすと長町28街区・店舗付駐車場新築工事に伴う発掘調査報告書－

２０１４年３月

発　行　　仙　台　市　教　育　委　員　会

〒980-0811　宮城県仙台市青葉区一番町
4丁目1番25号　東二番丁仮庁舎
TEL022-214-8899（文化財課）

印　刷　　株式会社　仙 台 紙 工 印 刷

〒983-0036　宮城県仙台市宮城野区苦竹３丁目1-14
TEL022-231-2245